香川県建設国民健康保険組合 様

PAnalysis Potential ポテンシャル分析

株式会社データホライゾン

令和8年8月

はじめに

医療保険者は、レセプトや健診等のデータ分析に基づき、被保険者の健康保持増進のためPDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業を実施することが求められている。

近年、医療保険者が健康・医療情報を活用して被保険者の健康課題の分析、保健事業の評価等を行うための基盤整備が進んでいる。これらの俯瞰的な分析に加え、細部を観察し事業に直結する分析をする必要がある。具体的には、特定健康診査受診率の向上や糖尿病性腎症重症化予防の推進等に向けて、被保険者の個々の状況に応じた対策や対応が求められる。

本分析は、事業毎に対象範囲や人数等を明確にし、事業を迅速に支援することを目的としている。

1.分析手法

データベースの作成方法及び分析方法は、株式会社データホライゾンの特許技術及び独自技術を用いる。

- 医療費分解技術
- 未コード化傷病名のコード化
- 傷病管理システム(特許第5203481号)
- レセプト分析システムおよび分析方法(特許第5992234号)
- 服薬情報提供装置、服薬情報提供方法、およびコンピュータプログラム(特許第6409113号)
- マスタの整備…マスタ(傷病名、医薬品、診療行為等レセプトに記載される全てを網羅したデータベース)を定期的にメンテナンスし最新状態に保つ。

2.データ分析範囲

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ※

※電子レセプト

単年分析

令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

年度分析

令和5年度…令和5年4月～令和6年3月診療分(12カ月分)

令和6年度…令和6年4月～令和7年3月診療分(12カ月分)

令和7年度…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

・健康診査データ

単年分析

令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

年度分析

令和5年度…令和5年4月～令和6年3月健診分(12カ月分)

令和6年度…令和6年4月～令和7年3月健診分(12カ月分)

令和7年度…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

3.保険者努力支援制度に沿って

本分析の「第1章 実践編」において、**令和8年度国民健康保険保険者努力支援制度**に沿って、事業に直結する分析を掲載する。

特定健康診査・特定保健指導及びその他の健診(検診)に関する取組に係る分析

- 特定健康診査の受診率向上のための取組
- 特定保健指導の実施率向上のための取組
- メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少に向けて
- がん検診の推進に向けた医療費分析

生活習慣病の発症予防・重症化予防の取組に係る分析

- 受診勧奨判定値を超えている者への受診勧奨及び保健指導
- 糖尿病性腎症重症化予防事業

等

医療費適正化に関する取組に係る分析

- 後発医薬品(ジェネリック医薬品)使用促進に関する取組
- こどもの医療の適正化等の取組

適正受診・適正服薬を促す取組に係る分析

- 重複受診者・頻回受診者に対する取組
- 重複服薬者・多剤服薬者に対する取組
- 薬剤の適正使用の推進に対する取組

目次

第1章 実践編

1. 特定健康診査の受診率向上のための取組 8
2. 特定保健指導の実施率向上のための取組 19
3. メタボリックシンドローム基準該当者及び予備群の減少に向けて 25
4. がん検診の推進に向けた医療費分析 33
5. 生活習慣病の発症予防・重症化予防の取組 46
   -1. 受診勧奨判定値を超えている者への受診勧奨及び保健指導 46
   -2. 治療中断者に対する受診勧奨及び保健指導 50
   -3. 糖尿病性腎症重症化予防事業 54
   -4. 高血圧重症化予防事業 63
   -5. 脳卒中・虚血性心疾患の予防事業 74
   -6. 骨折予防事業 81
   -7. COPD発症予防及び重症化予防事業 93
6. 適正受診・適正服薬を促す取組 101
   -1. 重複受診者・頻回受診者に対する取組 101
   -2. 重複服薬者・多剤服薬者に対する取組 107
   -3. 薬剤の適正使用の推進に対する取組 114
7. 後発医薬品(ジェネリック医薬品)使用促進に関する取組 118
8. こどもの医療の適正化等の取組 128

第2章 資料編

1. 基礎統計 138
2. 高額レセプトの件数及び医療費 148
3. 疾病別医療費統計 162
   -1. 大分類による疾病別医療費統計 162
   -2. 中分類による疾病別医療費統計 180
   -3. 生活習慣病に係る医療費等の状況 198
   -4. ロコモティブシンドロームに係る医療費等の状況 205
4. 薬剤併用禁忌に係る分析 209
5. 特定健康診査結果分析 211
6. 健康診査データ及びレセプトデータによる対象者群分析 223

その他(参考資料)

1. 大分類要素別集計 232
2. 年度別 特定健康診査結果分析 252

巻末資料

1.「指導対象者群分析」のグループ分けの見方 287
2. 疾病分類表 288

第1章 実践編

1.特定健康診査の受診率向上のための取組

特定健康診査未受診に至る背景等の分析結果を踏まえ、対象者の特性に応じた受診勧奨により、特定健康診査の受診率向上を図る。

特定健康診査(以下、特定健診という。)は、メタボリックシンドロームや糖尿病、脂質異常症、高血圧症などの生活習慣病を早期発見し、早期対策に結びつけることを目的として実施している。特定健診の意義や目的を広く周知啓発するとともに、未受診者対策を行い、被保険者の健康意識の向上と特定健診受診率向上を図る。

(1)香川県及び全国との比較

厚生労働省の公開資料より、香川県及び全国との比較結果を参考値として以下に示す。

2023年度(令和5年度)実績

香川県建設国民健康保険組合の特定健診受診率

⇒香川県より3.0ポイント高い

⇒全国より17.0ポイント高い

【参考】香川県及び全国との比較(特定健診受診率)

		2023年度(令和5年度)実績
特定健診受診率(%)	**香川県建設国民健康保険組合**	**68.9**
	香川県(国民健康保険組合)	65.9
	全国(国民健康保険組合)	51.9
比較結果(差分)	対:香川県(国民健康保険組合)	**+3.0**
	対:全国(国民健康保険組合)	**+17.0**

年度別の状況

2023年度(令和5年度)の香川県建設国民健康保険組合の特定健診受診率

⇒2019年度(平成31年度)から0.4ポイント低下

【参考】香川県及び全国との比較(特定健診受診率の推移)

		特定健診受診率(%)		
		香川県建設国民健康保険組合	香川県(国民健康保険組合)	全国(国民健康保険組合)
A	2019年度(平成31年度)	**69.3**	66.3	49.8
B	2020年度(令和2年度)	**68.4** ⇩	64.9 ⇩	45.7 ⇩
C	2021年度(令和3年度)	**69.7** ⇧	66.1 ⇧	49.0 ⇧
D	2022年度(令和4年度)	**70.4** ⇧	66.9 ⇧	51.0 ⇧
E	2023年度(令和5年度)	**68.9** ⇩	65.9 ⇩	51.9 ⇧
	年次推移			
E-A	**経年変化(差分)**	**-0.4**	-0.4	+2.1

出典:厚生労働省「特定健診・特定保健指導の実施状況」 2026年5月27日時点での厚生労働省最新データ

※医療保険者から国に報告された特定健診受診率を示したものであり、被保険者資格情報及び健康診査データから集計した結果とは、同じ年度範囲であっても必ずしも一致しない。

※特定健診受診率の推移は、前年度の数値と比較した結果を矢印のアイコンで表示している。(初年度はアイコン表示の対象外としている。)

・経年変化(差分)…2023年度(令和5年度)の特定健診受診率について、2019年度(平成31年度)からの増減を示している。

(2)特定健診受診状況

被保険者資格情報及び健康診査データによる分析結果より、特定健診受診状況の現状把握を行う。

特定健診受診状況

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点

・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・特定健診対象者…40歳以上の被保険者を対象としている。

・特定健診受診者…健康診査データに記載の情報から判定している。

※厚生労働大臣が定める、特定健診対象者からの除外者(妊産婦その他)については確認できないため、集計結果は法定報告値とは一致しない。

■特定健診受診状況

男女年齢階層別の特定健診受診状況について以下に示す。

男女年齢階層別 特定健診受診状況

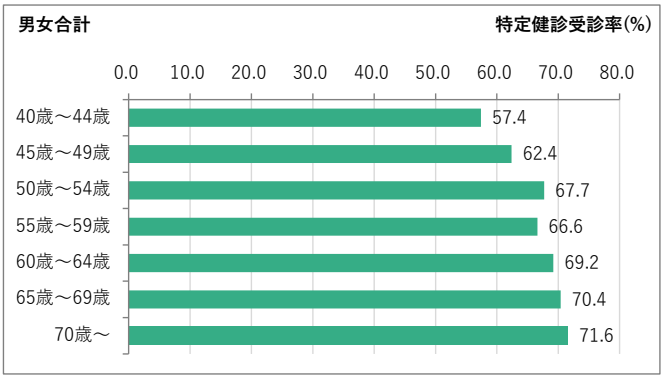
特定健診受診率が最も低い年齢階層

				全年齢	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～
A	特定健診対象者数(人)	男女合計		5,570	739	1,006	1,131	770	569	669	686
B			男性	3,900	534	760	834	545	359	398	470
C			女性	1,670	205	246	297	225	210	271	216
D	特定健診受診者数(人)	男女合計		3,687	424	628	766	513	394	471	491
E			男性	2,648	311	487	577	381	257	282	353
F			女性	1,039	113	141	189	132	137	189	138
D/A	特定健診受診率(%)	男女合計		**66.2**	57.4	62.4	67.7	66.6	69.2	70.4	71.6
E/B			男性	**67.9**	58.2	64.1	69.2	69.9	71.6	70.9	75.1
F/C			女性	**62.2**	55.1	57.3	63.6	58.7	65.2	69.7	63.9

特定健診受診率が最も低い年齢階層※

⇒40歳～44歳(57.4%)

年齢階層別 特定健診受診率(男女合計)

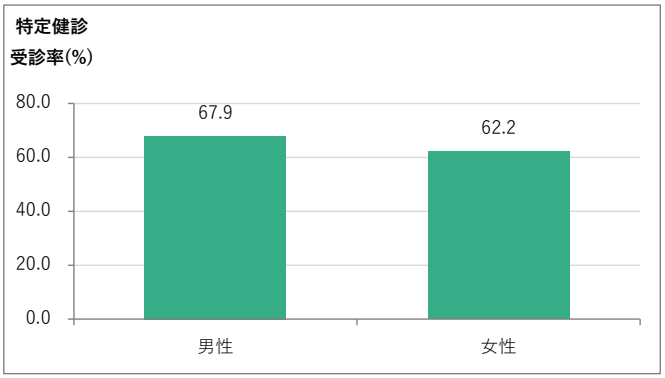


※特定健診受診率が最も低い年齢階層…母数となる特定健診対象者が存在しない年齢階層については、比較の対象に含めていない。

・男女比較

男性の特定健診受診率は女性より5.7ポイント高い

男女別 特定健診受診率

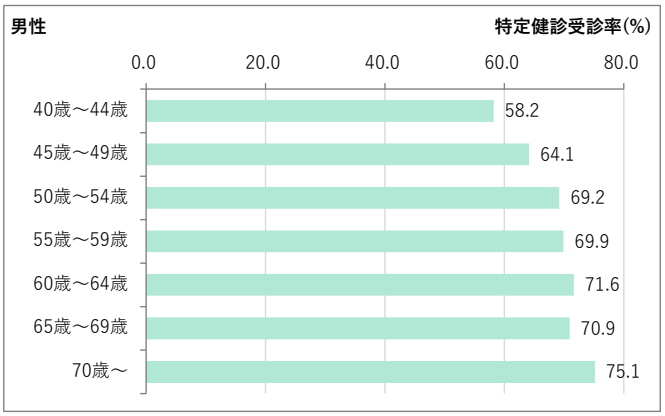


・男性

特定健診受診率が最も低い年齢階層※

⇒40歳～44歳(58.2%)

年齢階層別 特定健診受診率(男性)

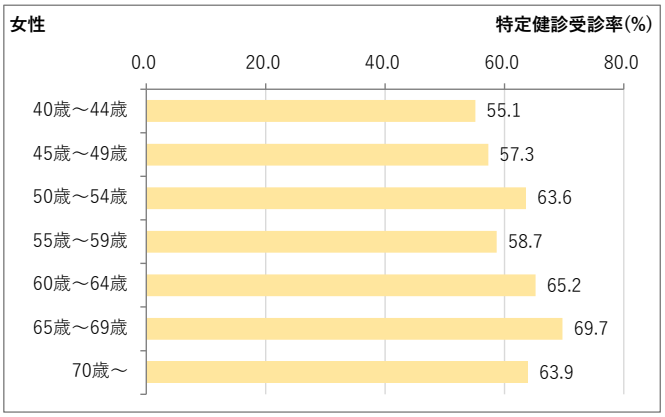


・女性

特定健診受診率が最も低い年齢階層※

⇒40歳～44歳(55.1%)

年齢階層別 特定健診受診率(女性)



※特定健診受診率が最も低い年齢階層…母数となる特定健診対象者が存在しない年齢階層については、比較の対象に含めていない。

■月別 特定健診受診状況

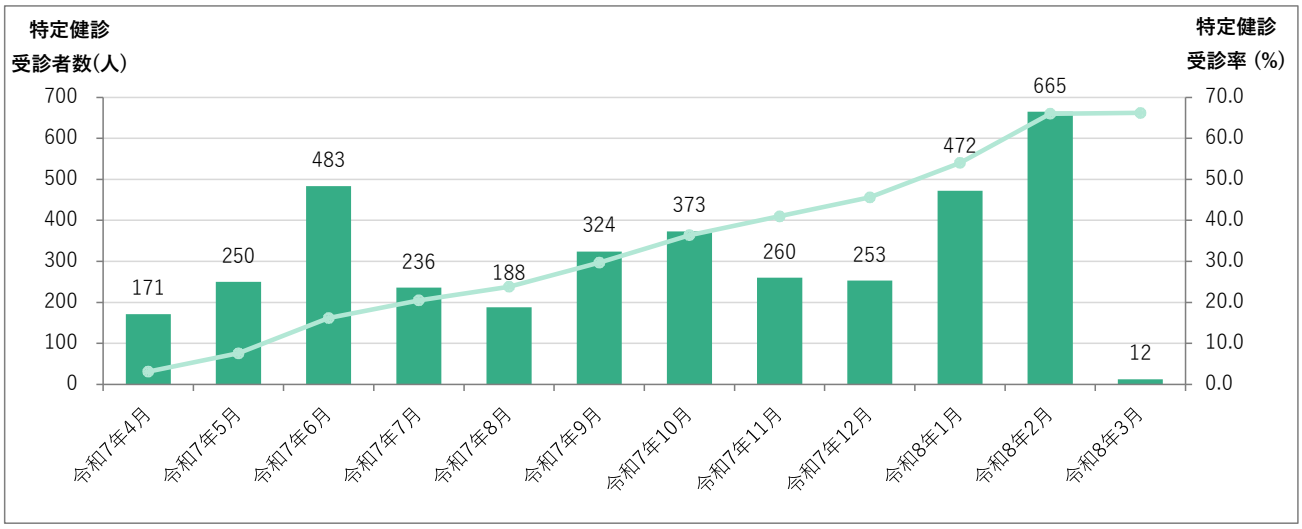
月別の特定健診受診状況について以下に示す。

月別 特定健診受診状況

特定健診対象者数(人)	5,570

	令和7年4月	令和7年5月	令和7年6月	令和7年7月	令和7年8月	令和7年9月	令和7年10月	令和7年11月	令和7年12月	令和8年1月	令和8年2月	令和8年3月
特定健診受診者数(人)	171	250	483	236	188	324	373	260	253	472	665	12
特定健診受診者累計(人)	171	421	904	1,140	1,328	1,652	2,025	2,285	2,538	3,010	3,675	3,687
特定健診受診率(%)	3.1	7.6	16.2	20.5	23.8	29.7	36.4	41.0	45.6	54.0	66.0	66.2

月別 特定健診受診者数及び特定健診受診率



特定健診受診者数が最も多い月　⇒2月

(3)特定健診対象者の特性分析

厚生労働省の調査によると、特定健診未受診の理由は「時間がない」「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」「めんどうだから」等様々である。未受診の理由に応じた対策の検討に向けて、ここでは特定健診対象者の特性に関する分析を行う。

①特定健診受診傾向による特定健診対象者の階層化

毎年特定健診を受診している人は翌年度も受診する可能性が高い。適切なアプローチにより、未受診者を特定健診経験者へ、不定期受診者を毎年受診者に移行させることで、自主的な特定健診受診が期待できる「行動変容が起きやすい層」の母数を増加させ、次年度以降の受診率向上にも寄与することが期待される。

	←高 特定健診受診が期待できる割合		
	過年度特定健診受診状況による分類		
	毎年 健診受診者	不定期 健診受診者	未受診者 (特定健診未経験者)
特性や背景	健診受診の習慣がついている	健診受診経験があり 行動変容が起きやすい	適切なアプローチでないと受診につながりにくい

特定健診受診歴には、特定健診に対する個人の価値観が反映されていると考えられる。そのため、対象者の特性把握に向けての最初の切り口として、特定健診受診傾向による対象者分類を行う。

特定健診受診傾向による特定健診対象者の階層化

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和5年4月～令和8年3月健診分(36カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・毎年受診者…分析期間中の3年度連続健診受診者
・不定期受診者…分析期間中の1年度または2年度健診受診者
・未受診者…分析期間中の健診受診なしの者

※分類に用いる健康診査データ範囲は3年間を基準とするため、有効なデータ範囲が3年に満たない場合、連続受診であっても不定期受診者として分類する。

■特定健診受診傾向別 特定健診対象者数

特定健診対象者について、特定健診受診傾向による分類別人数及び構成比を以下に示す。

特定健診受診傾向別 特定健診対象者数

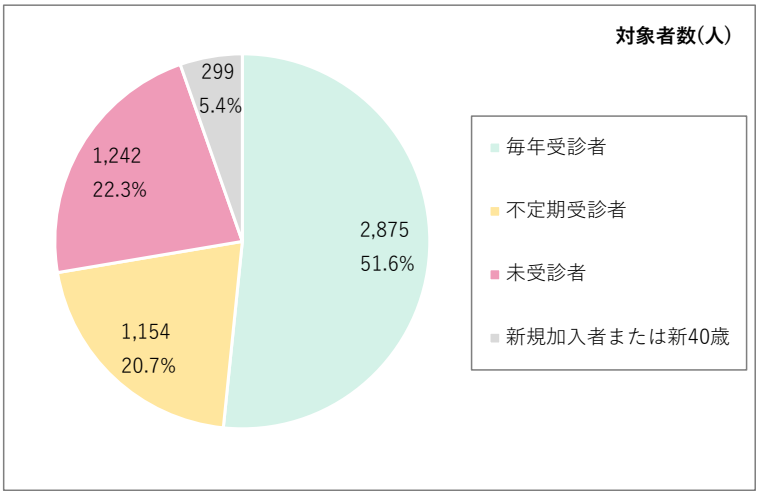
		人数(人)	構成比(%)
特定健診対象者(40歳以上被保険者)		5,570	
特定健診受診状況	毎年受診者	2,875	51.6
	不定期受診者	1,154	20.7
	未受診者	1,242	22.3
新規加入者または新40歳		299	5.4

不定期受診者が占める割合

⇒20.7%

未受診者が占める割合

⇒22.3%



前ページに示したように、毎年受診者に比べて、不定期受診者、未受診者(特定健診未経験者)は、自主的に特定健診を受診する割合が低い傾向にある。特定健診受診率の底上げには、これら対象者の行動変容が不可欠である。

②特性分類による特定健診対象者の階層化

以下は、厚生労働省「2022年国民生活基礎調査」における、健診等未受診の理由についての調査結果である。

■健診等未受診の理由(厚生労働省「2022年国民生活基礎調査」より)

・全体(40歳～74歳)においては「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」、「時間がとれなかったから」、「めんどうだから」の順に多い。
次いで、「毎年受ける必要性を感じないから」、「費用がかかるから」、「その時、医療機関に入通院していたから」、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」等の理由が挙げられている。

・40歳～59歳においては「時間がとれなかったから」が最も多い。

・60歳以上においては「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が最も多い。

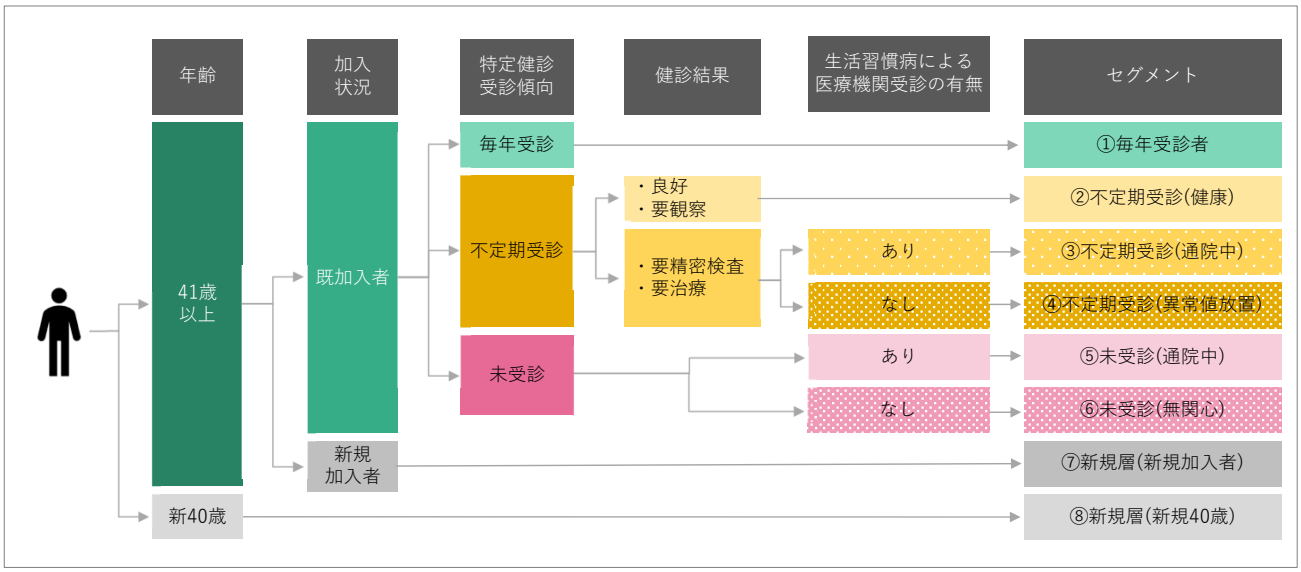
【参考】2022年国民生活基礎調査「健診等を受けなかった理由」　　**単位:%**

	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	全体(40歳～74歳)
知らなかったから	3.3	2.7	1.8	1.7	1.6	1.6	0.9	1.8
時間がとれなかったから	37.3	37.2	32.0	28.6	22.1	15.7	9.0	23.1
場所が遠いから	3.5	3.1	2.8	2.6	2.6	2.1	2.2	2.6
費用がかかるから	15.6	14.7	14.4	13.1	10.7	7.9	5.7	10.7
検査等(採血、胃カメラ等)に不安があるから	4.9	4.9	5.6	5.3	4.4	4.2	3.4	4.5
その時、医療機関に入通院していたから	3.6	4.4	5.3	8.7	9.4	12.2	14.5	9.4
毎年受ける必要性を感じないから	8.7	9.1	9.3	11.0	12.2	12.9	14.4	11.6
健康状態に自信があり、必要性を感じないから	6.5	6.6	6.5	6.2	7.2	7.4	7.9	7.1
心配な時はいつでも医療機関を受診できるから	18.0	19.7	22.5	27.8	34.0	41.2	49.7	33.6
結果が不安なため、受けたくないから	6.4	6.9	7.7	8.0	7.3	6.3	6.0	6.8
めんどうだから	26.2	26.8	24.8	22.6	20.2	19.8	16.3	21.4

出典:厚生労働省「2022年国民生活基礎調査」　※複数回答可

特定健診対象者の特性の違いを考慮して作成した、特定健診対象者の階層化の基準を以下に示す。いつでも医療機関を受診できるという認識や、現在入通院中であること、自身の健康状態への過信などを理由として、健診受診の必要性を感じず、健診未受診となる場合がある。階層化の判定基準において、特定健診受診傾向や健診結果、医療機関受診状況等を特定健診の受診動向に影響を与える要素として使用している。

対象者の特性による階層化イメージ



※特定健診受診傾向の分類に用いる健康診査データ範囲は3年間を基準としている。

以降分析において、上記の基準に沿って保険者における特定健診対象者の階層化を行う。個々の対象者の特性に応じた個別最適なアプローチを用いることで、効果的かつ効率的に受診勧奨を行い、特定健診受診率の向上を図ることを目的としている。

特性分類による特定健診対象者の階層化

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)
・健康診査データ…令和5年4月～令和8年3月健診分(36カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

■特性分類による特定健診対象者の階層化

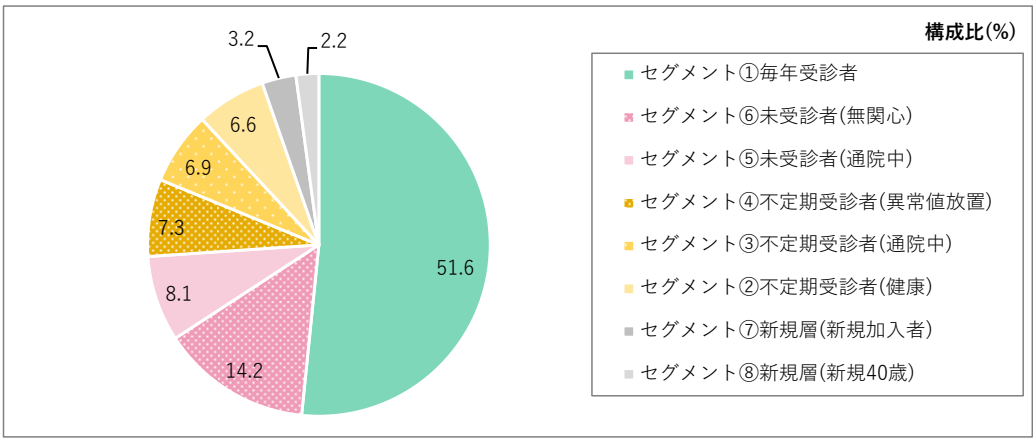
先に示した階層化の基準に沿って、特定健診対象者を分類した結果を以下に示す。

最も対象者数が多いセグメント

⇒セグメント①（毎年受診者）

対象者の特性によるセグメント別 特定健診対象者数

セグメント		人数(人)	構成比(%)
セグメント①	毎年受診者	2,875	51.6
セグメント②	不定期受診者(健康)	365	6.6
セグメント③	不定期受診者(通院中)	383	6.9
セグメント④	不定期受診者(異常値放置)	406	7.3
セグメント⑤	未受診者(通院中)	451	8.1
セグメント⑥	未受診者(無関心)	791	14.2
セグメント⑦	新規層(新規加入者)	179	3.2
セグメント⑧	新規層(新規40歳)	120	2.2
特定健診対象者全体		5,570	



特定健診対象者の中でも構成比が高いセグメントグループに対して、特に積極的なアプローチを行うことは、特定健診受診率全体の底上げにつながると期待される。グループ毎に効果的な訴求点が異なるため、各グループの特性に応じたアプローチ手法や内容の工夫が重要である。

(4)特定健診受診率向上に向けて

生活習慣病は初期段階では自覚症状がほとんどないため、気づかないうちに進行することが多い。健診受診は対象者が自身の健康状態を理解し、生活習慣を振り返る絶好の機会と位置付けることができる。特定健診は単なる健康チェックに留まらず、特定保健指導を通じた効果的なサポートが提供されるため、より実践的な健康管理が可能である。被保険者の健康意識の向上や地域全体の健康寿命の延伸を実現するために、保険者は特定健診受診率の更なる向上に努める必要がある。

厚生労働省「2022年国民生活基礎調査『健診等を受けなかった理由』」によると、特に若年層において「時間がとれなかったから」「めんどうだから」と答えた者が多い。土日祝日または夜間に特定健診を実施するなど、受診者の利便性に配慮した実施体制の整備を図るとともに、周知啓発の方法や内容に創意工夫を加え、特定健診受診の意義や目的に関する理解度の向上を図ることが重要である。一方で、個々の対象者に対しては、画一的なアプローチではなく、個別のニーズや価値観に応じた受診勧奨を行う必要がある。例えば、通院中の対象者にはかかりつけ医と連携して受診を促す、不定期受診者には例年の検査値の推移を示すことで継続(毎年)受診の重要性を訴求する、などのアプローチ方法が考えられる。若年層を主とするグループには、SMSによる案内やWeb広告の活用といった手法も有効である。通知後には、健康診査データを活用して受診状況を確認し、未受診者に対しては電話や訪問等による再勧奨を実施する。また、取組後にはその効果を検証し、次回以降の施策の精度を高めるためにブラッシュアップを図る。

2.特定保健指導の実施率向上のための取組

特定保健指導の実施率向上は、被保険者の健康意識の向上につながると考えられる。特定保健指導に関する周知啓発や対象者への利用勧奨等の取組を行い、実施率の更なる向上を目指す。

特定保健指導は、主として内臓脂肪の蓄積に着目し、特定健診の結果から保健指導対象者を抽出し、対象者の持つリスクの数に応じた個別の保健指導を行うものである。生活習慣病予防が第一の目的ではあるが、指導を通じて、対象者が自らの生活習慣を振り返り、改善のための行動目標を設定・実践することで、健康状態に関するセルフケア(自己管理)能力を向上させることを目指している。

第4期特定健康診査等実施計画期間からは、特定保健指導においてアウトカム重視の評価体系が導入され、保健指導における「成果」がこれまで以上に重要視されるようになった。介入によって生まれる成果をより明確に意識したうえで、特定保健指導の実施に努める必要がある。特定保健指導の実施率向上を通じて、自らの健康リスクを客観的に把握し、健康を意識した行動をとる被保険者の増加、ひいては被保険者全体の健康増進が期待できる。

(1)香川県及び全国との比較

厚生労働省の公開資料より、香川県及び全国との比較結果を参考値として以下に示す。

2023年度(令和5年度)実績

香川県建設国民健康保険組合の特定保健指導実施率

⇒香川県より1.3ポイント高い

⇒全国より35.1ポイント高い

【参考】

香川県及び全国との比較(特定保健指導実施率)

		2023年度(令和5年度)実績
特定保健指導実施率(%)	**香川県建設国民健康保険組合**	**48.9**
	香川県(国民健康保険組合)	47.6
	全国(国民健康保険組合)	13.8
比較結果(差分)	対:香川県(国民健康保険組合)	+1.3
	対:全国(国民健康保険組合)	+35.1

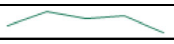
年度別の状況

2023年度(令和5年度)の香川県建設国民健康保険組合の特定保健指導実施率

⇒2019年度(平成31年度)から1.7ポイント低下

【参考】

香川県及び全国との比較(特定保健指導実施率の推移)

		特定保健指導実施率(%)		
		香川県建設国民健康保険組合	香川県(国民健康保険組合)	全国(国民健康保険組合)
A	2019年度(平成31年度)	**50.6**	49.5	10.9
B	2020年度(令和2年度)	**54.2** ⇧	53.0 ⇧	12.3 ⇧
C	2021年度(令和3年度)	**52.3** ⇩	51.3 ⇩	14.3 ⇧
D	2022年度(令和4年度)	**53.1** ⇧	52.4 ⇧	14.2 ⇩
E	2023年度(令和5年度)	**48.9** ⇩	47.6 ⇩	13.8 ⇩
	年次推移			
E-A	**経年変化(差分)**	**-1.7**	-1.9	+2.9

出典:厚生労働省「特定健診・特定保健指導の実施状況」 2026年5月27日時点での厚生労働省最新データ

※医療保険者から国に報告された特定保健指導実施率を示したものであり、健康診査データ及び保健指導情報データから集計した結果とは、同じ年度範囲であっても必ずしも一致しない。

※特定保健指導実施率の推移は、前年度の数値と比較した結果を矢印のアイコンで表示している。(初年度はアイコン表示の対象外としている。)

・経年変化(差分)…2023年度(令和5年度)の特定保健指導実施率について、2019年度(平成31年度)からの増減を示している。

(2)令和7年度特定保健指導対象者に係る分析

①保健指導レベル該当状況

保健指導レベル該当状況

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

■健康診査データによる保健指導レベル該当状況

特定健診受診者3,687人のうち、
特定保健指導対象者(積極的支援レベルまたは動機付け支援レベル)　⇒681人(18.5%)

保健指導レベル該当状況

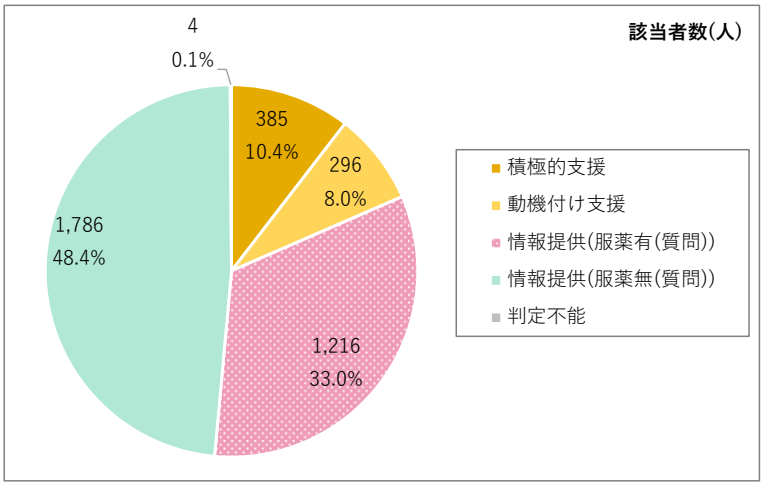
	特定健診受診者	保健指導レベル					
		特定保健指導対象者			情報提供		判定不能
			積極的支援	動機付け支援	服薬有(質問)	服薬無(質問)	
該当者数(人)	3,687	681	385	296	1,216	1,786	4
構成比(%)		18.5	10.4	8.0	33.0	48.4	0.1

構成比…特定健診受診者のうち、各レベルに該当する人の割合

特定健診受診者のうち、健診質問票における服薬の項目への回答内容から「服薬有」と判定された対象者は、特定保健指導の対象から除外され、情報提供者に分類される。

特定健診受診者のうち
服薬有(質問回答による)※
⇒1,216人(33.0%)

保健指導レベル構成比



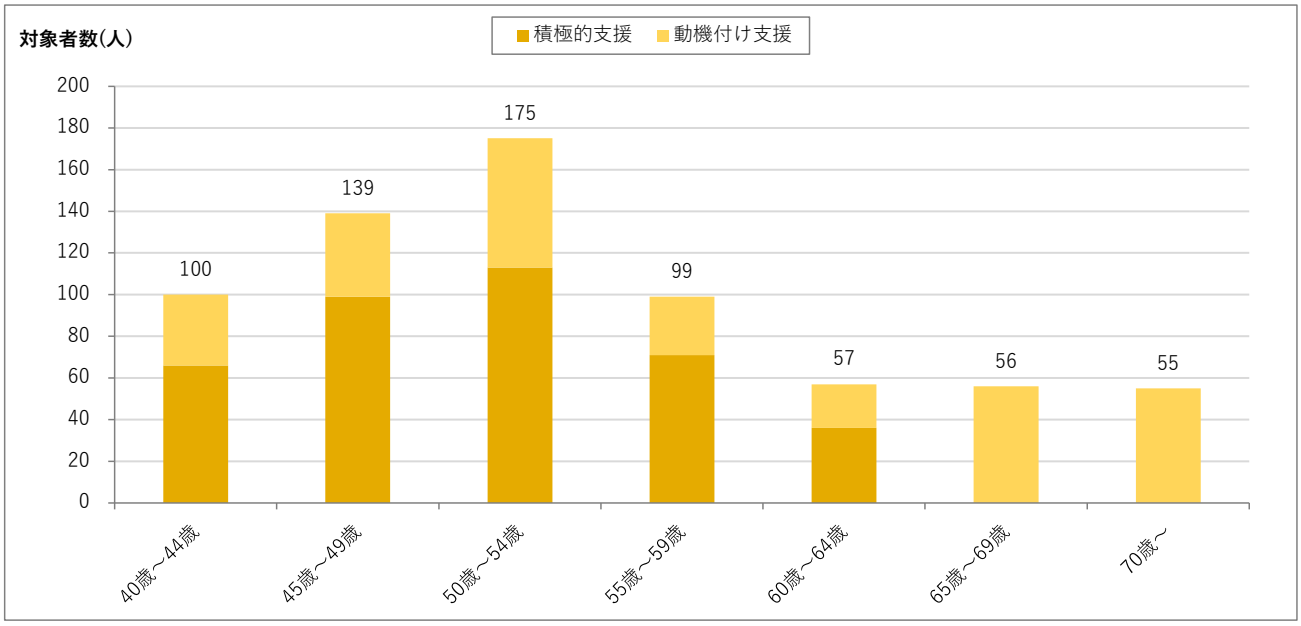
※服薬有(質問回答による)…健診質問票の服薬の項目にて一項目でも「はい」と回答した者を対象として集計

一般的には年齢階層が上がるほど服薬者が増えることから、高年齢層においては服薬による情報提供者の割合が高くなる傾向にある。

年齢階層別 保健指導レベル該当状況

年齢階層	A	B	C	C/A	D	D/A	E	E/A	F	F/A	G	G/A
	特定健診受診者数(人)	特定保健指導対象者					情報提供				判定不能	
			積極的支援		動機付け支援		服薬有(質問)		服薬無(質問)			
			人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
40歳～44歳	424	100	66	15.6	34	8.0	23	5.4	301	71.0	0	0.0
45歳～49歳	628	139	99	15.8	40	6.4	88	14.0	400	63.7	1	0.2
50歳～54歳	766	175	113	14.8	62	8.1	172	22.5	419	54.7	0	0.0
55歳～59歳	513	99	71	13.8	28	5.5	169	32.9	244	47.6	1	0.2
60歳～64歳	394	57	36	9.1	21	5.3	199	50.5	137	34.8	1	0.3
65歳～69歳	471	56	0	0.0	56	11.9	252	53.5	162	34.4	1	0.2
70歳～	491	55	0	0.0	55	11.2	313	63.7	123	25.1	0	0.0
全体	3,687	681	385	10.4	296	8.0	1,216	33.0	1,786	48.4	4	0.1

年齢階層別 特定保健指導対象者数



②特定保健指導対象者の特性分析

効果的かつ効率的な特定保健指導の実施に向けて、特定保健指導対象者の特性分析を行う。

特定保健指導対象者の特性分析(男女別、年齢階層別)

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点

・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

■特定保健指導対象者の特性分析(男女別、年齢階層別)

男性の対象者が全体の88.5%を占めており、女性よりも多い

男女別 特定保健指導対象者数

	特定保健指導対象者		積極的支援対象者		動機付け支援対象者	
	人数(人)	構成比(%)	人数(人)	構成比(%)	人数(人)	構成比(%)
男性	603	88.5	371	96.4	232	78.4
女性	78	11.5	14	3.6	64	21.6
男女合計	681		385		296	

年齢階層別 特定保健指導対象者数

年齢階層	特定保健指導対象者数(人)				
		積極的支援		動機付け支援	
		人数(人)	構成比(%)	人数(人)	構成比(%)
40歳～44歳	100	66	17.1	34	11.5
45歳～49歳	139	99	25.7	40	13.5
50歳～54歳	175	113	29.4	62	20.9
55歳～59歳	99	71	18.4	28	9.5
60歳～64歳	57	36	9.4	21	7.1
65歳～69歳	56	0	0.0	56	18.9
70歳～	55	0	0.0	55	18.6
合計	681	385		296	

※「標準的な健診・保健指導プログラム」において、65歳以上75歳未満の者については積極的支援レベルに該当する場合であっても動機付け支援対象者として支援を実施することとされているが、医師の判断により、65歳以上であっても積極的支援の対象者として選定される可能性がある。

(3)特定保健指導実施率向上に向けて

特定保健指導は、対象者自らが健康状態を自覚し、生活習慣改善の必要性を理解した上で実践につなげられるよう、専門職が個別に介入するものである。こうした対象者の個別性を重視した効果的な保健指導の実施は、被保険者の健康の保持・向上や医療費適正化等の観点から、極めて重要な保険者機能であり、実施率の更なる向上が求められる。

実施率向上に向けては、特定健診対象者となる40歳以上の被保険者を主な対象として、特定保健指導の重要性や意義に関する周知啓発・情報提供(ポピュレーションアプローチ)に努めるとともに、特定保健指導対象者に対しては、性・年齢階層等の特性の違いや前年度の特定保健指導の該当・利用状況等を踏まえた個別具体的な利用勧奨が効果的であると考えられる。未利用者には電話勧奨等を含めた再勧奨を行う。特定健診受診日当日の初回面接の実施や、ICTを活用した遠隔面接の推進等により、利用者の利便性の向上を図ることも重要である。

また、第4期特定健康診査等実施計画期間においては、特定保健指導の評価指標にアウトカム評価が導入されており、評価指標(腹囲2cm・体重2kg減)を満たした場合、保健指導の介入量を問わずに特定保健指導は終了可能となる。保健指導の質の向上を図り、成果を重視した特定保健指導の実施を目指すことが、プログラム終了者数の増加、すなわち実施率の向上にもつながると考えられる。

3.メタボリックシンドローム基準該当者及び予備群の減少に向けて

メタボリックシンドローム基準該当者及び予備群に対し、適切な支援や介入を行うことで対象者の行動変容を促し、健康意識の向上及び生活習慣の改善を図る。

メタボリックシンドロームとは、内臓肥満に高血圧・高血糖・脂質代謝異常が組み合わさることにより心臓病や脳卒中などになりやすい病態を指す。これは、肥満のうちでも、おなかの内臓に脂肪がたまり腹囲が大きくなる「内臓脂肪型肥満(内臓肥満)」が、高血圧や糖尿病、脂質異常症などをひきおこしやすくし、これら内臓肥満と高血圧や糖尿病、脂質異常症が重複し、その数が多くなるほど、動脈硬化を進行させる危険が高まるという考えに基づくものである。

特定健診は、主にメタボリックシンドロームに着目した健診であり、特定保健指導はメタボリックシンドロームの予防や解消を目的としている。国は、第4期特定健康診査等実施計画期間における目標値として、メタボリックシンドロームの減少率25%以上(2008年度比)を定めている。メタボリックシンドロームの基準該当者及び予備群の減少に向けて、適切な支援や介入により対象者の生活習慣の改善を図る。

(1)メタボリックシンドローム該当状況

メタボリックシンドローム該当状況

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

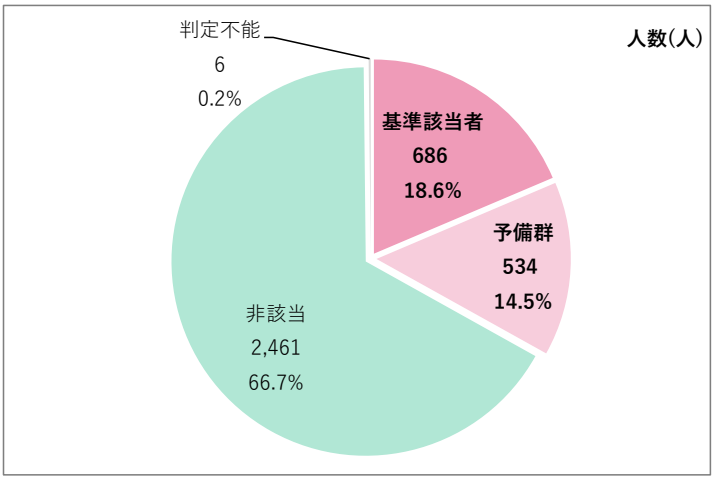
・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

■メタボリックシンドローム該当状況

基準該当者の割合　⇒18.6%

予備群の割合　⇒14.5%

メタボリックシンドローム該当状況



メタボリックシンドローム該当状況

	特定健診受診者	基準該当者＋予備群			非該当	判定不能
			基準該当者	予備群		
該当者数(人)	3,687	1,220	686	534	2,461	6
構成比(%)		33.1	18.6	14.5	66.7	0.2

構成比…特定健診受診者のうち、各基準に該当する人の割合

【参考】香川県及び全国のメタボリックシンドローム該当状況

2023年度(令和5年度)実績

	2023年度(令和5年度) 実績	
	基準該当者の割合(%)	予備群の割合(%)
香川県(国民健康保険組合)	17.4	9.8
全国(国民健康保険組合)	17.9	13.8

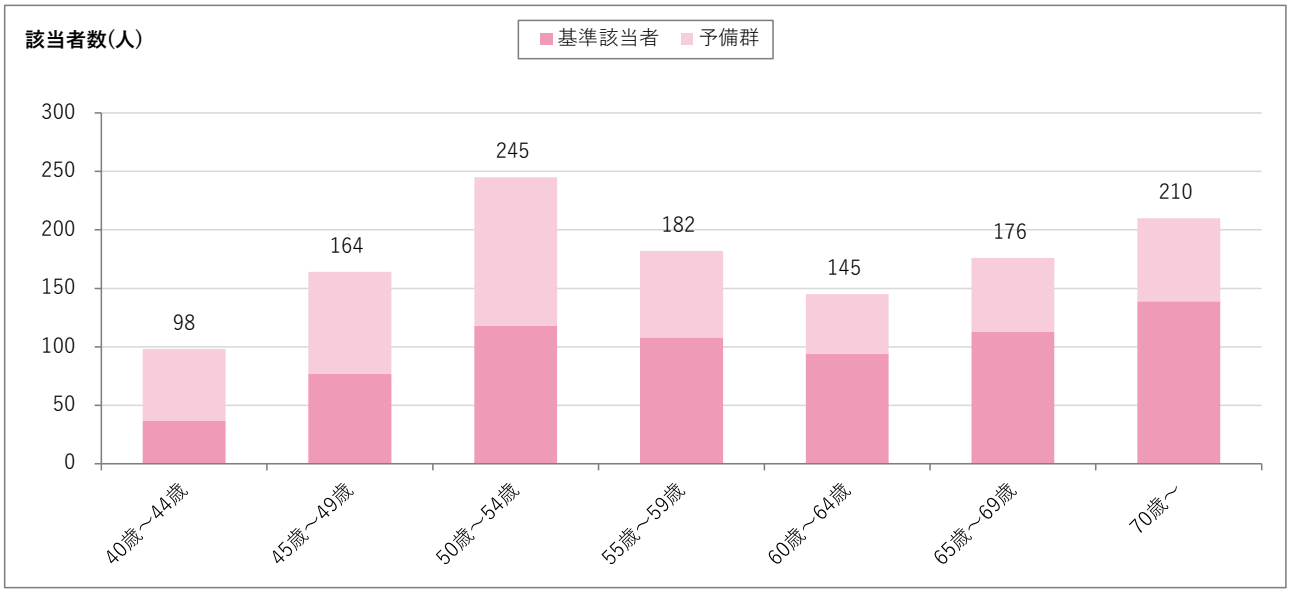
出典:厚生労働省「2023年度 特定健診・特定保健指導の実施状況」　2026年5月27日時点での厚生労働省最新データ

年齢階層別の状況を以下に示す。

年齢階層別 メタボリックシンドローム該当状況

年齢階層	A	B	B/A	C	C/A	D	D/A	E	E/A	F	F/A
	特定健診受診者数（人）	基準該当者+予備群						非該当		判定不能	
				基準該当者		予備群					
		該当者数（人）	割合（%）	該当者数（人）	割合（%）	該当者数（人）	割合（%）	該当者数（人）	割合（%）	該当者数（人）	割合（%）
40歳～44歳	424	98	23.1	37	8.7	61	14.4	325	76.7	1	0.2
45歳～49歳	628	164	26.1	77	12.3	87	13.9	462	73.6	2	0.3
50歳～54歳	766	245	32.0	118	15.4	127	16.6	521	68.0	0	0.0
55歳～59歳	513	182	35.5	108	21.1	74	14.4	330	64.3	1	0.2
60歳～64歳	394	145	36.8	94	23.9	51	12.9	248	62.9	1	0.3
65歳～69歳	471	176	37.4	113	24.0	63	13.4	295	62.6	0	0.0
70歳～	491	210	42.8	139	28.3	71	14.5	280	57.0	1	0.2
全体	3,687	1,220	33.1	686	18.6	534	14.5	2,461	66.7	6	0.2

年齢階層別 メタボリックシンドローム該当者数

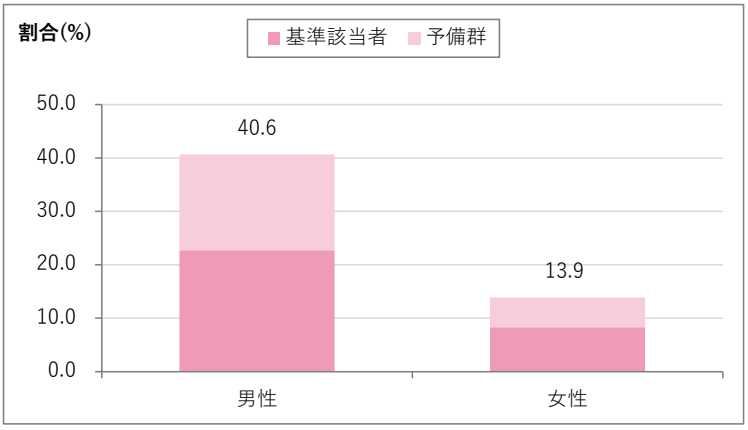


■男女別 メタボリックシンドローム該当状況

男性の該当者の割合は女性よりも26.7ポイント高い※

※基準該当者＋予備群での比較

男女別 メタボリックシンドローム該当割合



年齢階層別 メタボリックシンドローム該当状況(男性)

年齢階層	A	B	B/A	C	C/A	D	D/A	E	E/A	F	F/A
	特定健診受診者数(人)	基準該当者+予備群						非該当		判定不能	
				基準該当者		予備群					
		該当者数(人)	割合(%)	該当者数(人)	割合(%)	該当者数(人)	割合(%)	該当者数(人)	割合(%)	該当者数(人)	割合(%)
40歳～44歳	311	91	29.3	33	10.6	58	18.6	219	70.4	1	0.3
45歳～49歳	487	153	31.4	73	15.0	80	16.4	332	68.2	2	0.4
50歳～54歳	577	230	39.9	112	19.4	118	20.5	347	60.1	0	0.0
55歳～59歳	381	167	43.8	99	26.0	68	17.8	214	56.2	0	0.0
60歳～64歳	257	119	46.3	79	30.7	40	15.6	138	53.7	0	0.0
65歳～69歳	282	136	48.2	89	31.6	47	16.7	146	51.8	0	0.0
70歳～	353	180	51.0	115	32.6	65	18.4	173	49.0	0	0.0
全体	2,648	1,076	40.6	600	22.7	476	18.0	1,569	59.3	3	0.1

年齢階層別 メタボリックシンドローム該当状況(女性)

年齢階層	A	B	B/A	C	C/A	D	D/A	E	E/A	F	F/A
	特定健診受診者数(人)	基準該当者+予備群						非該当		判定不能	
				基準該当者		予備群					
		該当者数(人)	割合(%)	該当者数(人)	割合(%)	該当者数(人)	割合(%)	該当者数(人)	割合(%)	該当者数(人)	割合(%)
40歳～44歳	113	7	6.2	4	3.5	3	2.7	106	93.8	0	0.0
45歳～49歳	141	11	7.8	4	2.8	7	5.0	130	92.2	0	0.0
50歳～54歳	189	15	7.9	6	3.2	9	4.8	174	92.1	0	0.0
55歳～59歳	132	15	11.4	9	6.8	6	4.5	116	87.9	1	0.8
60歳～64歳	137	26	19.0	15	10.9	11	8.0	110	80.3	1	0.7
65歳～69歳	189	40	21.2	24	12.7	16	8.5	149	78.8	0	0.0
70歳～	138	30	21.7	24	17.4	6	4.3	107	77.5	1	0.7
全体	1,039	144	13.9	86	8.3	58	5.6	892	85.9	3	0.3

年度別 メタボリックシンドローム該当状況

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和5年4月～令和8年3月健診分(36カ月分)

資格条件等

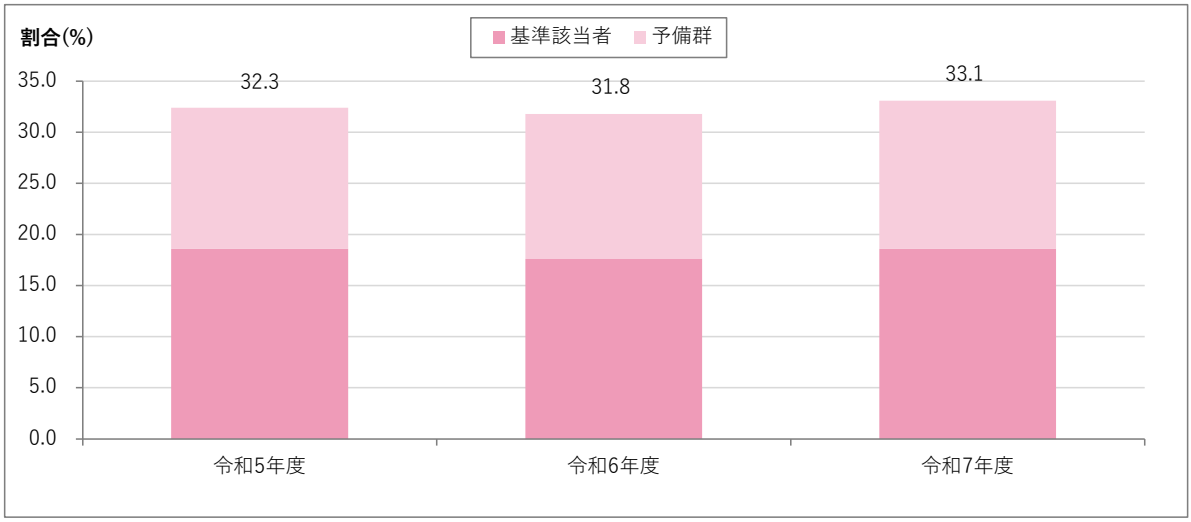
・資格確認日…各年度末時点
・年齢範囲…各年度、40歳以上を分析対象とする。

■年度別 メタボリックシンドローム該当状況

令和7年度のメタボリックシンドローム該当者(予備群含む。)の割合 ⇒33.1%

⇒令和5年度から0.8ポイント増加

年度別 メタボリックシンドローム該当割合



年度別 メタボリックシンドローム該当状況

前年度の数値と比較した結果を矢印のアイコンで表示している。(初年度はアイコン表示の対象外としている。)

年度	特定健診受診者数(人)	基準該当者+予備群		基準該当者		予備群	
		該当者数(人)	割合(%)	該当者数(人)	割合(%)	該当者数(人)	割合(%)
令和5年度	3,961	1,281	32.3	736	18.6	545	13.8
令和6年度	3,787	1,204	31.8 ⇩	668	17.6 ⇩	536	14.2 ⇧
令和7年度	3,687	1,220	33.1 ⇧	686	18.6 ⇧	534	14.5 ⇧
年次推移							

(2)メタボリックシンドローム基準該当者及び予備群に関する分析

メタボリックシンドローム該当者の階層化

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)
・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

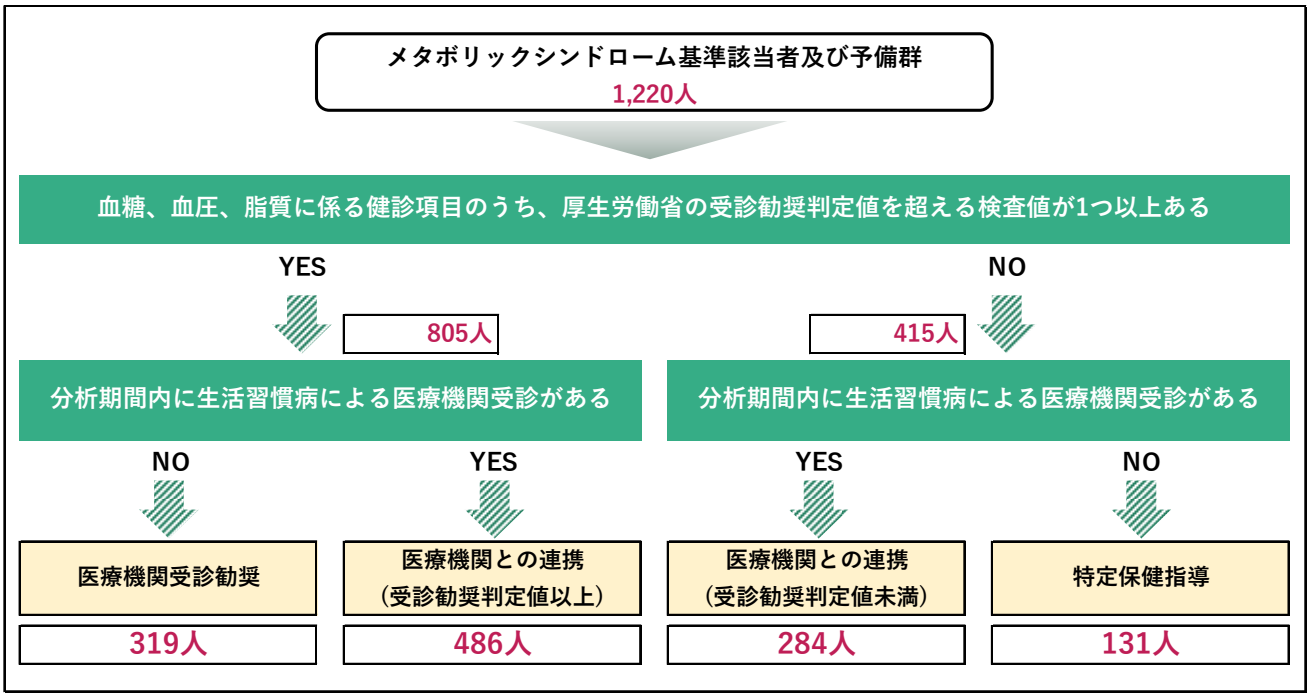
・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

■健康診査データ及びレセプトデータによるメタボリックシンドローム該当者の階層化

前項「2.特定保健指導の実施率向上のための取組」にて示したように、特定保健指導はメタボリックシンドロームの予防や解消を目的としているが、生活習慣病(血糖、血圧、脂質)の服薬がある者は対象者から除外されるため、それら対象者には、医療機関と連携した支援が必要である。

メタボリックシンドローム該当者及び予備群について、健康診査データ及びレセプトデータによる階層化を行った。メタボリックシンドローム解消に向けての支援の方法は、医療機関受診勧奨、医療機関との連携による支援、特定保健指導等による支援に大別できる。

健康診査データ及びレセプトデータによるメタボリックシンドローム該当者の階層化



(3)メタボリックシンドローム基準該当者及び予備群の減少に向けて

メタボリックシンドローム該当者(予備群含む。)のうち、生活習慣病による医療機関未受診者であり、かつ厚生労働省の受診勧奨判定値を超えている者に対しては、早期の医療機関受診を促す受診勧奨の対策が求められる。(参考:「5-1.受診勧奨判定値を超えている者への受診勧奨及び保健指導」)

予備群を含む該当者のうち、生活習慣病による医療機関未受診者であり、かつ受診勧奨判定値を超えない者に対しては、特定保健指導等による支援が適切である。特定保健指導実施率の向上を図り、利用者の増加に努めるとともに、特定保健指導の質の向上を図りメタボリックシンドロームの解消に向けた介入を行う。(参考:「2.特定保健指導の実施率向上のための取組」)

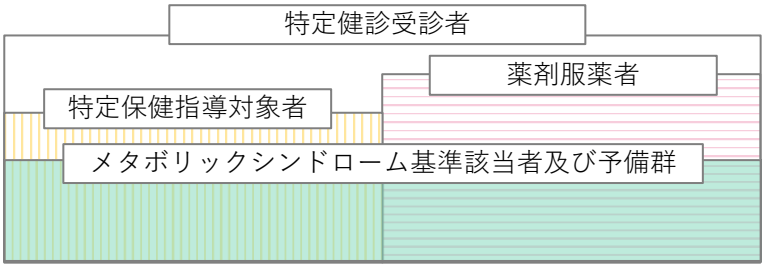
予備群を含む該当者のうち、生活習慣病による医療機関受診者に対しては、医療機関と連携した支援・介入を行う。医療機関と保険者がデータを共有することで、対象者の健康状態を包括的に把握でき、より的確な保健指導が可能となる。情報連携においては、健康アプリ等を活用した、PHR(パーソナルヘルスレコード)データの活用に向けての検討も求められる。支援の内容としては、自己管理の実現に向けた目標設定の支援、達成状況の確認と励まし等による対象者本人の行動変容を促すための保健指導、医師・薬剤師と連携しての服薬指導、検査値や治療内容に対する理解度を高めるための支援などが考えられる。

このような適切な支援や介入によって、メタボリックシンドローム基準該当者及び予備群の減少を図り、被保険者全体の健康意識向上及び健康増進につながることが期待される。

【参考】特定保健指導対象者とメタボリックシンドロームの基準について

＜特定保健指導対象者とメタボリックシンドローム基準該当者及び予備群との関係＞

メタボリックシンドロームには生活習慣病(血糖、血圧、脂質)の薬剤服薬者が含まれるほか、血糖と脂質(随時中性脂肪による判定の場合)の基準が若干異なる。



●特定保健指導

特定保健指導は、国が実施する健康増進政策の一環として、特に40歳から74歳を対象として生活習慣病予防を強化することを目的としている。特定保健指導の基準は、健康診査の結果を基に生活習慣の改善が必要な人を効率的に識別し、指導を行うために設けられている。

＜特定保健指導の基準＞

<table>
<tr><th rowspan="2">腹囲/BMI</th><th rowspan="2">追加リスク
①血糖 ②脂質 ③血圧</th><th rowspan="2">喫煙(注)</th><th colspan="2">対象</th></tr>
<tr><th>40歳-64歳</th><th>65歳-74歳</th></tr>
<tr><td rowspan="3">≧85cm（男性）
≧90cm（女性）</td><td>2つ以上該当</td><td></td><td rowspan="3">積極的支援</td><td rowspan="3">動機付け支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1つ該当</td><td>あり</td></tr>
<tr><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="4">上記以外でBMI
≧25kg/m^{2}以上</td><td>3つ該当</td><td></td><td rowspan="3">積極的支援</td><td rowspan="3">動機付け支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2つ該当</td><td>あり</td></tr>
<tr><td>なし</td></tr>
<tr><td>1つ該当</td><td></td></tr>
</table>

(注)喫煙の欄の斜線は、階層化の判定が喫煙の有無と無関係であることを意味する。
※追加リスクの基準値は以下のとおりである。
①血糖:空腹時血糖(やむを得ない場合は随時血糖)が100mg/dl以上 または HbA1c(NGSP)5.6%以上
(空腹時血糖及びHbA1c(NGSP)の両方を測定している場合には、空腹時血糖の値を優先)
②脂質:空腹時中性脂肪150mg/dl以上(やむを得ない場合は随時中性脂肪175mg/dl以上)またはHDLコレステロール40mg/dl未満
③血圧:収縮期血圧130mmHg以上 または 拡張期血圧85mmHg以上
※糖尿病、高血圧症または脂質異常症の治療に係る薬剤を服用している者については、対象から除いている。
※65歳以上75歳未満の者については、積極的支援の対象となった場合でも動機付け支援とする。

●メタボリックシンドローム

内臓脂肪型肥満に起因する生活習慣病のリスクを評価するための基準。この基準は、肥満関連の健康リスク(例えば、糖尿病、高血圧、脂質異常症など)の早期発見と予防を目的としている。医学的な診断基準であるため、健康診査の場に限らず、医療機関での診断でも使用される。

＜メタボリックシンドロームの判定基準＞

<table>
<tr><th>腹囲</th><th>追加リスク（①血糖 ②脂質 ③血圧）</th><th>該当状況</th></tr>
<tr><td rowspan="2">≧85cm（男性）
≧90cm（女性）</td><td>2つ以上該当</td><td>メタボリックシンドローム基準該当者</td></tr>
<tr><td>1つ該当</td><td>メタボリックシンドローム予備群該当者</td></tr>
</table>

※追加リスクの基準値は以下のとおりである。
①血糖:空腹時血糖が110mg/dl以上、またはHbA1c(NGSP)6.0%以上
②脂質:空腹時中性脂肪(やむを得ない場合は随時中性脂肪)150mg/dl以上、またはHDLコレステロール40mg/dl未満
③血圧:収縮期血圧130mmHg以上、または拡張期血圧85mmHg以上
※糖尿病、高血圧症または脂質異常症の治療に係る薬剤を服用している者も対象となる。

4.がん検診の推進に向けた医療費分析

がんの早期発見・早期治療により進行を防ぎ、がんによる死亡率を低下させるため、がん検診受診率の向上を図る。

令和6年の人口動態統計によると、全国の死因順位第1位は悪性新生物＜腫瘍＞で、全死亡者に占める割合は23.9%となっている。悪性新生物＜腫瘍＞は昭和56年以降死因順位第1位であり、その死亡率は上昇傾向にある。厚生労働省は「第4期がん対策推進基本計画」(令和5年3月28日閣議決定)において、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」を全体目標として「がん予防」、「がん医療」及び「がんとの共生」の分野別目標を定め、これらの3本の柱に沿った総合的ながん対策を推進するとしている。

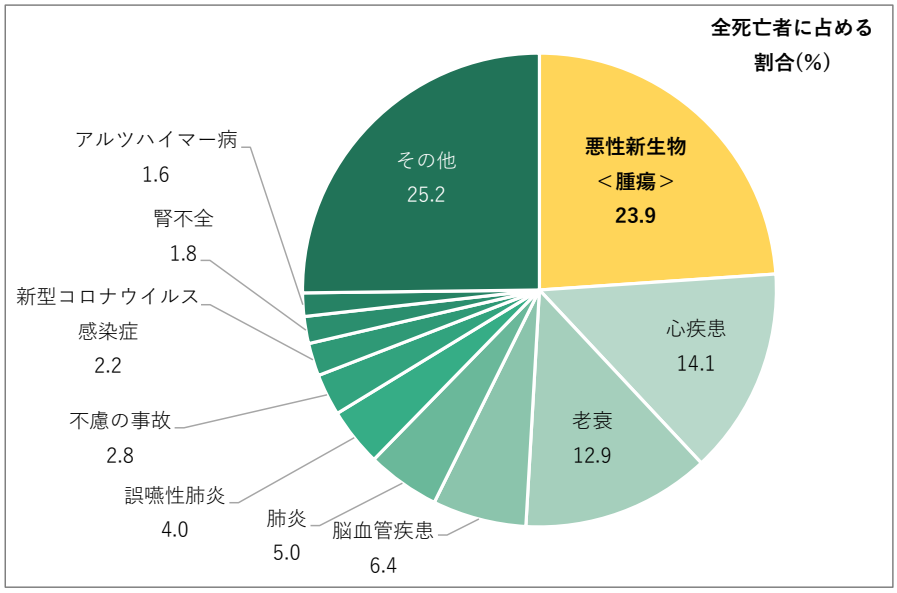
がんへの対策は健康寿命の延伸に寄与するものであり、がん検診の推進やがんの要因となる生活習慣の改善へ向けた働きかけ等、がんの発生と進行を防ぐための早期介入が求められる。

全国の主な死因別にみる
悪性新生物＜腫瘍＞の状況

⇒死因順位 第1位

⇒全死亡者に占める割合 23.9%

【参考】令和6年 主な死因の構成割合(全国)



出典:厚生労働省「令和6年人口動態統計」

(1)がん医療費の状況

がん医療費の状況

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

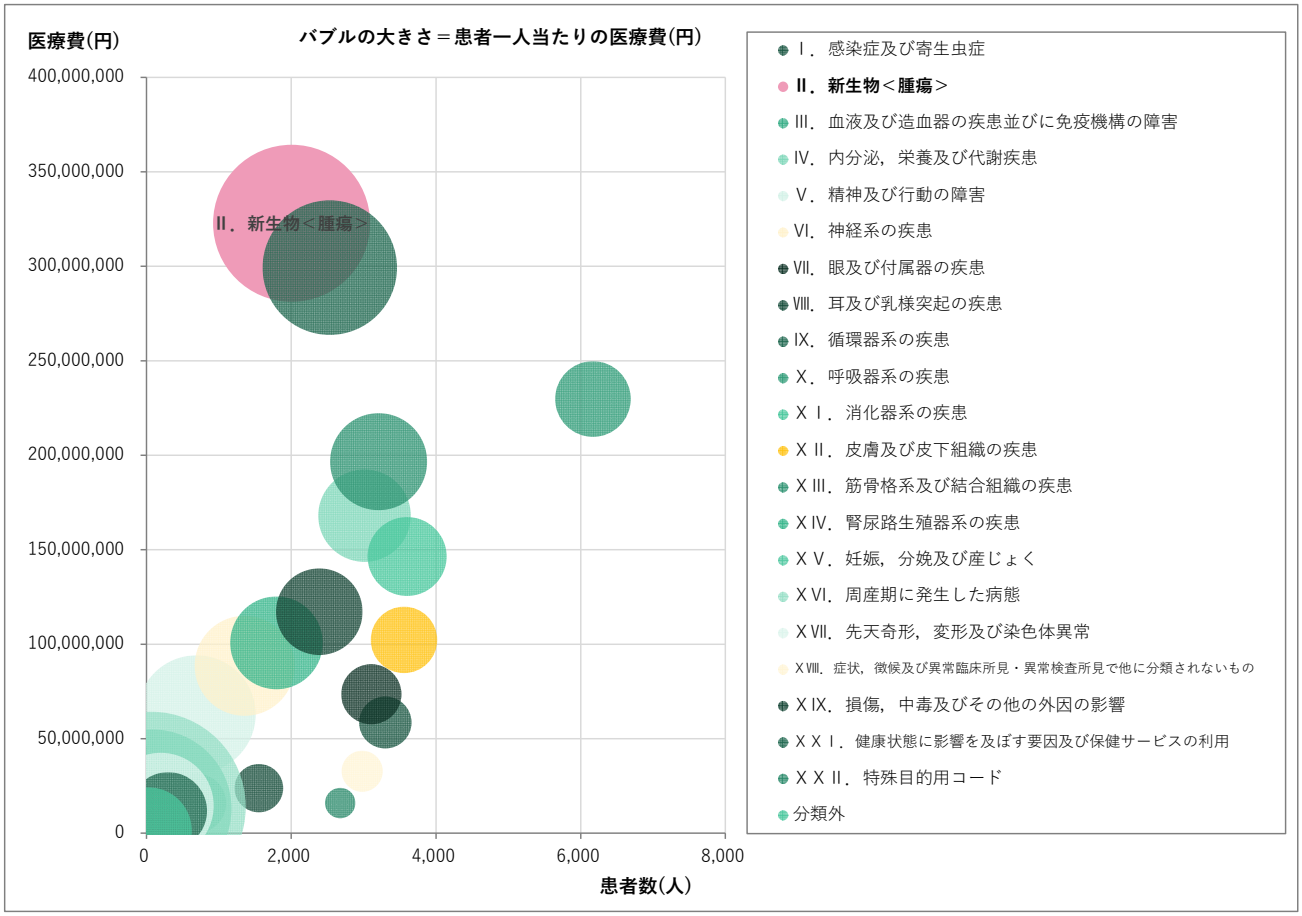
■疾病大分類による新生物＜腫瘍＞医療費の状況

大分類による疾病別医療費統計における「新生物＜腫瘍＞」の状況

⇒医療費 第1位

⇒患者一人当たりの医療費 第3位

疾病大分類にみる新生物＜腫瘍＞の状況



新生物＜腫瘍＞医療費の状況

	被保険者数（人）	医療費全体（円）	Ⅱ．新生物＜腫瘍＞				
			医療費(円)	医療費全体に占める割合(%)	患者数(人)	被保険者に占める患者割合(%)	患者一人当たりの医療費(円)
全体	11,391	2,109,634,410	322,765,819	15.3	2,005	17.6	160,980
男性	7,383	1,315,592,670	196,328,067	14.9	1,138	15.4	172,520
女性	4,008	794,041,740	126,437,752	15.9	867	21.6	145,834

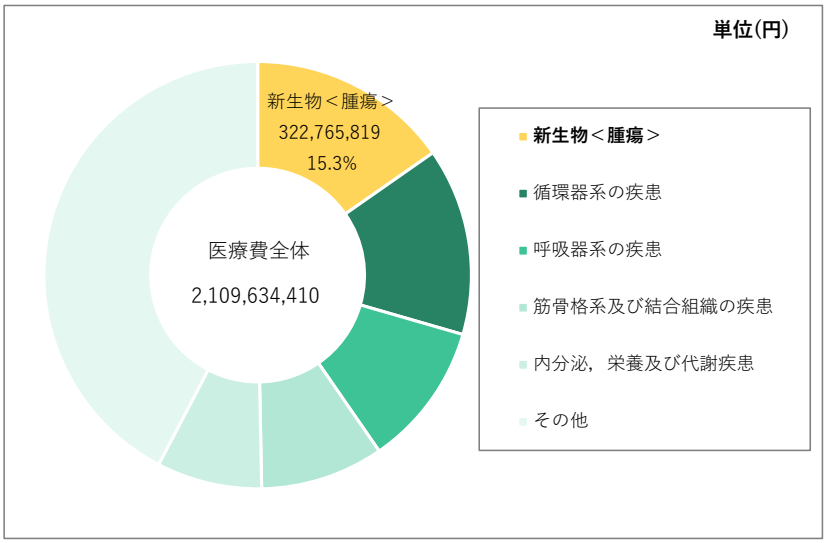
「新生物＜腫瘍＞」の医療費

⇒3億2,277万円

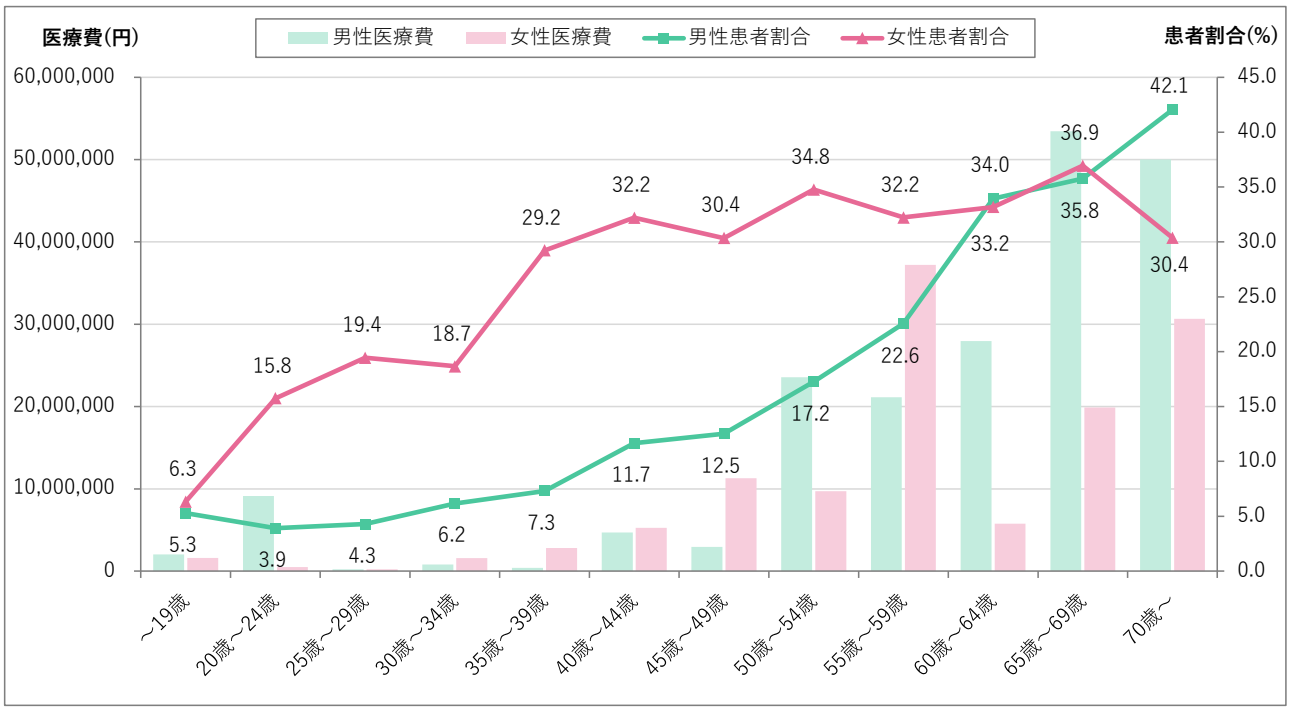
医療費全体に占める割合

⇒15.3%

医療費全体に占める割合(新生物＜腫瘍＞及び上位疾病)



男女年齢階層別 新生物＜腫瘍＞医療費及び患者割合



■疾病中分類による新生物＜腫瘍＞医療費の内訳

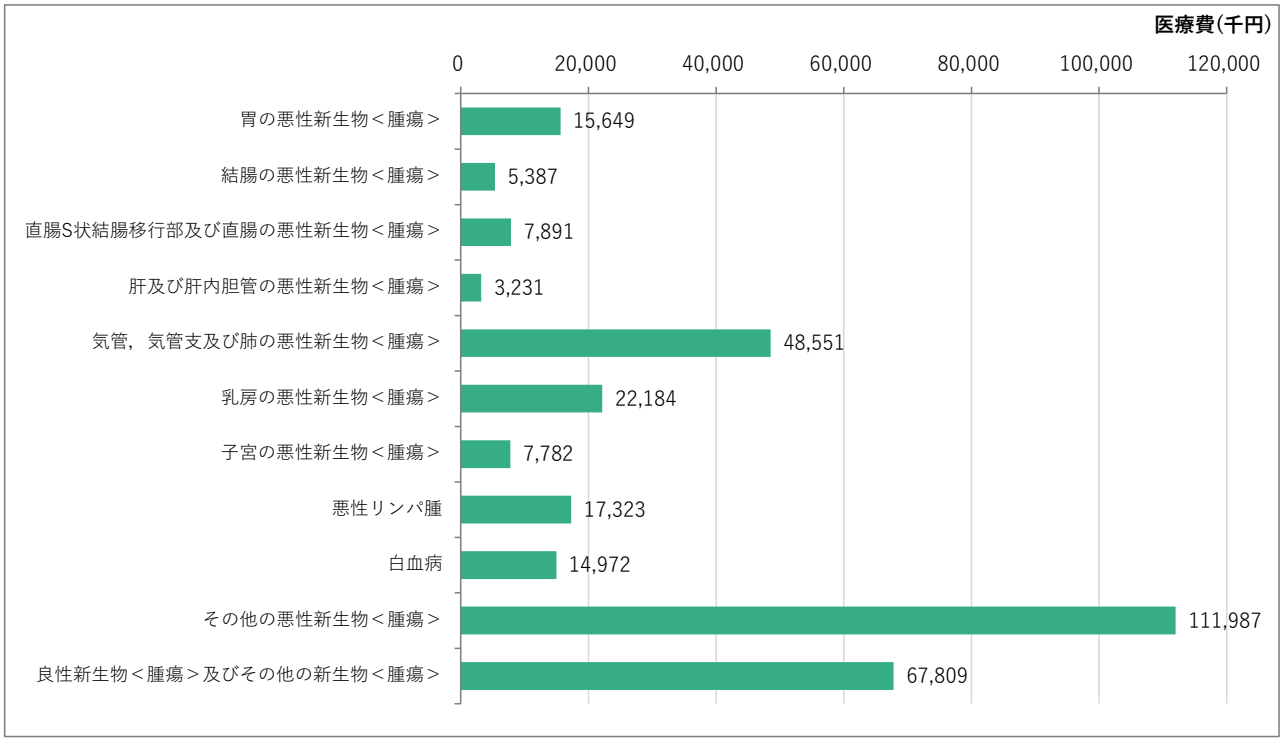
「新生物＜腫瘍＞」の医療費について、疾病中分類による内訳を以下に示す。「その他の悪性新生物＜腫瘍＞」の医療費が1億1,199万円で、「新生物＜腫瘍＞」全体の34.7%を占めている。

疾病中分類による新生物＜腫瘍＞医療費の内訳

疾病分類		医療費(円)	割合(%)	患者数(人)	割合(%)	患者一人当たりの医療費(円)
0201	胃の悪性新生物＜腫瘍＞	15,649,072	4.8	286	14.3	54,717
0202	結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	5,386,715	1.7	353	17.6	15,260
0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	7,891,023	2.4	33	1.6	239,122
0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	3,230,625	1.0	150	7.5	21,538
0205	気管，気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	48,551,121	15.0	226	11.3	214,828
0206	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	22,184,398	6.9	76	3.8	291,900
0207	子宮の悪性新生物＜腫瘍＞	7,781,589	2.4	105	5.2	74,110
0208	悪性リンパ腫	17,323,449	5.4	66	3.3	262,477
0209	白血病	14,971,843	4.6	14	0.7	1,069,417
0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	111,987,058	34.7	733	36.6	152,779
0211	良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞	67,808,926	21.0	1,034	51.6	65,579
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞		322,765,819		2,005		160,980

患者数…複数の疾病をもつ患者がいるため、各疾病の患者数の和と新生物＜腫瘍＞の患者数は必ずしも一致しない。

疾病中分類による新生物＜腫瘍＞医療費



■その他の悪性新生物＜腫瘍＞医療費の詳細

「その他の悪性新生物＜腫瘍＞」の詳細(医療費上位疾病)を以下に示す。「その他の悪性新生物＜腫瘍＞」には、「前立腺の悪性新生物＜腫瘍＞」や、転移がん等がんの進行によって引き起こされる続発性悪性新生物も含まれている。

その他の悪性新生物＜腫瘍＞医療費の詳細(ICD10による医療費上位疾病)

上位20疾病を上限として掲載している。

疾病(中分類)		医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	111,987,058	733	152,779

順位	疾病(ICD10)		医療費(円)	その他の悪性新生物＜腫瘍＞に占める割合(%)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
1	C61	前立腺の悪性新生物＜腫瘍＞	24,064,361	21.5	235	102,402
2	C79	その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物＜腫瘍＞	11,551,741	10.3	56	206,281
3	C48	後腹膜及び腹膜の悪性新生物＜腫瘍＞	8,722,048	7.8	2	4,361,024
4	C71	脳の悪性新生物＜腫瘍＞	8,416,096	7.5	5	1,683,219
5	C13	下咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	7,427,797	6.6	3	2,475,932
6	C67	膀胱の悪性新生物＜腫瘍＞	6,141,593	5.5	96	63,975
7	C78	呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物＜腫瘍＞	5,986,741	5.3	72	83,149
8	C03	歯肉の悪性新生物＜腫瘍＞	5,516,596	4.9	1	5,516,596
9	C25	膵の悪性新生物＜腫瘍＞	5,053,779	4.5	228	22,166
10	C10	中咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	3,526,543	3.1	4	881,636
11	C66	尿管の悪性新生物＜腫瘍＞	3,442,418	3.1	4	860,605
12	C62	精巣＜睾丸＞の悪性新生物＜腫瘍＞	3,101,135	2.8	5	620,227
13	C64	腎盂を除く腎の悪性新生物＜腫瘍＞	2,949,033	2.6	23	128,219
14	C32	喉頭の悪性新生物＜腫瘍＞	2,925,150	2.6	17	172,068
15	C65	腎盂の悪性新生物＜腫瘍＞	2,865,161	2.6	5	573,032
16	C15	食道の悪性新生物＜腫瘍＞	2,579,377	2.3	18	143,299
17	C37	胸腺の悪性新生物＜腫瘍＞	1,542,963	1.4	1	1,542,963
18	C56	卵巣の悪性新生物＜腫瘍＞	1,219,862	1.1	32	38,121
19	C88	悪性免疫増殖性疾患	942,118	0.8	1	942,118
20	C44	皮膚のその他の悪性新生物＜腫瘍＞	695,996	0.6	14	49,714

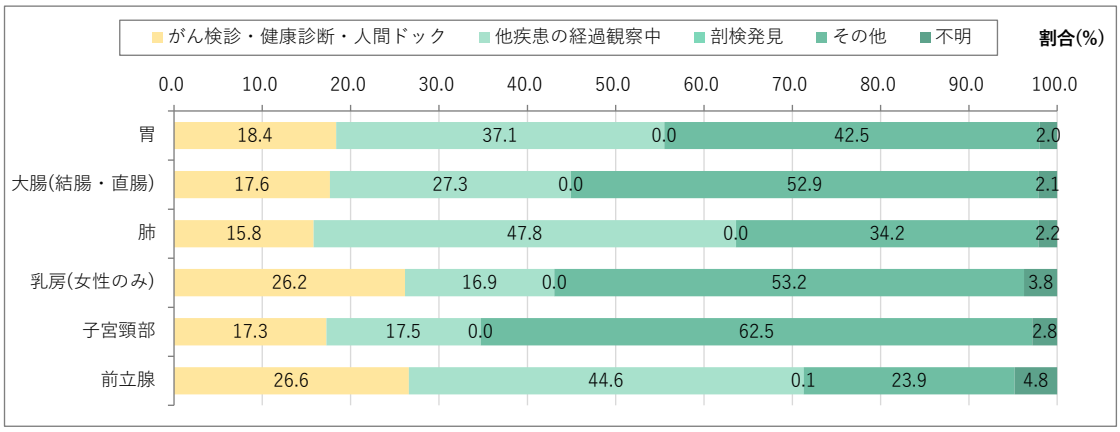
(2)がん検診の推進に向けた分析

厚生労働省が指針で定めるがん検診の対象部位(胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん)及び早期発見・早期治療によって治癒が望める前立腺がんについて、厚生労働省「令和5年全国がん登録」から発見経緯・進展度の割合をみると、発見経緯で検診・健診・人間ドックの割合が2割以上を占めている乳房(女性のみ)、前立腺は、診断時の進展度も6割以上が限局にとどまっているが、発見経緯で検診・健診・人間ドックの割合が低い肺、子宮頸部は、診断時の進展度ですでにリンパ節転移以上の進行がんである症例が5割以上と高い割合を占めている。

がんは進行するほど治癒が難しく、がんの症状やそれに伴う治療による身体への負担も大きくなる。多くのがんは明確な前兆や特定の初期症状がわかりにくく、初期段階で気付きにくい現状があるため、がん検診によりがんを早期に発見し、早期に適切な治療につなげることで、がんの進行を防ぐことが望まれる。

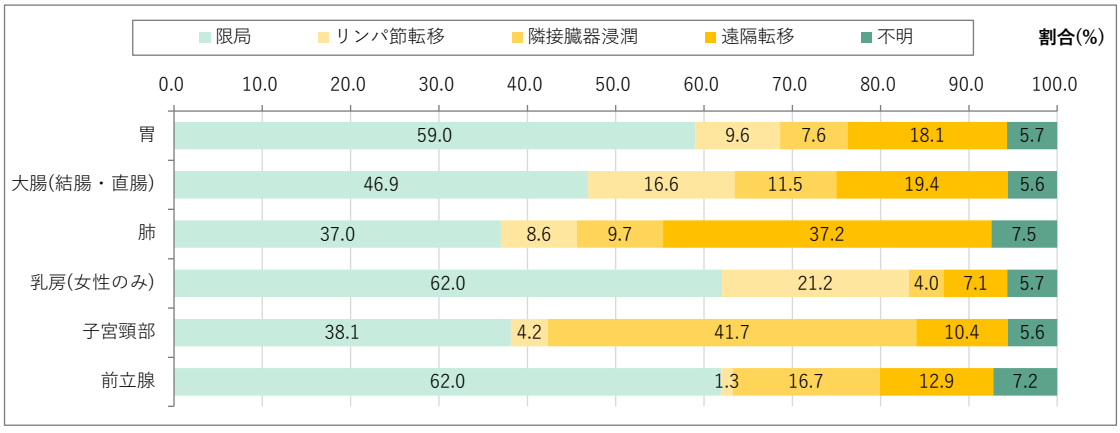
本項目では、検診対象部位のがん、前立腺がん、及び転移がん等の続発性悪性新生物の状況について分析を行い、その現状を把握する。

【参考】部位別 発見経緯(全国)



出典:厚生労働省「令和5年全国がん登録」(ICD10の悪性新生物)

【参考】部位別 進展度(全国)



出典:厚生労働省「令和5年全国がん登録」(ICD10の悪性新生物)

①検診対象部位のがん及び前立腺がんの状況

検診対象部位のがん及び前立腺がんの状況

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

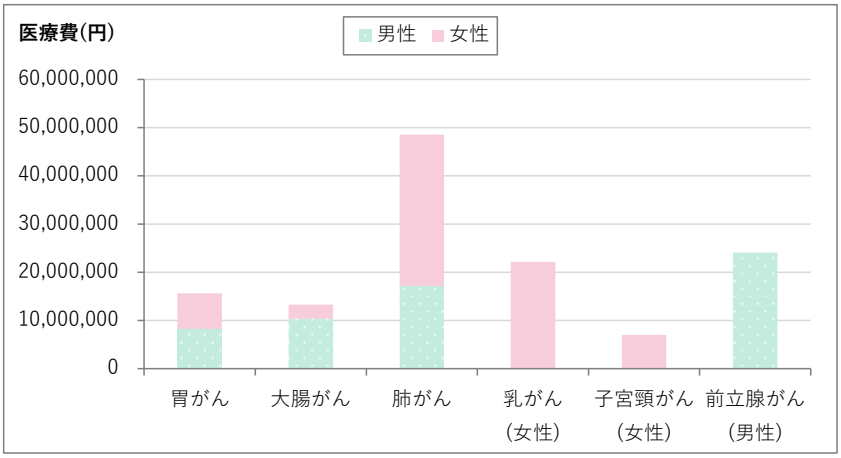
・検診対象部位のがん及び前立腺がん…厚生労働省が指針で定めるがん検診の対象部位(胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん)及び前立腺がんを対象に集計。なお、乳がんは男性においても罹患するが、乳がん検診の対象が女性であることを考慮し、女性の乳がんのみを集計対象とする。

■検診対象部位のがん及び前立腺がんの医療費

検診対象部位のがん及び前立腺がんの医療費の状況を以下に示す。

部位別 がん医療費の状況

	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
胃がん	15,649,072	286	54,717
男性	8,289,182	190	43,627
女性	7,359,890	96	76,666
大腸がん	13,277,738	363	36,578
男性	10,379,148	265	39,167
女性	2,898,590	98	29,577
肺がん	48,551,121	226	214,828
男性	17,167,556	153	112,206
女性	31,383,565	73	429,912
乳がん(女性)	22,179,887	75	295,732
子宮頸がん(女性)	7,028,352	41	171,423
前立腺がん(男性)	24,064,361	235	102,402



■男女年齢階層別 検診対象部位のがん及び前立腺がんの医療費

部位別、男女年齢階層別の医療費を以下に示す。

部位別・男女年齢階層別 がん医療費の状況

胃がん

年齢階層	男女合計			男性			女性		
	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
～19歳	18,454	2	9,227	14,657	1	14,657	3,797	1	3,797
20歳～24歳	8,052	2	4,026	8,052	2	4,026	0	0	0
25歳～29歳	9,340	2	4,670	9,340	2	4,670	0	0	0
30歳～34歳	23,306	2	11,653	23,306	2	11,653	0	0	0
35歳～39歳	140,284	9	15,587	92,900	6	15,483	47,384	3	15,795
40歳～44歳	168,467	16	10,529	110,515	9	12,279	57,952	7	8,279
45歳～49歳	201,537	24	8,397	121,895	15	8,126	79,642	9	8,849
50歳～54歳	3,983,791	37	107,670	703,396	21	33,495	3,280,395	16	205,025
55歳～59歳	905,352	34	26,628	753,888	20	37,694	151,464	14	10,819
60歳～64歳	392,595	41	9,575	297,780	28	10,635	94,815	13	7,293
65歳～69歳	6,340,891	53	119,639	2,818,426	32	88,076	3,522,465	21	167,736
70歳～	3,457,003	64	54,016	3,335,027	52	64,135	121,976	12	10,165
合計	15,649,072	286	54,717	8,289,182	190	43,627	7,359,890	96	76,666

大腸がん

年齢階層	男女合計			男性			女性		
	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
～19歳	28,177	3	9,392	28,177	3	9,392	0	0	0
20歳～24歳	2,336	1	2,336	0	0	0	2,336	1	2,336
25歳～29歳	48,834	4	12,209	28,514	3	9,505	20,320	1	20,320
30歳～34歳	54,507	4	13,627	54,507	4	13,627	0	0	0
35歳～39歳	44,051	6	7,342	31,386	4	7,847	12,665	2	6,333
40歳～44歳	216,012	17	12,707	177,045	12	14,754	38,967	5	7,793
45歳～49歳	479,347	40	11,984	366,202	28	13,079	113,145	12	9,429
50歳～54歳	703,202	55	12,785	571,228	38	15,032	131,974	17	7,763
55歳～59歳	3,938,532	52	75,741	3,814,252	38	100,375	124,280	14	8,877
60歳～64歳	1,386,442	54	25,675	1,165,692	37	31,505	220,750	17	12,985
65歳～69歳	1,230,811	60	20,514	547,390	42	13,033	683,421	18	37,968
70歳～	5,145,487	67	76,798	3,594,755	56	64,192	1,550,732	11	140,976
合計	13,277,738	363	36,578	10,379,148	265	39,167	2,898,590	98	29,577

肺がん

年齢階層	男女合計			男性			女性		
	医療費（円）	患者数（人）	患者一人当たりの医療費(円)	医療費（円）	患者数（人）	患者一人当たりの医療費(円)	医療費（円）	患者数（人）	患者一人当たりの医療費(円)
～19歳	4,900	1	4,900	4,900	1	4,900	0	0	0
20歳～24歳	25,540	4	6,385	22,206	3	7,402	3,334	1	3,334
25歳～29歳	2,816	2	1,408	2,816	2	1,408	0	0	0
30歳～34歳	5,183	1	5,183	0	0	0	5,183	1	5,183
35歳～39歳	63,216	8	7,902	27,936	5	5,587	35,280	3	11,760
40歳～44歳	75,958	8	9,495	61,621	6	10,270	14,337	2	7,169
45歳～49歳	7,148,440	20	357,422	104,154	10	10,415	7,044,286	10	704,429
50歳～54歳	5,264,688	26	202,488	5,238,407	22	238,109	26,281	4	6,570
55歳～59歳	236,784	26	9,107	201,319	20	10,066	35,465	6	5,911
60歳～64歳	215,833	23	9,384	132,765	14	9,483	83,068	9	9,230
65歳～69歳	18,950,406	45	421,120	9,120,865	27	337,810	9,829,541	18	546,086
70歳～	16,557,357	62	267,054	2,250,567	43	52,339	14,306,790	19	752,989
合計	48,551,121	226	214,828	17,167,556	153	112,206	31,383,565	73	429,912

乳がん（女性）

年齢階層	女性		
	医療費（円）	患者数（人）	患者一人当たりの医療費(円)
～19歳	0	0	0
20歳～24歳	0	0	0
25歳～29歳	0	0	0
30歳～34歳	0	0	0
35歳～39歳	53,920	1	53,920
40歳～44歳	3,138,232	5	627,646
45歳～49歳	238,281	9	26,476
50歳～54歳	3,335,036	13	256,541
55歳～59歳	11,154,484	8	1,394,311
60歳～64歳	899,227	12	74,936
65歳～69歳	1,609,149	17	94,656
70歳～	1,751,558	10	175,156
合計	22,179,887	75	295,732

子宮頸がん(女性)

年齢階層	女性		
	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
～19歳	0	0	0
20歳～24歳	23,144	4	5,786
25歳～29歳	17,935	4	4,484
30歳～34歳	0	0	0
35歳～39歳	76,310	4	19,078
40歳～44歳	60,972	5	12,194
45歳～49歳	42,532	4	10,633
50歳～54歳	49,711	6	8,285
55歳～59歳	6,686,336	5	1,337,267
60歳～64歳	13,246	4	3,312
65歳～69歳	52,765	3	17,588
70歳～	5,401	2	2,701
合計	7,028,352	41	171,423

前立腺がん(男性)

年齢階層	男性		
	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
～19歳	0	0	0
20歳～24歳	12,582	1	12,582
25歳～29歳	8,571	1	8,571
30歳～34歳	0	0	0
35歳～39歳	0	0	0
40歳～44歳	16,711	2	8,356
45歳～49歳	84,630	9	9,403
50歳～54歳	142,712	20	7,136
55歳～59歳	535,233	24	22,301
60歳～64歳	1,669,782	33	50,599
65歳～69歳	10,723,900	47	228,168
70歳～	10,870,240	98	110,921
合計	24,064,361	235	102,402

②続発性悪性新生物の状況

次に、転移がん等の続発性悪性新生物の状況を示す。

続発性悪性新生物の状況

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

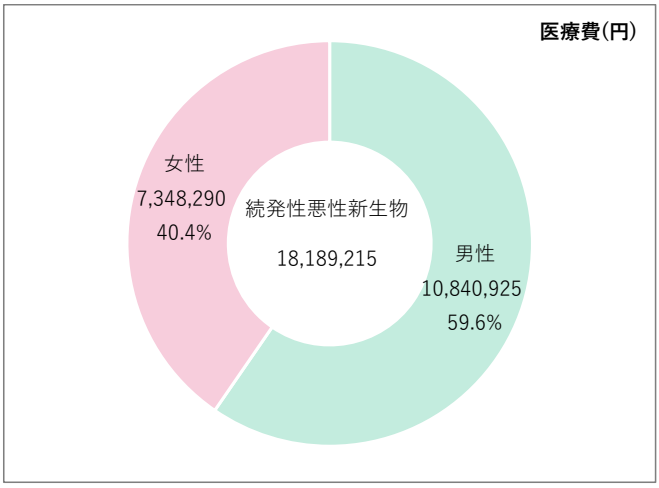
・続発性悪性新生物…ICD10により、次の疾病を対象に集計
C77「リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞」、
C78「呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物＜腫瘍＞」、
C79「その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物＜腫瘍＞」

■続発性悪性新生物の医療費

続発性悪性新生物の医療費

	続発性悪性新生物		
	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
全体	18,189,215	123	147,880
男性	10,840,925	72	150,568
女性	7,348,290	51	144,084

男女別 続発性悪性新生物の医療費



続発性悪性新生物の医療費

⇒全体　1,819万円

⇒男性　1,084万円(59.6%)

⇒女性　735万円(40.4%)

■男女年齢階層別 続発性悪性新生物の医療費

続発性悪性新生物の医療費を男女年齢階層別に以下に示す。

男女年齢階層別 続発性悪性新生物医療費の状況

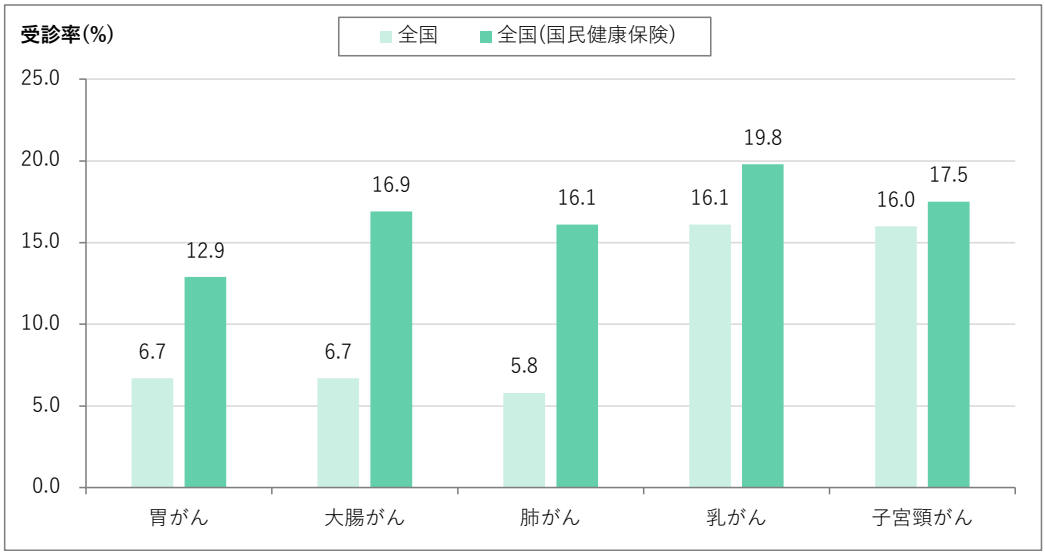
年齢階層	男女合計			男性			女性		
	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
～19歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20歳～24歳	19,413	3	6,471	12,243	2	6,122	7,170	1	7,170
25歳～29歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30歳～34歳	19,590	1	19,590	0	0	0	19,590	1	19,590
35歳～39歳	10,778	2	5,389	5,194	1	5,194	5,584	1	5,584
40歳～44歳	148,271	4	37,068	9,523	3	3,174	138,748	1	138,748
45歳～49歳	1,406,892	11	127,899	1,167,465	5	233,493	239,427	6	39,905
50歳～54歳	905,349	10	90,535	823,286	7	117,612	82,063	3	27,354
55歳～59歳	7,000,191	15	466,679	2,227,259	9	247,473	4,772,932	6	795,489
60歳～64歳	224,892	13	17,299	96,705	5	19,341	128,187	8	16,023
65歳～69歳	1,401,274	33	42,463	1,232,306	17	72,489	168,968	16	10,561
70歳～	7,052,565	31	227,502	5,266,944	23	228,998	1,785,621	8	223,203
合計	18,189,215	123	147,880	10,840,925	72	150,568	7,348,290	51	144,084

(3)がん検診の推進に向けて

がん検診によってがんを早期に発見し、早期に適切な治療へつなげることは、転移や浸潤といったがんの進行を防ぎ、がんによる死亡率の低下へとつながる。また、早期発見により治療の選択肢が広がることで、患者の心身や日常生活、経済面への負担の軽減も望めるため、患者のQOLの維持にもつながる。がん検診の受診率向上に当たっては、がん検診と特定健診の同時実施や利便性の向上等、がん検診を受診しやすい体制の整備が求められる。

また、予防可能ながんのリスク因子としては、喫煙(受動喫煙を含む。)、飲酒、低身体活動、肥満・やせ、不適切な食生活等が挙げられる。これらの生活習慣及び生活環境が及ぼす影響に関する啓発並びに知識の普及についても、がん予防の推進につながると考えられる。

【参考】令和6年度 がん検診受診率



出典:厚生労働省「令和6(2024)年度 地域保健・健康増進事業報告」

がん検診の受診率の算定対象年齢は40歳から69歳(胃がんは50歳から69歳、子宮頸がんは細胞診によるものは20歳から69歳、HPV検査単独法によるものは30歳から60歳)までとしている。
乳がん、子宮頸がんの対象者は女性である。
受診率は、対象者数等の計数が不詳の市区町村を除いた値である。
【受診率算出方法】
大腸がん、肺がん
受診率=(受診者数/対象者数)×100
胃がん、乳がん
受診率=(前年度の受診者数+当該年度の受診者数-2年連続の受診者数)/(当該年度の対象者数)×100
子宮頸がん
受診率=((細胞診の前年度の受診者数+細胞診の当該年度の受診者数−細胞診の2年連続の受診者数)+(当該年度及び過去4か年度の間にHPV検査単独法による子宮頸がん検診を1度以上受診した者の数))/(当該年度の対象者数)×100

5.生活習慣病の発症予防・重症化予防の取組

5-1.受診勧奨判定値を超えている者への受診勧奨及び保健指導

生活習慣病の早期発見・早期治療や重大な合併症の発症予防を目的として、受診勧奨判定値を超えている者に対し、医療機関受診勧奨及び保健指導を行う。

厚生労働省の「受診勧奨判定値」は、特定健診等での検査結果に基づき、医療機関での診察や検査の必要性を明確にし、早期発見・早期治療を可能にすることを目的として設定されている。受診勧奨判定値を超えている者に対しては、早期に医療機関への受診を促すとともに、生活習慣改善に向けて、医療機関等と連携した保健指導等の対策が求められる。

(1)指導対象者の特定

指導対象者の特定

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)
・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

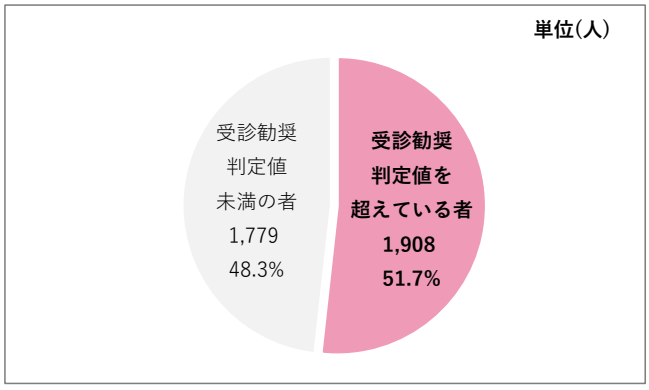
・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

■受診勧奨判定値を超えている対象者

特定健診の血糖、血圧、脂質に関する検査結果から、厚生労働省受診勧奨判定値を超える検査値を持つ対象者の人数及び特定健診受診者に占める割合について以下に示す。

特定健診受診者3,687人のうち、
受診勧奨判定値を超えている者
⇒1,908人(51.7%)

特定健診受診者に占める
受診勧奨判定値を超えている者の割合



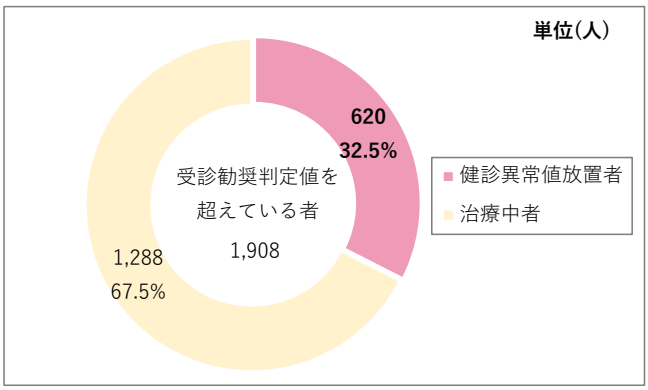
■健診異常値放置者

受診勧奨判定値を超えている者のうち、健診受診後に医療機関の受診が確認できない者(健診異常値放置者)が存在している。健診異常値放置者は適切な治療を受けていない状態のため、健康状態が悪化するリスクが高く、優先的な対応が必要である。ここでは、健診異常値放置者を優先順位が高い指導対象者として特定する。

受診勧奨判定値を超えている者のうち、健診異常値放置者

⇒620人(32.5%)

受診勧奨判定値を超えている者の医療機関受診状況



■指導対象者の特定(健診異常値放置)

健診異常値放置者のうち、「がん患者」「精神疾患患者」「難病患者」「認知症患者」「人工透析患者」に関しては、治療を優先すべき疾病を有しており、医学的管理の下にあることが推察される。また、指導が困難な可能性も考えられる。以上の理由から、該当する患者について指導対象者から除外する。

※がん、精神疾患、難病、認知症は確定病名のみ。

結果、健診異常値放置者受診勧奨の指導対象者は560人となった。

健診異常値放置者

620人

除外

除外者を除いた指導対象者(健診異常値放置)

560人

■指導対象者の階層化

指導対象者の受診勧奨判定異常値因子(血糖、血圧、脂質)別の該当状況を右に示す。

これらの要素は相互に影響し合い、共存することでリスクが相乗的に増加するため、異常値因子数を多く有する対象者が、よりリスクが高く、指導の優先度が高いといえる。

↑高 リスク 低↓

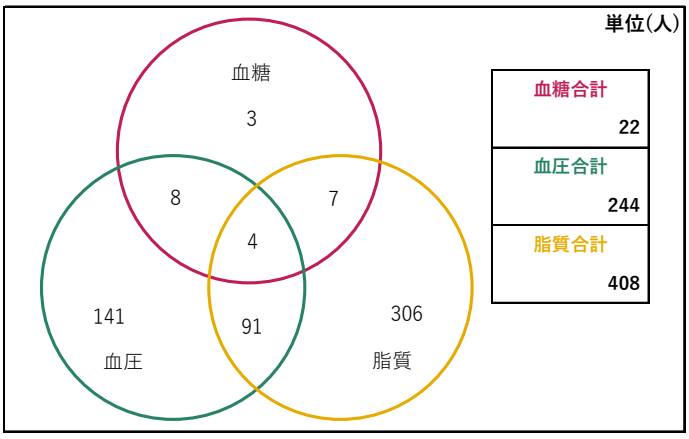
異常値因子数別人数

異常値因子数	対象者数(人)	構成比(%)
3つ	4	0.7
2つ	106	18.9
1つ	450	80.4
全体	560	

また、異常値因子別の該当状況は以下のとおりである。

異常値因子別該当状況

異常値因子数	異常値因子			対象者数(人)
	血糖	血圧	脂質	
3つ	●	●	●	4
2つ	●	●		8
	●		●	7
		●	●	91
1つ	●			3
		●		141
			●	306
指導対象者全体(健診異常値放置)				560



- 高血糖…血液中のブドウ糖(血糖値)の濃度が高くなりすぎる病態で、高血糖状態が続くと血管が破壊され、動脈硬化に至る。特に脳や心臓の血管が影響を受けやすいため、脳卒中や心筋梗塞の原因となる。また目の網膜や腎臓、神経を傷害し合併症を引き起こし、特に腎臓へ悪影響を及ぼすと透析の原因となることもある。
- 高血圧…高血圧は心血管系に大きな負担をかけ、動脈硬化を促進する。その結果、心筋梗塞や脳卒中などの重大な疾患のリスクが高まる。また、腎臓にも悪影響を及ぼし、腎疾患や透析の原因となることもある。
- 脂質異常…動脈硬化の主要な危険因子であり、放置すれば脳梗塞や心筋梗塞などの動脈硬化性疾患の原因となる。

(2)受診勧奨判定値を超えている者への受診勧奨及び保健指導

特定健診は、糖尿病、脂質異常症、高血圧症などの生活習慣病を早期発見し、生活習慣の改善や早期治療につなげることを目的として実施している。特定健診の結果、血糖、血圧、脂質のいずれかに異常が見られた場合、生活習慣病を発症している、もしくは将来的に生活習慣病を発症する可能性が高く、適切な治療や管理を行わないまま生活習慣病を放置すると、重大な合併症を引き起こす可能性がある。異常値があるにもかかわらず医療機関の受診が確認できない健診異常値放置者に対し、早期の医療機関受診を促し、生活習慣病の早期発見・早期治療による、重症化や合併症の発症を予防する取組の実施が必要である。

取組の一例として、健診異常値放置者への通知書の送付による受診勧奨がある。検査値の可視化や重症化疾患の発症リスクの数値等を盛り込んだ、訴求効果の高い通知書の送付により、早期の医療機関受診を促す方法である。専門職による電話勧奨等も有効である。受診勧奨後にはレセプトデータを用いて受診の有無を確認する。

また、生活習慣病の発症予防、重症化予防に向けては、対象者本人が自らの健康状態を把握し、食習慣、運動習慣などの生活習慣の改善に努める必要がある。そのため、受診勧奨判定値を超えている者のうち治療中者に対しては、医療機関等と連携し、対象者本人の健康意識の向上と行動変容を目指す保健指導等の取組の実施が求められる。

5-2.治療中断者に対する受診勧奨及び保健指導

生活習慣病重症化予防を目的として、治療中断者に対する医療機関への受診勧奨を行い勧奨後の受診を確認する。また、生活習慣改善のため医療機関等と連携した保健指導を行う。

生活習慣病は一度発症すると治癒することは少ないため病状の維持が重要となる。そのためには定期的な診療が必要であり、継続的な服薬が求められる。しかし、生活習慣病となった患者の中には服薬を適切に行わないケース、定期的な診療を自己の判断により止めてしまうケースがある。その結果、生活習慣病が進行し、脳卒中、心筋梗塞等の重篤な疾病を引き起こしてしまう可能性がある。生活習慣病の治療を中断している対象者を特定し、医療機関への受診を促すとともに、医療機関等と連携し生活習慣改善に向けての保健指導を行う。

(1)指導対象者の特定

指導対象者の特定

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

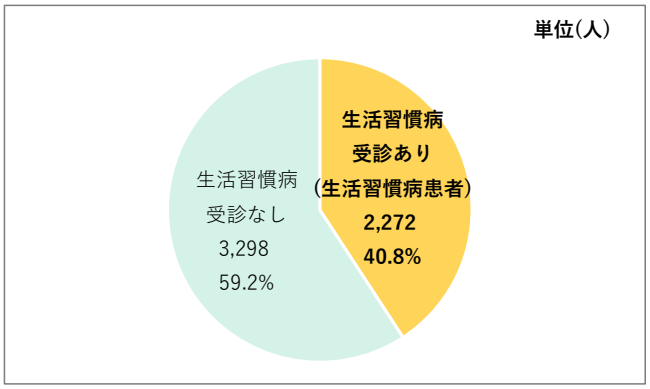
■生活習慣病による受診状況

はじめに、40歳以上における生活習慣病による受診状況を示す。

40歳以上における生活習慣病による受診状況

40歳以上の被保険者(5,570人)のうち、分析期間内に生活習慣病による医療機関の受診が確認できる対象者(生活習慣病患者)

⇒2,272人(40.8%)



■生活習慣病治療中断者

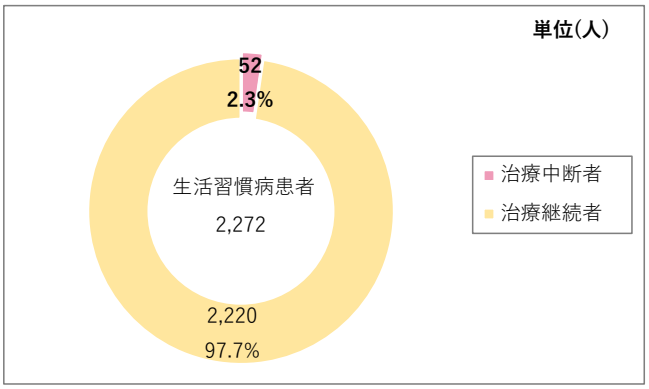
分析期間内において生活習慣病の治療を行っている患者を対象として、生活習慣病での医療機関受診頻度と現在の受診状況から、生活習慣病での医療機関受診中断の有無の判定を行う。

生活習慣病患者のうち、過去の受診状況から判定された受診間隔を超えて、生活習慣病による医療機関の受診が確認できない場合に治療中断と判定する。

生活習慣病患者(2,272人)のうち、
生活習慣病治療中断者

⇒52人(2.3%)

生活習慣病患者の治療状況



■指導対象者の特定(生活習慣病治療中断)

生活習慣病治療中断者のうち、「がん患者」「精神疾患患者」「難病患者」「認知症患者」「人工透析患者」については、治療を優先すべき疾病を有しており、医学的管理の下にある患者であると推察される。また、指導が困難な可能性も考えられる。以上の理由から、該当する患者が存在していた場合には指導対象者から除外する。

※がん、精神疾患、難病、認知症は確定病名のみ。

結果、生活習慣病治療中断者受診勧奨の指導対象者は40人となった。

生活習慣病治療中断者

52人

除外

除外者を除いた指導対象者
(生活習慣病治療中断)

40人

■指導対象者の階層化

指導対象者の生活習慣病有病数別人数を右に示す。生活習慣病が重複し、その数が多くなるほど動脈硬化を進行させる危険性が高まり、よりリスクが高く、指導の優先度が高いといえる。

生活習慣病有病数別人数

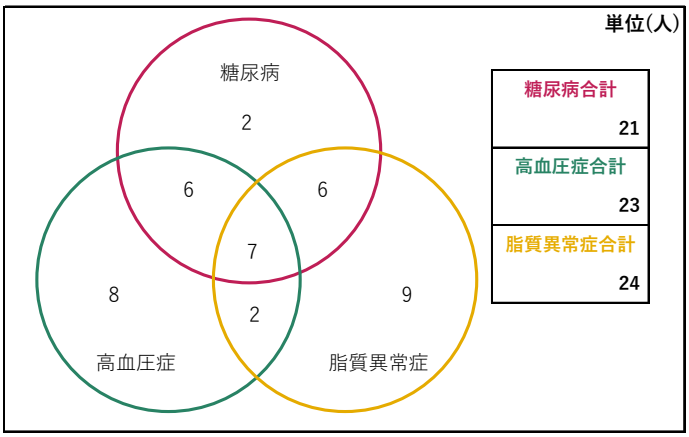
↑高 リスク 低↓

生活習慣病有病数	対象者数(人)	構成比(%)
3つ	7	17.5
2つ	14	35.0
1つ	19	47.5
全体	40	

また、生活習慣病疾病別の有病状況は以下のとおりである。

生活習慣病疾病別有病状況

生活習慣病有病数	生活習慣病			対象者数(人)
	糖尿病	高血圧症	脂質異常症	
3つ	●	●	●	7
2つ	●	●		6
	●		●	6
		●	●	2
1つ	●			2
		●		8
			●	9
指導対象者全体(生活習慣病治療中断)				40



(2)治療中断者に対する受診勧奨及び保健指導

未治療であったり、治療を中断したりすることが糖尿病の合併症の増加につながることが明確に示されているとして、厚生労働省は、健康日本21(第三次)における糖尿病の合併症の予防を目的とした指標の一つとして「治療継続者の割合の増加」を掲げている。また、高血圧や脂質異常症は虚血性心疾患、脳血管疾患等の危険因子であり、病状の進行・重症化を防ぐためには、糖尿病同様、適切な受診間隔での継続的な治療や健康的な生活習慣の維持が不可欠である。対象者本人のQOLの維持や医療費の適正化の観点からも、治療中断者に対して早期の治療再開を促し、生活習慣病の重症化や合併症の発症を予防する取組の実施が必要とされる。

取組の一例として、治療中断者への通知書の送付による受診勧奨がある。レセプトデータから治療中断者を特定し、自己判断による治療中断の危険性や継続的な治療の重要性等を記載した通知書の送付により、早期の医療機関受診を促す方法である。専門職による電話勧奨等も有効である。受診勧奨後にはレセプトデータを用いて受診の有無を確認する。

治療再開後は医療機関等との連携の下で、生活習慣の改善に向けて対象者の動機付けを強化するような指導が望まれる。また、治療継続に向けた支援や介入も必要である。聞き取り等によって治療中断につながった原因の把握に努め、その解消に向けて関係者間での連携を図るとともに、疾患及び治療内容に対する対象者の理解度を高めるためのサポート等が求められる。

5-3.糖尿病性腎症重症化予防事業

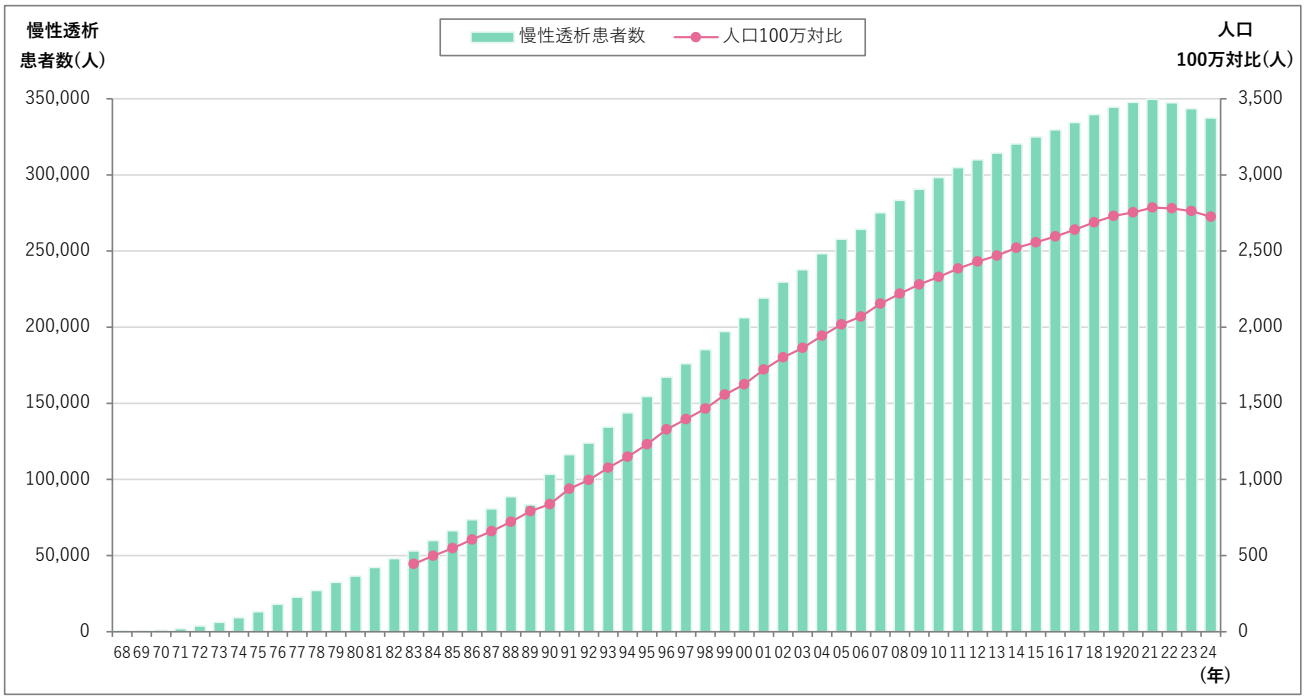
糖尿病性腎症の重症化を予防して腎不全、人工透析への移行を防止し、患者のQOLの維持向上及び健康寿命の延伸を図る。

糖尿病患者数の増加に伴い、人工透析の主な原因疾患である糖尿病性腎症の重症化予防が日本全国における課題となっており、健康日本21(第三次)において「糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数減少」が糖尿病対策に関する目標の一つとして設定されている。令和6年3月には、糖尿病性腎症重症化予防の取組の質の確保を目的として「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」が改訂された。糖尿病性腎症重症化予防の取組の、より効果的・効率的な事業展開が医療保険者に求められている。

■日本の透析患者の現状

日本透析医学会の統計資料によると、日本の透析患者数は2021年をピークとして以降は減少傾向を示し、2024年は前年から6,094人の減少となった。有病率(人口100万人当たりの透析患者数)についても同様で、2022年から減少傾向を示し、2024年は人口100万人当たり2,725.4人(前年比37.0人減)であった。

【参考】日本の慢性透析患者数と有病率(人口100万対比)の推移

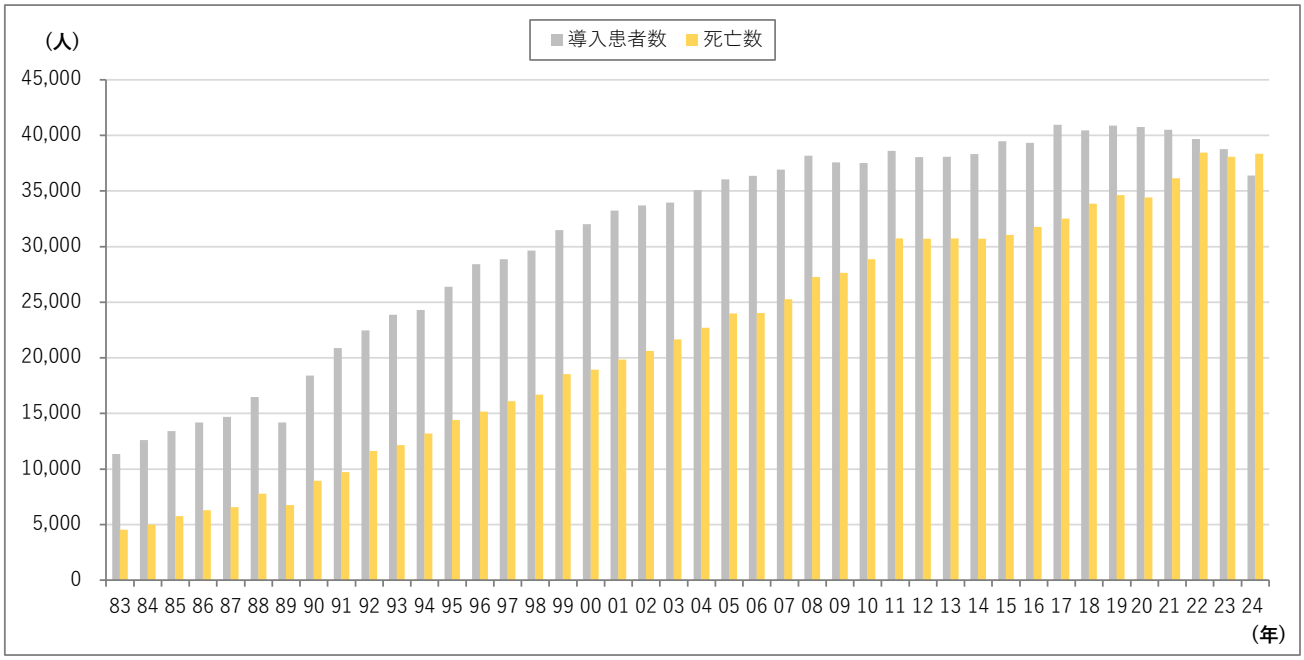


出典:日本透析医学会 統計調査委員会「わが国の慢性透析療法の現況(2024年12月31日現在)」施設調査による集計

※1989年末の患者数の減少は、当該年度にアンケート回収率が86%と例外的に低かったことによる見掛け上の影響。人口100万対比は回収率86%で補正

日本の透析導入患者数は、2008年までは毎年増加していたが、2009年から2019年においては増減を繰り返しており、2020年以降は減少傾向にある。2024年は36,404人で、前年より2,360人減(6.1%減)であった。

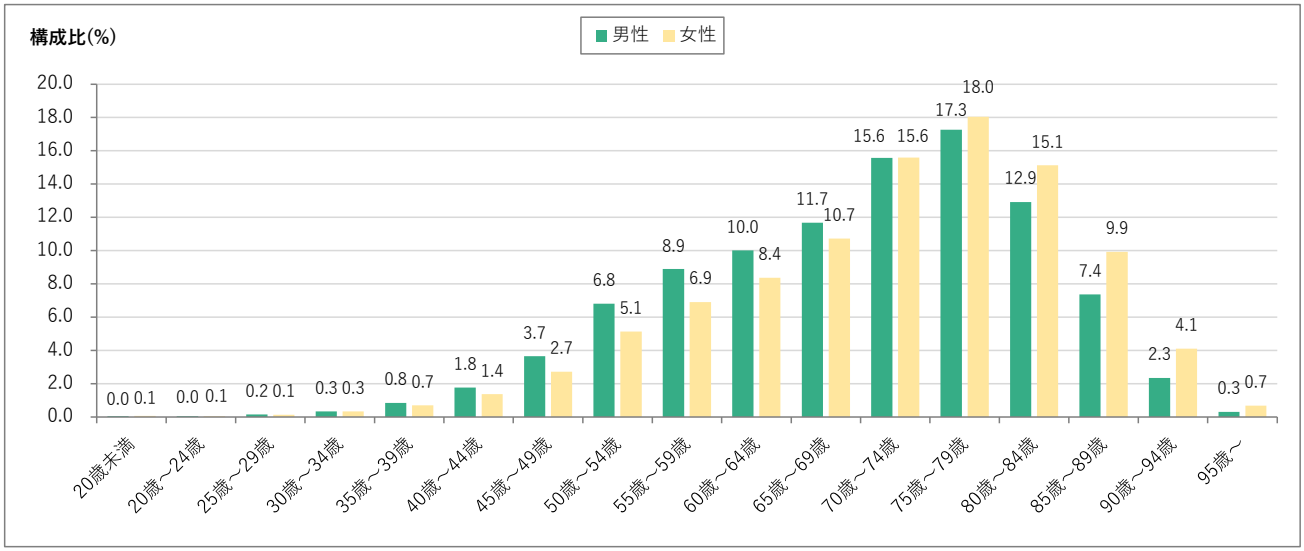
【参考】日本の透析導入患者数と死亡数の推移



出典:日本透析医学会 統計調査委員会「わが国の慢性透析療法の現況(2024年12月31日現在)」施設調査による集計
※1989年末の患者数の減少は、当該年度にアンケート回収率が86%と例外的に低かったことによる見掛け上の影響

男女年齢階層別にみると、構成比が最も高い年齢階層は男女ともに、75歳～79歳であった。

【参考】日本の慢性透析患者の男女年齢階層別構成比



出典:日本透析医学会 統計調査委員会「わが国の慢性透析療法の現況(2024年12月31日現在)」施設調査による集計
・構成比…透析患者合計に対して各年齢階層の患者が占める割合を男女別に示している。

(1)人工透析患者の実態

人工透析患者の実態

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・集計時点で資格喪失している被保険者についても集計する。

集計定義等

・透析患者…分析期間内に「血液透析」もしくは「腹膜透析」の診療行為がある患者を対象に集計
緊急透析と思われる患者は除く。

■透析患者数

「透析」は傷病名ではないため、分析対象期間において、「透析」に当たる診療行為が行われている患者を特定し透析患者として集計する。

分析期間内の透析患者数　⇒11人

透析療法種類別患者数

透析療法の種類	患者数(人)
血液透析のみ	11
腹膜透析のみ	0
血液透析及び腹膜透析	0
透析患者合計	11

男女年齢階層別 透析患者数

年齢階層	透析患者数(人)		
	男女合計	男性	女性
0歳～19歳	0	0	0
20歳～24歳	0	0	0
25歳～29歳	0	0	0
30歳～34歳	0	0	0
35歳～39歳	0	0	0
40歳～44歳	1	0	1
45歳～49歳	0	0	0
50歳～54歳	1	1	0
55歳～59歳	1	1	0
60歳～64歳	0	0	0
65歳～69歳	3	2	1
70歳～	5	3	2
合計	11	7	4

■透析患者の疾患分析

透析患者11人のうち

・糖尿病性腎症患者

⇒3人(透析患者の27.3%)

・糖尿病患者

⇒9人(透析患者の81.8%)

透析患者の疾患分析

		患者数(人)	割合(%)
関連疾患	慢性腎臓病	11	100.0
	糖尿病性腎症	3	27.3
	糸球体腎炎	0	0.0
	腎硬化症	0	0.0
(参考)基礎疾患	糖尿病	9	81.8
	高血圧性疾患	11	100.0
透析患者全体		11	

複数の疾患をもつ患者がいるため、疾患別の患者数の和と透析患者全体は一致しない。

■透析患者の医療費

・透析患者一人当たりの透析医療費　⇒526万円

・透析患者一人当たりひと月当たりの透析医療費　⇒44万円

透析患者の医療費

A	B	B/A	B/A/12
透析患者数(人)	透析医療費(円)	透析患者一人当たりの透析医療費(円)	透析患者一人当たりひと月当たりの透析医療費(円)
11	57,913,370	5,264,852	438,738

透析医療費…透析の診療行為の記載があるレセプト及び関連する調剤レセプトの医療費を全て集計しているため、透析に紐づく医療費に限定されない。

新規透析患者数

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和6年4月～令和8年3月診療分(24カ月分)

資格条件等

・集計時点で資格喪失している被保険者についても集計する。

集計定義等

・透析患者…分析期間内に「血液透析」もしくは「腹膜透析」の診療行為がある患者を対象に集計
緊急透析と思われる患者は除く。

・新規透析患者…2つの期間のレセプトデータを比較し、後半の期間にのみ透析の診療行為が確認できる患者を集計
緊急透析と思われる患者は除く。

■新規透析患者数

令和6年4月～令和7年3月診療分のレセプトにおける人工透析患者と、令和7年4月～令和8年3月診療分の透析患者を比較し、後者の期間のみで確認できる人工透析患者を新規透析患者数として集計した。

新規透析患者数

⇒2人

新規透析患者数

		透析患者数(人)	新規透析患者数(人)
A	令和6年4月～令和7年3月診療分(12カ月分)	11	
B	令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)	11	2

新規透析患者…Bの期間の透析患者のうち、Aの期間に透析の診療行為が確認できない者を集計

(2)指導対象者の特定

健康診査データ及びレセプトデータから、糖尿病性腎症重症化予防事業の指導対象者を特定する。

指導対象者の特定

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)
・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点

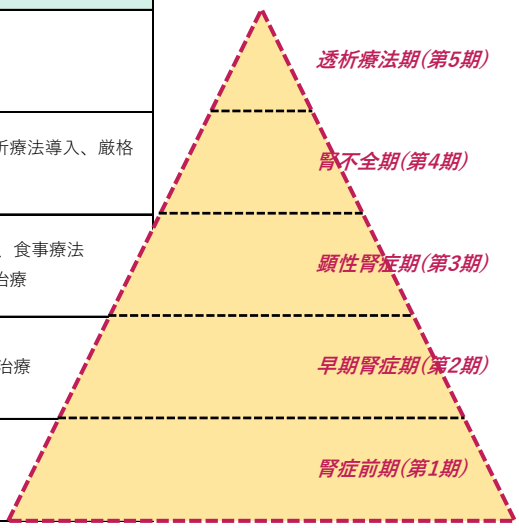
■指導対象者集団

厚生労働省「糖尿病性腎症重症化予防プログラム(令和6年度版)」を参照し、糖尿病であり腎障害が発生している者(糖尿病及び腎症患者)を糖尿病性腎症重症化予防事業における指導対象者集団とする。

糖尿病性腎症重症化予防事業の指導対象者集団　⇒585人

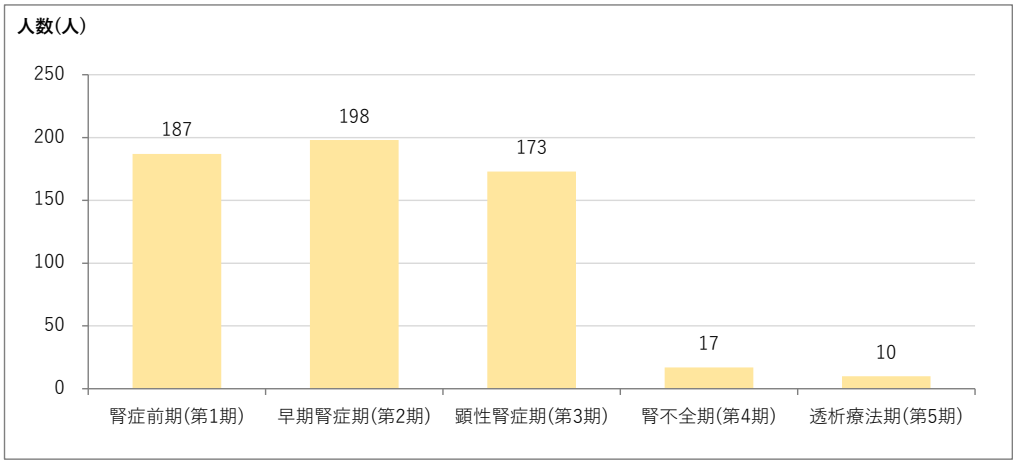
糖尿病及び腎症患者の全体像

病期		臨床的特徴	治療内容
第5期	透析療法期	透析療法中	透析療法、腎移植
第4期	腎不全期	蛋白尿。血清Crが上昇し、腎機能は著明低下する。尿毒症等の自覚症状あり	食事療法(低蛋白食)、透析療法導入、厳格な降圧治療
第3期	顕性腎症期	蛋白尿。腎機能は高度に低下。尿毒症等の自覚症状あり	厳格な血糖コントロール、食事療法(低蛋白食)、厳格な降圧治療
第2期	早期腎症期	微量アルブミン尿、血清Crが正常、時に高値 ※尿蛋白、血清Cr共に正常だが糖尿病と診断されて10年以上の場合を含む。	血糖コントロール、降圧治療
第1期	腎症前期	尿蛋白は正常。血清Crが正常、時に高値	血糖コントロール



糖尿病及び腎症患者	合計　585人

腎症病期別人数



■適切な指導対象者への絞り込み

糖尿病性腎症重症化予防事業の指導対象者として特定した585人には、がん患者・難病患者、生活習慣を起因としていない糖尿病患者、腎臓移植した可能性がある患者や既に透析移行した患者など、指導対象者として適切でない可能性がある者も含まれている。また、効果的かつ効率的に事業を進めるためには、指導の実施効果が高い患者への絞り込みを行うことも重要である。

上記の理由から、より詳細に個人毎の状態の見極めを行い、指導対象者集団の中から、糖尿病性腎症重症化予防事業における適切な指導対象者を特定する。

STEP1：除外

指導対象者として適切でない患者を除外

- **がん、難病、精神疾患、認知症、シャント、透析予防指導管理料等を確認できる患者**
- **生活習慣を起因としていない糖尿病患者**
- **透析患者、腎臓移植した可能性がある患者**
- **糖尿病起因以外の腎臓病患者**
- **指導期間中に後期高齢者医療広域連合へ異動する可能性がある74歳以上の患者**

等

STEP2：対象者の絞り込み

生活習慣を指導することで重症化の遅延が期待でき、比較的行動変容が現れやすい病期の患者に絞り込む

対象とする病期

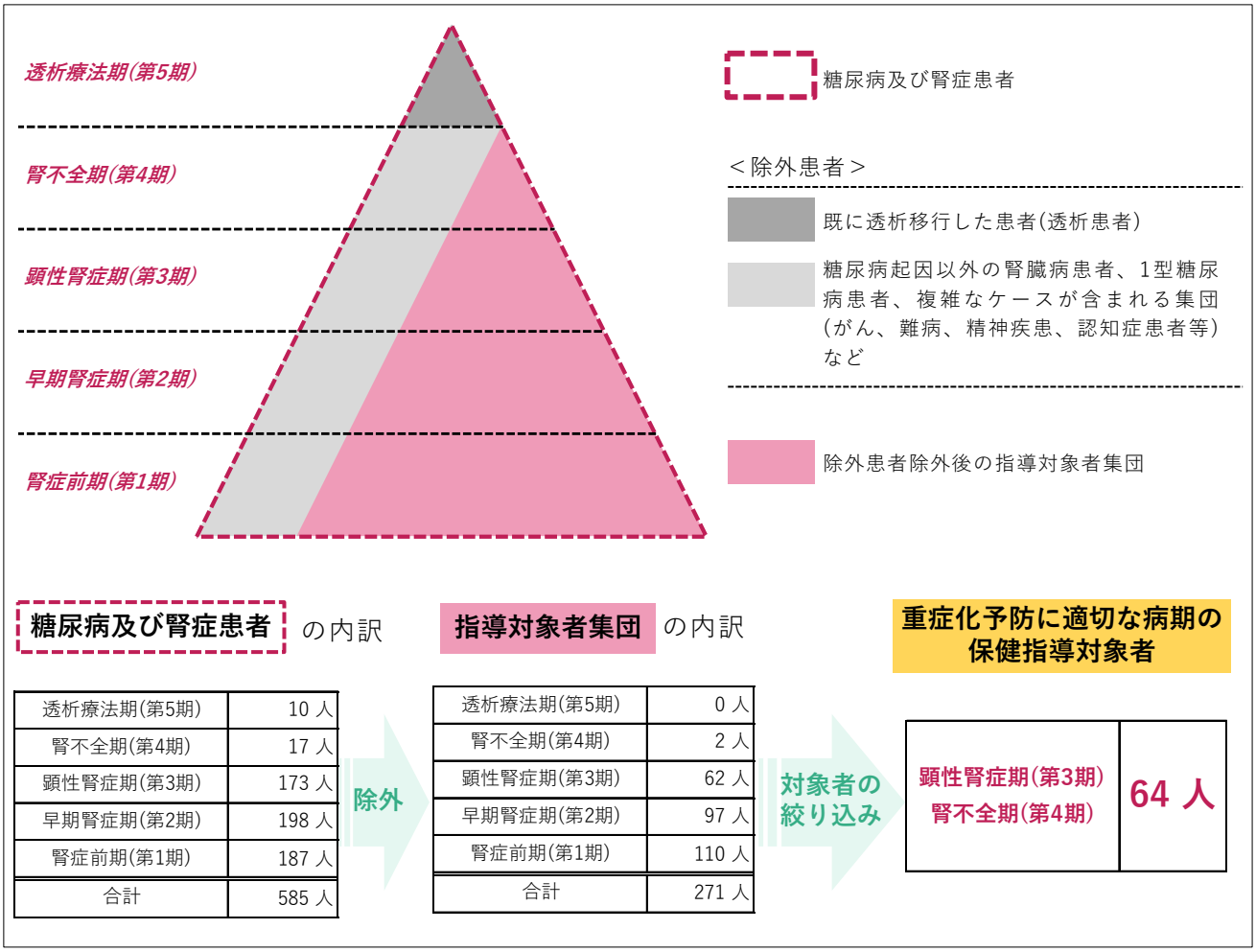
顕性腎症期(第3期)
腎不全期(第4期)

指導対象者として適切でない患者の除外及び対象者の絞り込みの結果、糖尿病性腎症重症化予防事業における適切な指導対象者

64人

保健指導対象者特定の全体像を以下に示す。

保健指導対象者特定の全体像



糖尿病及び腎症患者 の内訳

透析療法期(第5期)	10 人
腎不全期(第4期)	17 人
顕性腎症期(第3期)	173 人
早期腎症期(第2期)	198 人
腎症前期(第1期)	187 人
合計	585 人

除外

指導対象者集団 の内訳

透析療法期(第5期)	0 人
腎不全期(第4期)	2 人
顕性腎症期(第3期)	62 人
早期腎症期(第2期)	97 人
腎症前期(第1期)	110 人
合計	271 人

対象者の絞り込み

重症化予防に適切な病期の保健指導対象者

顕性腎症期(第3期) 腎不全期(第4期)	64 人

(3)糖尿病性腎症重症化予防事業に向けて

日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況」(2024年12月31日現在)によると、糖尿病性腎症は2011年から継続して慢性透析患者の原因疾患の第1位であり、約4割を占めている。厚生労働省は、健康日本21(第二次)に引き続き、令和6年からの健康日本21(第三次)において「糖尿病合併症(糖尿病腎症による年間新規透析導入患者数)の減少」を目標に掲げている。糖尿病性腎症の悪化を防ぐためには適切な治療による血糖や血圧、脂質のコントロールに加え、生活習慣の改善が不可欠となる。保険者には、生活習慣の改善を目的とした行動変容を促す支援及び介入が求められる。以下に示すのは糖尿病性腎症重症化予防事業の取組方法の一例である。

厚生労働省「糖尿病性腎症重症化予防プログラム(令和6年度版)」を参照し、糖尿病性腎症重症化予防の取組の対象として適切な候補者を抽出する。抽出に際し、健康診査データと合わせてレセプトデータの情報も参照することで、介入や支援を必要としている健診未受診者も対象とすることが可能となる。抽出した候補者の中から、指導の優先度が高く、効果が期待できる属性の対象者への絞り込みを行い、かかりつけ医と連携の下、看護師、保健師等が生活習慣の改善や療養についての保健指導を行う。保健指導の内容は、その対象者の状態像、生活歴等に応じて変えていく必要があり、行動変容につながる目標を設定し、必要な情報提供や支援を行う。関係者間でのデータ連携の方法としては、かかりつけ医と連携したスマートウォッチ計測データ等のPHR(パーソナルヘルスレコード)データ活用に向けての検討も求められる。指導完了後には、検査値の変化、行動変容の状況、生活習慣の改善状況等の評価を行う。

生活習慣を起因とする糖尿病性腎症患者に適切な支援・介入を行い、腎不全、人工透析への移行を防止し、患者のQOLの維持向上及び健康寿命の延伸を図る。

5-4.高血圧重症化予防事業

高血圧は、喫煙と並んで、日本人の生活習慣病による死亡に最も大きく影響する要因である。高血圧の重症化を防いで脳心血管病、腎疾患等の発症・進展・再発を予防する。

高血圧は自覚症状がないことが多く軽視される傾向にあるが、脳血管障害(脳卒中)の最大の危険因子であり、虚血性心疾患の3大危険因子(喫煙、LDLコレステロール高値、高血圧)のうちの1つである。高血圧による脳心血管病及び腎疾患等の発症・進展・再発を防ぐことが本事業の目的である。

(1)健康診査データ及びレセプトデータによる高血圧症に係る分析

高血圧症及び関連疾病の医療費等分析

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

・高血圧症…ICD10により、次の疾病を対象に集計
I10「本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)」、I15「二次性<続発性>高血圧(症)」

・関連疾病…中分類または、ICD10により、以下の疾病を対象に集計
脳血管障害…0904「くも膜下出血」、0905「脳内出血」、0906「脳梗塞」、0907「脳動脈硬化(症)」、0908「その他の脳血管疾患」
心疾患…0902「虚血性心疾患」、0903「その他の心疾患」、I11「高血圧性心疾患」、I13「高血圧性心腎疾患」
腎疾患…1401「糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患」、1402「腎不全」、I12「高血圧性腎疾患」
血管疾患…0909「動脈硬化(症)」、0912「その他の循環器系の疾患」(一部)

参考資料等

・日本高血圧学会高血圧管理・治療ガイドライン委員会「高血圧管理・治療ガイドライン2025」(ライフサイエンス出版)

■高血圧症及び関連疾病の医療費等の状況

中分類による疾病別医療費統計における「高血圧性疾患」の状況

⇒医療費 第7位

⇒患者数 第17位

患者数が多く身近な疾病ではあるが、その患者数の多さにより、全体の医療費が高額となっている。また、「高血圧性疾患」には、高血圧症を原疾患とする高血圧性心疾患、高血圧性腎疾患等の重症化疾患も含まれている。重症化すると、患者一人当たりの医療費も高額化する。

・高血圧症の患者一人当たりの医療費

⇒35,768円

・高血圧症関連疾病の患者一人当たりの医療費

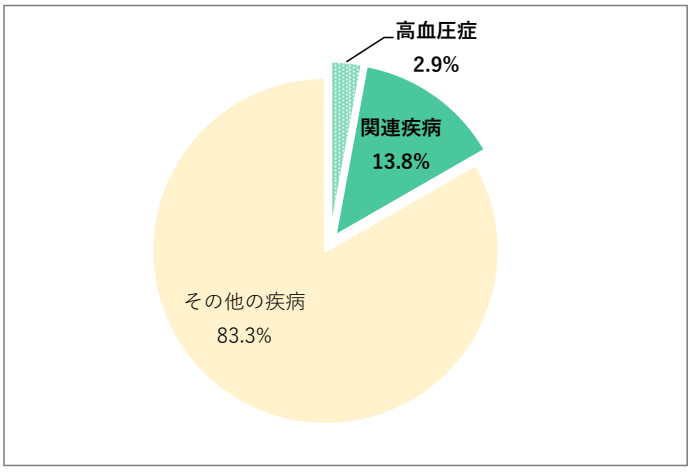
⇒156,582円

高血圧症及び関連疾病の医療費等の状況

疾病項目			医療費(円)	構成比(%)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
高血圧症及び関連疾病			352,379,412	16.7	2,625	134,240
	高血圧症		61,450,019	2.9	1,718	35,768
	関連疾病		290,929,393	13.8	1,858	156,582
		脳血管障害	58,038,191	2.8	505	114,927
		心疾患	147,151,853	7.0	1,190	123,657
		腎疾患	59,557,253	2.8	499	119,353
		血管疾患	26,182,096	1.2	369	70,954
その他の疾病			1,757,254,998	83.3	9,141	192,239
全体			2,109,634,410		9,178	229,858

患者数…複数の疾病をもつ患者がいるため、小計及び全体の人数は疾病別の患者数の和と必ずしも一致しない。

医療費全体に占める高血圧症及び関連疾病の医療費割合



医療費全体に対する

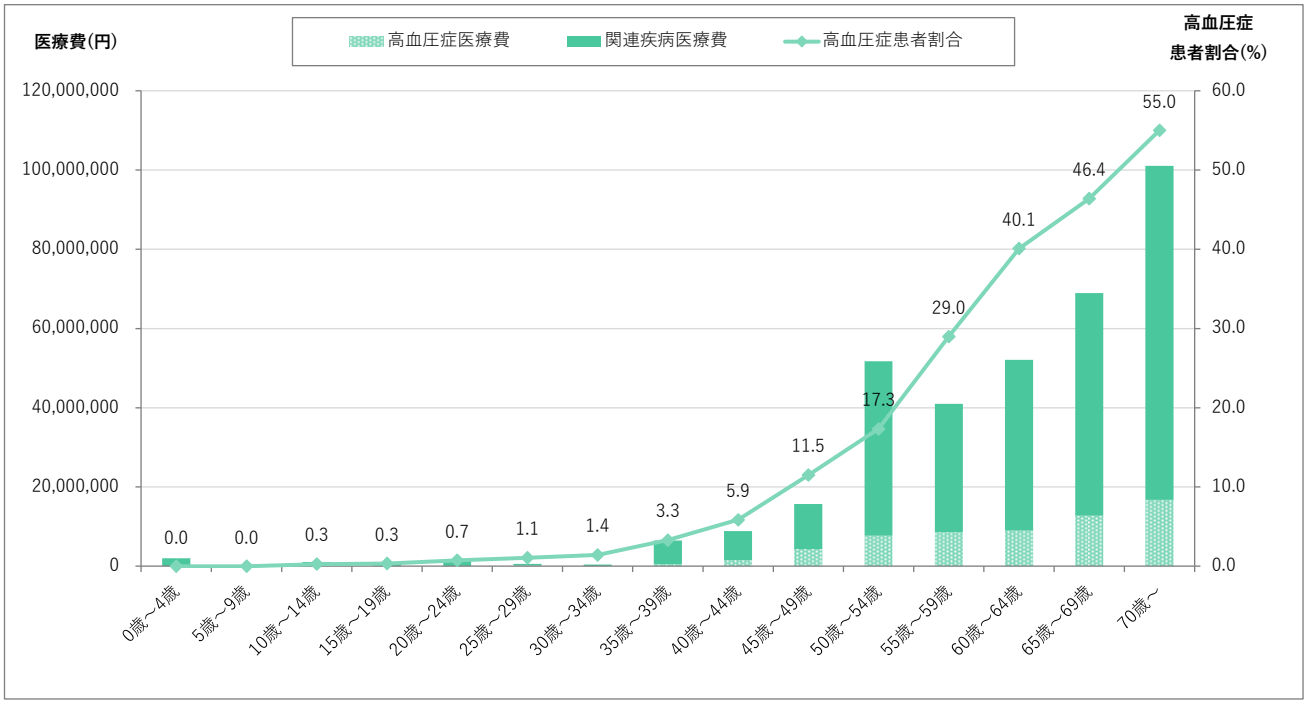
・高血圧症の医療費の割合　⇒2.9%

・高血圧症関連疾病の医療費の割合

⇒13.8%

年齢階層別の高血圧症及び関連疾病の医療費、高血圧症の患者割合を以下に示す。高年齢層において関連疾病の医療費が増大する傾向にある。高血圧症の患者割合は加齢に伴って高くなることから、関連疾病の発症や進展に至る前の早めの対策が肝要である。

年齢階層別 高血圧症の医療費及び患者割合



高血圧症患者割合…被保険者数に占める高血圧症患者数の割合

健康診査データによる高血圧該当状況分析

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)
・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

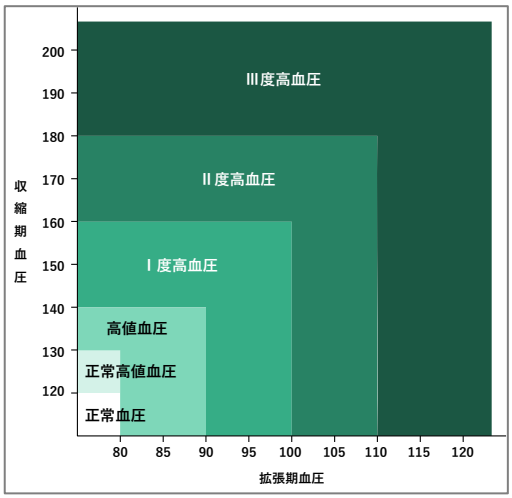
資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・高血圧症…ICD10により、次の疾病を対象に集計
I10「本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)」、I15「二次性<続発性>高血圧(症)」
・関連疾病…中分類または、ICD10により、以下の疾病を対象に集計
脳血管障害…0904「くも膜下出血」、0905「脳内出血」、0906「脳梗塞」、0907「脳動脈硬化(症)」、0908「その他の脳血管疾患」
心疾患…0902「虚血性心疾患」、0903「その他の心疾患」、I11「高血圧性心疾患」、I13「高血圧性心腎疾患」
腎疾患…1401「糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患」、1402「腎不全」、I12「高血圧性腎疾患」
血管疾患…0909「動脈硬化(症)」、0912「その他の循環器系の疾患」(一部)

血圧値の分類



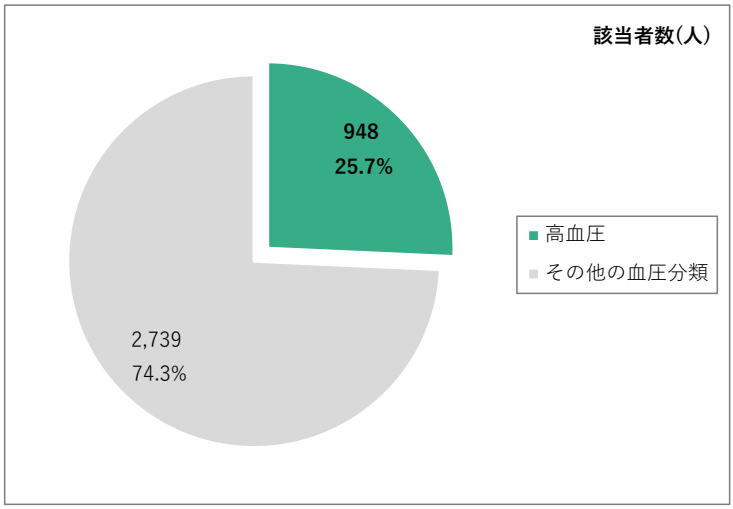
参考資料等

・日本高血圧学会高血圧管理・治療ガイドライン委員会「高血圧管理・治療ガイドライン2025」(ライフサイエンス出版)

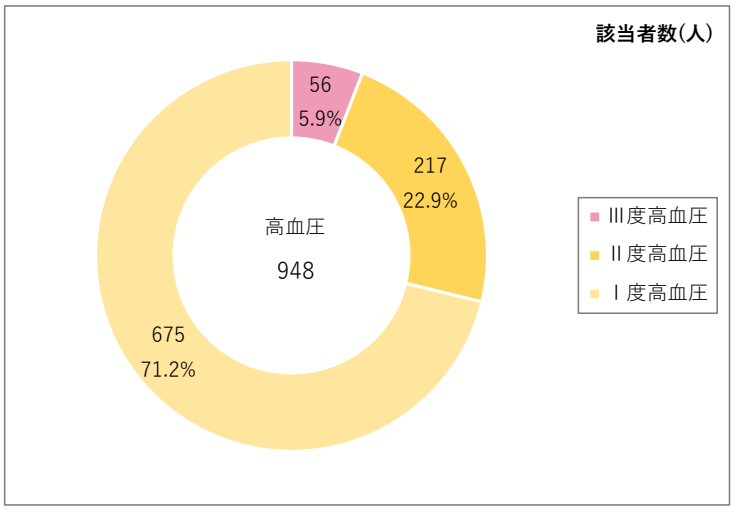
■健康診査データによる高血圧該当状況

特定健診受診者のうち高血圧該当者　⇒948人(25.7%)

特定健診受診者に占める高血圧該当者の割合



高血圧該当者における血圧値の分類別の割合



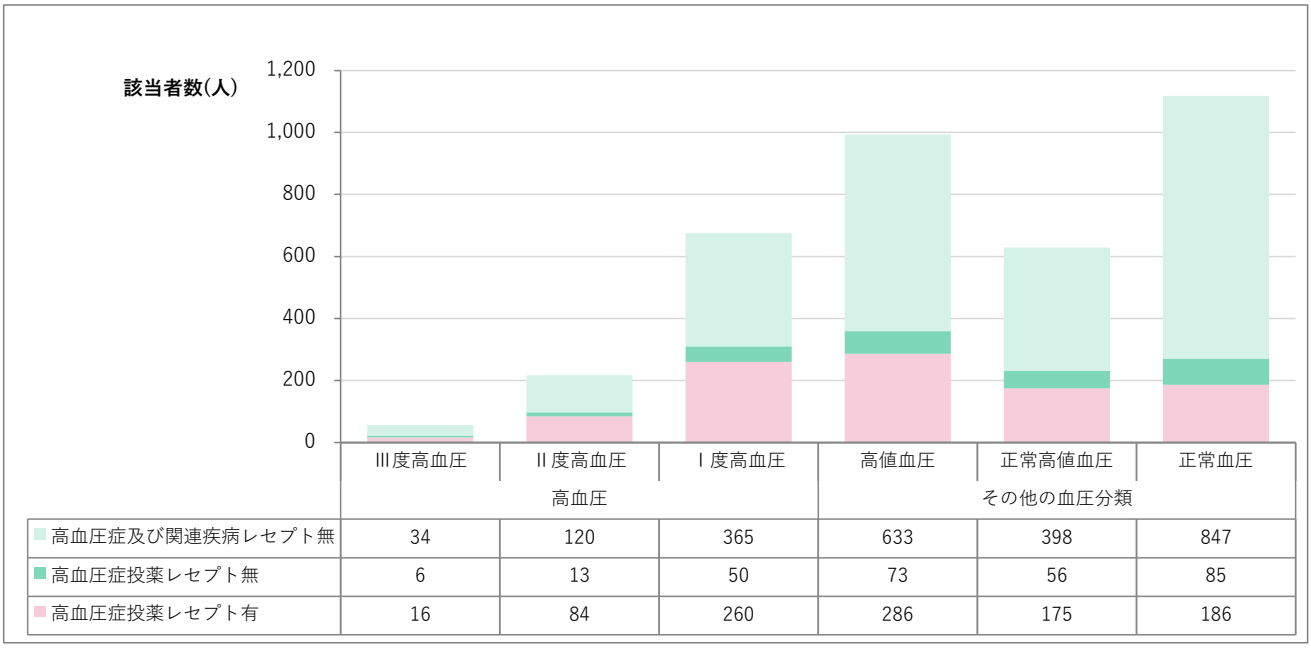
■健康診査データ及びレセプトデータによる高血圧該当状況分析

健康診査データとレセプトデータを組み合わせてみると、高血圧に該当するにもかかわらず高血圧症(関連疾病を含む)で医療機関を受診していない者、高血圧症の薬物治療を受けているがコントロール不良にある者、高血圧症の薬物治療を受けており血圧コントロールが比較的良好である者など、様々な状況にあることがわかる。

健康診査データ及びレセプトデータによる高血圧該当状況

血圧値の分類		該当者数(人)	高血圧症 投薬レセプト有	高血圧症 投薬レセプト無	高血圧症及び関連疾病 レセプト無
高血圧		948	360	69	519
	Ⅲ度高血圧	56	16	6	34
	Ⅱ度高血圧	217	84	13	120
	Ⅰ度高血圧	675	260	50	365
その他の血圧分類		2,739	647	214	1,878
	高値血圧	992	286	73	633
	正常高値血圧	629	175	56	398
	正常血圧	1,118	186	85	847

健康診査データ及びレセプトデータによる高血圧該当状況



	Ⅲ度高血圧	Ⅱ度高血圧	Ⅰ度高血圧	高値血圧	正常高値血圧	正常血圧
高血圧症及び関連疾病レセプト無	34	120	365	633	398	847
高血圧症投薬レセプト無	6	13	50	73	56	85
高血圧症投薬レセプト有	16	84	260	286	175	186

表・グラフの見方

	高血圧該当者	その他の血圧分類該当者
高血圧症及び関連疾病レセプト無	高血圧に該当するにもかかわらず、高血圧症、関連疾病のいずれでも医療機関を受診していない。	血圧値は高血圧の基準値未満であり、高血圧症、関連疾病のいずれでも医療機関を受診していない。
高血圧症投薬レセプト無	高血圧症または関連疾病で医療機関を受診しているが、高血圧症の薬物治療は行っておらず、血圧値はコントロール不良の状態にある。	高血圧症または関連疾病で医療機関を受診しているが、高血圧症の薬物治療は行っておらず、血圧値は高血圧の基準値未満である。
高血圧症投薬レセプト有	高血圧症の薬物治療を受けているが、血圧値はコントロール不良の状態にある。	高血圧症の薬物治療を受けており、血圧コントロールが比較的良好である。

(2)指導対象者の特定

40歳以上の被保険者について、健康診査データ及びレセプトデータからグループに分類し、指導対象者を特定する。

指導対象者の特定

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)
・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

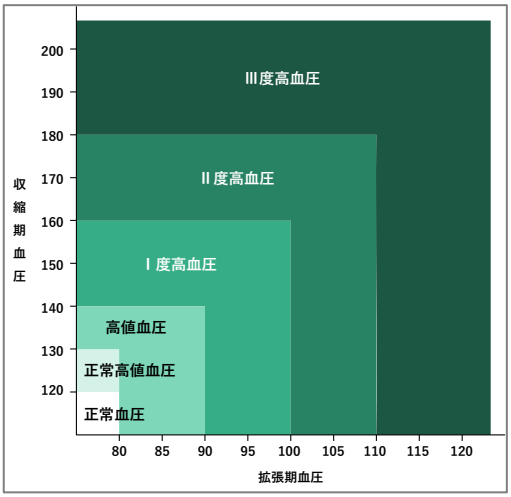
資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・高血圧症…ICD10により、次の疾病を対象に集計
I10「本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)」、I15「二次性<続発性>高血圧(症)」
・関連疾病…中分類または、ICD10により、以下の疾病を対象に集計
脳血管障害…0904「くも膜下出血」、0905「脳内出血」、0906「脳梗塞」、0907「脳動脈硬化(症)」、0908「その他の脳血管疾患」
心疾患…0902「虚血性心疾患」、0903「その他の心疾患」、I11「高血圧性心疾患」、I13「高血圧性心腎疾患」
腎疾患…1401「糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患」、1402「腎不全」、I12「高血圧性腎疾患」
血管疾患…0909「動脈硬化(症)」、0912「その他の循環器系の疾患」(一部)

血圧値の分類



参考資料等

・日本高血圧学会高血圧管理・治療ガイドライン委員会「高血圧管理・治療ガイドライン2025」(ライフサイエンス出版)

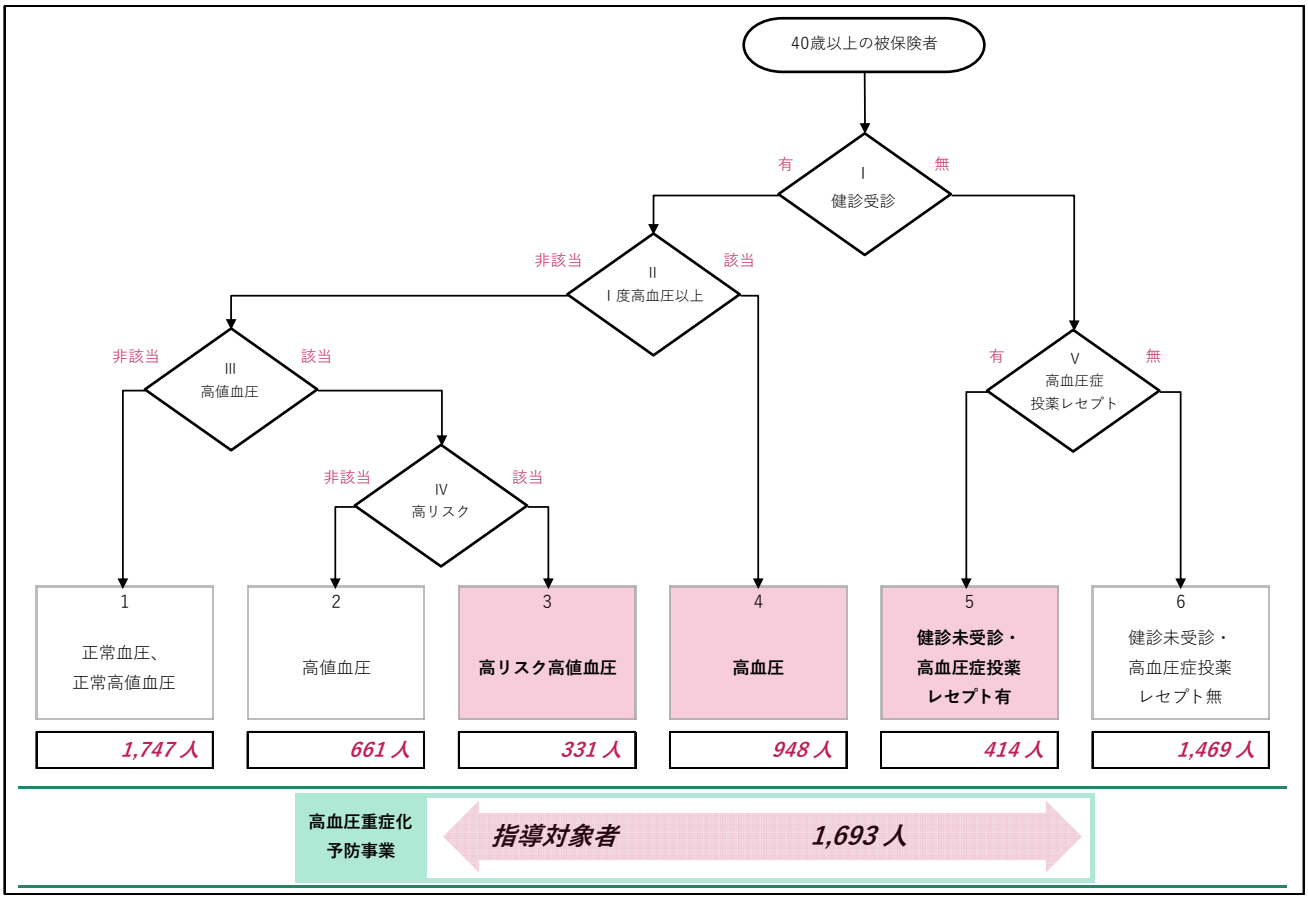
■指導対象者の特定

特定健診受診者については、「高血圧管理・治療ガイドライン2025」において、計画的な生活習慣の改善を図ることに加え、薬物療法も視野に入れての血圧管理が必要とされている「3 高リスク高値血圧」及び「4 高血圧」に該当する者を指導対象者とする。

特定健診未受診者については血圧検査値によるリスク判定ができないことから、高血圧症に係る投薬レセプトを有する「5 健診未受診・高血圧症投薬レセプト有」を指導対象者とする。

結果、1,693人の指導対象者が条件設定によって選定された。

健康診査データ及びレセプトデータによる指導対象者群分析



【フロー説明】

I　健診受診…健診受診の有無を判定

II　Ⅰ度高血圧以上…収縮期血圧、拡張期血圧のいずれかが、日本高血圧学会「高血圧管理・治療ガイドライン2025」に定められた血圧値の分類のⅠ度高血圧以上か判定

III　高値血圧…収縮期血圧、拡張期血圧のいずれかが、日本高血圧学会「高血圧管理・治療ガイドライン2025」に定められた血圧値の分類の高値血圧か判定

IV　高リスク…日本高血圧学会「高血圧管理・治療ガイドライン2025」の脳心血管病リスク層別化及び高血圧管理計画に基づき高リスクか判定

V　高血圧症投薬レセプト…高血圧症で投薬治療を受けている医科レセプトの有無を判定

条件設定により選定された1,693人のうち、高血圧となった原因が特定されている「二次性高血圧患者」に関しては、その原因となった疾患の治療を通して血圧管理が行われると考えられる。また、「がん患者」「精神疾患患者」「難病患者」「認知症患者」「人工透析患者」に関しては、治療を優先すべき疾病を有しており、医学的管理の下にあることが推察される。また、指導が困難な可能性も考えられる。以上の理由から、該当する患者について指導対象者から除外する。

※二次性高血圧、がん、精神疾患、難病、認知症は確定病名のみ。

結果、高血圧重症化予防事業における適切な指導対象者は1,321人となった。

条件設定による指導対象者

1,693人

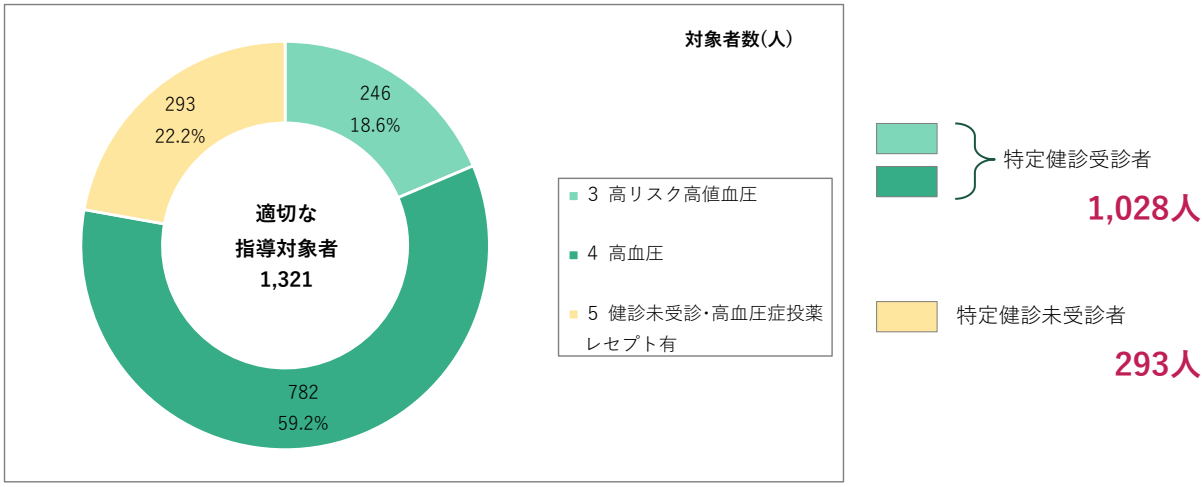
除外

除外者を除いた指導対象者（高血圧重症化予防事業）

1,321人

適切な指導対象者1,321人の内訳を以下に示す。

適切な指導対象者の内訳



■指導対象者の階層化

指導対象者の階層化を行う。特定健診受診者は血圧検査値から、特定健診未受診者は処方された降圧薬種類数から、リスク度別に分類する。また、指導のアプローチ方法の違い等を考慮し、脳心血管病、腎疾患等の関連疾病を既に発症している者を三次予防対象者、残る指導対象者を二次予防対象者として分類する。これらを踏まえて階層化した結果を以下に示す。

全て高血圧重症化予防事業対象者ではあるが、事業方針や規模に応じて指導対象とするグループの範囲を選択し、対象者を選択する。

特定健診受診者から選定した指導対象者(「3 高リスク高値血圧」「4 高血圧」)の階層化

特定健診受診者から選定した指導対象者		血圧値の分類	二次予防		三次予防	
1,028人	↑高 リスク 低↓	Ⅲ度高血圧	指導対象者2-A	39人	指導対象者3-A	9人
		Ⅱ度高血圧	指導対象者2-B	159人	指導対象者3-B	28人
		Ⅰ度高血圧	指導対象者2-C	458人	指導対象者3-C	89人
		高値血圧	指導対象者2-D	125人	指導対象者3-D	121人
		指導対象者A～Dの人数		781人		247人

特定健診未受診者から選定した指導対象者(「5 健診未受診・高血圧症投薬レセプト有」)の階層化

特定健診未受診者から選定した指導対象者		降圧薬種類数	二次予防		三次予防	
293人	↑高 リスク 低↓	4種類以上	指導対象者2-A	3人	指導対象者3-A	7人
		3種類	指導対象者2-B	21人	指導対象者3-B	27人
		2種類	指導対象者2-C	81人	指導対象者3-C	57人
		1種類	指導対象者2-D	54人	指導対象者3-D	43人
		なし	指導対象者2-E	0人	指導対象者3-E	0人
		指導対象者A～Eの人数		159人		134人

降圧薬種類数…服薬している降圧薬の薬剤種類数により高血圧の重症度を判定

二次予防対象者、三次予防対象者の分類について

対象者区分	関連疾病のレセプト有無	指導の目的と方向性
二次予防	無	高血圧の改善指導を通して、高血圧を起因とした脳心血管病、腎疾患等の関連疾病の発症を予防する。対象者自身が高血圧のリスクを認識することが重要となる。
三次予防	有	関連疾病のレセプトが発生している対象者に対して、高血圧の改善指導を通して、高血圧を起因とした関連疾病の再発、重症化を予防する。関連疾病の一つである脳梗塞や虚血性心疾患等は特に再発率が高い疾病であるため、適切な治療の継続と生活習慣の改善による慎重な血圧管理が必要となる。

(3)高血圧重症化予防事業に向けて

高血圧は脳心血管病の確立した危険因子であり、喫煙と並んで、日本人の生活習慣病による死亡に最も大きく影響する要因である。厚生労働省は健康日本21(第三次)において、「国民健康づくり運動においては、高血圧の改善や脂質異常症の減少等に向けた取組を行うことで予防可能な循環器病の発症を予防し、結果として心疾患全体としての死亡率も減少させることを目指す」としている。また、高血圧は慢性腎臓病(CKD)の発症にも大きく関与しており、新規透析導入の原因疾患において増加傾向にある腎硬化症の主要な危険因子でもある。脳心血管病の発症予防、腎不全の進行抑制による透析導入の回避もしくは遅延に向けて、医療保険者において効果的かつ効率的な高血圧重症化予防の取組の実施が求められている。

高血圧の改善、重症化予防には、医療機関での薬物療法や指導に加え、減塩を中心とした食習慣の改善、適度な運動習慣、アルコール摂取量を適量に抑えるなどの生活習慣の改善が求められる。このため、対象者本人の積極的な行動変容が不可欠である。医療保険者には、生活習慣の改善のための行動変容を促す介入及び支援が求められる。以下に示すのは高血圧重症化予防事業の取組方法の一例である。

健康診査データ及びレセプトデータを用いて、高血圧重症化予防事業における適切な指導対象者を抽出・選定する。医療機関等と連携の下、看護師や保健師等が計画的に介入し、対象者の健康意識向上を図り行動変容を促すための指導や支援を行う。指導完了後には、検査値の変化、行動変容の状況、生活習慣の改善状況等の評価を行う。

適切な介入や支援によって高血圧の発症や悪化の抑止、合併症の発症を予防し、患者のQOLの維持及び健康寿命の延伸を図る。

5-5.脳卒中・虚血性心疾患の予防事業

脳梗塞をはじめとした循環器病(脳卒中・虚血性心疾患)について、発症及び再発を防ぐための事業を行う。

厚生労働省「令和6年人口動態統計」において、心疾患は死因順位第2位、脳血管疾患は死因順位第4位であり、全国における主要な死亡原因となっている。また、脳卒中は後遺症が残るおそれがあり、厚生労働省「2022年国民生活基礎調査」において要介護になった主な原因の第2位となっている。

循環器病(脳卒中・虚血性心疾患)の多くは運動不足、不適切な食生活、喫煙等の生活習慣や肥満等の健康状態が危険因子となり発症する。また、再発率が高く、治療完了後も生活習慣の改善が必要となる。

ここでは、脳卒中・虚血性心疾患の予防へ向けて、脳卒中・虚血性心疾患の医療費等の現状を把握するとともに、特に対策が必要と考えられる脳梗塞について発症予防・再発予防対象者群の分析を行う。

(1)脳卒中・虚血性心疾患の医療費の状況

脳卒中・虚血性心疾患の医療費の状況

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

・脳卒中・虚血性心疾患…分析期間内に「脳卒中」(脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血)もしくは「虚血性心疾患」(狭心症・心筋梗塞)に関する診療行為がある患者を対象に集計

■脳卒中・虚血性心疾患の医療費及び患者数

脳卒中・虚血性心疾患の医療費、患者数を集計する。後遺症が残るおそれのある脳卒中のうち患者数が多い脳梗塞は、特に対策が必要な疾病であると考えられる。

脳梗塞 医療費

⇒2,110万円

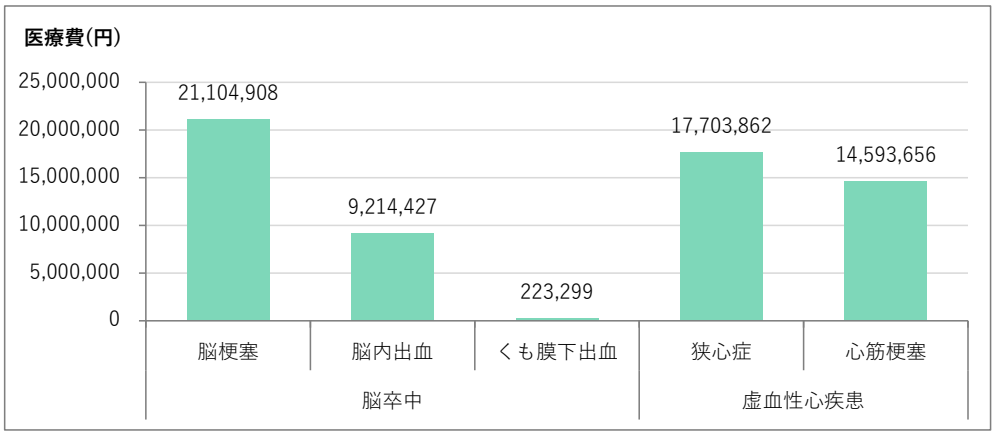
脳梗塞 患者数

⇒237人

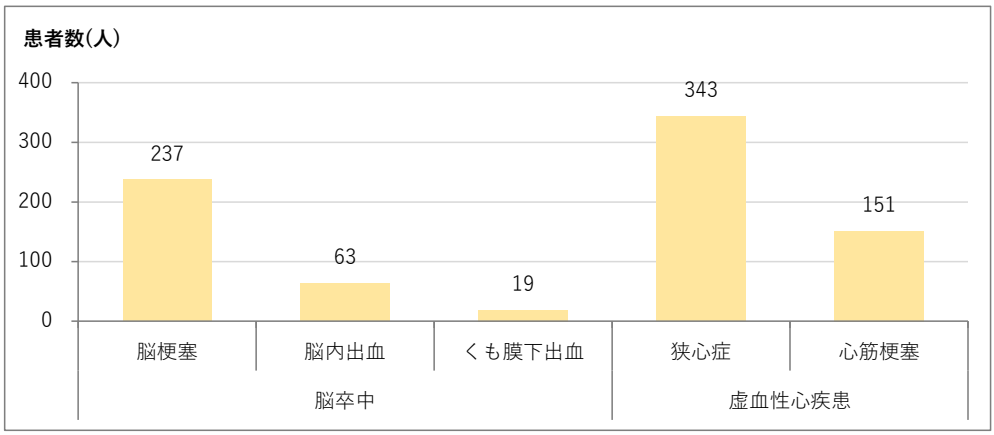
脳卒中・虚血性心疾患の医療費の状況

疾病分類		医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たり医療費(円)
脳卒中	脳梗塞	21,104,908	237	89,050
	脳内出血	9,214,427	63	146,261
	くも膜下出血	223,299	19	11,753
虚血性心疾患	狭心症	17,703,862	343	51,615
	心筋梗塞	14,593,656	151	96,647

脳卒中・虚血性心疾患の医療費



脳卒中・虚血性心疾患の患者数



■男女年齢階層別 脳卒中・虚血性心疾患の医療費

男女年齢階層別の脳卒中・虚血性心疾患の医療費を以下に示す。

男女年齢階層別 脳卒中・虚血性心疾患の医療費の状況

脳梗塞

年齢階層	全体			男性			女性		
	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
～19歳	34,384	2	17,192	12,404	1	12,404	21,980	1	21,980
20歳～24歳	51,771	4	12,943	47,408	3	15,803	4,363	1	4,363
25歳～29歳	42,223	4	10,556	25,155	2	12,578	17,068	2	8,534
30歳～34歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35歳～39歳	186,543	9	20,727	146,303	5	29,261	40,240	4	10,060
40歳～44歳	122,441	5	24,488	101,937	4	25,484	20,504	1	20,504
45歳～49歳	254,534	17	14,973	179,857	11	16,351	74,677	6	12,446
50歳～54歳	797,150	23	34,659	624,527	15	41,635	172,623	8	21,578
55歳～59歳	2,469,243	29	85,146	2,274,552	22	103,389	194,691	7	27,813
60歳～64歳	6,249,038	27	231,446	6,115,102	19	321,847	133,936	8	16,742
65歳～69歳	3,293,515	36	91,487	2,592,906	23	112,735	700,609	13	53,893
70歳～	7,604,066	81	93,877	4,281,715	57	75,118	3,322,351	24	138,431
合計	21,104,908	237	89,050	16,401,866	162	101,246	4,703,042	75	62,707

脳内出血

年齢階層	全体			男性			女性		
	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
～19歳	13,228	1	13,228	13,228	1	13,228	0	0	0
20歳～24歳	51,880	1	51,880	51,880	1	51,880	0	0	0
25歳～29歳	32,093	1	32,093	0	0	0	32,093	1	32,093
30歳～34歳	7,692	2	3,846	1,328	1	1,328	6,364	1	6,364
35歳～39歳	9,919	2	4,960	1,471	1	1,471	8,448	1	8,448
40歳～44歳	43,982	4	10,996	21,580	2	10,790	22,402	2	11,201
45歳～49歳	1,534,563	4	383,641	1,532,562	3	510,854	2,001	1	2,001
50歳～54歳	2,446,150	6	407,692	2,427,569	3	809,190	18,581	3	6,194
55歳～59歳	511,368	5	102,274	457,353	3	152,451	54,015	2	27,008
60歳～64歳	1,556,196	8	194,525	37,446	3	12,482	1,518,750	5	303,750
65歳～69歳	72,641	13	5,588	36,004	5	7,201	36,637	8	4,580
70歳～	2,934,715	16	183,420	2,907,633	10	290,763	27,082	6	4,514
合計	9,214,427	63	146,261	7,488,054	33	226,911	1,726,373	30	57,546

くも膜下出血

年齢階層	全体			男性			女性		
	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
～19歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20歳～24歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25歳～29歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30歳～34歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35歳～39歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40歳～44歳	7,943	1	7,943	7,943	1	7,943	0	0	0
45歳～49歳	21,600	4	5,400	11,031	2	5,516	10,569	2	5,285
50歳～54歳	56,118	3	18,706	56,118	3	18,706	0	0	0
55歳～59歳	23,920	2	11,960	18,559	1	18,559	5,361	1	5,361
60歳～64歳	22,070	1	22,070	22,070	1	22,070	0	0	0
65歳～69歳	34,440	4	8,610	0	0	0	34,440	4	8,610
70歳～	57,208	4	14,302	57,208	4	14,302	0	0	0
合計	223,299	19	11,753	172,929	12	14,411	50,370	7	7,196

狭心症

年齢階層	全体			男性			女性		
	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
～19歳	91,413	13	7,032	48,137	8	6,017	43,276	5	8,655
20歳～24歳	35,396	3	11,799	27,866	2	13,933	7,530	1	7,530
25歳～29歳	39,540	5	7,908	17,187	2	8,594	22,353	3	7,451
30歳～34歳	18,846	4	4,712	2,538	1	2,538	16,308	3	5,436
35歳～39歳	9,517	1	9,517	9,517	1	9,517	0	0	0
40歳～44歳	132,278	13	10,175	112,576	12	9,381	19,702	1	19,702
45歳～49歳	283,393	18	15,744	264,409	14	18,886	18,984	4	4,746
50歳～54歳	1,734,873	39	44,484	1,567,971	26	60,307	166,902	13	12,839
55歳～59歳	630,020	38	16,579	474,919	28	16,961	155,101	10	15,510
60歳～64歳	2,766,895	39	70,946	521,145	29	17,971	2,245,750	10	224,575
65歳～69歳	6,067,912	64	94,811	5,857,495	47	124,628	210,417	17	12,377
70歳～	5,893,779	106	55,602	5,354,423	87	61,545	539,356	19	28,387
合計	17,703,862	343	51,615	14,258,183	257	55,479	3,445,679	86	40,066

心筋梗塞

年齢階層	全体			男性			女性		
	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
～19歳	29,196	6	4,866	5,334	1	5,334	23,862	5	4,772
20歳～24歳	25,273	3	8,424	0	0	0	25,273	3	8,424
25歳～29歳	4,917	2	2,459	4,917	2	2,459	0	0	0
30歳～34歳	51,710	5	10,342	34,137	2	17,069	17,573	3	5,858
35歳～39歳	16,218	5	3,244	16,218	5	3,244	0	0	0
40歳～44歳	66,543	9	7,394	65,241	7	9,320	1,302	2	651
45歳～49歳	59,973	9	6,664	37,454	5	7,491	22,519	4	5,630
50歳～54歳	747,713	15	49,848	740,799	13	56,985	6,914	2	3,457
55歳～59歳	4,364,541	12	363,712	4,364,541	12	363,712	0	0	0
60歳～64歳	2,305,217	19	121,327	2,259,178	13	173,783	46,039	6	7,673
65歳～69歳	3,114,867	26	119,803	3,100,312	22	140,923	14,555	4	3,639
70歳～	3,807,488	40	95,187	3,750,279	36	104,174	57,209	4	14,302
合計	14,593,656	151	96,647	14,378,410	118	121,851	215,246	33	6,523

(2)脳梗塞の発症予防・再発予防対象者集団の特定

前項の分析結果より、脳梗塞は特に対策が必要な疾病であると考えられる。また、脳梗塞は再発率が高く、再発予防のために継続的な服薬と生活習慣の管理が重要となる。

ここでは、レセプトデータから過去に脳梗塞を発症した患者または一過性脳虚血発作を発症した患者を抽出し、脳梗塞の発症予防・再発予防へ向けた対象者集団の分析を行う。

脳梗塞の発症予防・再発予防対象者集団の特定

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点

集計定義等

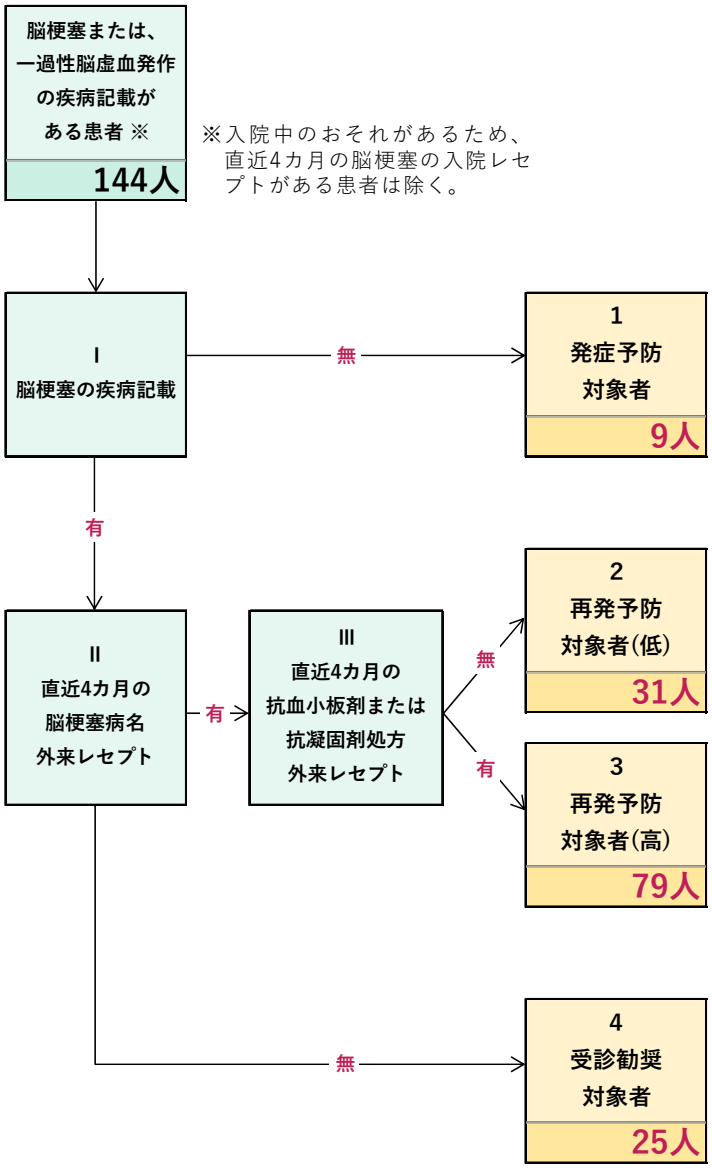
・一過性脳虚血発作…脳梗塞と同様の症状が一時的に起こって短時間で消失する現象。本格的な脳梗塞を起こす前兆発作といわれている。

・抗血小板剤または抗凝固剤…凝固因子の活性化や血小板の働きを抑えることにより血液を固まりにくくする薬
心筋梗塞や脳梗塞の予防を目的として処方されることから、高リスク者の判定材料とした。

■指導対象者の特定

レセプトデータより、過去に脳梗塞を発症した患者または一過性脳虚血発作を発症した患者について、疾病・処方医薬品・通院傾向を確認し、脳梗塞の発症と再発を予防するための指導対象者群を分析した。

レセプトによる脳梗塞発症予防・再発予防指導対象者群分析



【1.発症予防対象者】
一過性脳虚血発作を発症した患者は、脳梗塞の発症リスクが高いと考えられるため、発症予防の対象者として分類する。

【2.3.再発予防対象者】
脳梗塞の疾病が確認される患者については、直近4カ月における脳梗塞の外来レセプトの有無を確認する。外来レセプトがある場合、医療機関への受診は行われているため、再発予防の対象者とする。その際「抗血小板剤または抗凝固剤」処方の有無により、優先度を設定する。

【4.受診勧奨対象者】
直近4カ月における脳梗塞の外来レセプトが無い場合、定期的な受診を促す。

(3)脳卒中・虚血性心疾患の予防事業に向けて

脳梗塞をはじめ、脳卒中・虚血性心疾患といった循環器病の多くは、運動不足、不適切な食生活、喫煙等の生活習慣や肥満等の健康状態に端を発して発症する。その経過は、生活習慣病の予備群から生活習慣病の発症、重症化・合併症の発症、生活機能の低下・要介護状態へと進行するが、患者自身が気付かないうちに病気が進行することも多い。ただし、いずれの段階においても生活習慣の改善や適切な治療によって進行を抑制できる可能性がある。発症予防のみならず、再発予防や重症化予防としても生活習慣の改善が重要であるといえる。循環器病の主要な危険因子となる生活習慣病の予防及び早期発見のためにも、健康診査等の受診や、行動変容をもたらす保健指導等が求められる。

特に脳卒中においては重度の後遺症を残すことも多いが、発症後早急に適切な治療が行われれば、後遺症を含めた予後が改善される可能性がある。患者やその家族等が、循環器病の発症を認識し、救急要請等を行うことにより、速やかに適切な治療につなげることが重要である。

被保険者自身が循環器病の危険因子をよく理解し、生活習慣の改善及び基礎疾患の重症化予防、脳卒中・虚血性心疾患等の発症予防・再発予防に努めることができるよう、循環器病に関する知識の普及啓発が望まれる。

5-6.骨折予防事業

骨粗鬆症治療中断者への受診勧奨や骨粗鬆症検診の推進等、骨折の危険因子である骨粗鬆症への対策を実施し、骨折・再骨折予防を図る。

厚生労働省「2022年国民生活基礎調査」によると、「骨折・転倒」は要介護になった主な原因において「認知症」「脳血管疾患(脳卒中)」に次ぐ第3位となっている。骨折及び骨折のリスクを高める要因となる骨粗鬆症は、健康寿命を阻害する危険因子の一つである。

ここでは、骨折予防・骨粗鬆症重症化予防の取組に向けて、骨折及び骨粗鬆症の医療費等の現状把握や骨粗鬆症治療中断者の特定を行う。

(1)骨折の状況

疾病中分類による骨折医療費の状況

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・骨折…疾病中分類1901「骨折」を対象に集計

■診療種別 骨折医療費の状況

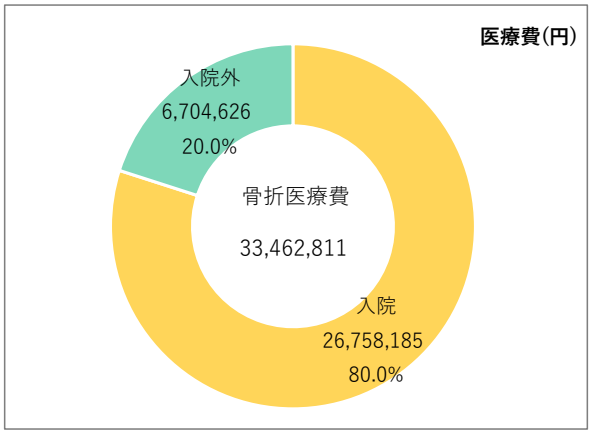
骨折医療費の状況について、診療種別に以下に示す。骨折医療費は3,346万円で、医療費全体の2.1%を占めている。骨折医療費のうち、入院医療費は2,676万円、入院外医療費は670万円となっている。

診療種別 骨折医療費の状況

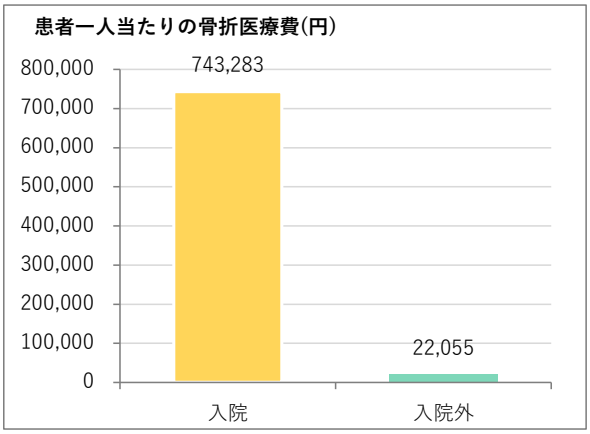
	医療費全体(円)	疾病中分類1901 骨折			
		医療費(円)	医療費全体に占める割合(%)	患者数(人)	患者一人当たりの骨折医療費(円)
合計	1,576,318,580	33,462,811	2.1	307	108,999
入院	632,894,050	26,758,185	4.2	36	743,283
入院外	943,424,530	6,704,626	0.7	304	22,055

患者数…入院と入院外で重複する患者がいるため、合計の患者数と入院・入院外の患者数の和は必ずしも一致しない。

骨折医療費の内訳(入院・入院外)



患者一人当たりの骨折医療費(入院・入院外)



骨折医療費の診療種別構成比

⇒入院　80.0%
⇒入院外　20.0%

患者一人当たりの骨折医療費

⇒入院　743,283円
⇒入院外　22,055円

脆弱性骨折好発部位の骨折

脆弱性骨折(骨の強度が低下し、軽微な外力によって生じる非外傷性骨折)は、椎体(背骨を構成する骨(椎骨)の円柱状の部分)、大腿骨近位部(足の付け根)、下腿骨(膝と足首の間の骨)、上腕骨近位部(腕の付け根)、橈骨遠位端(手首)、肋骨等において発生頻度が高い。ここでは、脆弱性骨折の好発部位に生じた骨折について、医療費等の状況を確認する。

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・骨折…疾病中分類1901「骨折」を対象に集計
・脆弱性骨折好発部位…骨の強度の低下によって骨折が発生する可能性が高い部位
(椎体骨折、上腕骨近位部骨折、骨盤骨折、肋骨骨折、橈骨遠位端骨折、大腿骨近位部骨折、下腿骨骨折)

■脆弱性骨折好発部位の骨折医療費

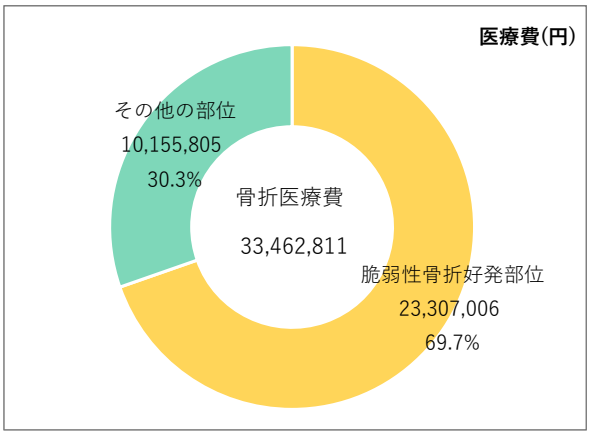
脆弱性骨折好発部位の骨折医療費

⇒2,331万円

疾病中分類の骨折医療費に占める割合

⇒69.7%

骨折医療費に占める
脆弱性骨折好発部位の骨折医療費



■男女年齢階層別 脆弱性骨折好発部位の骨折医療費

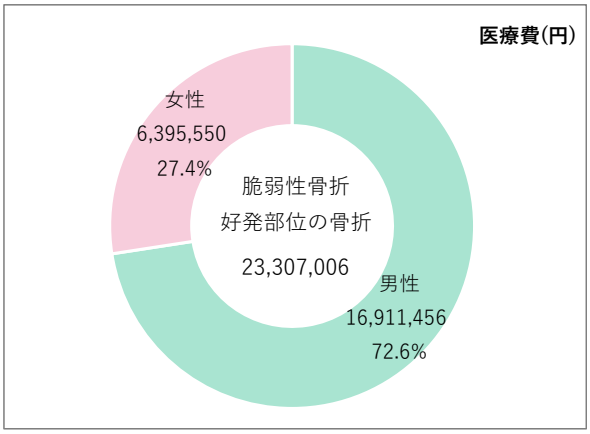
男女別 脆弱性骨折好発部位の骨折医療費

	脆弱性骨折好発部位の骨折				
	医療費(円)	構成比(%)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	患者割合(%)
合計	23,307,006		185	125,984	3.0
男性	16,911,456	72.6	100	169,115	2.4
女性	6,395,550	27.4	85	75,242	4.5

脆弱性骨折好発部位の骨折の男女別医療費及び構成比は、男性が1,691万円で72.6%、女性が640万円で27.4%となっている。また、40歳以上の被保険者に占める患者の割合は、男女計3.0%、男性2.4%、女性4.5%である。

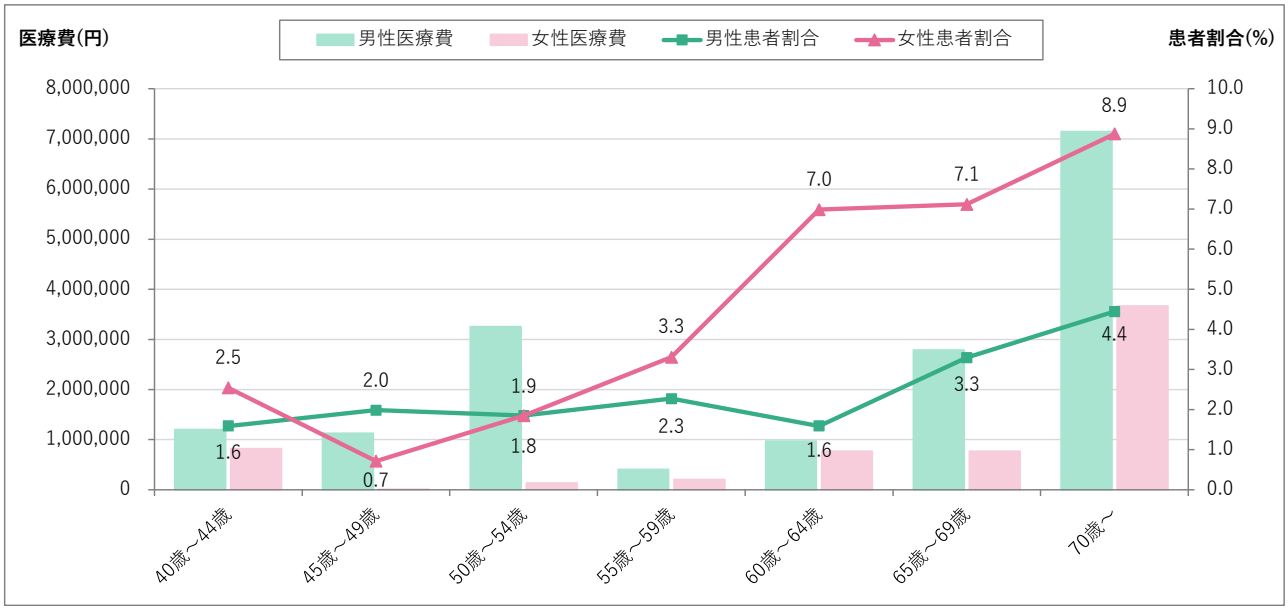
脆弱性骨折好発部位の骨折医療費は、女性に比べて男性で高い

男女別 脆弱性骨折好発部位の骨折医療費



男女年齢階層別の状況は以下のとおりである。

男女年齢階層別 脆弱性骨折好発部位の骨折医療費及び患者割合



■部位別 脆弱性骨折好発部位の骨折医療費

脆弱性骨折好発部位の骨折について、医療費の状況を部位別に示す。医療費が最も高いのは「下腿骨骨折」、患者数が最も多いのは「肋骨骨折」、患者一人当たりの医療費が最も高いのは「上腕骨近位部骨折」である。

部位別 脆弱性骨折好発部位の骨折医療費

	医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
脆弱性骨折好発部位	23,307,006	185	125,984
椎体骨折	2,741,581	54	50,770
上腕骨近位部骨折	3,658,440	6	609,740
骨盤骨折	2,719,793	19	143,147
肋骨骨折	1,687,344	62	27,215
橈骨遠位端骨折	4,033,516	17	237,266
大腿骨近位部骨折	2,151,906	10	215,191
下腿骨骨折	6,314,426	39	161,908

患者数…部位毎に患者数を集計するため、脆弱性骨折好発部位の患者数と部位別の患者数の和は必ずしも一致しない。

(2)骨粗鬆症の状況

高齢者に骨折が多い理由は、運動機能・筋力の低下で転倒しやすいことに加えて、骨粗鬆症による骨の脆弱化により軽微な外力であっても骨折しやすいことによるとされる。骨粗鬆症は「骨折リスクが増大した状態」(「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2025年版」)である。また、骨粗鬆症患者が脆弱性骨折の好発部位に骨折を生じた場合、骨折の要因として骨粗鬆症の影響が強く疑われる。

ここでは、骨折の危険因子である骨粗鬆症について、その医療費等の状況を示す。

骨粗鬆症医療費の状況

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・骨粗鬆症…ICD10により、次の疾病を対象に集計
M80「骨粗鬆症、病的骨折を伴うもの」、M81「骨粗鬆症、病的骨折を伴わないもの」

参考資料等

・骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会(日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、骨粗鬆症財団)
「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2025年版」(ライフサイエンス出版)

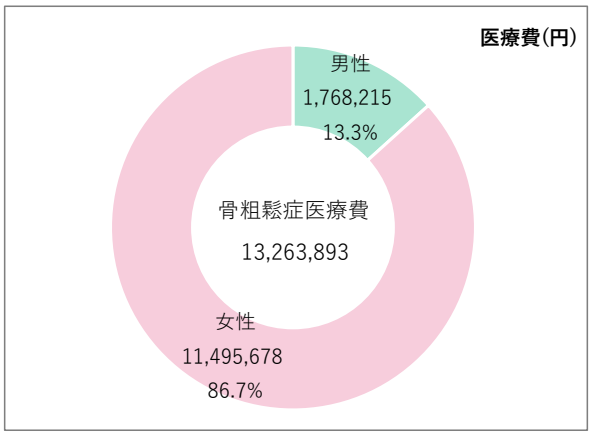
■男女別 骨粗鬆症医療費の状況

骨粗鬆症医療費は男女計1,326万円、男性177万円、女性1,150万円であり、その構成比は男性13.3%、女性86.7%である。また、40歳以上の被保険者に占める骨粗鬆症患者の割合は、男女計4.2%、男性1.3%、女性10.7%である。

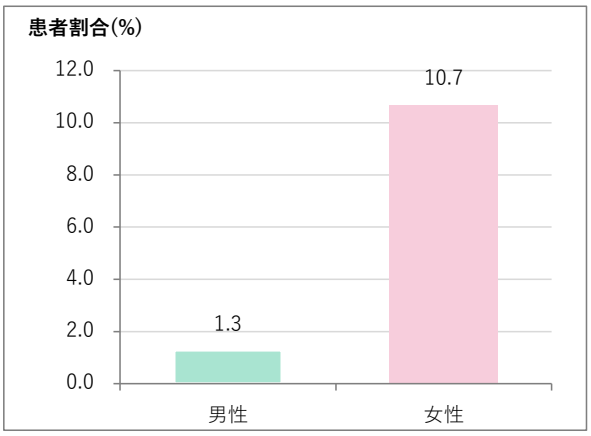
男女別 骨粗鬆症医療費の状況

	医療費(円)	構成比(%)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)	患者割合(%)
合計	13,263,893		257	51,610	4.2
男性	1,768,215	13.3	54	32,745	1.3
女性	11,495,678	86.7	203	56,629	10.7

骨粗鬆症医療費の内訳(男性・女性)



骨粗鬆症の患者割合(男性・女性)



骨粗鬆症医療費の男女別構成比

⇒男性　13.3%
⇒女性　86.7%

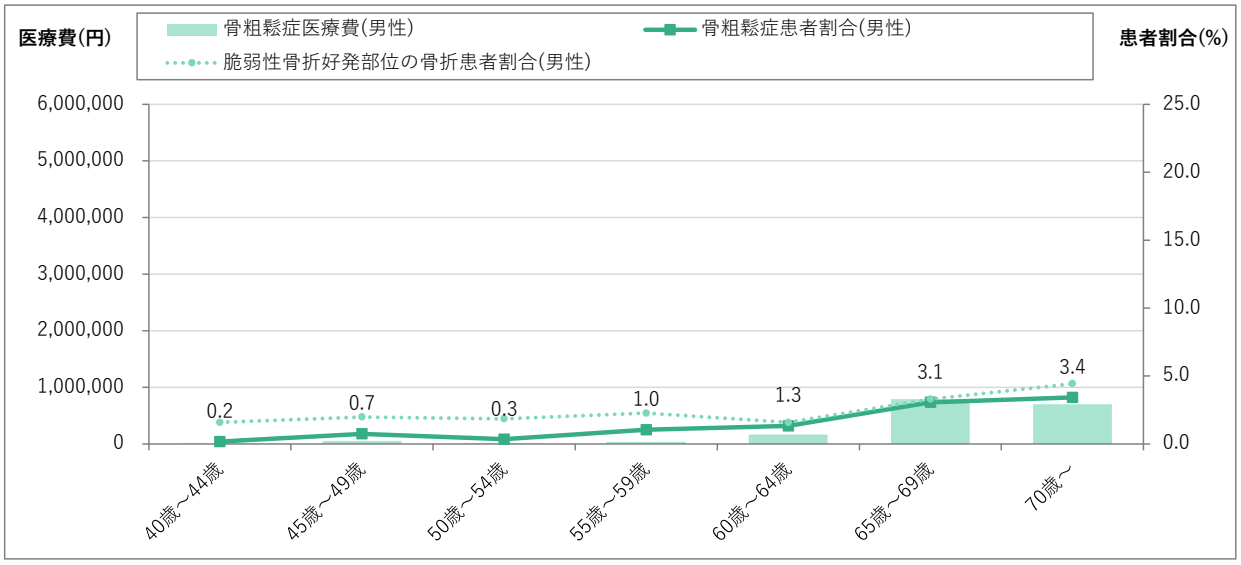
骨粗鬆症の患者割合は、男性に比べて女性で高い

■男女年齢階層別 骨粗鬆症医療費の状況

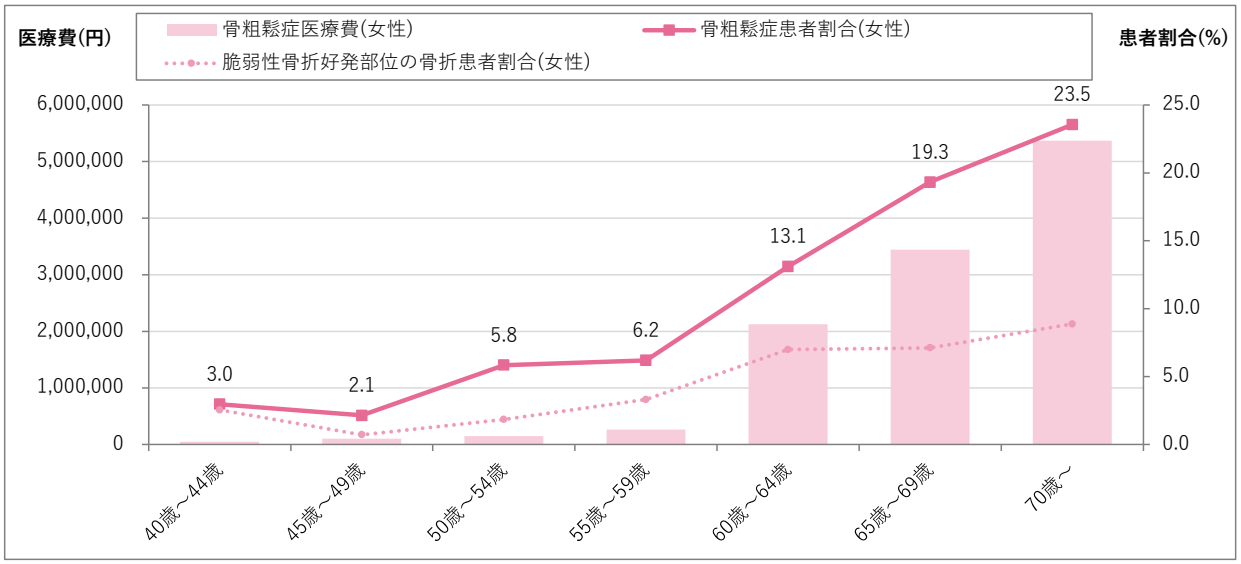
男女年齢階層別の骨粗鬆症医療費及び患者割合を以下に示す。また、骨粗鬆症と脆弱性骨折好発部位の骨折の関係性をみるため、参考として脆弱性骨折好発部位の骨折の患者割合をグラフ内に再掲する。

女性においては、閉経後急速に骨量が減少するため、閉経後の急速な骨量減少者を早期にスクリーニングし、骨量のさらなる減少を食い止めることが重要である。

年齢階層別 骨粗鬆症の医療費及び患者割合(男性)



年齢階層別 骨粗鬆症の医療費及び患者割合(女性)



骨粗鬆症患者における骨折の状況

骨粗鬆症患者について、骨粗鬆症の影響が疑われる骨折(ここでは、骨粗鬆症関連骨折と定義する。)の発生状況を、レセプトデータから確認する。

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・骨粗鬆症…ICD10により、次の疾病を対象に集計
M80「骨粗鬆症、病的骨折を伴うもの」、M81「骨粗鬆症、病的骨折を伴わないもの」
・骨粗鬆症関連骨折…「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2025年版」(骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会 ライフサイエンス出版)に基づき株式会社データホライゾンにて選定(椎体骨折、上腕骨近位部骨折、骨盤骨折、肋骨骨折、橈骨遠位端骨折、大腿骨近位部骨折、下腿骨骨折、脆弱性骨折)

■骨粗鬆症患者における骨折の状況

骨粗鬆症患者257人のうち、分析期間内に骨粗鬆症関連骨折の治療を行っている患者は56人(21.8%)であった。

骨粗鬆症患者における骨折の状況

	人数(人)	構成比(%)
骨粗鬆症関連骨折なし	201	78.2
骨粗鬆症関連骨折あり	56	21.8
椎体骨折	23	8.9
上腕骨近位部骨折	3	1.2
骨盤骨折	7	2.7
肋骨骨折	14	5.4
橈骨遠位端骨折	6	2.3
大腿骨近位部骨折	9	3.5
下腿骨骨折	6	2.3
脆弱性骨折	1	0.4
骨粗鬆症患者全体	257	100.0

骨粗鬆症関連骨折あり…部位毎に人数を集計するため、
骨粗鬆症関連骨折ありの人数と部位別の人数の和は
必ずしも一致しない。

(3)骨粗鬆症治療中断者への受診勧奨

骨粗鬆症の予防と治療の目的は、骨折を予防し、生活機能及びQOLの維持・改善を図ることである。骨粗鬆症の薬物治療は長期的な継続が必要であるが、一般的に服薬継続率が低く、それに伴う骨折の抑制率の低下が問題となっている。骨粗鬆症の治療を中断している患者に対しては、治療再開を促し、適切かつ継続的な骨粗鬆症の治療につなげることにより、骨折の発生及び骨折を起因とした要介護状態への移行を阻止することが望まれる。

ここでは、レセプトデータから骨粗鬆症の治療を中断したと思われる者を抽出し、骨粗鬆症治療中断者受診勧奨の対象者群を分析する。

骨粗鬆症治療中断者受診勧奨

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点

・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・骨粗鬆症…ICD10により、次の疾病を対象に集計
M80「骨粗鬆症、病的骨折を伴うもの」、M81「骨粗鬆症、病的骨折を伴わないもの」

・骨粗鬆症関連骨折…「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2025年版」(骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会 ライフサイエンス出版)に基づき株式会社データホライゾンにて選定(椎体骨折、上腕骨近位部骨折、骨盤骨折、肋骨骨折、橈骨遠位端骨折、大腿骨近位部骨折、下腿骨骨折、脆弱性骨折)

・骨粗鬆症治療薬服用患者…骨粗鬆症患者のうち、1種類以上の骨粗鬆症治療薬の処方がある患者
骨粗鬆症治療薬は、「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2025年版」(骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会 ライフサイエンス出版)に基づき、株式会社データホライゾンにて選定

・治療中断者の判定…治療薬の適切な服用間隔を超えて処方が確認できない場合に、当該治療薬について中断とする。分析期間内に複数の骨粗鬆症治療薬の処方がある患者については、処方されている全ての骨粗鬆症治療薬について中断に該当する場合のみ、治療中断者として判定している。

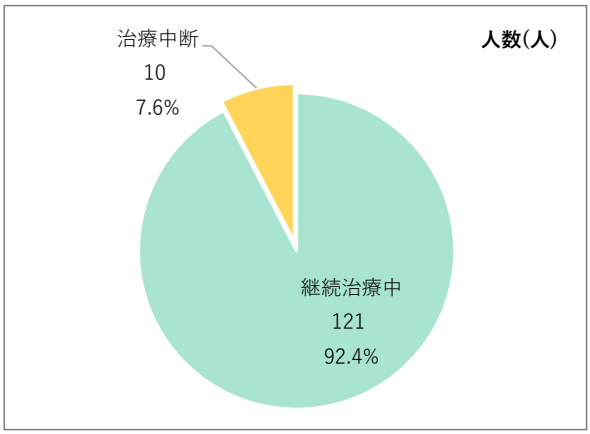
■指導対象者集団の特定

分析期間内に骨粗鬆症治療薬の処方がある患者(治療薬服用患者)を特定し、そのうち治療薬の適切な服用間隔を超えて処方が確認できない者を治療中断者として集計した。

骨粗鬆症治療薬服用患者の治療中断状況

	骨粗鬆症治療薬服用患者数(人)	継続治療中		治療中断	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
合計	131	121	92.4	10	7.6
男性	18	17	94.4	1	5.6
女性	113	104	92.0	9	8.0

骨粗鬆症治療薬服用患者の治療中断状況



骨粗鬆症治療薬服用患者131人のうち、
治療中断者　⇒10人(7.6%)

骨粗鬆症治療中断者のうち、「がん患者」「精神疾患患者」「難病患者」「認知症患者」「人工透析患者」に関しては、治療を優先すべき疾病を有しており、医学的管理の下にあることが推察される。また、指導が困難な可能性も考えられるため、指導対象者から除外する。骨粗鬆症治療薬との関連が認められる「顎骨壊死患者」、及び薬剤について慎重投与、投与回避となる可能性のある「腎症(CKD)患者」についても、指導対象者から除外する。

※がん、精神疾患、難病、認知症、顎骨壊死、腎症(CKD)は確定病名のみ。

骨粗鬆症治療中断者数

10人

除外

指導対象者数

4人

結果、骨粗鬆症治療中断者受診勧奨の指導対象者は4人となった。

■指導対象者の骨折の状況

骨粗鬆症治療中断者受診勧奨の対象者について、骨粗鬆症関連骨折の治療の有無(骨折歴)を確認した。骨粗鬆症による骨折を起こすと、再骨折の危険性が非常に高くなる。骨粗鬆症治療中断者受診勧奨の対象者のうち、骨粗鬆症関連骨折の骨折歴がある二次性骨折予防対象者は1人であった。

骨粗鬆症治療中断者受診勧奨
対象者の骨折の状況

	人数(人)
骨粗鬆症関連骨折なし	3
骨粗鬆症関連骨折あり	1
椎体骨折	1
上腕骨近位部骨折	0
骨盤骨折	0
肋骨骨折	0
橈骨遠位端骨折	0
大腿骨近位部骨折	0
下腿骨骨折	0
脆弱性骨折	0
骨粗鬆症治療中断者受診勧奨対象者	4

骨粗鬆症関連骨折あり…部位毎に人数を集計するため、
骨粗鬆症関連骨折ありの人数と部位別の人数の和は
必ずしも一致しない。

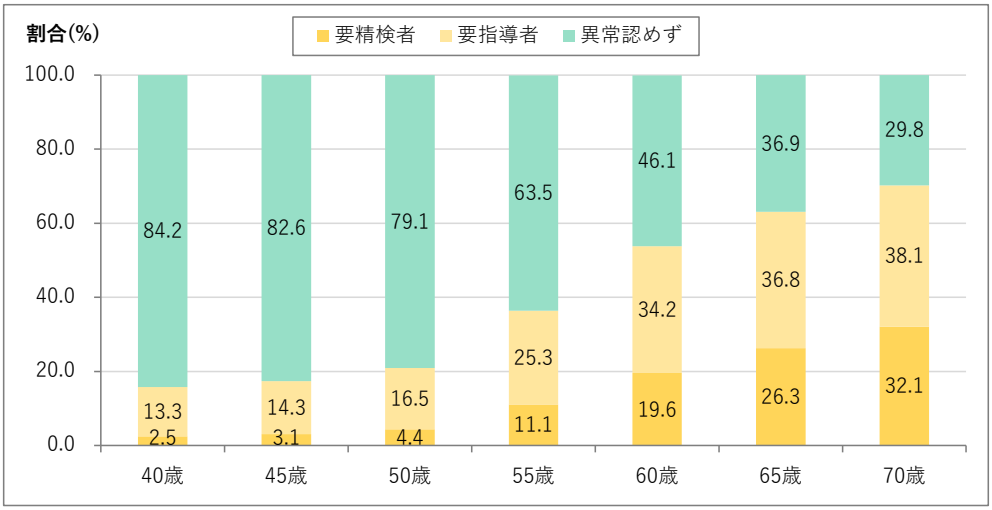
(4)骨折予防事業に向けて

骨折の発生及び骨折を起因とした要介護状態への移行を阻止するためには、骨折の危険因子である骨粗鬆症への対策が重要となる。骨粗鬆症の治療を中断している患者に対しては、治療再開を促し、適切かつ継続的な骨粗鬆症の治療につなげることが望まれる。既に脆弱性骨折が発生している患者については、再骨折のリスクが高まるため、再骨折予防として適切な治療や指導が求められる。

また、骨粗鬆症検診や転倒予防・骨粗鬆症予防教室の実施等、骨粗鬆症及び骨折に至る前の早期介入も重要である。女性を対象とした骨粗鬆症検診について全国の実施状況をみると、受診者に占める要精検者・要指導者の割合は年齢が上がるにつれて高くなり、70歳の女性では約7割が要精検者・要指導者となっている。骨粗鬆症検診の受診により、自覚のない骨粗鬆症やその予備群を発見し、早期に適切な治療及び指導につなげることで、骨強度の低下による骨折を未然に防ぐことが望まれる。

【参考】令和6年度 骨粗鬆症検診の実施状況(全国)

	受診者数(人)	指導区分					
		要精検者		要指導者		異常認めず	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
40歳	30,058	751	2.5	3,987	13.3	25,320	84.2
45歳	29,112	892	3.1	4,164	14.3	24,056	82.6
50歳	48,150	2,125	4.4	7,950	16.5	38,075	79.1
55歳	47,634	5,302	11.1	12,069	25.3	30,263	63.5
60歳	55,542	10,913	19.6	18,987	34.2	25,591	46.1
65歳	54,548	14,321	26.3	20,072	36.8	20,106	36.9
70歳	64,630	20,736	32.1	24,607	38.1	19,244	29.8
総数	329,674	55,040	16.7	91,836	27.9	182,655	55.4



出典:厚生労働省「令和6年度 地域保健・健康増進事業報告」
骨粗鬆症検診の対象者は女性である。
指導区分の計数が不詳の市区町村があるため、受診者数と指導区分の計が一致しない場合がある。

5-7.COPD発症予防及び重症化予防事業

喫煙者に対する禁煙支援及びCOPDに関する周知啓発、医療機関受診勧奨を行い、COPDの発症予防と早期治療による重症化予防を図る。

COPD(慢性閉塞性肺疾患)は、主に喫煙によって引き起こされる肺の慢性的な炎症状態を指し、時間が経つにつれて呼吸困難が進行する重大な疾患である。厚生労働省「令和6年人口動態統計」によると、日本のCOPDによる死亡数は1万6千人以上、うち男性は1万3千人以上である。COPDの最大の危険因子は喫煙であるため、喫煙者に対して禁煙支援をすることでCOPDの発症予防効果が期待できる。また、COPDは認知度が低いため、喫煙者に対してCOPDに関する周知・啓発を行い、早期発見・早期受診を促す取組が必要である。

健康日本21(第三次)では、新たにCOPDの死亡率の減少が目標となっている。禁煙支援によりCOPDの発症を予防するとともに、早期発見・早期治療によって増悪や合併症を防ぐことで、死亡率の減少に加え健康寿命の延伸につながることが期待される。

GOLD日本委員会の調査によると「(COPDを)知らない」と回答した人の割合 ⇒65.4%

【参考】COPDの認知度状況

設問:あなたはCOPDという病気を知っていますか？		
どんな病気かよく知っている	1,522	15.2%
名前は聞いたことがある	1,939	19.4%
知らない	6,539	65.4%

出典:GOLD日本委員会 調査
https://www.gold-jac.jp/copd_degree_of_recognition(アクセス日:令和8年3月31日)
1万人を対象とした調査(令和7年12月調査)

(1)喫煙習慣に係る分析

本項冒頭に示したように、COPDの最大の危険因子は喫煙である。健康診査データから、喫煙習慣に関する質問に対する回答状況について集計した。

喫煙習慣に係る分析

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点

・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

■喫煙習慣に関する回答状況

喫煙に関する質問回答者のうち「①はい(喫煙習慣あり)」と回答した人の割合

⇒全体　33.8%

⇒男性　42.1%

⇒女性　12.6%

喫煙習慣に関する回答状況

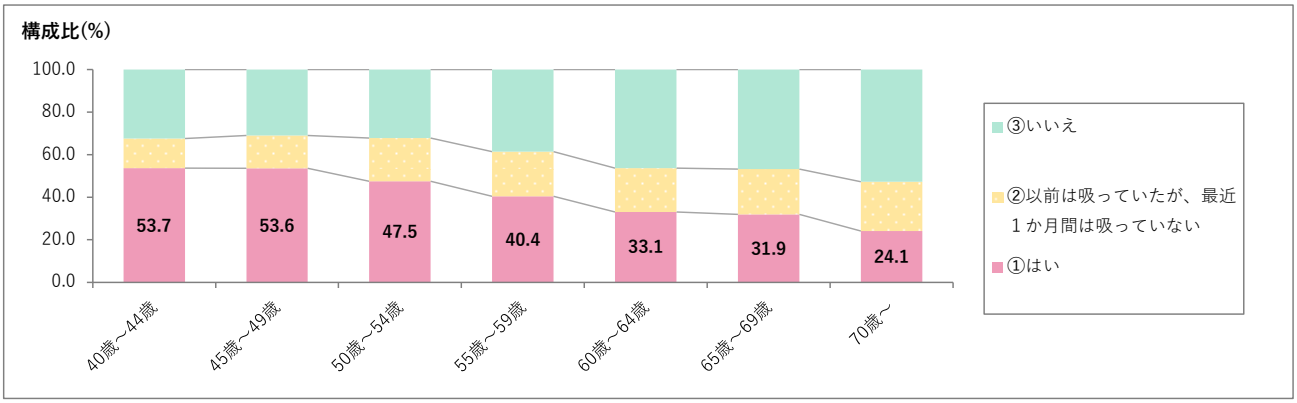
	質問回答者数(人)	①はい		②以前は吸っていたが、最近１か月間は吸っていない		③いいえ	
		選択者数(人)	選択者割合(%)	選択者数(人)	選択者割合(%)	選択者数(人)	選択者割合(%)
男女合計	3,687	**1,247**	**33.8**	595	16.1	1,845	50.0
男性	2,648	**1,116**	**42.1**	510	19.3	1,022	38.6
女性	1,039	**131**	**12.6**	85	8.2	823	79.2

健診質問票において、「現在、たばこを習慣的に吸っていますか。」という質問に対する回答を集計

年齢階層別 喫煙習慣に関する回答状況(男性)

「①はい」(喫煙習慣あり)と回答した割合が最も高い年齢階層

		40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～	全体
質問回答者数(人)		311	487	577	381	257	282	353	2,648
①はい	**選択者数(人)**	**167**	**261**	**274**	**154**	**85**	**90**	**85**	**1,116**
	選択者割合(%)	**53.7**	**53.6**	**47.5**	**40.4**	**33.1**	**31.9**	**24.1**	**42.1**
②以前は吸っていたが、最近1か月間は吸っていない	選択者数(人)	43	75	117	80	53	60	82	510
	選択者割合(%)	13.8	15.4	20.3	21.0	20.6	21.3	23.2	19.3
③いいえ	選択者数(人)	101	151	186	147	119	132	186	1,022
	選択者割合(%)	32.5	31.0	32.2	38.6	46.3	46.8	52.7	38.6

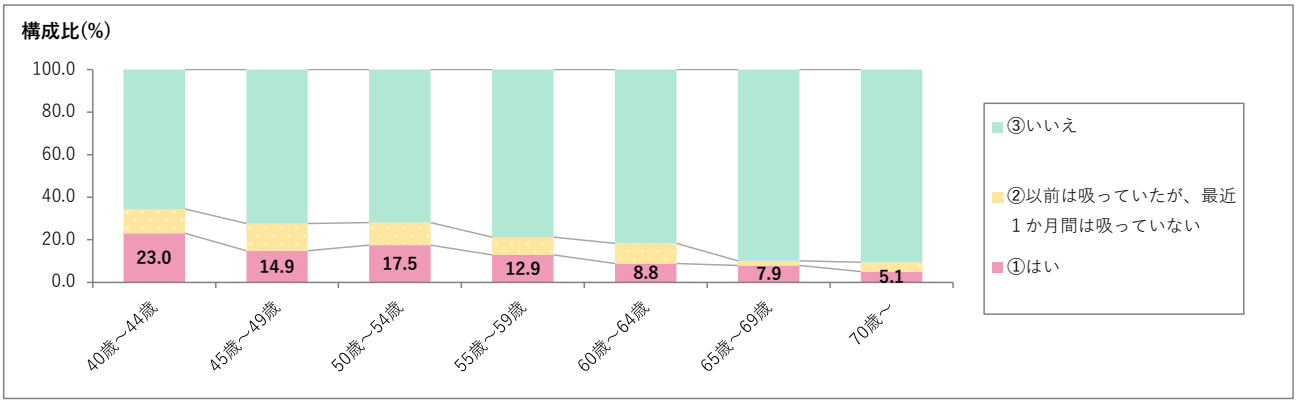


健診質問票において、「現在、たばこを習慣的に吸っていますか。」という質問に対する回答を集計

年齢階層別 喫煙習慣に関する回答状況(女性)

「①はい」(喫煙習慣あり)と回答した割合が最も高い年齢階層

		40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～	全体
質問回答者数(人)		113	141	189	132	137	189	138	1,039
①はい	**選択者数(人)**	**26**	**21**	**33**	**17**	**12**	**15**	**7**	**131**
	選択者割合(%)	**23.0**	**14.9**	**17.5**	**12.9**	**8.8**	**7.9**	**5.1**	**12.6**
②以前は吸っていたが、最近1か月間は吸っていない	選択者数(人)	13	18	20	11	13	4	6	85
	選択者割合(%)	11.5	12.8	10.6	8.3	9.5	2.1	4.3	8.2
③いいえ	選択者数(人)	74	102	136	104	112	170	125	823
	選択者割合(%)	65.5	72.3	72.0	78.8	81.8	89.9	90.6	79.2



健診質問票において、「現在、たばこを習慣的に吸っていますか。」という質問に対する回答を集計

(2)禁煙外来受診状況

禁煙外来は、喫煙者が健康的にたばこをやめる手助けをする専門的な医療サービスである。ニコチン依存からの脱却を支援し、薬物療法やカウンセリングで禁煙をサポートすることを目的としている。禁煙外来の課題としては、喫煙者に対する受診者の少なさと、通院継続率の低さが挙げられている。禁煙外来受診者数と禁煙成功者数は必ずしも同一ではないが、喫煙者本人が禁煙を望んでいることの証ではある。まずは、喫煙者に禁煙の意思を持たせるための啓発活動を進めるとともに、禁煙外来受診者数の増加に向けて、受診勧奨の取組を進める必要がある。

禁煙外来受診状況

分析に用いたデータ

・入院外のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。
・年齢範囲…20歳以上を分析対象とする。

■男女年齢階層別 禁煙外来受診者数

分析期間内における禁煙外来受診者数を以下に示す。

男女年齢階層別 禁煙外来受診者数

年齢階層	禁煙外来受診者数(人)		
	男女合計	男性	女性
20歳～39歳	1	1	0
40歳～44歳	1	1	0
45歳～49歳	0	0	0
50歳～54歳	2	1	1
55歳～59歳	2	2	0
60歳～64歳	1	1	0
65歳～69歳	2	2	0
70歳～	3	3	0
全体	12	11	1

(3)COPD患者の状況

COPD患者の状況

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

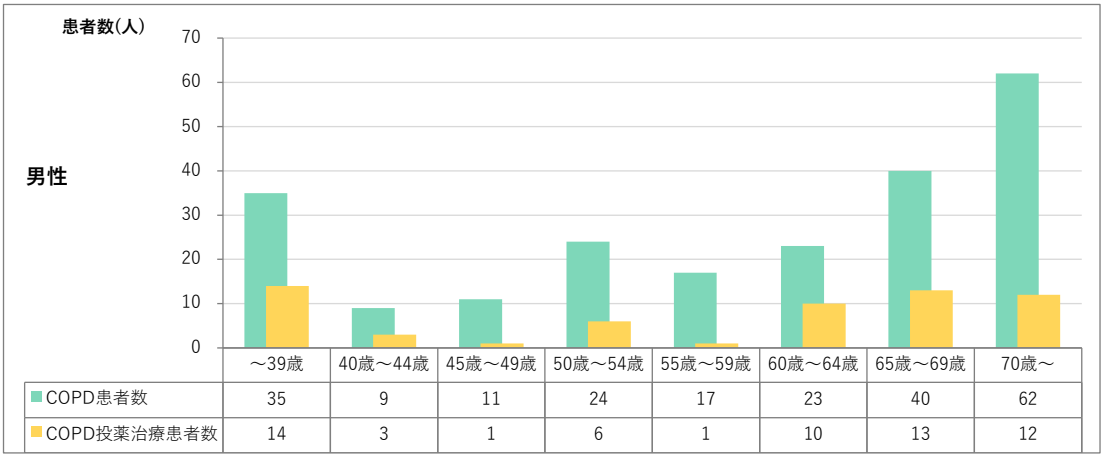
・COPD患者…分析期間内に慢性閉塞性肺疾患に関する診療行為がある患者を対象として集計

■COPD患者数

COPD患者数

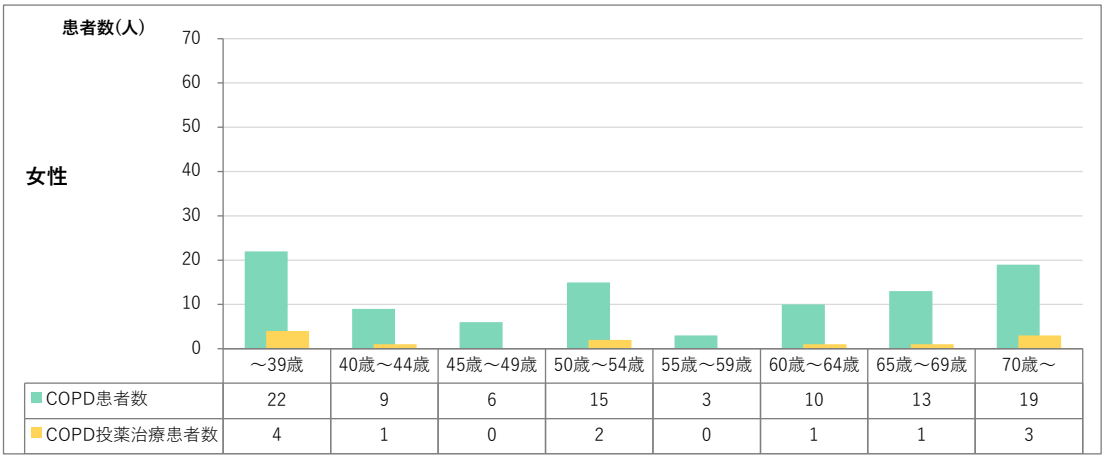
	男女合計	男性	女性
COPD患者数(人)	318	221	97
うち、投薬治療患者数(人)	72	60	12

年齢階層別 COPD患者数(男性)



	～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～
COPD患者数	35	9	11	24	17	23	40	62
COPD投薬治療患者数	14	3	1	6	1	10	13	12

年齢階層別 COPD患者数(女性)



	～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～
COPD患者数	22	9	6	15	3	10	13	19
COPD投薬治療患者数	4	1	0	2	0	1	1	3

■COPD患者一人当たりの医療費

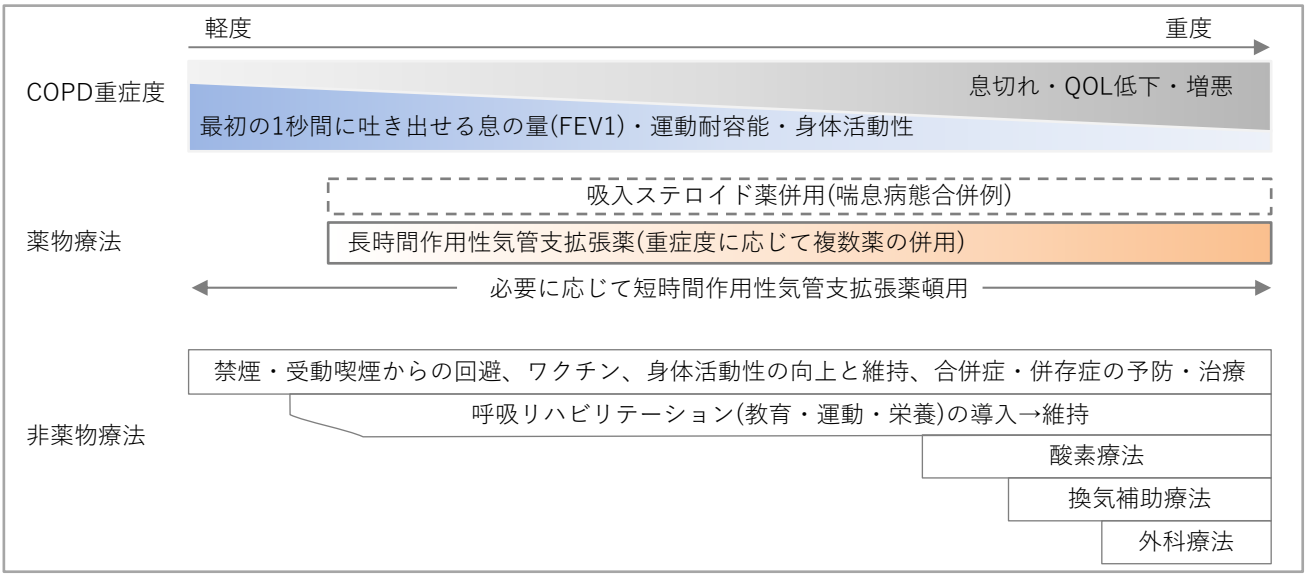
COPD患者318人について、患者一人当たりの医療費を集計した結果を以下に示す。

COPDは徐々に進行していく疾病であり、重症化例では合併症や併存症の発症リスクが高まり、酸素療法や外科療法を必要とする病態への進行、生命予後の低下が懸念される。COPD医療費自体は必ずしも高額ではないが、合併症を発症した場合には医療費の負担も大きくなる傾向がある。

COPD患者一人当たりの医療費

	COPD患者一人当たりの医療費(円)
医療費合計	906,185
COPD	41,089
COPD以外	865,096

【参考】COPDの重症度に応じた管理



「COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン第6版2022」(日本呼吸器学会COPDガイドライン第6版作成委員会,メディカルレビュー社)を参照して作成

■COPD投薬治療患者の疾病傾向

COPDは主に肺に影響を与える疾患であるが、その影響は全身にも広がり、多くの合併症や関連疾患を引き起こすことが報告されている。

COPD投薬治療患者を対象とした、疾病中分類における患者数上位疾病を以下に示す。順位変動、一人当たり医療費の差分、一人当たり医療費の変化率はいずれもCOPD患者以外の患者(患者全体から、COPD患者を除いたもの)と比較した場合の差の状況を示したものである。

COPD投薬治療患者の疾病傾向(患者数上位疾病)

上位20疾病を上限として掲載している。

A	B	C	D	E	F	G	F-A	E-G	(E-G)/G*100
COPD投薬治療患者					COPD患者以外の患者		順位変動	一人当たり医療費の差分(円)	一人当たり医療費の変化率(%)
順位	疾病分類(中分類)		患者数(人)	一人当たり医療費(円)	順位	一人当たり医療費(円)			
1	1009	慢性閉塞性肺疾患	72	56,165					
2	1010	喘息	54	49,596	21	18,652	⇧19	+30,944	+165.9
3	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	36	4,819	6	7,263	⇧3	-2,444	-33.6
4	1006	アレルギー性鼻炎	34	21,512	3	9,933	⇩1	+11,580	+116.6
4	1800	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	34	11,381	4	10,554		+826	+7.8
6	1011	その他の呼吸器系の疾患	33	122,598	1	11,760	⇩5	+110,838	+942.5
7	0901	高血圧性疾患	30	25,022	17	36,350	⇧10	-11,328	-31.2
7	1105	胃炎及び十二指腸炎	30	7,649	13	7,807	⇧6	-157	-2.0
9	1113	その他の消化器系の疾患	29	24,788	11	37,297	⇧2	-12,509	-33.5
10	1003	その他の急性上気道感染症	28	8,867	2	9,143	⇩8	-277	-3.0
11	1202	皮膚炎及び湿疹	27	114,551	7	20,695	⇩4	+93,856	+453.5
12	0402	糖尿病	25	66,042	16	52,700	⇧4	+13,342	+25.3
13	0606	その他の神経系の疾患	24	34,545	23	43,983	⇧10	-9,438	-21.5
13	0404	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	24	22,828	22	18,112	⇧9	+4,716	+26.0
13	1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	24	19,316	8	17,705	⇩5	+1,611	+9.1
16	0903	その他の心疾患	23	28,111	25	100,706	⇧9	-72,595	-72.1
16	1004	肺炎	23	22,460	43	30,187	⇧27	-7,728	-25.6
18	2220	その他の特殊目的用コード	22	4,298	5	5,995	⇩13	-1,697	-28.3
19	1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	19	8,207	18	24,779	⇩1	-16,572	-66.9
20	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	18	22,666	12	26,951	⇩8	-4,285	-15.9

【参考】COPDの全身併存症

- ●全身性炎症
- ●骨格筋機能障害、サルコペニア、フレイル
- ●消化器疾患、GERD、嚥下障害
- ●代謝性疾患
- ●貧血
- ●骨粗鬆症
- ●心血管疾患
- ●不安、抑うつ、認知症
- ●閉塞性睡眠時無呼吸

出典:日本呼吸器学会COPDガイドライン第6版作成委員会
「COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン第6版2022」(メディカルレビュー社)

■COPD投薬治療患者の肺の合併症

COPD投薬治療患者を対象として、肺の合併症の併存状況について集計した。COPDは喫煙とは独立した肺がんの危険因子であり、肺がんはCOPD患者の主な死因の1つである。

COPD投薬治療患者の肺がんの併存率　⇒12.5%

COPD投薬治療患者の肺の合併症併存状況

	男女合計		男性		女性	
	患者数(人)	割合(%)	患者数(人)	割合(%)	患者数(人)	割合(%)
喘息	54	75.0	44	73.3	10	83.3
肺がん	9	12.5	7	11.7	2	16.7
気腫合併肺線維症	0	0.0	0	0.0	0	0.0
COPD投薬治療患者全体	72		60		12	

(4)COPD発症予防及び重症化予防事業に向けて

COPDの発症予防に最も効果的なのは、禁煙することであり、COPDの基本的な治療も禁煙であることから、禁煙の啓発や禁煙支援を推進し、COPDの発症予防及び重症化予防を図る。支援に当たっては、厚生労働省による「禁煙支援マニュアル(第二版)増補改訂版」を参照し、特定健診や保健指導の場を活用した禁煙推進を基本とする。質問票を用いて喫煙者の喫煙状況や禁煙の関心度を把握し、喫煙の重要性を高めるアドバイスや禁煙のための解決策の提案等を行い、禁煙を希望する者に対して、禁煙継続のための保健指導や禁煙治療のための医療機関等の紹介などを行うものである。また、特定健診や保健指導の場以外での禁煙支援の方法としては、禁煙サポートセミナーや健康教室等の開催等が考えられる。

COPDの早期発見に向けては、地域の現状に応じて診断から治療までの一連の流れを作ることが必要である。COPDの診断はスパイロメータ(呼吸機能を検査するための医療機器)による検査で行える。しかし、スパイロメータが設置されている医療機関は、呼吸器内科等ある程度限られているのが現状である。分析期間内のレセプトデータにおいて、スパイロメータの診療行為が発生している医療機関は53施設存在する。COPDの認知度は未だ高いとは言えない現状にあるため広く普及啓発を行うとともに、これら医療機関と連携し、喫煙者に対して早期発見に向けた医療機関受診勧奨を行う必要がある。

6.適正受診・適正服薬を促す取組

6-1.重複受診者・頻回受診者に対する取組

重複受診・頻回受診には不適切な受診行動も含まれているため、重複受診・頻回受診の対象者に通知や指導を行い、適切な受診行動につなげる。

不適切な重複受診・頻回受診は、患者の身体への負担の増大や医療費の増大等、様々な影響を及ぼすことが危惧される。重複受診・頻回受診の患者について、適切な受診行動に導く指導が必要である。ここでは、重複受診・頻回受診の患者の状況を把握し、指導の対象となる患者の特定を行う。

(1)重複受診に係る分析

重複受診に係る分析

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点

集計定義等

・重複受診者…1カ月間で同系の疾病を理由に3医療機関以上受診している患者を対象とする。治療行為を行っていないレセプト、及び血液透析患者は対象外とする。

■重複受診者数

ひと月に同系の疾病を理由に複数の医療機関を受診している「重複受診者」について、レセプトデータを用いて分析した。

分析期間内の重複受診者数(実人数)は58人である。

重複受診者数

58人

月別 重複受診者数

	令和7年4月	令和7年5月	令和7年6月	令和7年7月	令和7年8月	令和7年9月	令和7年10月	令和7年11月	令和7年12月	令和8年1月	令和8年2月	令和8年3月
重複受診者数(人)	8	5	4	4	7	8	7	4	5	6	7	4

12カ月平均人数	**6人**
12カ月間の延べ人数	**69人**
12カ月間の実人数	**58人**

■重複受診の要因分析

重複受診の要因となる主な疾病は以下のとおりである。

重複受診の要因となる主な疾病(上位10疾病)

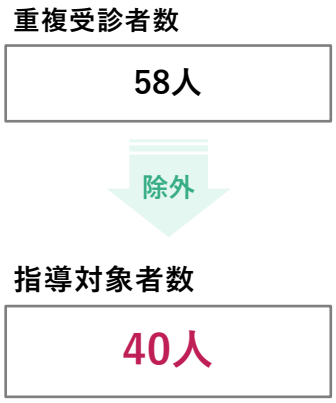
順位	病名	分類	割合(%)
1	不眠症	神経系の疾患	10.2
2	気管支喘息	呼吸器系の疾患	7.6
3	変形性肘関節症	筋骨格系及び結合組織の疾患	7.6
4	アレルギー性鼻炎	呼吸器系の疾患	5.1
5	変形性膝関節症	筋骨格系及び結合組織の疾患	3.8
6	高血圧症	循環器系の疾患	3.0
7	急性気管支炎	呼吸器系の疾患	2.5
8	変形性股関節症	筋骨格系及び結合組織の疾患	2.5
9	腰椎椎間板ヘルニア	筋骨格系及び結合組織の疾患	2.5
10	眼内レンズ挿入眼	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	2.5

■指導対象者の特定

前述の分析結果より、分析期間内の重複受診者は58人であった。ただし、不適切な受診ではなく「必要な医療」である患者が含まれている可能性があるため、受診行動適正化の指導に当たっては十分な分析の上で対象者を特定する必要がある。

重複受診者58人について、指導対象者として適切ではない可能性がある患者を除外する。「がん患者」「精神疾患患者」「難病患者」「認知症患者」「人工透析患者」に関しては、必要な医療による受診の可能性がある。また、指導が困難な可能性も考えられる。以上の理由から、該当する患者について指導対象者から除外する。

※がん、精神疾患、難病、認知症は確定病名のみ。



除外患者を除き、指導対象者となった重複受診者は40人であった。

(2)頻回受診に係る分析

頻回受診に係る分析

分析に用いたデータ

・入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点

集計定義等

・頻回受診者…1カ月間で同一医療機関に12回以上受診している患者を対象とする。血液透析患者は対象外とする。

■頻回受診者数

ひと月に同一の医療機関に一定回数以上受診している「頻回受診者」について、レセプトデータを用いて分析した。

分析期間内の頻回受診者数(実人数)は61人である。

頻回受診者数

61人

月別 頻回受診者数

	令和7年4月	令和7年5月	令和7年6月	令和7年7月	令和7年8月	令和7年9月	令和7年10月	令和7年11月	令和7年12月	令和8年1月	令和8年2月	令和8年3月
頻回受診者数(人)	11	7	13	13	9	11	16	10	7	4	8	12

12カ月平均人数	**10人**
12カ月間の延べ人数	**121人**
12カ月間の実人数	**61人**

■頻回受診の要因分析

頻回受診の要因となる主な疾病は以下のとおりである。

頻回受診の要因となる主な疾病(上位10疾病)

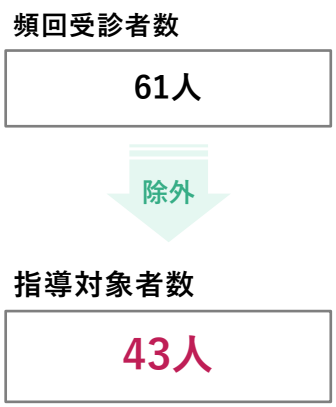
順位	病名	分類	割合(%)
1	頚椎捻挫	損傷，中毒及びその他の外因の影響	9.3
2	腰椎椎間板症	筋骨格系及び結合組織の疾患	7.0
3	腰部脊柱管狭窄症	筋骨格系及び結合組織の疾患	4.7
4	骨粗鬆症	筋骨格系及び結合組織の疾患	4.7
5	浮腫	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	4.7
6	橈骨遠位端骨折	損傷，中毒及びその他の外因の影響	4.7
7	乳癌	新生物＜腫瘍＞	3.1
8	アテローム血栓性脳梗塞	循環器系の疾患	3.1
9	足爪白癬	感染症及び寄生虫症	2.3
10	前立腺癌	新生物＜腫瘍＞	2.3

■指導対象者の特定

前述の分析結果より、分析期間内の頻回受診者は61人であった。ただし、不適切な受診ではなく「必要な医療」である患者が含まれている可能性があるため、受診行動適正化の指導に当たっては十分な分析の上で対象者を特定する必要がある。

頻回受診者61人について、指導対象者として適切ではない可能性がある患者を除外する。「がん患者」「精神疾患患者」「難病患者」「認知症患者」「人工透析患者」に関しては、必要な医療による受診の可能性がある。また、指導が困難な可能性も考えられる。以上の理由から、該当する患者について指導対象者から除外する。

※がん、精神疾患、難病、認知症は確定病名のみ。



除外患者を除き、指導対象者となった頻回受診者は43人であった。

(3)重複受診者・頻回受診者に対する取組に向けて

不適切な重複受診・頻回受診は、患者の身体への負担の増大や医療費の増大等、様々な影響を及ぼすことが危惧される。

重複受診者・頻回受診者に対する取組の例として、レセプトデータから適切な指導対象者を抽出し、通知書の送付及び保健師、看護師等による適正受診についての指導を実施することなどが挙げられる。患者がどのような事由で重複受診・頻回受診となっているのかを把握し、不適正な受診行動については適切な受診行動へ導く指導が望まれる。

6-2.重複服薬者・多剤服薬者に対する取組

重複服薬・多剤服薬は、服薬過誤や副作用等の薬物有害事象発生につながりやすい。
重複服薬・多剤服薬の対象者に通知や指導を行い、薬剤の適切な服用を促す。

重複服薬・多剤服薬は、薬物の相互作用や飲み忘れ、飲み間違い等がおこりやすい状況であり、それに関連した薬物有害事象の増加が危惧される。また、重複服薬には不適切な受診行動によるものも含まれており、薬物有害事象発生の可能性が高まることに加えて、医療費増大の一因にもなっている。ここでは、重複服薬・多剤服薬の患者数とその傾向を把握し、指導の対象となる患者の特定を行う。

(1)重複服薬に係る分析

重複服薬に係る分析

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点

集計定義等

・重複服薬者…1カ月間で同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、同系医薬品の日数合計が60日を超える患者を対象とする。

■重複服薬者数

ひと月に同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、処方日数が一定以上の「重複服薬者」について、レセプトデータを用いて分析した。

分析期間内の重複服薬者数(実人数)は137人である。

重複服薬者数

137人

月別 重複服薬者数

	令和7年4月	令和7年5月	令和7年6月	令和7年7月	令和7年8月	令和7年9月	令和7年10月	令和7年11月	令和7年12月	令和8年1月	令和8年2月	令和8年3月
重複服薬者数(人)	26	21	18	14	18	16	20	17	23	26	18	18

12カ月平均人数	**20人**
12カ月間の延べ人数	**235人**
12カ月間の実人数	**137人**

■重複服薬の要因分析

重複服薬の要因となる主な薬品は以下のとおりである。

重複服薬の要因となる主な薬品(上位10薬品)

順位	医薬品名	薬効分類	割合(%)
1	タケキャブ錠１０ｍｇ	消化性潰瘍用剤	4.7
2	トリアゾラム錠０．２５ｍｇ「日医工」	催眠鎮静剤，抗不安剤	4.6
3	ゾルピデム酒石酸塩錠５ｍｇ「ＤＳＥＰ」	催眠鎮静剤，抗不安剤	4.3
4	ブロチゾラムＯＤ錠０．２５ｍｇ「サワイ」	催眠鎮静剤，抗不安剤	3.6
5	アムロジピンＯＤ錠５ｍｇ「トーワ」	血管拡張剤	3.4
6	チラーヂンＳ錠５０μｇ	甲状腺，副甲状腺ホルモン剤	3.3
7	エチゾラム錠０．５ｍｇ「ＮＩＧ」	精神神経用剤	3.1
8	デエビゴ錠５ｍｇ	その他の中枢神経系用薬	3.1
9	フェキソフェナジン塩酸塩錠６０ｍｇ「ＳＡＮＩＫ」	その他のアレルギー用薬	2.8
10	レバミピド錠１００ｍｇ「オーツカ」	消化性潰瘍用剤	2.6

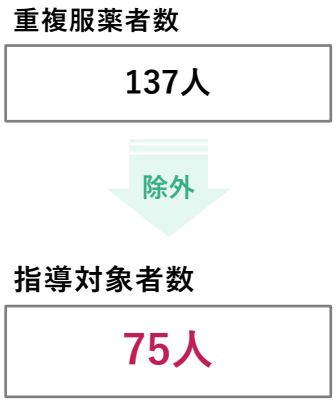
医薬品名…重複服薬と判定された同系の医薬品の中で、最も多く処方された医薬品名

■指導対象者の特定

前述の分析結果より、分析期間内の重複服薬者は137人であった。ただし、不適切な受診ではなく「必要な医療」である患者が含まれている可能性があるため、受診行動適正化の指導に当たっては十分な分析の上で対象者を特定する必要がある。

重複服薬者137人について、指導対象者として適切ではない可能性がある患者を除外する。「がん患者」「精神疾患患者」「難病患者」「認知症患者」「人工透析患者」に関しては、必要な医療による受診の可能性がある。また、指導が困難な可能性も考えられる。以上の理由から、該当する患者について指導対象者から除外する。

※がん、精神疾患、難病、認知症は確定病名のみ。



除外患者を除き、指導対象者となった重複服薬者は75人であった。

(2)多剤服薬に係る分析

薬物有害事象の発生リスクは6種類以上の服薬で特に高まるとされており、複数疾病を有する高齢者においては特に注意が必要である。高齢者に起こりやすい副作用にはふらつき・転倒、物忘れ、うつ、せん妄、食欲低下、便秘、排尿障害等がある。

本分析では、服薬状況を把握し適切な服薬を促すことを目的に、多剤服薬者の特定を行う。

多剤服薬に係る分析

分析に用いたデータ

・入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年12月～令和8年3月診療分(4カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点

集計定義等

・多剤服薬の集計方法…一時的に服用した医薬品を除くため、処方日数が14日以上の医薬品を対象としている。複数医療機関から処方された内服薬のうち、基準月(分析期間最終月)に服用している長期処方薬の種類数を集計する。基準月の服用状況については、基準月に処方された薬剤と基準月以前に処方された長期処方薬を調剤日と処方日数から判定している。

・長期服薬者…複数医療機関から内服薬が長期(14日以上)処方されている患者を対象とする。

・多剤服薬者…複数医療機関から内服薬が長期(14日以上)処方されており、その長期処方の内服薬が6種類以上の患者を対象とする。

参考資料等

・日本老年医学会「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2025」(メジカルビュー社)

■多剤服薬者数

複数医療機関から内服薬が長期(14日以上)処方されている長期服薬者のうち、基準月(分析期間最終月)に6種類以上の内服薬を服用している多剤服薬者は239人である。

薬剤種類数別長期服薬者数

年齢階層		対象者数(人)								
		～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～	合計
被保険者数(人)		4,615	739	1,006	1,131	770	569	669	686	10,185
薬剤種類数	2種類	32	7	5	15	5	6	4	10	84
	3種類	25	4	9	5	10	14	15	17	99
	4種類	27	7	8	11	9	9	9	11	91
	5種類	13	5	8	6	10	8	19	25	94
	6種類	7	1	6	5	4	8	17	16	64
	7種類	9	3	2	5	3	9	6	17	54
	8種類	3	2	2	5	6	3	9	6	36
	9種類	3	0	0	4	5	4	7	3	26
	10種類	0	1	1	1	3	1	6	3	16
	11種類	0	0	0	2	3	1	5	4	15
	12種類	0	1	0	2	1	0	1	4	9
	13種類	0	0	0	0	0	2	0	4	6
	14種類	1	0	0	0	0	0	1	2	4
	15種類	0	0	0	1	0	0	0	1	2
	16種類	1	0	0	2	0	1	0	0	4
	17種類	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18種類	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19種類	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	20種類	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21種類以上	0	0	0	1	0	1	0	0	2
	合計	121	31	41	65	59	67	99	124	607

多剤服薬者数	239 人

日本老年医学会「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2025」(メジカルビュー社)を参照し、6種類以上の内服薬を服用している患者を多剤服薬者として定義

■年齢階層別 多剤服薬者の状況

長期服薬者における多剤服薬者の状況を、年齢階層別に以下に示す。

なお、多剤服薬者について、基準月(分析期間最終月)に薬理作用が同じ薬の重複服用が発生している場合を「多剤服薬者(薬理作用の重複あり)」、重複服用が発生していない場合を「多剤服薬者(薬理作用の重複なし)」としている。

年齢階層別 多剤服薬者の状況

		～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～	合計
A	被保険者数(人)	4,615	739	1,006	1,131	770	569	669	686	10,185
B	長期服薬者数(人)	121	31	41	65	59	67	99	124	607
C	多剤服薬者数(人)	24	8	11	28	25	30	52	61	239
C1	多剤服薬者(薬理作用の重複あり)	9	2	3	9	5	6	8	1	43
C2	多剤服薬者(薬理作用の重複なし)	15	6	8	19	20	24	44	60	196
C/A	被保険者に占める多剤服薬者の割合(%)	0.5	1.1	1.1	2.5	3.2	5.3	7.8	8.9	2.3
C1/A	多剤服薬者(薬理作用の重複あり)	0.2	0.3	0.3	0.8	0.6	1.1	1.2	0.1	0.4
C2/A	多剤服薬者(薬理作用の重複なし)	0.3	0.8	0.8	1.7	2.6	4.2	6.6	8.7	1.9
C/B	長期服薬者に占める多剤服薬者の割合(%)	19.8	25.8	26.8	43.1	42.4	44.8	52.5	49.2	39.4
C1/B	多剤服薬者(薬理作用の重複あり)	7.4	6.5	7.3	13.8	8.5	9.0	8.1	0.8	7.1
C2/B	多剤服薬者(薬理作用の重複なし)	12.4	19.4	19.5	29.2	33.9	35.8	44.4	48.4	32.3

・多剤服薬者(薬理作用の重複あり)…多剤服薬者のうち、基準月(分析期間最終月)に薬理作用が同じ薬の重複服用が発生している者

・多剤服薬者(薬理作用の重複なし)…多剤服薬者のうち、基準月(分析期間最終月)に薬理作用が同じ薬の重複服用が発生していない者

(3)重複服薬者・多剤服薬者に対する取組に向けて

適正服薬の推奨は、医薬品の有効性確保や副作用防止等、患者にとって安全かつ効果的な服薬に資するものである。

取組の例として、重複服薬者に対しては、レセプトデータから適切な指導対象者を抽出し、通知書の送付及び保健師、看護師等による適正服薬についての指導を実施することなどが挙げられる。多剤服薬者に対しては、レセプトデータから多剤服薬が発生している対象者を特定し、対象者に自身の服薬情報を記載した通知書を送付することで、医師・薬剤師への相談を促すことなどが挙げられる。

複数種類の医薬品の投与・服用については、疾病や薬の組み合わせ等によってリスク・ベネフィットが異なるため、その適否については一概に判断できない点に留意しつつ、適切な服薬に関する普及啓発や医療機関・薬局と連携した服薬状況の確認及び併用禁忌の防止の取組など、複数種類の医薬品の投与・服用の適正化へ向けた取組が求められる。

6-3.薬剤の適正使用の推進に対する取組

お薬手帳の適切な活用やポリファーマシー等について周知・啓発することにより、薬剤の適正使用を推進する。

ポリファーマシーとは、単に服用する薬剤数が多いことではなく、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス低下等の問題につながる状態である(厚生労働省「高齢者の医薬品適正使用の指針」2018年5月)。薬剤の不適正な使用はポリファーマシーによるリスクを増大させるおそれがあり、被保険者に対してお薬手帳の適切な活用やポリファーマシーに関する周知・啓発を行う等、薬剤の適正使用を推進するための働きかけが必要である。

(1)薬剤の適正使用の推進に向けた基礎調査

薬剤の適正使用の推進に向けた基礎調査として、調剤レセプトよりお薬手帳の提示状況及びかかりつけ薬剤師の利用状況を確認する。

お薬手帳の提示状況

分析に用いたデータ

・調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

・お薬手帳の提示状況…「服薬管理指導料 3月以内再度処方箋」のうち、「手帳あり」の区分が算定されている患者を「手帳の提示あり」、「手帳なし」の区分が算定されている患者を「手帳の提示なし」と判定
算定された「服薬管理指導料 3月以内再度処方箋」について、すべて「手帳あり」の区分である患者を「すべてお薬手帳の提示あり」、「手帳あり」「手帳なし」の両方の区分が算定されている患者を「お薬手帳の提示あり・提示なし 混在」、すべて「手帳なし」の区分である患者を「すべてお薬手帳の提示なし」として集計している。

■お薬手帳の提示状況

患者が薬剤を安全に服用できるよう服用中の薬剤の確認や服用に関する説明、指導等を行った場合に適用される「服薬管理指導料」が算定された患者を対象として、その算定区分によりお薬手帳の提示状況を分析する。

「服薬管理指導料」が算定されている患者は調剤患者全体の99.6%であり、そのうちお薬手帳の提示有無の判別が可能である「服薬管理指導料 3月以内再度処方箋」(3カ月以内の再調剤)が算定されている患者は調剤患者全体の65.7%であった。

服薬管理指導料の算定患者数(分析対象者)

調剤レセプトが発生している患者全体(人)	7,955

	患者数(人)	割合(%)
服薬管理指導料の算定がある患者	7,926	99.6
うち、服薬管理指導料 3月以内再度処方箋の算定がある患者	5,229	65.7

割合…調剤レセプトが発生している患者全体に占める割合

「服薬管理指導料 3月以内再度処方箋」が算定されている患者について、お薬手帳の提示状況を以下に示す。

お薬手帳の提示状況

	患者数(人)	割合(%)
分析期間内にお薬手帳の提示が一度でもあり	3,686	70.5
すべてお薬手帳の提示あり	2,099	40.1
お薬手帳の提示あり・提示なし 混在	1,587	30.3
すべてお薬手帳の提示なし	1,543	29.5
服薬管理指導料 3月以内再度処方箋の算定がある患者	5,229	100.0

割合…「服薬管理指導料 3月以内再度処方箋」の算定がある患者に占める割合

「服薬管理指導料 3月以内再度処方箋」の算定がある患者のうち、
一度でもお薬手帳の提示あり
➡3,686件(70.5%)

かかりつけ薬剤師の利用状況

分析に用いたデータ

・調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

・かかりつけ薬剤師による服薬管理実施患者…かかりつけ薬剤師による服薬管理が行われている患者を集計。「かかりつけ薬剤師指導料」または「かかりつけ薬剤師包括管理料」が算定されたレセプトが1件でも発生している患者を対象とする。

※「かかりつけ薬剤師指導料」及び「かかりつけ薬剤師包括管理料」は、令和8年6月の調剤報酬改定にて廃止(服薬管理指導料等へ包括・移行)となるが、本分析は令和8年3月診療分までのレセプトデータの使用が主となるため、改定前の算定項目にて集計している。

■かかりつけ薬剤師による服薬管理が実施されている患者の状況

適切な服薬状況を管理するために、厚生労働省は患者が「かかりつけ薬剤師」を持つことを推奨している。かかりつけ薬剤師による服薬管理が実施されている患者については、服薬内容の一元管理や服薬指導・相談対応、継続的なフォローアップ、さらに医師や他の医療機関との連携を通じた包括的なサポートが行われていると考えられる。参考に、その患者数を掲載する。

かかりつけ薬剤師による服薬管理が実施されている患者の状況

	患者数(人)	割合(%)
かかりつけ薬剤師による服薬管理実施患者	280	3.5
調剤レセプトが発生している患者全体	7,955	100.0

なお、「かかりつけ薬剤師指導料」及び「かかりつけ薬剤師・包括管理料」は前述の「服薬管理指導料」と併用算定ができないものである。薬剤師による、より広範で継続的な薬学的管理・指導が求められており、「服薬管理指導料」よりも点数が高い薬学管理料である。

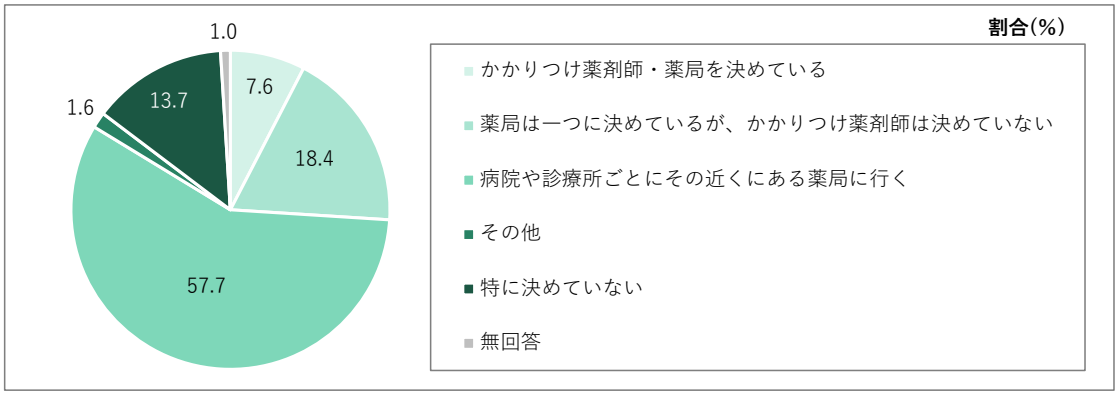
【参考】服薬管理指導料とかかりつけ薬剤師指導料

項目	主な要件	施設基準	点数	主な指導内容
服薬管理指導料	・3カ月以内の再調剤(手帳による情報提供あり)	なし	45点	・薬剤の服用に関する基本的な説明 ・患者への薬剤の服用等に関する必要な指導 ・継続的服薬指導(フォローアップ)
	・上記以外		59点	
かかりつけ薬剤師指導料	・当該薬局に複数回以上来局している患者 ・患者への説明と同意	・保険薬剤師として継続して3年以上の薬局勤務経験者の配置 ・当該保険薬局に週32時間以上(特例あり)勤務	76点	・かかりつけ薬剤師が、保険医と連携して患者の服薬状況を一元的・継続的に把握した上で患者に対して服薬指導等を行う ・処方薬をはじめ、要指導医薬品及び一般用医薬品、健康食品等についての全ての内容を薬剤服用歴等に記載する ・患者から休日、夜間を含む時間帯の相談に応じる体制をとり、開局時間外の連絡先を伝える

調剤報酬点数表に基づきデータホライゾンにて作成
令和8年6月実施の調剤報酬改定により要件等が変更となるが、改定前の要件を掲載している。

全国におけるかかりつけ薬剤師の利用状況について、令和2年度内閣府世論調査「薬局の利用に関する世論調査(令和2年10月調査)」をみると、調査対象者における「かかりつけ薬剤師・薬局を決めている」と答えた者の割合は7.6%であった。

【参考】令和2年度内閣府世論調査「薬局を一つに、薬剤師を一人に決めているか」(全国)



内閣府世論調査「薬局の利用に関する世論調査(令和2年10月調査)」(https://survey.gov-online.go.jp/r02/r02-yakkyoku/)をもとに株式会社データホライゾンにて作成
調査対象は、全国18歳以上の日本国籍を有する者3,000人。うち、有効回収数は1,944人(回収率64.8%)

(2)薬剤の適正使用の推進に向けて

薬剤の不適正な使用による健康被害のリスクや医療費の増大等を防ぐためにも、服用薬の一元的かつ継続的な把握ができるよう、お薬手帳を1冊にまとめて適切に活用することや、かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師を持つことの推奨が求められる。また、ポリファーマシーに関する情報の周知・啓発や、セルフメディケーション(自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること(WHOによる定義))の推進に向けた周知・啓発は、被保険者の自発的な健康管理や疾病予防の取組を促進し、薬剤の適正使用に向けた被保険者自身の意識向上につながると考えられる。

7.後発医薬品(ジェネリック医薬品)使用促進に関する取組

先発医薬品から後発医薬品(ジェネリック医薬品)への切り替えを患者に促し、普及率の向上及び薬剤費の削減を図る。

後発医薬品(ジェネリック医薬品)は、先発医薬品と治療学的に同等であるものとして製造販売が承認され、一般的に研究開発に要する費用が低く抑えられることから、先発医薬品に比べて薬価が安くなっている。ジェネリック医薬品を普及させることで、医療の質を保ちつつ患者負担の軽減や医療費の削減を図ることが可能である。厚生労働省は、医薬品の安定的な供給を基本としつつ、2029年度末までにジェネリック医薬品の数量シェア80%以上、金額シェア65%以上となるよう目標を設定している。

ここでは、ジェネリック医薬品の普及率について現状を把握するとともに、ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャルを分析した。

(1)後発医薬品(ジェネリック医薬品)普及率

ジェネリック医薬品普及率

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

・集計対象薬剤…厚生労働省のジェネリック普及率算出方法に基づき、以下に該当する医薬品を除外
☆後発医薬品がある先発医薬品で後発医薬品と同額または薬価が低いもの
★後発医薬品で先発医薬品と同額または薬価が高いもの

・ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)…ジェネリック医薬品薬剤数量/(ジェネリック医薬品薬剤数量+先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量)×100

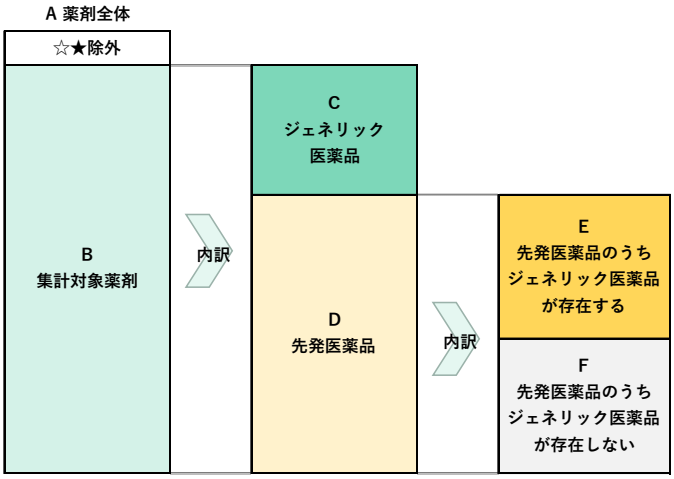
・ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)…ジェネリック医薬品薬剤費/(ジェネリック医薬品薬剤費+先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在する金額範囲)×100

■ジェネリック医薬品普及率

医科調剤レセプトより、ジェネリック医薬品、先発医薬品の状況及びジェネリック医薬品普及率を集計した。

分析期間のジェネリック医薬品普及率は、数量ベースで89.6%、金額ベースで69.4%となっている。数量ベース、金額ベースともに国の目標値に達している。

ジェネリック医薬品及び先発医薬品の状況



		数量ベース	構成比(%)
A	薬剤総量	9,249,332	
B	集計対象薬剤 薬剤数量	6,581,990	100.0
C	ジェネリック医薬品薬剤数量	3,944,342	59.9
D	先発品薬剤数量	2,637,648	40.1
E	先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量	456,651	6.9
F	先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在しない数量	2,180,997	33.1
C/(C+E)	**ジェネリック医薬品普及率(%)**	**89.6**	

ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)

89.6%

		金額ベース	構成比(%)
A	薬剤費全体(円)	599,263,293	
B	集計対象薬剤 薬剤費(円)	520,143,823	100.0
C	ジェネリック医薬品薬剤費(円)	71,968,277	13.8
D	先発品薬剤費(円)	448,175,546	86.2
E	先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在する金額範囲(円)	31,682,214	6.1
F	先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在しない金額範囲(円)	416,493,332	80.1
C/(C+E)	**ジェネリック医薬品普及率(%)**	**69.4**	

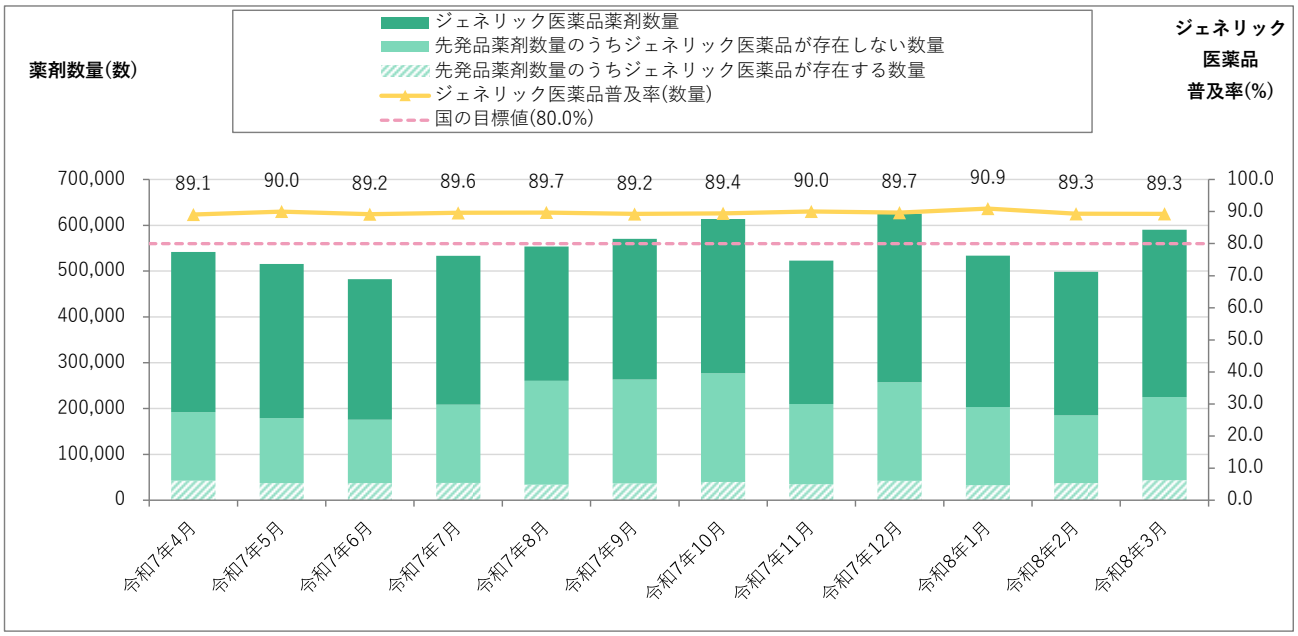
ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)

69.4%

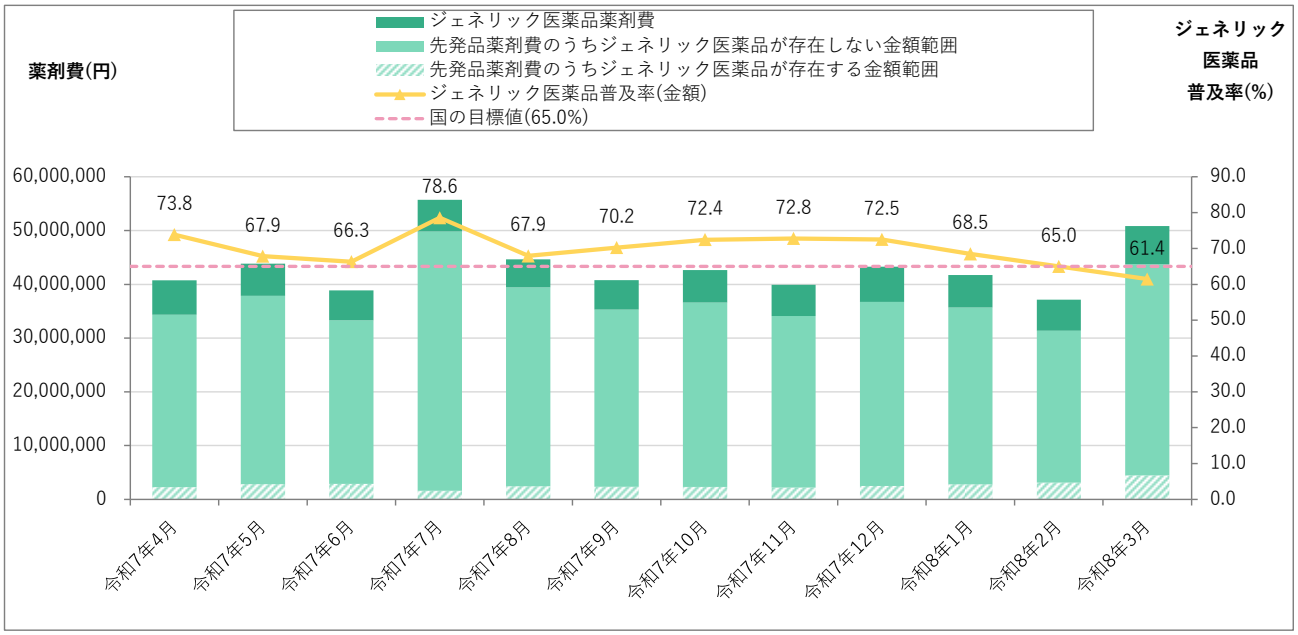
■月別 ジェネリック医薬品普及率

診療年月毎のジェネリック医薬品普及率を以下に示す。分析期間の初月と最終月を比較すると、ジェネリック医薬品普及率は数量ベースで0.2ポイント上昇し、金額ベースで12.4ポイント低下している。

月別 ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)



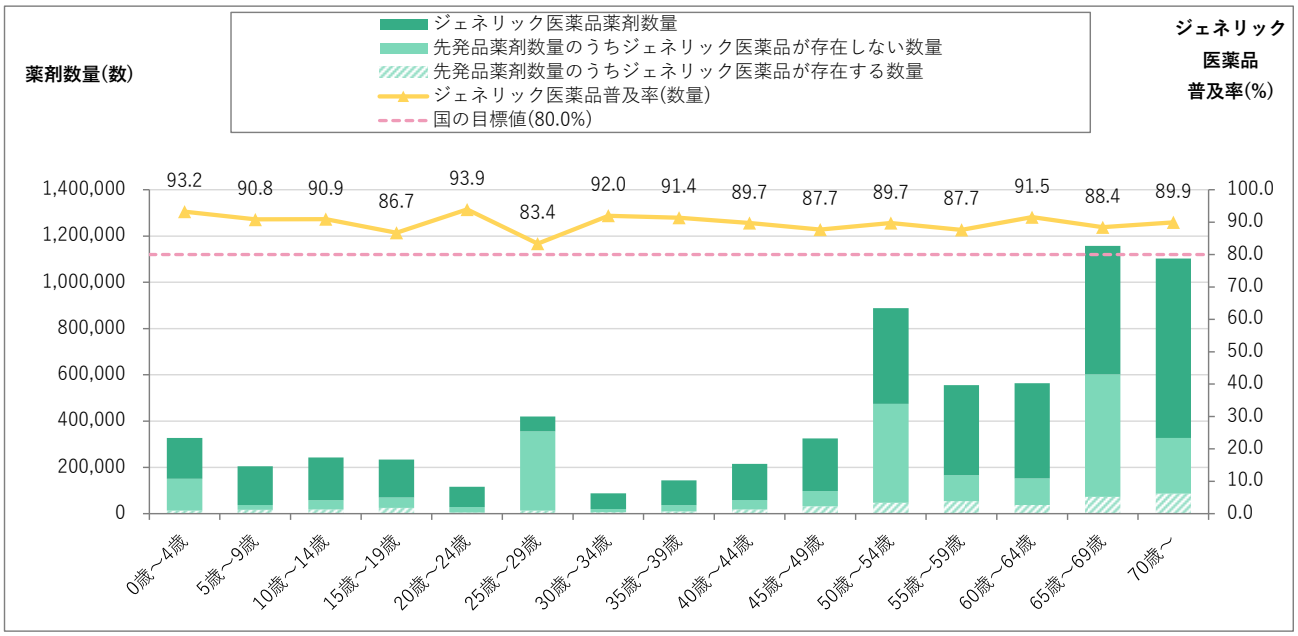
月別 ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)



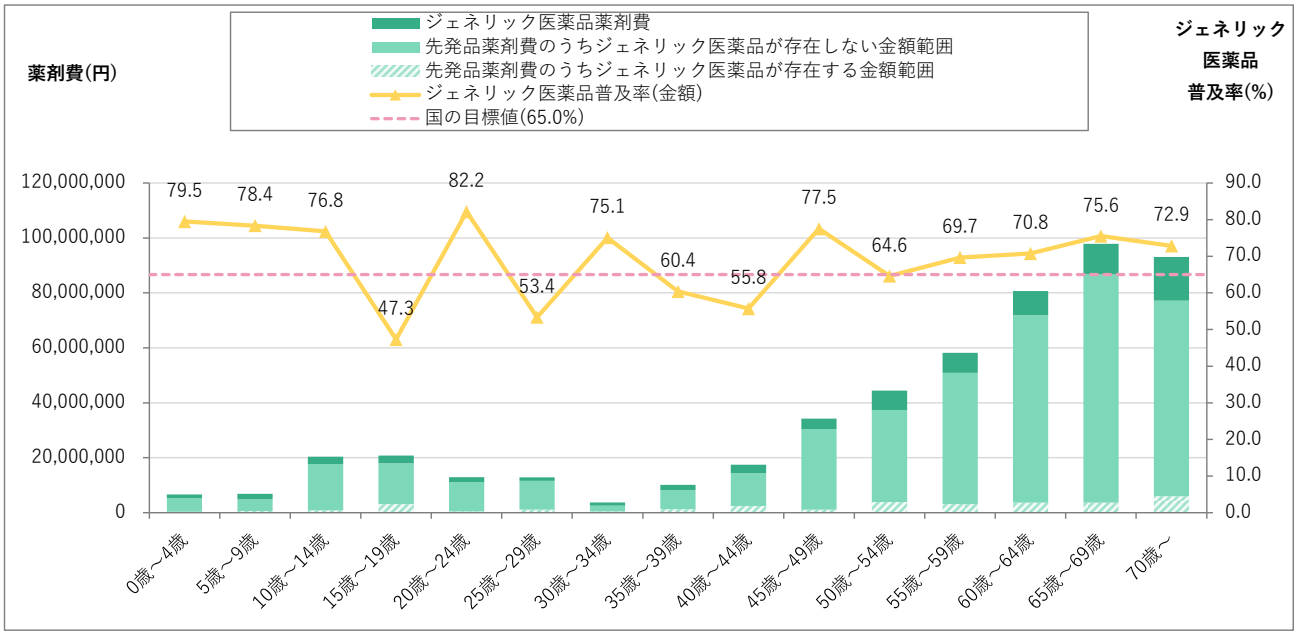
■年齢階層別 ジェネリック医薬品普及率

ジェネリック医薬品普及率を年齢階層別に以下に示す。

年齢階層別 ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)



年齢階層別 ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)



年度分析 ジェネリック医薬品普及率

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和5年4月～令和8年3月診療分(36カ月分)

資格条件等

・資格確認日…各年度、1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

・集計対象薬剤…厚生労働省のジェネリック普及率算出方法に基づき、以下に該当する医薬品を除外
☆後発医薬品がある先発医薬品で後発医薬品と同額または薬価が低いもの
★後発医薬品で先発医薬品と同額または薬価が高いもの

・ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)…ジェネリック医薬品薬剤数量/(ジェネリック医薬品薬剤数量+先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量)×100

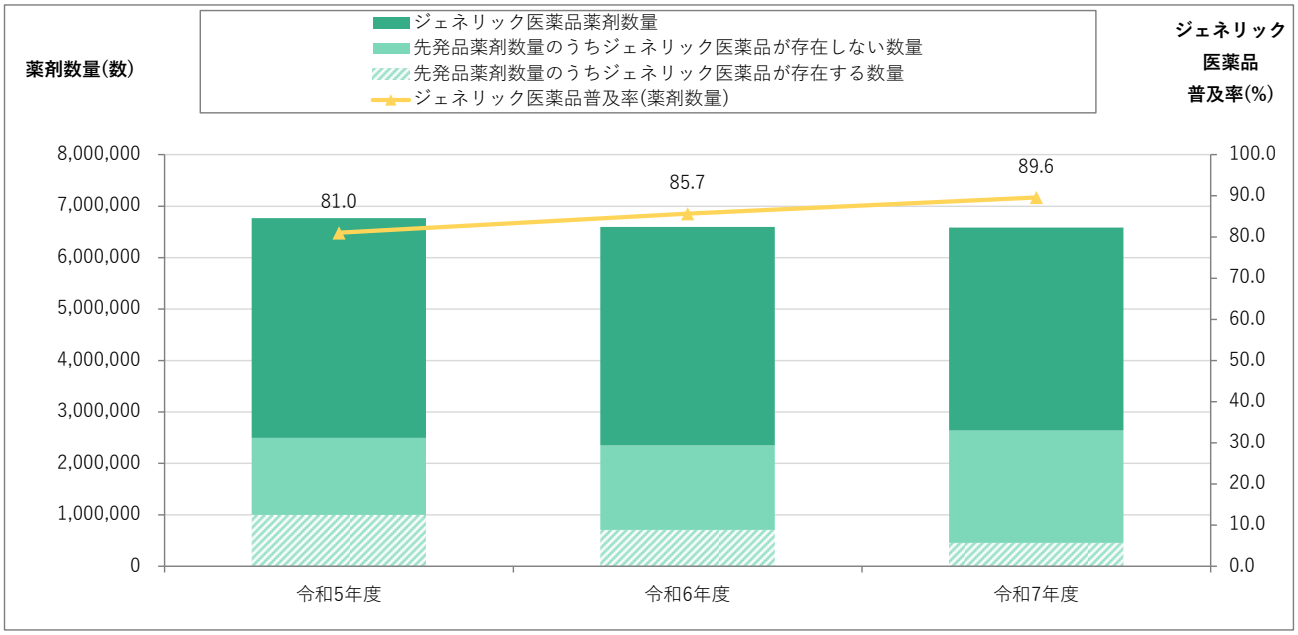
・ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)…ジェネリック医薬品薬剤費/(ジェネリック医薬品薬剤費+先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在する金額範囲)×100

■年度別 ジェネリック医薬品普及率

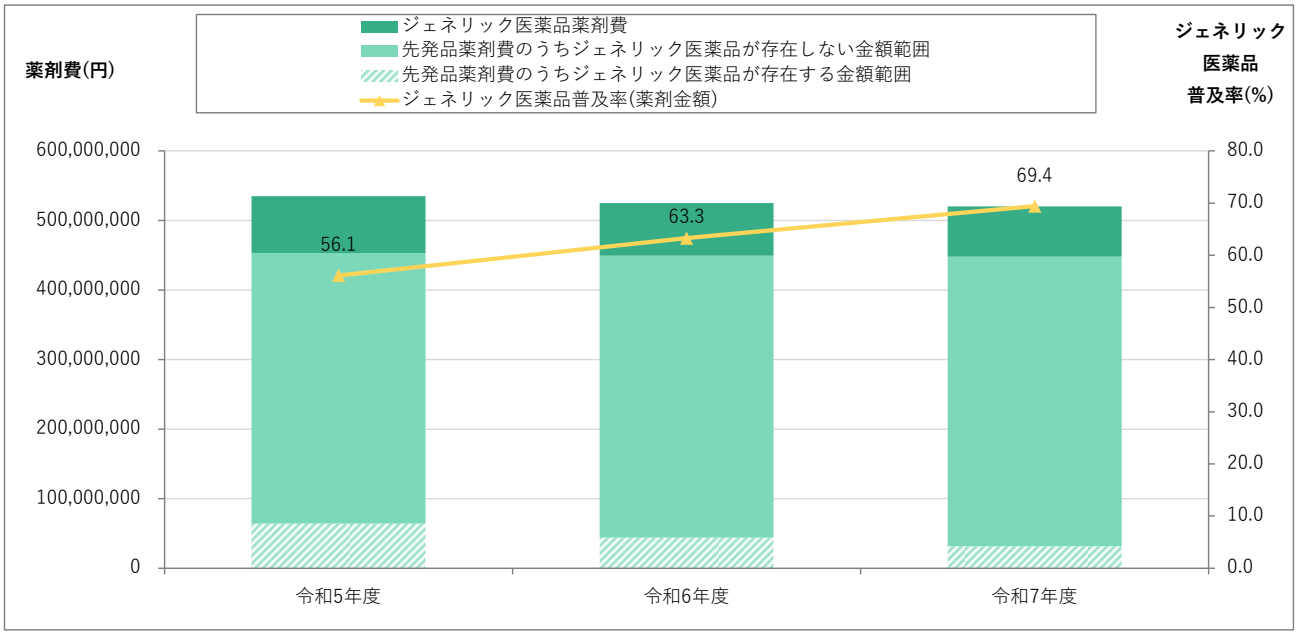
令和5年度から令和7年度における、ジェネリック医薬品普及率を年度別に示す。

令和7年度普及率(数量ベース)89.6%は令和5年度81.0%より8.6ポイント上昇し、令和7年度普及率(金額ベース)69.4%は令和5年度56.1%より13.3ポイント上昇している。

年度別 ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)



年度別 ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)



(2)後発医薬品(ジェネリック医薬品)への切り替えポテンシャル

ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャル(数量・金額)

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

・集計対象薬剤…厚生労働省のジェネリック普及率算出方法に基づき、以下に該当する医薬品を除外
☆後発医薬品がある先発医薬品で後発医薬品と同額または薬価が低いもの
★後発医薬品で先発医薬品と同額または薬価が高いもの

・ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)…ジェネリック医薬品薬剤数量/(ジェネリック医薬品薬剤数量+先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量)×100

・ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)…ジェネリック医薬品薬剤費/(ジェネリック医薬品薬剤費+先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在する金額範囲)×100

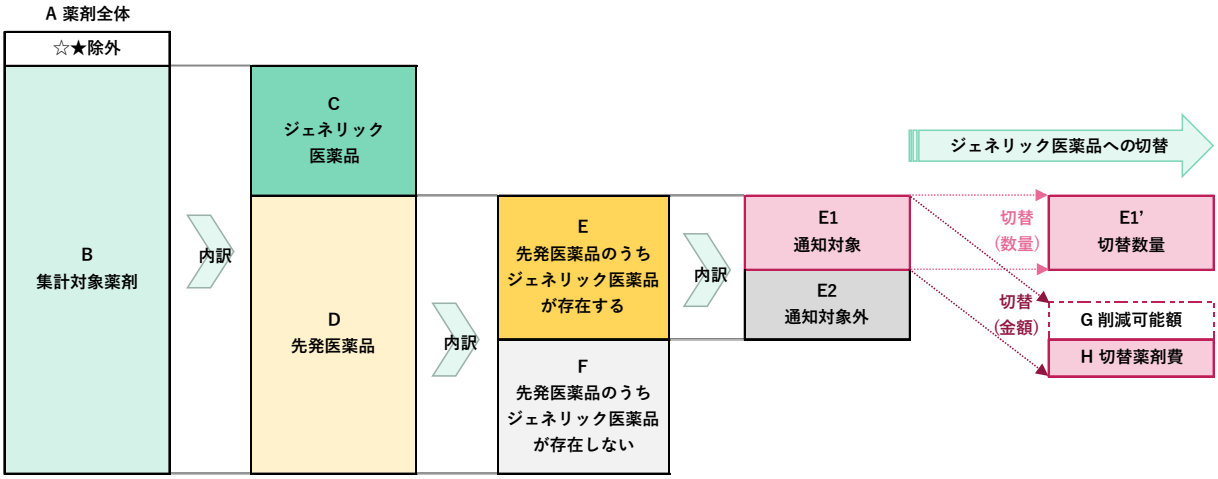
・通知対象薬剤…先発医薬品のうちジェネリック医薬品が存在する薬剤について、株式会社データホライゾン通知対象薬剤基準により選定。ジェネリック医薬品が存在しても、入院、処置に使用した医薬品及び、がん・精神疾患・短期処方等、通知対象として不適切な場合は含まない。

・削減可能額…通知対象のジェネリック医薬品範囲のうち、後発品へ切り替える事により削減可能な金額

■ジェネリック医薬品切り替えポテンシャル(数量・金額)

先発医薬品のうちジェネリック医薬品が存在する数量・金額範囲(E)について、通知対象薬剤(E1)をジェネリック医薬品に切り替えた場合、数量ベースの普及率は現在の89.6%から93.5%となり、削減可能額(G)は198万円となる。

ジェネリック医薬品切り替えポテンシャル



		数量ベース	構成比(%)
A	薬剤総量	9,249,332	
B	集計対象薬剤 薬剤数量	6,581,990	100.0
C	ジェネリック医薬品薬剤数量	3,944,342	59.9
D	先発品薬剤数量	2,637,648	40.1
E	先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量	456,651	6.9
E1	Eのうち通知対象の数量	171,241	2.6
E2	Eのうち通知対象外の数量	285,410	4.3
F	先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在しない数量	2,180,997	33.1
C/(C+E)	ジェネリック医薬品普及率(%)	89.6	
(C+E1)/(C+E)	**切替後のジェネリック医薬品普及率(%)**	**93.5**	

ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)

現状	89.6%
切替	
切替後	93.5%

		金額ベース	構成比(%)
A	薬剤費全体(円)	599,263,293	
B	集計対象薬剤 薬剤費(円)	520,143,823	100.0
C	ジェネリック医薬品薬剤費(円)	71,968,277	13.8
D	先発品薬剤費(円)	448,175,546	86.2
E	先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在する金額範囲(円)	31,682,214	6.1
E1	Eのうち通知対象の金額範囲(円)	4,348,947	0.8
E2	Eのうち通知対象外の金額範囲(円)	27,333,268	5.3
F	先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在しない金額範囲(円)	416,493,332	80.1
C/(C+E)	ジェネリック医薬品普及率(%)	69.4	
G	**切替による削減可能額(円)**	**1,981,290**	
H	切替薬剤費(円)	2,367,657	
(C+H)/(C+E-G)	切替後のジェネリック医薬品普及率(%)	73.1	

削減可能額

198万円

ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャル(患者数)

分析に用いたデータ

・入院外、調剤のレセプトデータ…令和8年3月診療分(1カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

・集計対象薬剤…厚生労働省のジェネリック普及率算出方法に基づき、以下に該当する医薬品を除外
☆後発医薬品がある先発医薬品で後発医薬品と同額または薬価が低いもの
★後発医薬品で先発医薬品と同額または薬価が高いもの

・通知対象薬剤…先発医薬品のうちジェネリック医薬品が存在する薬剤について、株式会社データホライゾン通知対象薬剤基準により選定。ジェネリック医薬品が存在しても、入院、処置に使用した医薬品及び、がん・精神疾患・短期処方等、通知対象として不適切な場合は含まない。

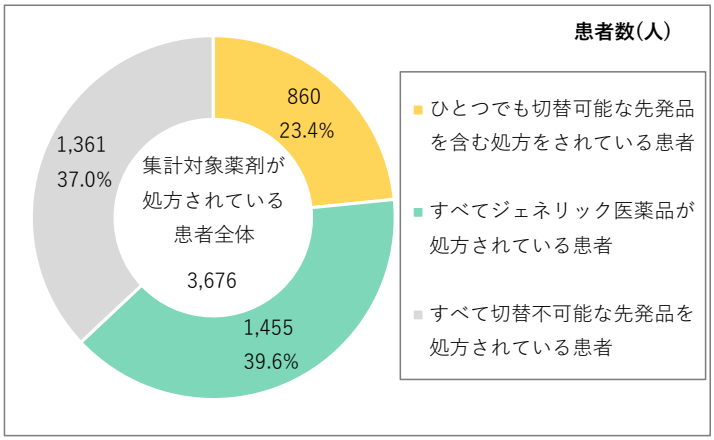
■ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャル(患者数)

分析対象月のレセプトについて、薬剤処方状況別の患者数を示す。

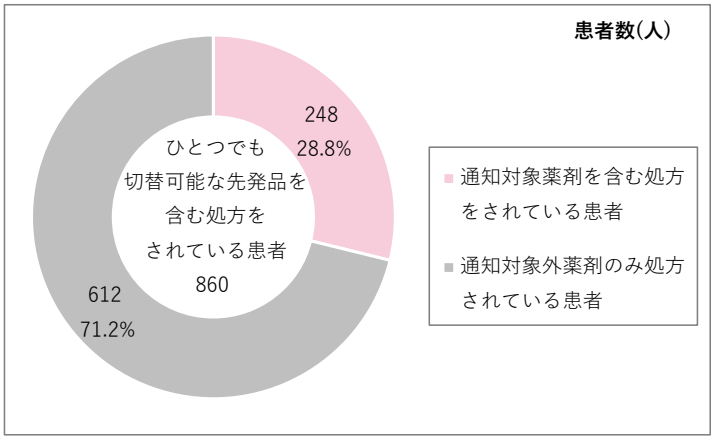
集計対象薬剤が処方されている患者全体3,676人(入院レセプトのみの患者は除く)のうち、ひとつでもジェネリック医薬品に切り替え可能な先発品を含む処方をされている患者は860人で、患者全体の23.4%を占める。

また、ひとつでもジェネリック医薬品に切り替え可能な先発品を含む処方をされている患者860人のうち、通知対象薬剤を含む処方をされている患者は248人(28.8%)である。

ジェネリック医薬品切り替えポテンシャル



「ひとつでも切替可能な先発品を含む処方をされている患者」の内訳



(3)後発医薬品(ジェネリック医薬品)使用促進に関する取組に向けて

ジェネリック医薬品の使用を促進し、普及率を上昇させることで、医療の質を保ちつつ患者負担の軽減や医療費の削減を図ることが可能である。

ジェネリック医薬品の使用促進に向けた取組の例として、ジェネリック医薬品差額通知事業の実施方法を示す。はじめに、レセプトデータからジェネリック医薬品の使用率が低く、ジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が一定以上の対象者を特定し、その軽減額を記載した通知書を発送する。差額通知事業の成果については、通知発送後のレセプトデータを用いて、ジェネリック医薬品の使用率と薬剤費削減状況を確認する。差額通知事業によって、ジェネリック医薬品の有効性・安全性や使用によるメリット等を患者に周知し、普及率の向上を目指す。

8.こどもの医療の適正化等の取組

こどもの医療の適正化等に向けて、適正な受診を促す周知・啓発や、抗菌薬の適正使用につながる取組を実施する。

「こども未来戦略」(令和5年12月22日閣議決定)において、「おおむね全ての地方自治体において実施されているこども医療費助成について、国民健康保険の国庫負担の減額調整措置を廃止する。あわせて、適正な抗菌薬使用などを含め、こどもにとってより良い医療の在り方について、社会保障審議会医療保険部会などにおける意見も踏まえつつ検討し、その結果に基づき必要な措置を講ずる。」とされた。こども医療費助成の国庫負担の減額調整措置の廃止により、今後こどもの医療費助成の内容や範囲がより一層拡充等されることで、こども(保護者を含む。)の受診行動の変容や、抗菌薬の処方などの医療機関での診療内容への影響、小児医療提供体制への影響等の課題が見込まれる。

こどもにとってより良い医療の実現を目指すとともに、限られた医療資源の適切な配分を図るため、こどもの医療の適正化等に向けた取組が求められる。

(1)20歳未満の入院外受診状況

はじめに、20歳未満の入院外受診状況を分析し、こどもの入院外医療費や受診動向について現状を把握する。

20歳未満の入院外受診状況

分析に用いたデータ

・入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。
・年齢範囲…20歳未満を分析対象とする。

集計定義等

・受診率…被保険者一人当たりのレセプト件数。集計に調剤レセプトを含まない。
・一件当たりの日数…集計に調剤レセプトを含まない。
・一日当たりの医療費…医療費の集計に調剤レセプトを含む。日数の集計に調剤レセプトを含まない。

■入院外医療費統計

20歳未満の入院外医療費統計を以下に示す。被保険者一人当たりの医療費を構成する三要素について、受診率(被保険者一人当たりのレセプト件数)は受診動向や感染症の流行に影響を受けやすく、医療機関を受診する人が多いと高くなる。一件当たりの日数(レセプト一件当たりの診療実日数)は、通院頻度等の影響を受ける。一日当たりの医療費は、医療費の単価(一回の診療にかかる医療費)を表す。

20歳未満における入院外基礎統計

年齢階層		A	B			C	D
		被保険者数(人)	レセプト件数(件)			医療費(円)	患者数(人)
			入院外	調剤	合計		
乳幼児・就学前	0歳～2歳	281	2,586	1,719	4,305	33,446,150	262
	3歳～6歳	443	4,209	2,522	6,731	49,759,490	431
学童期以降	7歳～9歳	414	3,056	1,952	5,008	30,728,360	395
	10歳～12歳	429	3,069	1,985	5,054	39,619,680	403
	13歳～15歳	482	3,118	1,942	5,060	43,329,250	448
	16歳～18歳	527	3,026	1,846	4,872	45,291,350	476
	19歳	189	449	273	722	4,986,410	123
合計		2,765	19,513	12,239	31,752	247,160,690	2,538

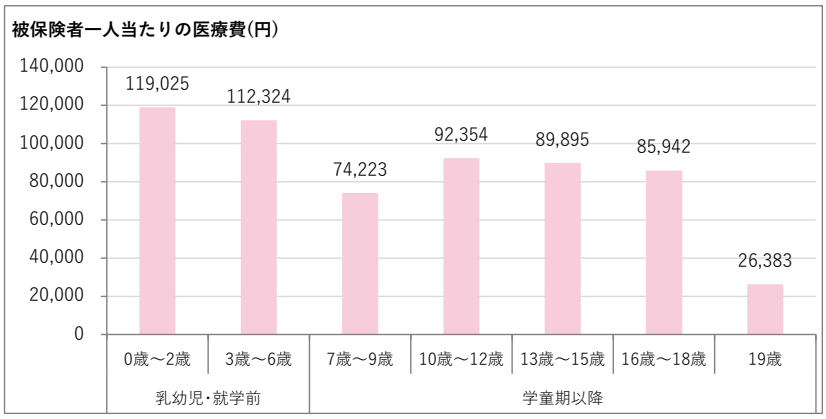
年齢階層		C/A	C/B	C/D	D/A	医療費の三要素		
		被保険者一人当たりの医療費(円)	レセプト一件当たりの医療費(円)	患者一人当たりの医療費(円)	患者割合(%)	受診率(件/人)	一件当たりの日数(日)	一日当たりの医療費(円)
乳幼児・就学前	0歳～2歳	119,025	7,769	127,657	93.2	9.20	1.54	8,408
	3歳～6歳	112,324	7,393	115,451	97.3	9.50	1.43	8,268
学童期以降	7歳～9歳	74,223	6,136	77,793	95.4	7.38	1.30	7,723
	10歳～12歳	92,354	7,839	98,312	93.9	7.15	1.35	9,598
	13歳～15歳	89,895	8,563	96,717	92.9	6.47	1.30	10,691
	16歳～18歳	85,942	9,296	95,150	90.3	5.74	1.26	11,838
	19歳	26,383	6,906	40,540	65.1	2.38	1.20	9,286
合計		89,389	7,784	97,384	91.8	7.06	1.36	9,320

被保険者数は最新の被保険者マスタから人数を集計している。患者数はレセプトが発生している人数を集計している。被保険者マスタは加入、脱退で人数の増減があり、発生レセプトから集計している患者数が被保険者数を上回ることがあるため、患者割合が100%を超える可能性がある。

20歳未満の被保険者
一人当たりの入院外医療費
⇒89,389円

被保険者一人当たりの入院外
医療費が最も高い年齢階層
⇒0歳～2歳(119,025円)

20歳未満における被保険者一人当たりの入院外医療費



20歳未満における医療費の三要素(入院外)

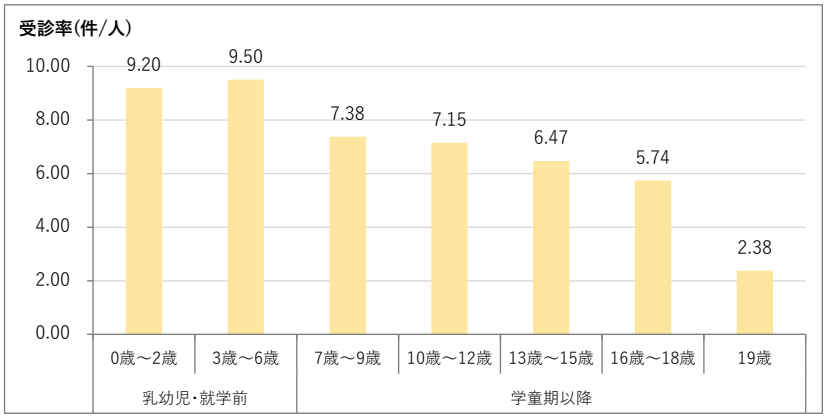
受診率

20歳未満の受診率

⇒7.06件/人

受診率が最も高い年齢階層

⇒3歳～6歳(9.50件/人)



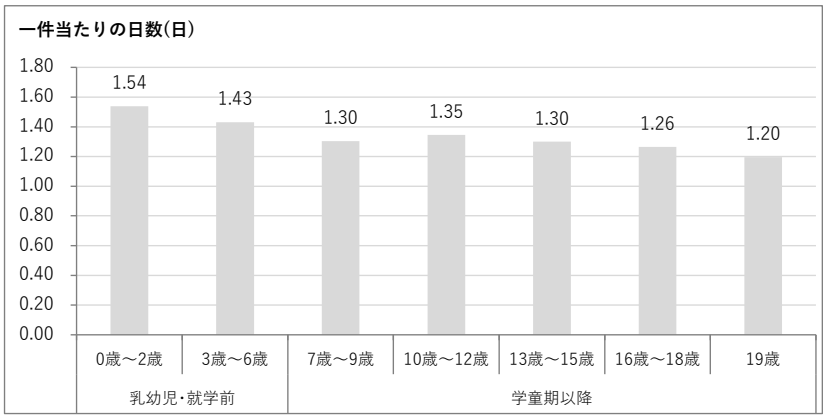
一件当たりの日数

20歳未満の一件当たりの日数

⇒1.36日

一件当たりの日数が最も多い年齢階層

⇒0歳～2歳(1.54日)



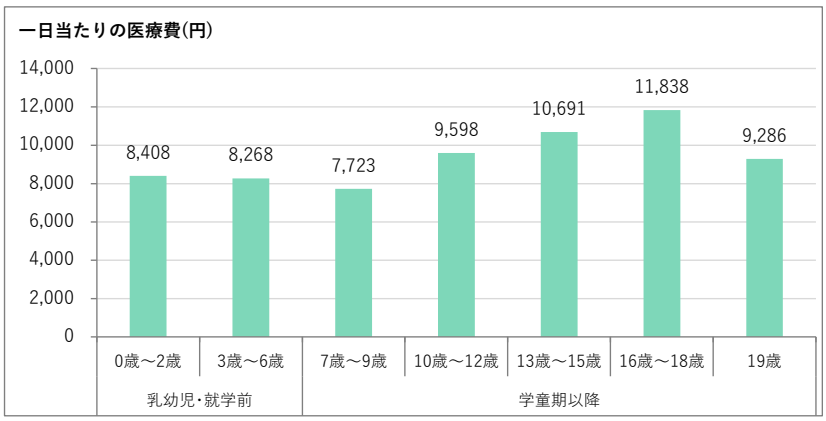
一日当たりの医療費

20歳未満の一日当たりの医療費

⇒9,320円

一日当たりの医療費が最も高い年齢階層

⇒16歳～18歳(11,838円)



■入院外受診の疾病傾向

20歳未満の入院外医療費上位10疾病を示す。

20歳未満における入院外医療費上位10疾病

単位:円

年齢階層		1位	2位	3位	4位	5位
乳幼児・就学前	0歳～2歳	1003 その他の急性上気道感染症	1202 皮膚炎及び湿疹	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	0106 その他のウイルス性疾患	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患
		4,638,490	4,230,676	3,159,347	2,663,167	2,326,475
	3歳～6歳	1003 その他の急性上気道感染症	1202 皮膚炎及び湿疹	0507 その他の精神及び行動の障害	1011 その他の呼吸器系の疾患	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎
		5,905,544	5,088,084	4,624,122	4,387,999	3,744,777
学童期以降	7歳～9歳	1011 その他の呼吸器系の疾患	0507 その他の精神及び行動の障害	1006 アレルギー性鼻炎	1003 その他の急性上気道感染症	1010 喘息
		2,951,830	2,881,561	2,708,155	2,419,226	2,169,411
	10歳～12歳	1202 皮膚炎及び湿疹	1011 その他の呼吸器系の疾患	0404 その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	1006 アレルギー性鼻炎	0507 その他の精神及び行動の障害
		4,282,365	3,160,300	3,106,374	2,598,684	2,501,053
	13歳～15歳	1202 皮膚炎及び湿疹	1006 アレルギー性鼻炎	0507 その他の精神及び行動の障害	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	1011 その他の呼吸器系の疾患
		4,573,564	3,206,471	3,191,419	3,082,141	3,063,854
	16歳～18歳	1202 皮膚炎及び湿疹	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	1011 その他の呼吸器系の疾患	1113 その他の消化器系の疾患	1905 その他の損傷及びその他の外因の影響
		5,600,751	3,114,016	3,098,744	2,887,929	2,844,753
	19歳	1011 その他の呼吸器系の疾患	1905 その他の損傷及びその他の外因の影響	1202 皮膚炎及び湿疹	1105 胃炎及び十二指腸炎	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患
		427,058	412,570	386,498	307,994	284,353
全体		1202 皮膚炎及び湿疹	1003 その他の急性上気道感染症	1011 その他の呼吸器系の疾患	0507 その他の精神及び行動の障害	1006 アレルギー性鼻炎
		25,741,666	18,753,675	18,348,112	15,458,525	14,549,502

年齢階層		6位	7位	8位	9位	10位
乳幼児・就学前	0歳～2歳	0803 中耳炎	1011 その他の呼吸器系の疾患	1010 喘息	1006 アレルギー性鼻炎	1002 急性咽頭炎及び急性扁桃炎
		1,721,269	1,258,327	1,224,533	1,128,207	1,113,082
	3歳～6歳	1010 喘息	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	1006 アレルギー性鼻炎	1002 急性咽頭炎及び急性扁桃炎	1800 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
		3,006,688	2,343,899	2,184,695	1,509,025	1,474,857
学童期以降	7歳～9歳	1202 皮膚炎及び湿疹	1905 その他の損傷及びその他の外因の影響	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	0701 結膜炎
		1,579,728	1,406,848	1,311,691	1,201,433	1,123,059
	10歳～12歳	1905 その他の損傷及びその他の外因の影響	1010 喘息	1003 その他の急性上気道感染症	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	1800 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
		2,268,808	2,122,138	2,108,930	1,625,334	1,318,537
	13歳～15歳	0404 その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	1905 その他の損傷及びその他の外因の影響	1003 その他の急性上気道感染症	1010 喘息	1310 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患
		2,728,197	2,657,261	1,977,531	1,904,308	1,399,679
	16歳～18歳	1006 アレルギー性鼻炎	0606 その他の神経系の疾患	0507 その他の精神及び行動の障害	1003 その他の急性上気道感染症	2220 その他の特殊目的用コード
		2,597,012	2,118,565	2,023,636	1,505,466	1,426,449
	19歳	2220 その他の特殊目的用コード	1003 その他の急性上気道感染症	1002 急性咽頭炎及び急性扁桃炎	0504 気分［感情］障害（躁うつ病を含む）	1800 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
		252,336	198,488	195,816	194,105	136,547
全体		1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	1010 喘息	1905 その他の損傷及びその他の外因の影響	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	1800 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
		14,087,909	11,462,804	11,275,442	10,866,019	6,526,494

疾病分類表における中分類単位で集計。下段は入院外医療費

次に、20歳未満の受診動向を把握するため、入院外レセプト件数上位10疾病を示す。

20歳未満における入院外レセプト件数上位10疾病

単位:件

年齢階層		1位	2位	3位	4位	5位
乳幼児・就学前	0歳～2歳	1003 その他の急性上気道感染症	1202 皮膚炎及び湿疹	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	1006 アレルギー性鼻炎
		1,398	1,157	967	866	637
	3歳～6歳	1003 その他の急性上気道感染症	1202 皮膚炎及び湿疹	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	1006 アレルギー性鼻炎	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患
		2,043	1,236	1,232	1,135	984
学童期以降	7歳～9歳	1003 その他の急性上気道感染症	1006 アレルギー性鼻炎	1011 その他の呼吸器系の疾患	1010 喘息	1202 皮膚炎及び湿疹
		1,333	1,227	898	821	770
	10歳～12歳	1006 アレルギー性鼻炎	1003 その他の急性上気道感染症	1011 その他の呼吸器系の疾患	1202 皮膚炎及び湿疹	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患
		1,195	1,161	817	801	780
	13歳～15歳	1006 アレルギー性鼻炎	1003 その他の急性上気道感染症	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	1011 その他の呼吸器系の疾患	1010 喘息
		1,195	1,070	891	806	585
	16歳～18歳	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	1006 アレルギー性鼻炎	1011 その他の呼吸器系の疾患	1003 その他の急性上気道感染症	2220 その他の特殊目的用コード
		927	881	865	771	680
	19歳	1011 その他の呼吸器系の疾患	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	2220 その他の特殊目的用コード	1002 急性咽頭炎及び急性扁桃炎	1202 皮膚炎及び湿疹
		140	121	120	114	111
全体		1003 その他の急性上気道感染症	1006 アレルギー性鼻炎	1202 皮膚炎及び湿疹	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎
		7,875	6,343	5,283	5,172	4,626

年齢階層		6位	7位	8位	9位	10位
乳幼児・就学前	0歳～2歳	1001 急性鼻咽頭炎［かぜ］＜感冒＞	1010 喘息	1011 その他の呼吸器系の疾患	0101 腸管感染症	1002 急性咽頭炎及び急性扁桃炎
		392	391	363	346	309
	3歳～6歳	1010 喘息	1011 その他の呼吸器系の疾患	1800 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0101 腸管感染症	1002 急性咽頭炎及び急性扁桃炎
		963	693	588	587	502
学童期以降	7歳～9歳	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	2220 その他の特殊目的用コード	1800 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0701 結膜炎
		654	603	497	481	424
	10歳～12歳	1010 喘息	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	1800 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2220 その他の特殊目的用コード	0701 結膜炎
		744	572	509	442	436
	13歳～15歳	1202 皮膚炎及び湿疹	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	2220 その他の特殊目的用コード	1905 その他の損傷及びその他の外因の影響	1800 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
		584	579	559	489	464
	16歳～18歳	1202 皮膚炎及び湿疹	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	1800 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1002 急性咽頭炎及び急性扁桃炎	1905 その他の損傷及びその他の外因の影響
		624	537	508	478	475
	19歳	1003 その他の急性上気道感染症	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	1006 アレルギー性鼻炎	1800 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1105 胃炎及び十二指腸炎
		99	85	73	68	64
全体		1011 その他の呼吸器系の疾患	1010 喘息	1800 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2220 その他の特殊目的用コード	1002 急性咽頭炎及び急性扁桃炎
		4,582	3,810	2,922	2,670	2,665

疾病分類表における中分類単位で集計。下段は入院外レセプト件数(調剤レセプトを含まない。)

(2)こどもの抗菌薬処方状況

「医療費適正化に関する施策についての基本的な方針」(令和5年7月20日厚生労働省告示第234号)において、急性気道感染症及び急性下痢症の患者に対する抗菌薬の処方といった、効果が乏しいというエビデンスがあることが指摘されている医療等について、医師の判断に基づき必要な場合があることに留意しつつ、地域の実情を把握するとともに、医療資源の効果的かつ効率的な活用に向けて必要な取組について検討し、実施していくこととされた。抗菌薬については、「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン(2023-2027)」(令和5年4月7日国際的に脅威となる感染症対策の強化のための国際連携等関係閣僚会議決定)に基づき、その適正使用に向けて今後更なる取組が進められていくところである。

患者数が多い急性気道感染症や急性下痢症では、入院外の診療において抗菌薬をはじめとする抗微生物薬が必要な状況は限定されており、また急性気道感染症の原因微生物はほとんどがウイルス性で、細菌が関与する症例はごく一部であるとされている。ただし、小児の感染症においては、年齢毎に考慮すべき病態や合併症の頻度が異なるため、年齢を加味した診療が必要である。(参考資料:厚生労働省「抗微生物薬適正使用の手引き 第四版」)

こどもの抗菌薬の処方については、こども医療費助成の国庫負担の減額調整措置の廃止による影響も見込まれている。

ここでは、こどもの抗菌薬処方の現状を把握するため、20歳未満を対象として、抗菌薬が処方されたレセプトの分析を行った。

20歳未満の抗菌薬処方状況

分析に用いたデータ

・入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。
・年齢範囲…20歳未満を分析対象とする。

集計定義等

・抗菌薬…ATC分類(WHOによる医薬品分類方法)のJ01全身用抗菌薬に該当する内服薬を対象に集計

■抗菌薬処方状況

はじめに、抗菌薬が処方されたレセプトについての基礎集計を行った。20歳未満における抗菌薬処方状況は以下のとおりである。

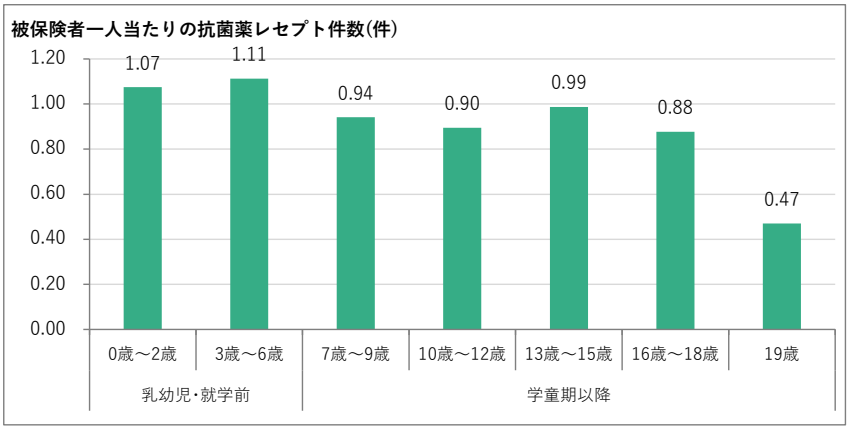
20歳未満における抗菌薬処方状況

年齢階層		A	B	C	B/A	C/A
		被保険者数（人）	抗菌薬の処方状況			
			レセプト件数（件）	患者数（人）	被保険者一人当たりの抗菌薬レセプト件数(件)	被保険者に占める抗菌薬処方患者割合(%)
乳幼児・就学前	0歳～2歳	281	302	103	1.07	36.7
	3歳～6歳	443	493	234	1.11	52.8
学童期以降	7歳～9歳	414	390	213	0.94	51.4
	10歳～12歳	429	384	198	0.90	46.2
	13歳～15歳	482	476	240	0.99	49.8
	16歳～18歳	527	462	249	0.88	47.2
	19歳	189	89	58	0.47	30.7
合計		2,765	2,596	1,295	0.94	46.8

20歳未満における被保険者一人当たりの抗菌薬レセプト件数

20歳未満の被保険者一人当たりの抗菌薬レセプト件数
⇒0.94件

被保険者一人当たりの抗菌薬レセプト件数が最も多い年齢階層
⇒3歳～6歳（1.11件）



■抗菌薬処方の疾病傾向

20歳未満における抗菌薬処方レセプト件数上位10疾病を以下に示す。なお、以下に示す疾病は抗菌薬の処方があるレセプト件数を疾病別に集計したものであり、不適切な処方を示すものではないことに留意が必要である。

20歳未満における抗菌薬処方レセプト件数上位10疾病

単位:件

年齢階層		1位	2位	3位	4位	5位
乳幼児・就学前	0歳～2歳	急性気管支炎	急性咽頭喉頭炎	急性副鼻腔炎	急性上気道炎	急性中耳炎
		120	83	65	62	53
	3歳～6歳	急性気管支炎	急性咽頭喉頭炎	急性上気道炎	急性副鼻腔炎	急性中耳炎
		153	103	84	82	53
学童期以降	7歳～9歳	急性気管支炎	急性咽頭喉頭炎	急性副鼻腔炎	急性上気道炎	溶連菌感染症
		115	73	60	57	33
	10歳～12歳	急性気管支炎	急性咽頭喉頭炎	急性副鼻腔炎	急性上気道炎	急性咽頭炎
		126	83	67	33	31
	13歳～15歳	急性気管支炎	急性咽頭喉頭炎	急性副鼻腔炎	急性上気道炎	尋常性ざ瘡
		172	130	83	52	35
	16歳～18歳	急性気管支炎	急性咽頭喉頭炎	急性副鼻腔炎	咽頭炎	尋常性ざ瘡
		116	110	64	47	40
	19歳	急性気管支炎	急性咽頭喉頭炎	急性扁桃炎	咽頭炎	扁桃炎
		21	18	7	6	6
全体		急性気管支炎	急性咽頭喉頭炎	急性副鼻腔炎	急性上気道炎	急性咽頭炎
		823	600	426	327	157

年齢階層		6位	7位	8位	9位	10位
乳幼児・就学前	0歳～2歳	中耳炎	慢性副鼻腔炎	咽頭炎	副鼻腔炎	穿孔性中耳炎
		30	21	19	19	13
	3歳～6歳	溶連菌感染症	急性咽頭炎	慢性副鼻腔炎	咽頭炎	副鼻腔炎
		34	28	20	19	18
学童期以降	7歳～9歳	急性咽頭炎	急性中耳炎	咽頭炎	マイコプラズマ感染症	急性扁桃炎
		25	20	16	14	13
	10歳～12歳	咽頭炎	副鼻腔炎	急性中耳炎	溶連菌感染症	咽頭喉頭炎
		21	20	15	15	14
	13歳～15歳	急性咽頭炎	咽頭炎	副鼻腔炎	表在性皮膚感染症	咽頭喉頭炎
		35	28	26	23	17
	16歳～18歳	急性上気道炎	表在性皮膚感染症	急性咽頭炎	膿疱性ざ瘡	毛包炎
		34	27	24	18	16
	19歳	急性咽頭炎	急性副鼻腔炎	急性上気道炎	顔面尋常性ざ瘡	尋常性ざ瘡
		6	5	5	3	3
全体		咽頭炎	急性中耳炎	副鼻腔炎	溶連菌感染症	尋常性ざ瘡
		156	154	101	92	81

傷病名単位で集計。下段は抗菌薬処方レセプト件数
調剤レセプトの抗菌薬処方については、調剤レセプトに紐づく入院外レセプトから疾病を判定

(3)こどもの医療の適正化等の取組へ向けて

こども医療費助成の国庫負担の減額調整措置の廃止により、こども(保護者を含む。)の受診行動の変容や、抗菌薬の処方等医療機関での診療内容への影響、小児医療提供体制への影響等の課題が見込まれる。こどもにとってより良い医療の実現を目指すとともに、限られた医療資源の適切な配分を図るため、適正な受診を促す周知・啓発や、抗菌薬の適正使用につながる取組等が求められる。なお、医療資源の効果的かつ効率的な活用については、個別の診療行為として医師の判断に基づき必要な場合や地域の医療提供体制による事情等が考えられるため、地域における医療サービスの提供状況を把握し、医療関係者と連携して取り組むことが重要である。

抗菌薬の適正使用を推進する取組として、患者及び保護者への抗菌薬の適正使用に関する普及啓発が重要である。特に、医師によって適応病態と診断され処方された抗菌薬について、患者本人及び保護者の自己判断による服用中断や残薬使用等をすることがないよう、適正使用を促すための周知・啓発が求められる。

第2章 資料編

1.基礎統計

基礎統計

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

・医療費…レセプトに記載されている請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示
・患者数…分析期間中に一人の方に複数のレセプトが発行された場合は、一人として集計
・受診率…被保険者一人当たりのレセプト件数。集計に調剤レセプトを含まない。
・一件当たりの日数…集計に調剤レセプトを含まない。
・一日当たりの医療費…医療費の集計に調剤レセプトを含む。日数の集計に調剤レセプトを含まない。

【参考】医療費の三要素

被保険者一人当たりの医療費	受診率	・被保険者一人当たりのレセプト件数 ・受診動向や感染症の流行に影響を受ける。
	一件当たりの日数	・レセプト一件当たりの診療実日数 ・通院頻度や入院日数等の影響を受ける。
	一日当たりの医療費	・医療費の単価(一回の診療または一日の入院にかかる医療費)

■基礎統計

分析期間における月別の被保険者数、レセプト件数、医療費、患者数等は以下のとおりである。被保険者数は平均10,378人、レセプト件数は平均9,380件、患者数は平均4,216人となった。また、患者一人当たりの医療費は平均41,742円となった。

基礎統計

			令和7年4月	令和7年5月	令和7年6月	令和7年7月	令和7年8月	令和7年9月	令和7年10月
A	被保険者数(人)		10,623	10,442	10,414	10,392	10,384	10,360	10,366
B	レセプト件数(件)	入院外	5,879	5,817	5,651	5,634	5,246	5,501	5,652
		入院	97	93	87	118	115	107	103
		調剤	3,802	3,733	3,503	3,528	3,252	3,461	3,575
		合計	9,778	9,643	9,241	9,280	8,613	9,069	9,330
C	医療費(円)		170,646,860	177,310,750	189,835,190	204,273,800	179,100,530	168,393,800	173,236,850
D	患者数(人)		4,325	4,266	4,158	4,194	3,983	4,079	4,192
C/A	被保険者一人当たりの医療費(円)		16,064	16,981	18,229	19,657	17,248	16,254	16,712
C/B	レセプト一件当たりの医療費(円)		17,452	18,388	20,543	22,012	20,794	18,568	18,568
C/D	患者一人当たりの医療費(円)		39,456	41,564	45,655	48,706	44,966	41,283	41,326
D/A	患者割合(%)		40.7	40.9	39.9	40.4	38.4	39.4	40.4
三要素	受診率(件/人・月)		0.56	0.57	0.55	0.55	0.52	0.54	0.56
	一件当たりの日数(日)		1.52	1.51	1.51	1.57	1.57	1.54	1.54
	一日当たりの医療費(円)		18,765	19,925	21,941	22,589	21,329	19,438	19,590

			令和7年11月	令和7年12月	令和8年1月	令和8年2月	令和8年3月	12カ月平均	12カ月合計
A	被保険者数(人)		10,337	10,321	10,321	10,287	10,293	10,378	
B	レセプト件数(件)	入院外	5,549	6,227	5,397	5,649	5,905	5,676	68,107
		入院	83	102	92	106	95	100	1,198
		調剤	3,548	4,030	3,440	3,568	3,815	3,605	43,255
		合計	9,180	10,359	8,929	9,323	9,815	9,380	112,560
C	医療費(円)		168,832,920	176,287,280	168,113,410	159,039,670	176,825,660	175,991,393	2,111,896,720
D	患者数(人)		4,137	4,575	4,023	4,265	4,397	4,216	50,594
C/A	被保険者一人当たりの医療費(円)		16,333	17,080	16,288	15,460	17,179	16,958	
C/B	レセプト一件当たりの医療費(円)		18,391	17,018	18,828	17,059	18,016	18,762	
C/D	患者一人当たりの医療費(円)		40,810	38,533	41,788	37,289	40,215	41,742	
D/A	患者割合(%)		40.0	44.3	39.0	41.5	42.7	40.6	
三要素	受診率(件/人・月)		0.54	0.61	0.53	0.56	0.58		
	一件当たりの日数(日)		1.48	1.47	1.47	1.50	1.52		
	一日当たりの医療費(円)		20,258	18,972	20,845	18,457	19,421		

本分析では被保険者数、患者数を月単位で算出しているため、分析期間内の被保険者数、患者数を算出している他統計とは一致しない。

・患者数…同診療年月で一人の方に複数のレセプトが発行された場合は、一人として集計

・受診率…被保険者一人当たり、一月当たりのレセプト件数。集計に調剤レセプトを含まない。一月当たりのレセプト件数のため、他統計の受診率とは一致しない。

被保険者一人当たりの医療費及びその構成要素である受診率、一件当たりの日数、一日当たりの医療費を入院・入院外別に以下に示す。

受診率は被保険者一人当たりのレセプト件数である。受診動向や感染症の流行に影響を受けやすく医療機関を受診する人が多いと受診率が高くなる。一件当たりの日数はレセプト一件当たりの診療実日数であり、通院頻度や入院日数等の影響を受ける。一日当たりの医療費は医療費の単価(一回の診療または一日の入院にかかる医療費)を表す。

被保険者一人当たりの医療費及び医療費の三要素

		入院	入院外	全体
被保険者一人当たりの医療費(円)		69,984	115,416	185,400
三要素	受診率(件/人)	0.11	5.98	6.08
	一件当たりの日数(日)	9.71	1.37	1.52
	一日当たりの医療費(円)	68,546	14,080	20,113

本分析における被保険者一人当たりの医療費は、分析期間内の被保険者数を用いて算出している。そのため、月単位の被保険者数を用いて算出している他統計とは一致しない。

■年齢階層別 基礎統計

以下のとおり年齢階層別に被保険者数、レセプト件数、医療費、患者数等を示す。

年齢階層別 基礎統計

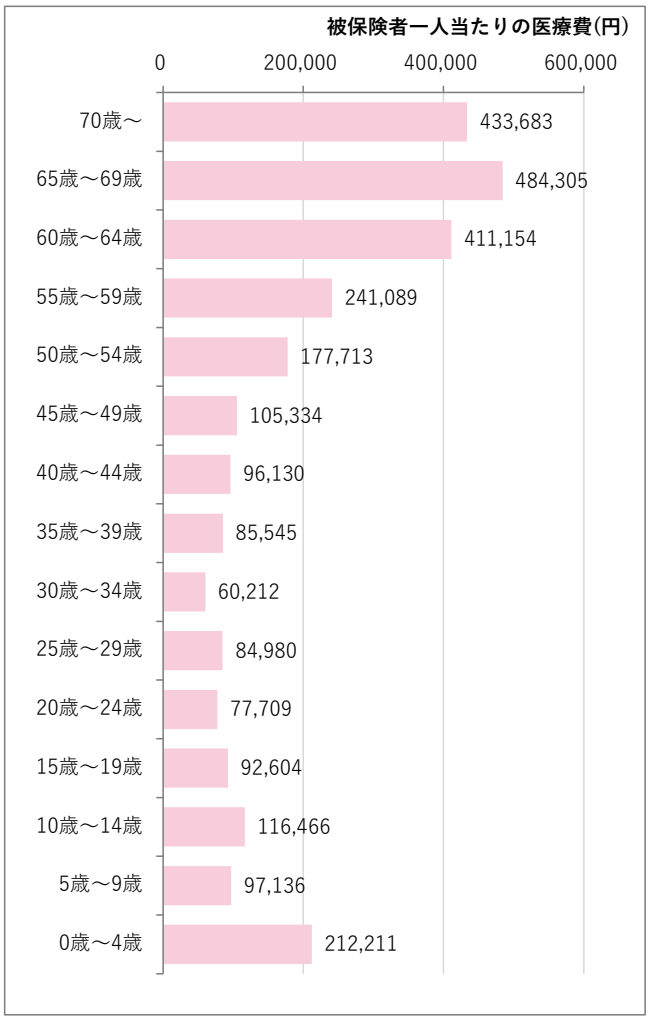
年齢階層	A	B				C	D
	被保険者数(人)	レセプト件数(件)				医療費(円)	患者数(人)
		入院外	入院	調剤	合計		
0歳～4歳	503	4,720	100	3,026	7,846	106,742,370	484
5歳～9歳	635	5,131	23	3,167	8,321	61,681,170	608
10歳～14歳	742	5,151	33	3,258	8,442	86,417,470	699
15歳～19歳	885	4,511	48	2,788	7,347	81,954,950	753
20歳～24歳	803	2,231	61	1,325	3,617	62,400,030	541
25歳～29歳	658	1,852	57	1,084	2,993	55,916,970	437
30歳～34歳	491	1,638	22	1,018	2,678	29,564,030	349
35歳～39歳	578	2,173	39	1,367	3,579	49,445,110	418
40歳～44歳	802	3,239	30	2,054	5,323	77,096,520	592
45歳～49歳	1,087	4,321	62	2,632	7,015	114,498,600	793
50歳～54歳	1,189	6,355	94	4,103	10,552	211,300,300	889
55歳～59歳	814	5,232	86	3,358	8,676	196,246,570	672
60歳～64歳	606	5,113	116	3,384	8,613	249,159,580	542
65歳～69歳	720	7,152	212	4,770	12,134	348,699,430	643
70歳～	878	9,288	215	5,921	15,424	380,773,620	794
合計	11,391	68,107	1,198	43,255	112,560	2,111,896,720	9,214

年齢階層	C/A	C/B	C/D	D/A	医療費の三要素		
	被保険者一人当たりの医療費(円)	レセプト一件当たりの医療費(円)	患者一人当たりの医療費(円)	患者割合(%)	受診率(件/人)	一件当たりの日数(日)	一日当たりの医療費(円)
0歳～4歳	212,211	13,605	220,542	96.2	9.58	1.59	13,915
5歳～9歳	97,136	7,413	101,449	95.7	8.12	1.36	8,815
10歳～14歳	116,466	10,237	123,630	94.2	6.99	1.39	11,958
15歳～19歳	92,604	11,155	108,838	85.1	5.15	1.32	13,632
20歳～24歳	77,709	17,252	115,342	67.4	2.85	1.45	18,790
25歳～29歳	84,980	18,683	127,956	66.4	2.90	1.54	19,013
30歳～34歳	60,212	11,040	84,711	71.1	3.38	1.32	13,469
35歳～39歳	85,545	13,815	118,290	72.3	3.83	1.39	16,064
40歳～44歳	96,130	14,484	130,231	73.8	4.08	1.41	16,713
45歳～49歳	105,334	16,322	144,387	73.0	4.03	1.43	18,212
50歳～54歳	177,713	20,025	237,683	74.8	5.42	1.49	22,059
55歳～59歳	241,089	22,619	292,034	82.6	6.53	1.44	25,616
60歳～64歳	411,154	28,928	459,704	89.4	8.63	1.59	29,922
65歳～69歳	484,305	28,737	542,301	89.3	10.23	1.76	26,906
70歳～	433,683	24,687	479,564	90.4	10.82	1.70	23,599
合計	185,400	18,762	229,205	80.9	6.08	1.52	20,113

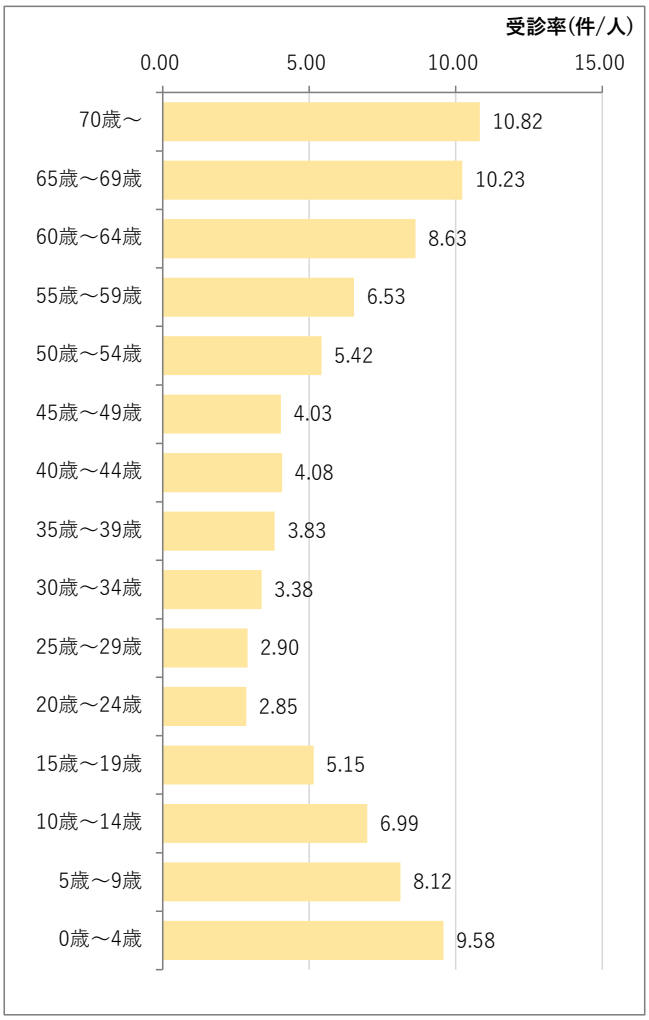
被保険者数は最新の被保険者マスタから人数を集計している。患者数はレセプトが発生している人数を集計している。被保険者マスタは加入、脱退で人数の増減があり、発生レセプトから集計している患者数が被保険者数を上回ることがあるため、患者割合が100%を超える可能性がある。

被保険者一人当たりの医療費、受診率、一件当たりの日数、一日当たりの医療費の年齢階層別の状況をグラフにて示す。

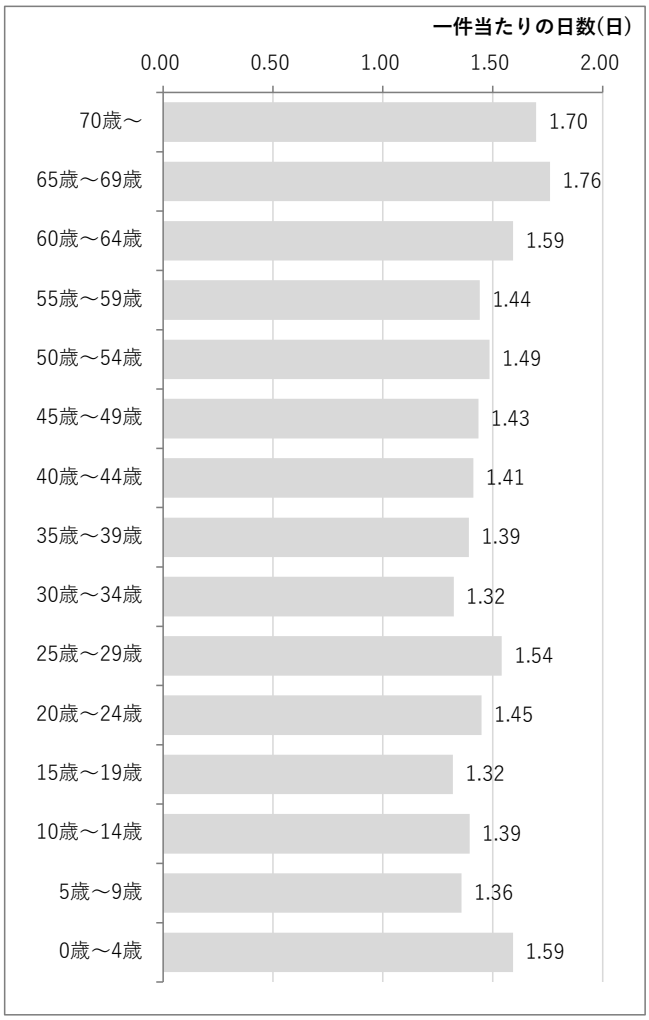
年齢階層別 被保険者一人当たりの医療費



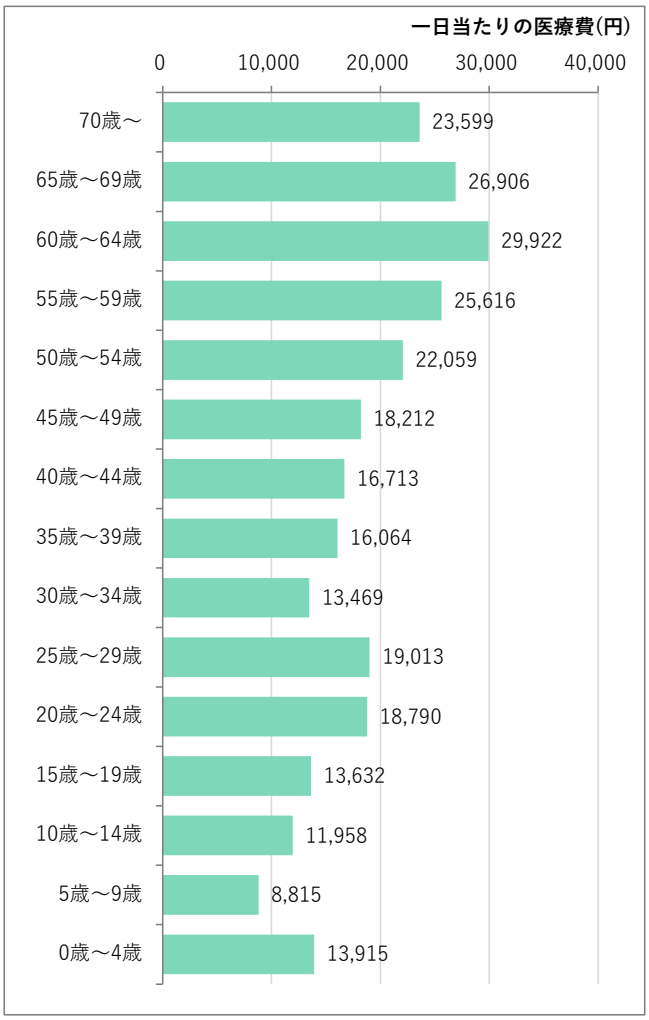
年齢階層別 受診率



年齢階層別 一件当たりの日数



年齢階層別 一日当たりの医療費



年度分析 基礎統計

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和5年4月～令和8年3月診療分(36カ月分)

資格条件等

・資格確認日…各年度、1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

・医療費…レセプトに記載されている請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示
・一カ月平均の患者数…同診療年月で一人の方に複数のレセプトが発行された場合は一人として集計
・受診率…被保険者一人当たりのレセプト件数。集計に調剤レセプトを含まない。
・一件当たりの日数…集計に調剤レセプトを含まない。
・一日当たりの医療費…医療費の集計に調剤レセプトを含む。日数の集計に調剤レセプトを含まない。

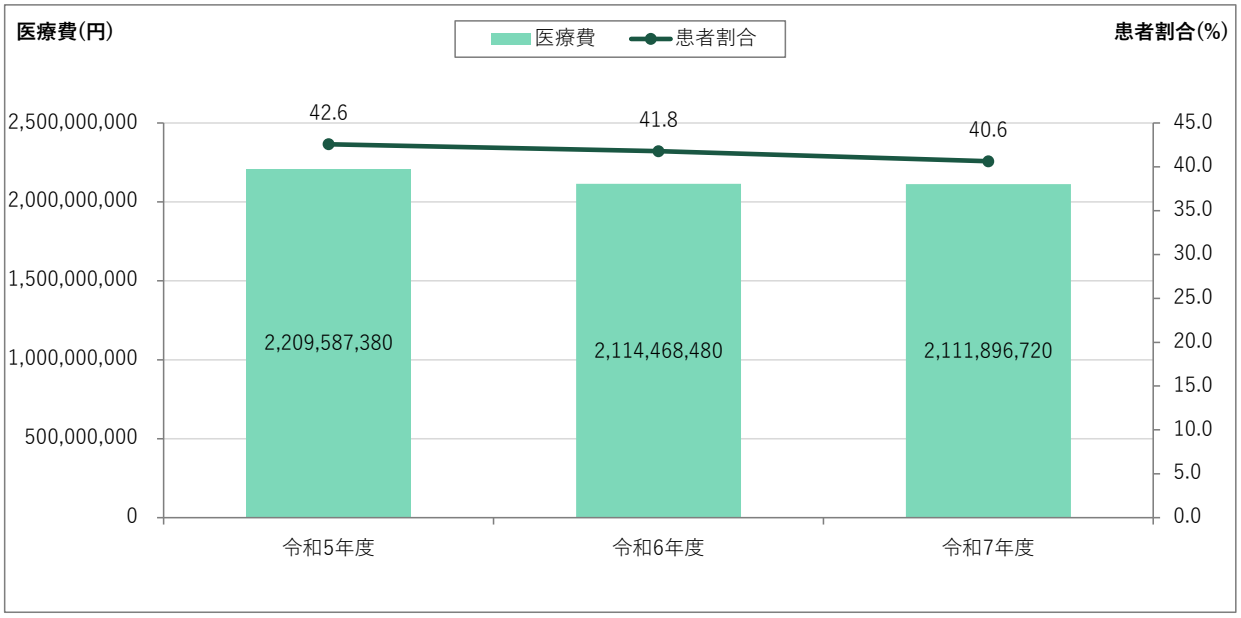
■年度別 基礎統計

令和7年度を令和5年度と比較すると、一カ月平均の被保険者数10,378人は、令和5年度11,021人より643人減少しており、医療費21億1,190万円は令和5年度22億959万円より9,769万円減少している。また、一カ月平均の患者数4,216人は、令和5年度4,691人より475人減少している。

年度別 基礎統計

			令和5年度	令和6年度	令和7年度
A	一カ月平均の被保険者数(人)		11,021	10,714	10,378
B	レセプト件数(件)	入院外	75,952	72,982	68,107
		入院	1,352	1,249	1,198
		調剤	47,997	46,511	43,255
		合計	125,301	120,742	112,560
C	医療費(円)		2,209,587,380	2,114,468,480	2,111,896,720
D	一カ月平均の患者数(人)		4,691	4,476	4,216
C/A	被保険者一人当たりの医療費(円)		200,492	197,356	203,491
C/B	レセプト一件当たりの医療費(円)		17,634	17,512	18,762
D/A	患者割合(%)		42.6	41.8	40.6

年度別 医療費及び患者割合



本分析では被保険者数、患者数を各年度の一カ月平均で算出しているため、分析期間内の被保険者数、患者数を算出している他統計とは一致しない。

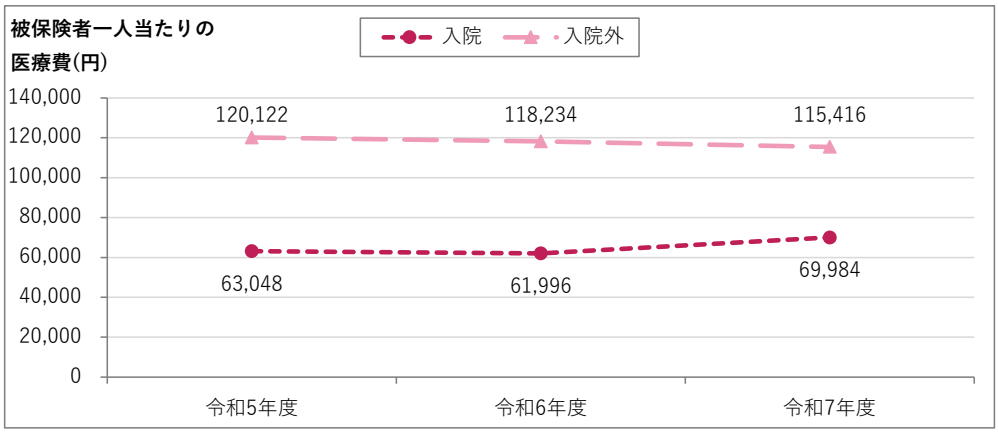
・患者数…同診療年月で一人の方に複数のレセプトが発行された場合は、一人として集計

年度別の被保険者一人当たりの医療費及びその構成要素である受診率、一件当たりの日数、一日当たりの医療費について入院・入院外別に以下に示す。

年度別 被保険者一人当たりの医療費及び医療費の三要素

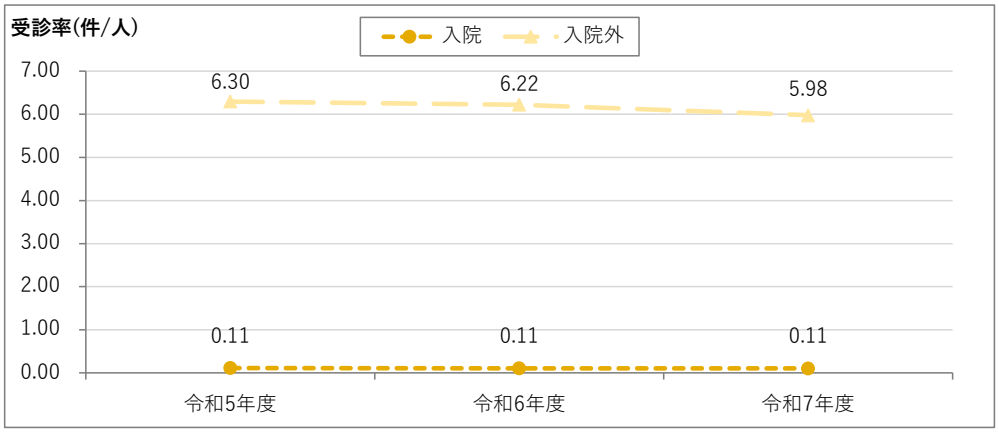
年度			令和5年度	令和6年度	令和7年度
入院	被保険者一人当たりの医療費(円)		63,048	61,996	69,984
	三要素	受診率(件/人)	0.11	0.11	0.11
		一件当たりの日数(日)	9.25	9.58	9.71
		一日当たりの医療費(円)	60,815	60,764	68,546
入院外	被保険者一人当たりの医療費(円)		120,122	118,234	115,416
	三要素	受診率(件/人)	6.30	6.22	5.98
		一件当たりの日数(日)	1.40	1.39	1.37
		一日当たりの医療費(円)	13,651	13,684	14,080
全体	被保険者一人当たりの医療費(円)		183,171	180,231	185,400
	三要素	受診率(件/人)	6.41	6.33	6.08
		一件当たりの日数(日)	1.53	1.53	1.52
		一日当たりの医療費(円)	18,622	18,657	20,113

年度別 被保険者一人当たりの医療費

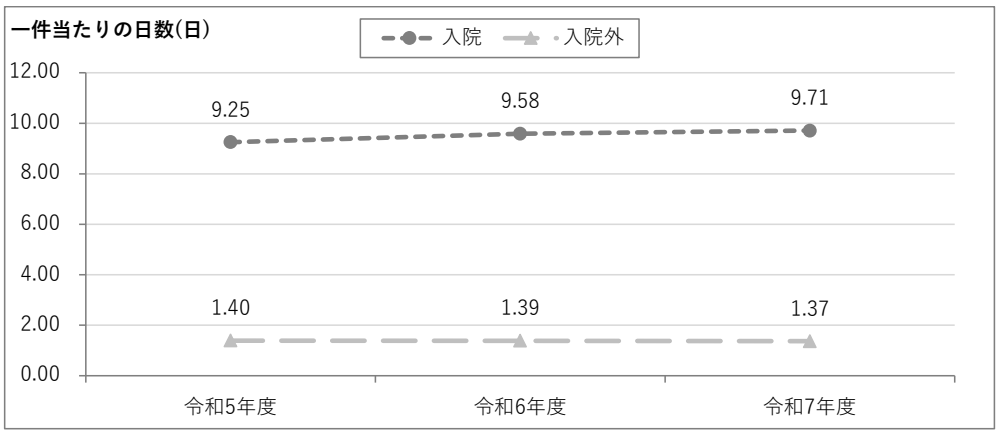


本分析における被保険者一人当たりの医療費は、各年度内の被保険者数を用いて算出している。年度別基礎統計の被保険者一人当たりの医療費は、各年度の一カ月平均の被保険者数を用いて算出しているため、本分析とは一致しない。

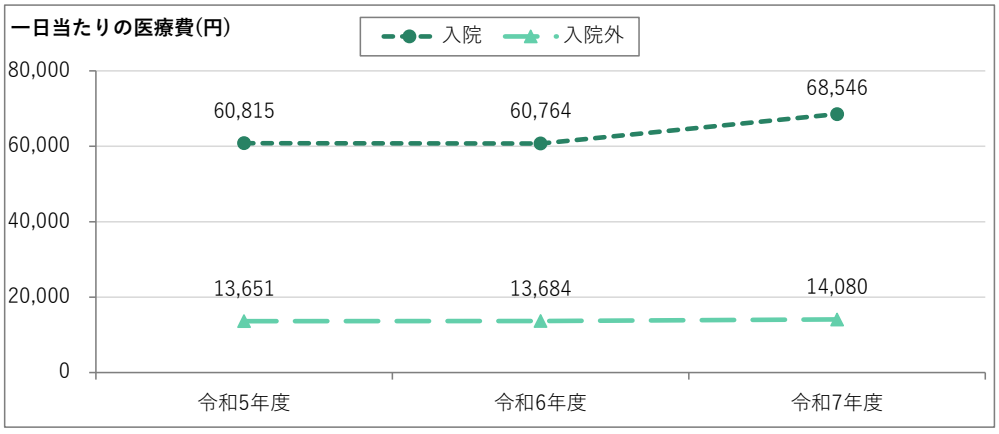
年度別 受診率



年度別 一件当たりの日数



年度別 一日当たりの医療費



2.高額レセプトの件数及び医療費

(1)高額レセプトの件数及び割合

診療点数が5万点以上のものを高額レセプトとし、その発生状況を分析する。

高額レセプトの件数及び割合

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

診療点数が5万点以上のものを高額レセプトとする。

・高額レセプトの医療費…高額レセプトの医療費

・その他レセプトの医療費…高額レセプト以外の医療費

■高額レセプトの件数及び割合

月別の高額レセプト件数及び割合をみると、高額レセプトは平均53件発生しており、レセプト件数全体の0.57%を占める。高額レセプトの医療費は平均6,339万円となり、医療費全体の36.0%を占める。

高額レセプト件数及び割合

		令和7年4月	令和7年5月	令和7年6月	令和7年7月	令和7年8月	令和7年9月	令和7年10月
A	レセプト件数(件)	9,778	9,643	9,241	9,280	8,613	9,069	9,330
B	高額レセプト件数(件)	48	55	49	64	61	48	50
B/A	総レセプト件数に占める高額レセプトの割合(%)	0.49	0.57	0.53	0.69	0.71	0.53	0.54
C	医療費全体(円)	170,646,860	177,310,750	189,835,190	204,273,800	179,100,530	168,393,800	173,236,850
D	高額レセプトの医療費(円)	57,687,370	64,708,570	82,024,090	90,062,850	72,408,000	55,838,770	58,425,060
E	その他レセプトの医療費(円)	112,959,490	112,602,180	107,811,100	114,210,950	106,692,530	112,555,030	114,811,790
D/C	医療費全体に占める高額レセプトの割合(%)	33.8	36.5	43.2	44.1	40.4	33.2	33.7

		令和7年11月	令和7年12月	令和8年1月	令和8年2月	令和8年3月	12カ月平均	12カ月合計
A	レセプト件数(件)	9,180	10,359	8,929	9,323	9,815	9,380	112,560
B	高額レセプト件数(件)	53	56	50	54	51	53	639
B/A	総レセプト件数に占める高額レセプトの割合(%)	0.58	0.54	0.56	0.58	0.52	0.57	
C	医療費全体(円)	168,832,920	176,287,280	168,113,410	159,039,670	176,825,660	175,991,393	2,111,896,720
D	高額レセプトの医療費(円)	62,327,120	56,119,660	55,660,680	47,461,450	57,920,270	63,386,991	760,643,890
E	その他レセプトの医療費(円)	106,505,800	120,167,620	112,452,730	111,578,220	118,905,390	112,604,403	1,351,252,830
D/C	医療費全体に占める高額レセプトの割合(%)	36.9	31.8	33.1	29.8	32.8	36.0	

年度分析 高額レセプトの件数及び割合

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和5年4月～令和8年3月診療分(36カ月分)

資格条件等

・資格確認日…各年度、1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

診療点数が5万点以上のものを高額レセプトとする。

・高額レセプトの医療費…高額レセプトの医療費

・その他レセプトの医療費…高額レセプト以外の医療費

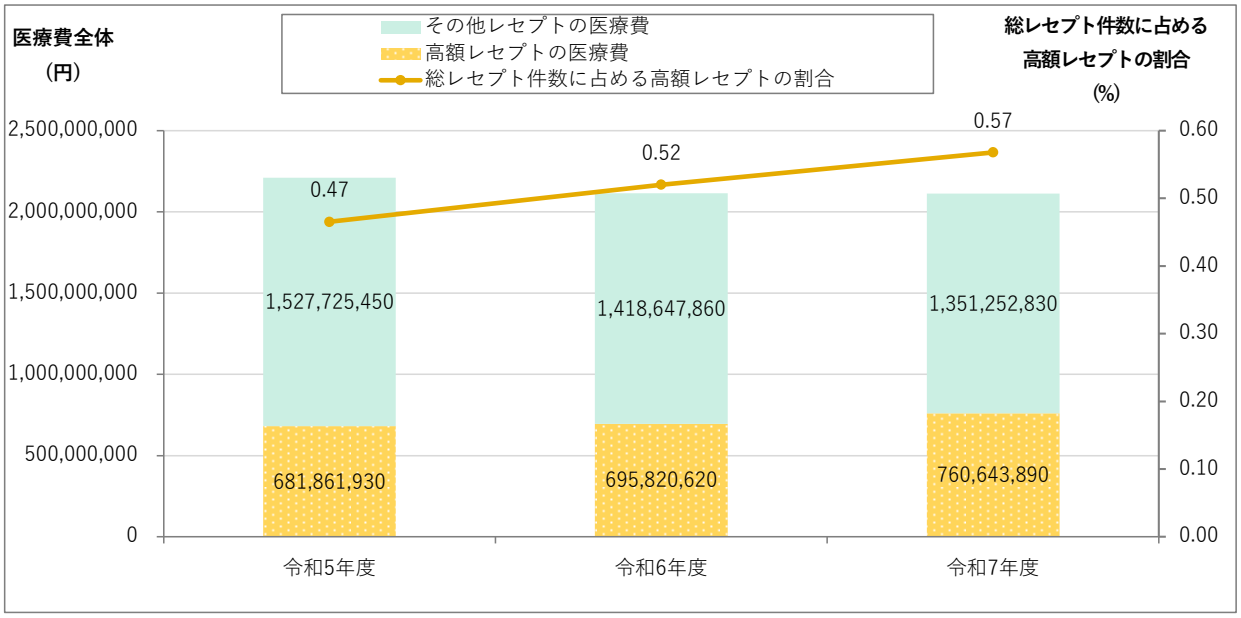
■年度別 高額レセプトの件数及び割合

令和5年度から令和7年度に発生している高額レセプトの集計結果を年度別に示す。令和7年度高額レセプト件数639件は令和5年度583件より56件増加しており、令和7年度高額レセプトの医療費7億6,064万円は令和5年度6億8,186万円より7,878万円増加している。

年度別 高額レセプト件数及び割合

		令和5年度	令和6年度	令和7年度
A	レセプト件数(件)	125,301	120,742	112,560
B	高額レセプト件数(件)	583	628	639
B/A	総レセプト件数に占める高額レセプトの割合(%)	0.47	0.52	0.57
C	医療費全体(円)	2,209,587,380	2,114,468,480	2,111,896,720
D	高額レセプトの医療費(円)	681,861,930	695,820,620	760,643,890
E	その他レセプトの医療費(円)	1,527,725,450	1,418,647,860	1,351,252,830
D/C	医療費全体に占める高額レセプトの割合(%)	30.9	32.9	36.0

年度別 高額レセプトの医療費及び件数割合



(2)高額レセプトの年齢階層別統計

高額レセプトの年齢階層別統計

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

診療点数が5万点以上のものを高額レセプトとする。

■高額レセプトの年齢階層別統計

分析期間における高額レセプトの年齢階層別医療費、年齢階層別患者数、年齢階層別レセプト件数を以下に示す。

年齢階層別 高額レセプトの医療費

年齢階層	入院外(円)	入院(円)	総計(円)	構成比(%)
0歳～4歳	0	33,985,730	33,985,730	4.5
5歳～9歳	0	3,352,190	3,352,190	0.4
10歳～14歳	0	13,347,460	13,347,460	1.8
15歳～19歳	592,110	8,659,950	9,252,060	1.2
20歳～24歳	2,562,990	18,404,650	20,967,640	2.8
25歳～29歳	0	16,455,740	16,455,740	2.2
30歳～34歳	0	5,191,850	5,191,850	0.7
35歳～39歳	0	12,072,950	12,072,950	1.6
40歳～44歳	5,330,950	14,213,280	19,544,230	2.6
45歳～49歳	13,608,080	22,545,430	36,153,510	4.8
50歳～54歳	8,519,890	69,315,310	77,835,200	10.2
55歳～59歳	16,239,750	60,791,750	77,031,500	10.1
60歳～64歳	12,457,960	118,032,210	130,490,170	17.2
65歳～69歳	18,387,360	132,095,830	150,483,190	19.8
70歳～	30,313,680	124,166,790	154,480,470	20.3
合計	108,012,770	652,631,120	760,643,890	

年齢階層別 高額レセプトの患者数

年齢階層	入院外(人)	入院(人)	入院外及び入院(人)	構成比(%)
0歳～4歳	0	17	17	4.9
5歳～9歳	0	4	4	1.1
10歳～14歳	0	4	4	1.1
15歳～19歳	1	9	10	2.9
20歳～24歳	1	12	13	3.7
25歳～29歳	0	11	11	3.2
30歳～34歳	0	6	6	1.7
35歳～39歳	0	10	10	2.9
40歳～44歳	2	9	11	3.2
45歳～49歳	4	18	22	6.3
50歳～54歳	4	33	36	10.3
55歳～59歳	6	31	35	10.0
60歳～64歳	7	25	31	8.9
65歳～69歳	5	59	61	17.5
70歳～	10	72	78	22.3
合計	40	320	349	

入院外と入院で重複する患者がいるため、「入院外及び入院」の患者数は入院外と入院の和と一致しない。

年齢階層別 高額レセプト件数

年齢階層	入院外(件)	入院(件)	入院外及び入院(件)	構成比(%)
0歳～4歳	0	31	31	4.9
5歳～9歳	0	4	4	0.6
10歳～14歳	0	13	13	2.0
15歳～19歳	1	10	11	1.7
20歳～24歳	4	18	22	3.4
25歳～29歳	0	17	17	2.7
30歳～34歳	0	6	6	0.9
35歳～39歳	0	14	14	2.2
40歳～44歳	6	14	20	3.1
45歳～49歳	22	20	42	6.6
50歳～54歳	13	44	57	8.9
55歳～59歳	19	42	61	9.5
60歳～64歳	19	59	78	12.2
65歳～69歳	16	110	126	19.7
70歳～	32	105	137	21.4
合計	132	507	639	

(3)高額レセプト発生患者の疾病傾向

高額レセプト発生患者の疾病傾向

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

診療点数が5万点以上のものを高額レセプトとする。

・主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も医療費が高額となった疾病

・患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類毎に集計した。

・医療費…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトの医療費(高額レセプトに限らない。)

・患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医療費

■高額レセプト発生患者の疾病傾向

高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、最も医療費がかかっている疾病を主要傷病名と定義し、対象者の全医療費を集計した。高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類毎に分類した結果、高額レセプト発生患者の一人当たり医療費が高額な疾病分類は「その他の肝疾患」「心臓の先天奇形」「子宮の悪性新生物＜腫瘍＞」等である。

高額レセプト発生患者の疾病傾向(患者一人当たりの医療費順)　上位20疾病を上限として掲載している。

順位	疾病分類(中分類)		主要傷病名 (上位3疾病まで記載)	患者数 (人)	患者一人当たりの 医療費(円)	医療費(円)		
						入院	入院外	合計
1	1110	その他の肝疾患	類洞閉塞症候群	1	58,338,710	55,303,600	3,035,110	58,338,710
2	1701	心臓の先天奇形	心室中隔欠損症	1	7,075,740	5,861,500	1,214,240	7,075,740
3	0207	子宮の悪性新生物＜腫瘍＞	子宮頚癌	1	6,980,490	0	6,980,490	6,980,490
4	0208	悪性リンパ腫	びまん性大細胞型Ｂ細胞性リンパ腫，濾胞性リンパ腫・グレード１，ＡＬＫ陰性未分化大細胞リンパ腫	3	6,009,583	10,823,720	7,205,030	18,028,750
5	1011	その他の呼吸器系の疾患	慢性呼吸不全，間質性肺炎，アデノイド増殖症	5	5,905,362	20,627,330	8,899,480	29,526,810
6	1402	腎不全	末期腎不全，慢性腎不全	5	5,860,252	8,248,900	21,052,360	29,301,260
7	0205	気管，気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	上葉肺癌，上葉肺腺癌，肺癌	9	5,196,208	7,087,500	39,678,370	46,765,870
8	1010	喘息	気管支喘息	1	4,887,160	0	4,887,160	4,887,160
9	0912	その他の循環器系の疾患	急性大動脈解離Ｓｔａｎｆｏｒｄ Ｂ，解離性胸部大動脈瘤，気管支動脈瘤	4	4,856,778	18,465,910	961,200	19,427,110
10	0107	真菌症	尿路カンジダ症	1	4,711,800	3,392,880	1,318,920	4,711,800

順位	疾病分類(中分類)		主要傷病名 (上位3疾病まで記載)	患者数 (人)	患者一人当たりの 医療費(円)	医療費(円)		
						入院	入院外	合計
11	1800	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	構音障害，遺伝性乳癌卵巣癌症候群，失語症	3	4,609,440	13,596,640	231,680	13,828,320
12	1401	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	尿管狭窄	1	4,551,370	3,907,230	644,140	4,551,370
13	0903	その他の心疾患	発作性心房細動，慢性心不全，大動脈弁狭窄症	22	4,501,434	90,879,320	8,152,220	99,031,540
14	0206	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	乳癌，乳房下外側部乳癌，乳房上内側部乳癌	6	4,317,387	5,261,430	20,642,890	25,904,320
15	0906	脳梗塞	脳梗塞，心原性脳塞栓症，小脳梗塞	4	3,660,805	14,111,060	532,160	14,643,220
16	0209	白血病	慢性骨髄性白血病，骨髄異形成関連変化を伴う急性骨髄性白血病	2	3,556,545	1,091,000	6,022,090	7,113,090
17	0908	その他の脳血管疾患	内頚動脈狭窄症，前大脳動脈解離，未破裂脳動脈瘤	7	3,474,704	21,843,000	2,479,930	24,322,930
18	0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	前立腺癌，前頭葉神経膠腫，転移性肺腫瘍	29	3,408,673	71,189,990	27,661,520	98,851,510
19	0606	その他の神経系の疾患	筋萎縮性側索硬化症，多巣性運動ニューロパチー，水頭症	10	3,309,470	27,661,360	5,433,340	33,094,700
20	1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	多発性筋炎，特発性大腿骨頭壊死，巨細胞動脈炎	7	3,083,969	18,276,010	3,311,770	21,587,780

高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類毎に分類した結果、高額レセプト発生患者数が多い疾病分類は「その他の悪性新生物＜腫瘍＞」「骨折」「その他の心疾患」等である。

高額レセプト発生患者の疾病傾向(患者数順)

上位20疾病を上限として掲載している。

順位	疾病分類(中分類)		主要傷病名 (上位3疾病まで記載)	患者数 (人)	患者一人当たりの 医療費(円)	医療費(円)		
						入院	入院外	合計
1	0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	前立腺癌，前頭葉神経膠腫，転移性肺腫瘍	29	3,408,673	71,189,990	27,661,520	98,851,510
2	1901	骨折	橈骨遠位端骨折，鎖骨遠位端骨折，脛骨高原骨折	26	1,452,088	31,247,470	6,506,820	37,754,290
3	0903	その他の心疾患	発作性心房細動，慢性心不全，大動脈弁狭窄症	22	4,501,434	90,879,320	8,152,220	99,031,540
4	0211	良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞	膵神経内分泌腫瘍，壁内子宮平滑筋腫，小腸腫瘍	18	2,569,164	32,799,850	13,445,110	46,244,960
5	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	外側半月板損傷，肩腱板断裂，前十字靱帯損傷	16	1,607,793	21,965,260	3,759,420	25,724,680
6	1113	その他の消化器系の疾患	急性虫垂炎，鼠径ヘルニア，両側鼠径ヘルニア	15	1,296,239	11,548,180	7,895,400	19,443,580
7	1302	関節症	変形性膝関節症，変形性股関節症，両側性続発性変形性股関節症	14	2,384,412	28,207,930	5,173,840	33,381,770
8	0606	その他の神経系の疾患	筋萎縮性側索硬化症，多巣性運動ニューロパチー，水頭症	10	3,309,470	27,661,360	5,433,340	33,094,700
8	0704	その他の眼及び付属器の疾患	開放隅角緑内障，裂孔原性網膜剥離，網膜前膜	10	1,009,494	6,549,760	3,545,180	10,094,940
8	0902	虚血性心疾患	労作性狭心症，急性心筋梗塞，急性前壁心筋梗塞	10	2,572,060	22,180,580	3,540,020	25,720,600

順位	疾病分類(中分類)		主要傷病名 (上位3疾病まで記載)	患者数 (人)	患者一人当たりの 医療費(円)	医療費(円)		
						入院	入院外	合計
11	0205	気管，気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	上葉肺癌，上葉肺腺癌，肺癌	9	5,196,208	7,087,500	39,678,370	46,765,870
12	1303	脊椎障害（脊椎症を含む）	腰部脊柱管狭窄症，頚部脊柱管狭窄症，化膿性脊椎炎	8	1,757,005	11,743,440	2,312,600	14,056,040
13	0503	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	妄想型統合失調症，統合失調症	7	2,526,280	16,149,650	1,534,310	17,683,960
13	0908	その他の脳血管疾患	内頚動脈狭窄症，前大脳動脈解離，未破裂脳動脈瘤	7	3,474,704	21,843,000	2,479,930	24,322,930
13	1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	多発性筋炎，特発性大腿骨頭壊死，巨細胞動脈炎	7	3,083,969	18,276,010	3,311,770	21,587,780
16	0206	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	乳癌，乳房下外側部乳癌，乳房上内側部乳癌	6	4,317,387	5,261,430	20,642,890	25,904,320
16	0402	糖尿病	糖尿病網膜症，２型糖尿病，増殖性糖尿病性網膜症	6	1,360,638	3,665,800	4,498,030	8,163,830
16	1403	尿路結石症	腎結石症，尿管結石症	6	1,100,387	4,980,350	1,621,970	6,602,320
16	1702	その他の先天奇形，変形及び染色体異常	後頭部脳瘤，肺分画症，異所性蒙古斑	6	1,505,565	7,528,550	1,504,840	9,033,390
20	0201	胃の悪性新生物＜腫瘍＞	胃体部癌，胃癌，胃前庭部癌	5	2,559,150	7,512,080	5,283,670	12,795,750

年度分析 高額レセプト発生患者の疾病傾向

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和5年4月～令和8年3月診療分(36カ月分)

資格条件等

・資格確認日…各年度、1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

診療点数が5万点以上のものを高額レセプトとする。

・主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も医療費が高額となった疾病

・患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類毎に集計した。

・患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医療費

■年度別 高額レセプト発生患者の疾病傾向

令和5年度から令和7年度における、高額レセプト発生患者の疾病傾向を患者一人当たりの医療費順に年度別に示す。

年度別 高額レセプト発生患者の疾病傾向(患者一人当たりの医療費順)

年度	順位	疾病分類(中分類)		主要傷病名 (上位3疾病まで記載)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
令和5年度	1	0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	後天性血友病Ａ，多血症，ＩｇＡ血管炎	3	12,831,583
	2	0209	白血病	慢性骨髄性白血病，混合型白血病，慢性骨髄性白血病慢性期	4	9,545,830
	3	0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	肝細胞癌，肝芽腫	4	9,134,380
	4	0208	悪性リンパ腫	濾胞性リンパ腫・グレード３ａ，結節硬化型古典的ホジキンリンパ腫，Ｂ細胞性非ホジキンリンパ腫	3	8,385,617
	5	0205	気管，気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	下葉肺癌，上葉肺癌，小細胞肺癌	9	6,633,628
令和6年度	1	2106	その他の理由による保健サービスの利用者	同種末梢血幹細胞移植後	1	16,441,430
	2	0209	白血病	骨髄異形成関連変化を伴う急性骨髄性白血病，慢性骨髄性白血病	2	14,616,495
	3	0904	くも膜下出血	前交通動脈瘤破裂によるくも膜下出血	1	9,533,960
	4	0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	肝細胞癌，肝芽腫	2	9,381,035
	5	0208	悪性リンパ腫	びまん性大細胞型Ｂ細胞性リンパ腫，ＡＬＫ陰性未分化大細胞リンパ腫	2	7,630,670
令和7年度	1	1110	その他の肝疾患	類洞閉塞症候群	1	58,338,710
	2	1701	心臓の先天奇形	心室中隔欠損症	1	7,075,740
	3	0207	子宮の悪性新生物＜腫瘍＞	子宮頚癌	1	6,980,490
	4	0208	悪性リンパ腫	びまん性大細胞型Ｂ細胞性リンパ腫，濾胞性リンパ腫・グレード１，ＡＬＫ陰性未分化大細胞リンパ腫	3	6,009,583
	5	1011	その他の呼吸器系の疾患	慢性呼吸不全，間質性肺炎，アデノイド増殖症	5	5,905,362

令和5年度から令和7年度における、高額レセプト発生患者の疾病傾向を患者数順に年度別に示す。

年度別 高額レセプト発生患者の疾病傾向(患者数順)

年度	順位	疾病分類(中分類)		主要傷病名 (上位3疾病まで記載)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
令和5年度	1	0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	前立腺癌，遠位胆管癌，腎癌	21	2,964,422
	2	1113	その他の消化器系の疾患	急性虫垂炎，クローン病，慢性虫垂炎	20	1,460,198
	3	1302	関節症	変形性膝関節症，一側性続発性変形性股関節症，変形性肩関節症	16	2,334,298
	4	0903	その他の心疾患	発作性心房細動，持続性心房細動，慢性心不全	15	3,555,529
	5	1303	脊椎障害（脊椎症を含む）	腰部脊柱管狭窄症，頚椎症性脊髄症，頚椎症性神経根症	13	2,321,055
令和6年度	1	0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	前立腺癌，甲状腺乳頭癌，遠位胆管癌	23	3,037,220
	2	0903	その他の心疾患	発作性心房細動，持続性心房細動，うっ血性心不全	19	3,307,706
	2	1901	骨折	橈骨遠位端骨折，橈骨尺骨骨幹部骨折，踵骨骨折	19	1,640,816
	2	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	肩腱板断裂，前十字靱帯損傷，内側半月板損傷	19	1,923,242
	5	1504	その他の妊娠，分娩及び産じょく	既往帝切後妊娠，切迫早産，切迫流産	18	1,012,761
令和7年度	1	0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	前立腺癌，前頭葉神経膠腫，転移性肺腫瘍	29	3,408,673
	2	1901	骨折	橈骨遠位端骨折，鎖骨遠位端骨折，脛骨高原骨折	26	1,452,088
	3	0903	その他の心疾患	発作性心房細動，慢性心不全，大動脈弁狭窄症	22	4,501,434
	4	0211	良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞	膵神経内分泌腫瘍，壁内子宮平滑筋腫，小腸腫瘍	18	2,569,164
	5	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	外側半月板損傷，肩腱板断裂，前十字靱帯損傷	16	1,607,793

3.疾病別医療費統計

3-1.大分類による疾病別医療費統計

(1)大分類による疾病別医療費統計

大分類による疾病別医療費統計

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

大分類の疾病項目毎に集計するため、調剤レセプトについてはデータ化時点で紐づく医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、集計ができない。そのため、合計は他統計と一致しない。

・レセプト件数…一件のレセプトに複数の疾病があるため、合計の件数は全疾病の和と一致しない。

・患者数…複数疾病をもつ患者がいるため、合計の人数は全疾病の和と一致しない。

・妊娠,分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

・周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

■大分類による疾病別医療費統計

大分類の疾病項目毎に医療費、レセプト件数、患者数を算出した。「新生物＜腫瘍＞」が医療費合計の15.3%を占めている。「循環器系の疾患」は医療費合計の14.2%、「呼吸器系の疾患」は医療費合計の10.9%と高い割合を占めている。患者一人当たりの医療費が高額な疾病は、「周産期に発生した病態」「妊娠，分娩及び産じょく」「新生物＜腫瘍＞」等である。

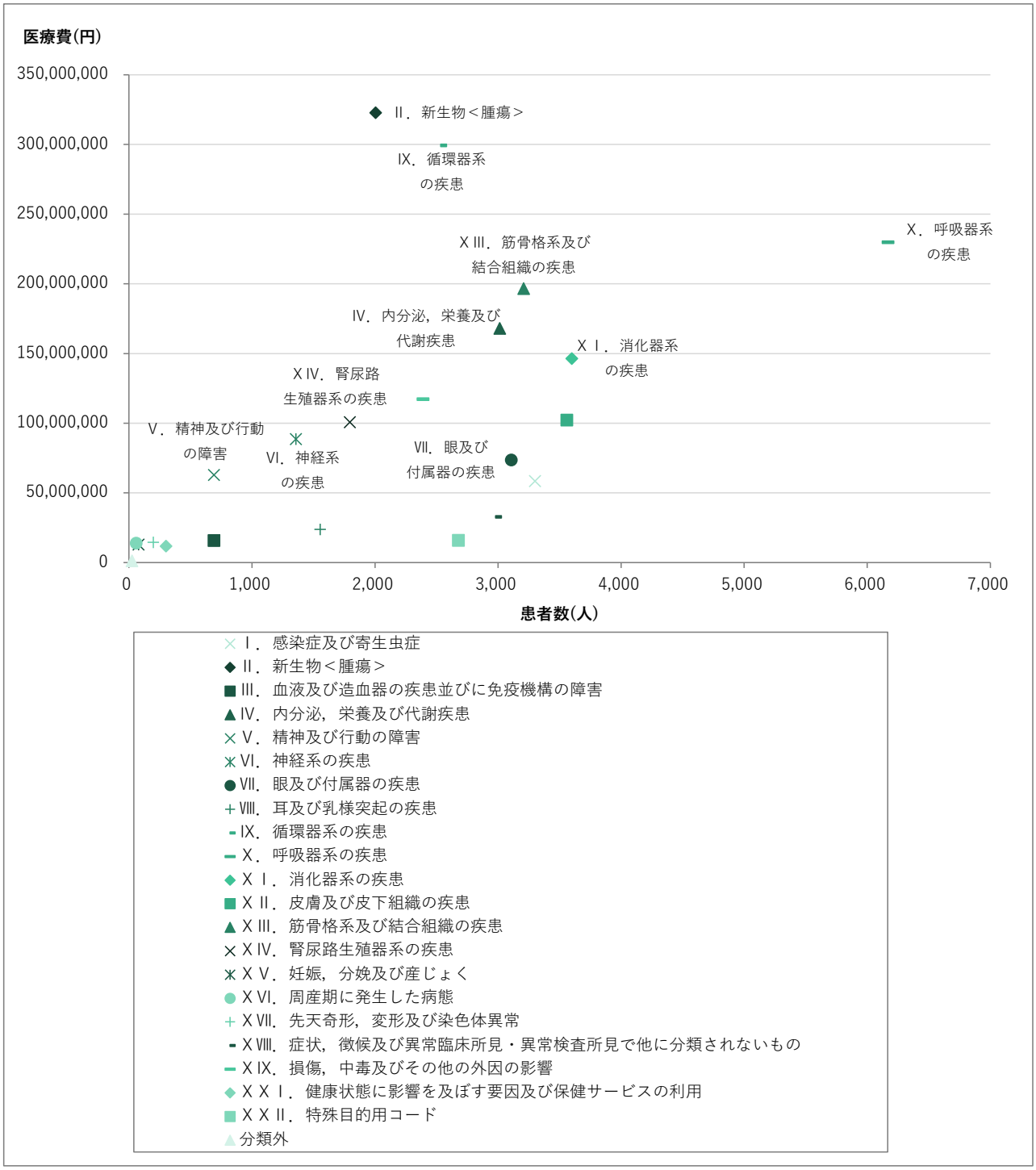
大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	58,527,530	2.8	13	11,424	7	3,301	4	17,730	19
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	322,765,819	15.3	1	6,930	13	2,005	12	160,980	3
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	15,864,431	0.8	17	2,256	17	691	17	22,959	18
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	168,028,430	8.0	5	25,520	2	3,014	7	55,749	10
Ⅴ．精神及び行動の障害	62,935,673	3.0	12	6,251	14	692	16	90,948	5
Ⅵ．神経系の疾患	88,521,099	4.2	10	11,192	8	1,357	15	65,233	7
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	73,528,949	3.5	11	10,037	10	3,108	6	23,658	17
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	23,783,695	1.1	15	5,546	16	1,554	14	15,305	20
Ⅸ．循環器系の疾患	299,316,335	14.2	2	24,648	3	2,534	10	118,120	4
Ⅹ．呼吸器系の疾患	229,825,185	10.9	3	34,711	1	6,170	1	37,249	15
ⅩⅠ．消化器系の疾患	146,399,286	6.9	6	21,667	4	3,600	2	40,666	13
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	102,340,140	4.9	8	17,820	6	3,559	3	28,755	16
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	196,593,833	9.3	4	19,858	5	3,208	5	61,282	8
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	100,752,977	4.8	9	8,515	11	1,796	13	56,099	9
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	12,961,584	0.6	20	311	20	79	20	164,071	2
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	13,942,940	0.7	19	126	22	59	21	236,321	1
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	14,486,635	0.7	18	689	19	198	19	73,165	6
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	32,771,544	1.6	14	11,006	9	2,981	8	10,993	21
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	117,211,661	5.6	7	7,548	12	2,390	11	49,043	12
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	11,806,420	0.6	21	1,766	18	301	18	39,224	14
ⅩⅫ．特殊目的用コード	15,991,260	0.8	16	6,176	15	2,678	9	5,971	22
分類外	1,278,984	0.1	22	138	21	26	22	49,192	11
合計	2,109,634,410			112,102		9,178		229,858	

以下のとおり疾病項目毎の医療費、及び患者数を示す。

大分類による疾病別医療費統計



年度分析 大分類による疾病別医療費統計

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和5年4月～令和8年3月診療分(36カ月分)

資格条件等

・資格確認日…各年度、1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

大分類の疾病項目毎に集計するため、調剤レセプトについてはデータ化時点で紐づく医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、集計ができない。そのため、合計は他統計と一致しない。

・妊娠,分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

・周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

■年度別 大分類による疾病別医療費統計

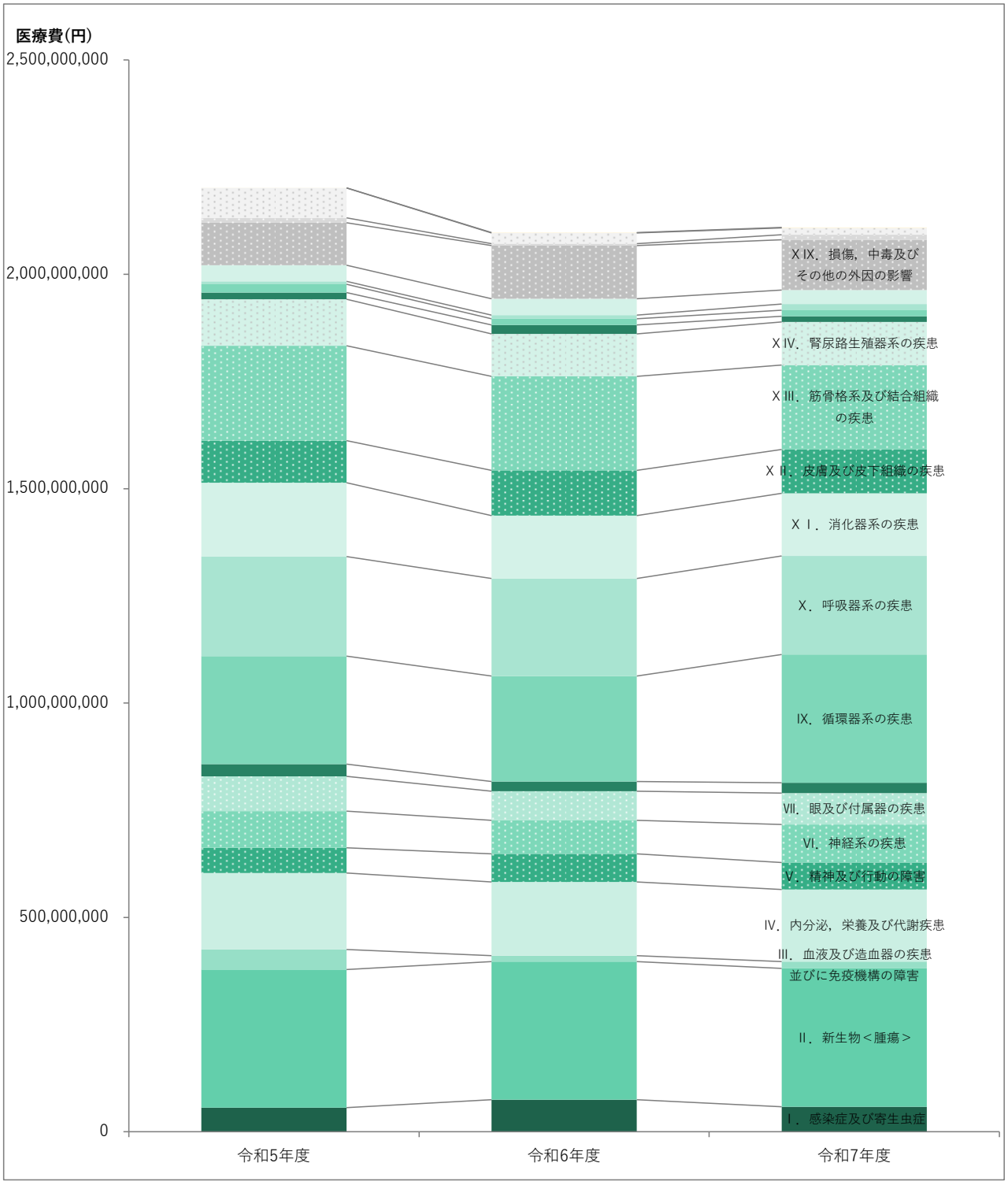
令和5年度から令和7年度に発生しているレセプトより、疾病大分類毎に医療費を算出し年度別に示す。

年度別 大分類による疾病別医療費統計

※各年度毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	令和5年度			令和6年度			令和7年度		
	医療費(円)	構成比(%)	順位	医療費(円)	構成比(%)	順位	医療費(円)	構成比(%)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	56,340,607	2.6	14	74,950,032	3.6	11	58,527,530	2.8	13
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	322,040,328	14.6	1	322,029,425	15.4	1	322,765,819	15.3	1
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	46,818,504	2.1	15	13,953,179	0.7	19	15,864,431	0.8	17
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	178,427,664	8.1	5	171,758,007	8.2	5	168,028,430	8.0	5
Ⅴ．精神及び行動の障害	58,586,900	2.7	13	65,824,322	3.1	13	62,935,673	3.0	12
Ⅵ．神経系の疾患	85,851,945	3.9	10	77,963,399	3.7	10	88,521,099	4.2	10
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	80,786,353	3.7	11	67,867,000	3.2	12	73,528,949	3.5	11
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	28,849,436	1.3	17	22,694,428	1.1	16	23,783,695	1.1	15
Ⅸ．循環器系の疾患	252,023,534	11.4	2	246,073,695	11.7	2	299,316,335	14.2	2
Ⅹ．呼吸器系の疾患	231,976,623	10.5	3	227,561,975	10.9	3	229,825,185	10.9	3
ⅩⅠ．消化器系の疾患	172,146,524	7.8	6	146,813,495	7.0	6	146,399,286	6.9	6
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	98,133,283	4.5	9	105,430,999	5.0	8	102,340,140	4.9	8
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	221,525,068	10.1	4	218,741,589	10.4	4	196,593,833	9.3	4
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	108,382,399	4.9	7	99,189,630	4.7	9	100,752,977	4.8	9
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	15,547,478	0.7	19	20,859,457	1.0	17	12,961,584	0.6	20
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	19,379,151	0.9	18	14,529,498	0.7	18	13,942,940	0.7	19
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	6,982,186	0.3	21	8,790,641	0.4	20	14,486,635	0.7	18
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	37,564,181	1.7	16	37,840,303	1.8	14	32,771,544	1.6	14
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	99,101,253	4.5	8	123,917,377	5.9	7	117,211,661	5.6	7
ⅩⅩⅠ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	11,132,396	0.5	20	4,586,471	0.2	21	11,806,420	0.6	21
ⅩⅩⅡ．特殊目的用コード	69,724,799	3.2	12	24,970,223	1.2	15	15,991,260	0.8	16
分類外	479,316	0.0	22	895,934	0.0	22	1,278,984	0.1	22
合計	2,201,799,930			2,097,241,080			2,109,634,410		

年度・疾病項目別医療費統計



(2)診療種別及び性別・年齢階層別比較

診療種別及び性別・年齢階層別比較

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

大分類の疾病項目毎に集計するため、調剤レセプトについてはデータ化時点で紐づく医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、集計ができない。そのため、合計は他統計と一致しない。

・妊娠,分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

・周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

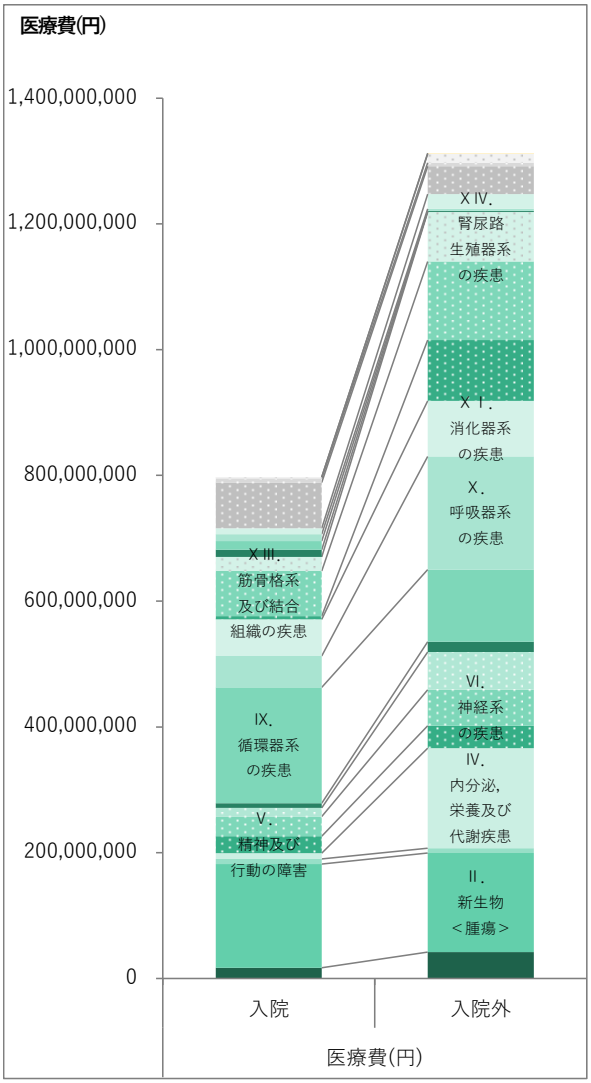
■入院・入院外比較

大分類による疾病別医療費を入院・入院外別に示す。

大分類による疾病別医療費統計(入院・入院外比較)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	医療費(円)	
	入院	入院外
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	16,627,553	41,899,977
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	165,124,539	157,641,280
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	8,328,198	7,536,233
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	8,905,693	159,122,737
Ⅴ．精神及び行動の障害	27,299,918	35,635,755
Ⅵ．神経系の疾患	31,219,034	57,302,065
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	13,761,387	59,767,562
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	7,219,749	16,563,946
Ⅸ．循環器系の疾患	184,561,059	114,755,276
Ⅹ．呼吸器系の疾患	49,579,603	180,245,582
ⅩⅠ．消化器系の疾患	58,405,787	87,993,499
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	5,325,199	97,014,941
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	71,634,849	124,958,984
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	22,294,041	78,458,936
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	11,445,881	1,515,703
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	13,567,084	375,856
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	11,253,514	3,233,121
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	9,165,381	23,606,163
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	73,102,231	44,109,430
ⅩⅩⅠ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	6,455,473	5,350,947
ⅩⅩⅡ．特殊目的用コード	1,914,507	14,076,753
分類外	0	1,278,984
合計	797,190,680	1,312,443,730



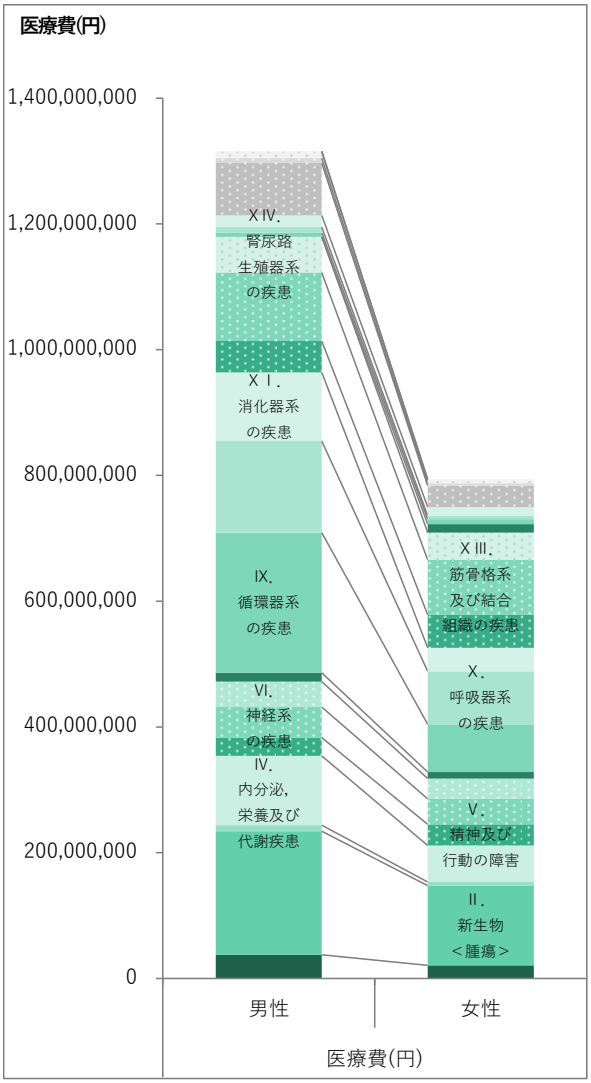
■男性・女性比較

大分類による疾病別医療費を男女別に示す。

大分類による疾病別医療費統計(男性・女性比較)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

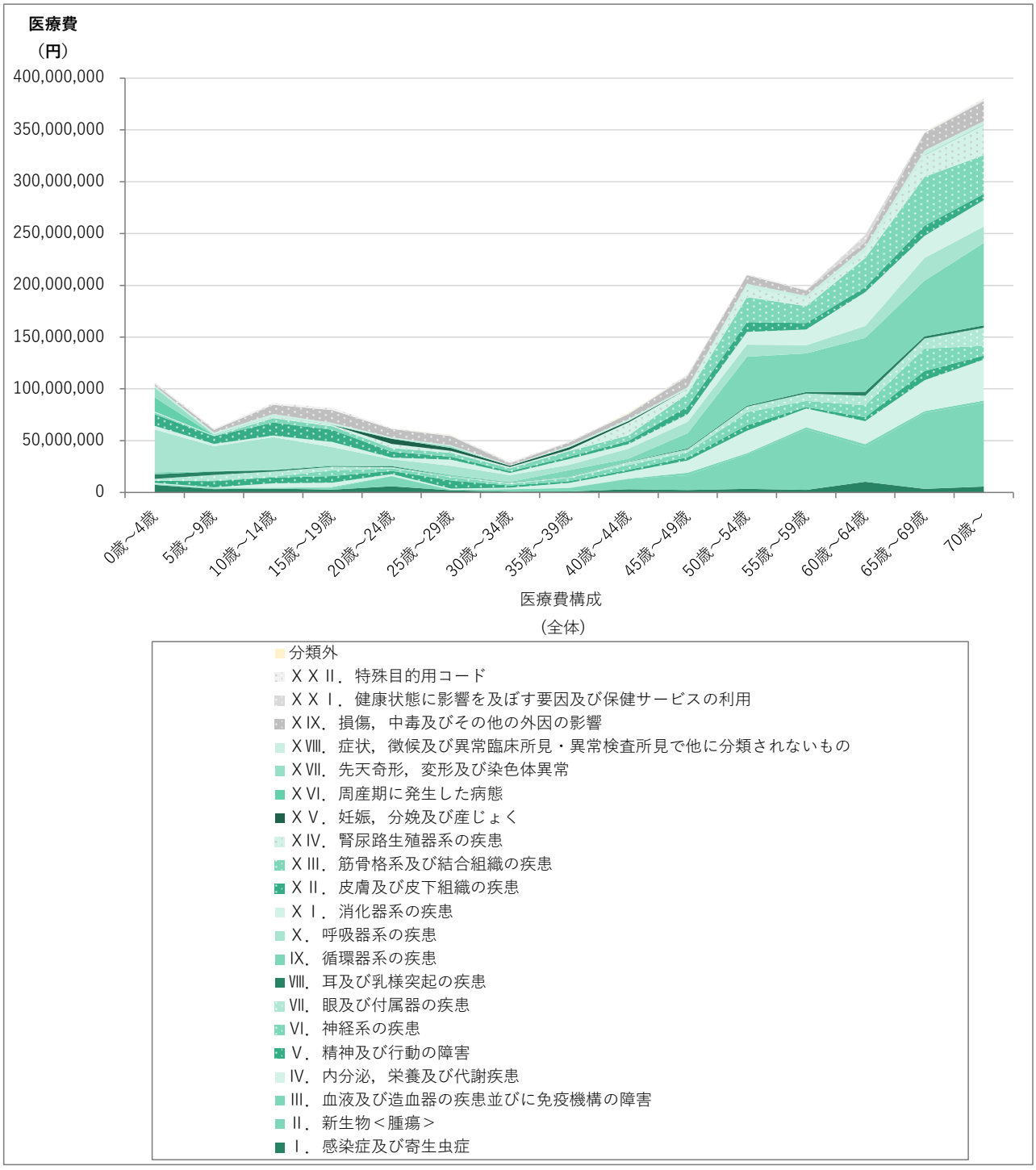
疾病分類(大分類)	医療費(円)	
	男性	女性
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	37,715,156	20,812,374
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	196,328,067	126,437,752
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	9,791,581	6,072,850
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	110,056,771	57,971,659
Ⅴ．精神及び行動の障害	29,254,640	33,681,033
Ⅵ．神経系の疾患	48,314,772	40,206,327
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	40,730,368	32,798,581
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	13,727,020	10,056,675
Ⅸ．循環器系の疾患	223,329,324	75,987,011
Ⅹ．呼吸器系の疾患	145,343,852	84,481,333
ⅩⅠ．消化器系の疾患	109,325,008	37,074,278
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	49,728,447	52,611,693
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	109,098,159	87,495,674
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	57,050,714	43,702,263
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	4,937	12,956,647
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	6,033,445	7,909,495
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	9,049,659	5,436,976
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	19,021,216	13,750,328
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	82,901,861	34,309,800
ⅩⅩⅠ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	8,090,021	3,716,399
ⅩⅩⅡ．特殊目的用コード	10,591,719	5,399,541
分類外	105,933	1,173,051
合計	1,315,592,670	794,041,740



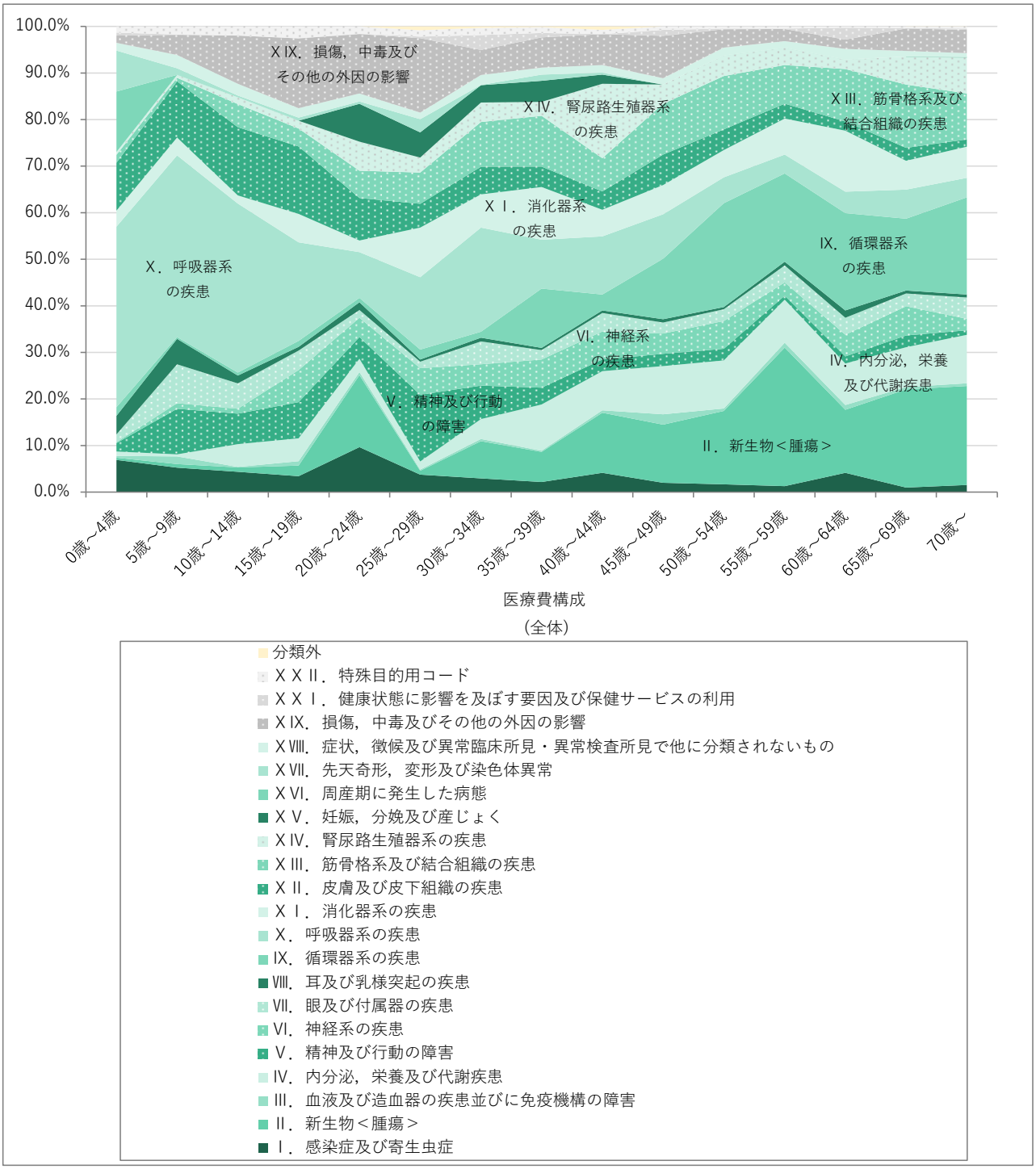
■年齢階層別比較

大分類による疾病別医療費を年齢階層別に示す。

年齢階層別 医療費(全体)



年齢階層別 医療費構成(全体)



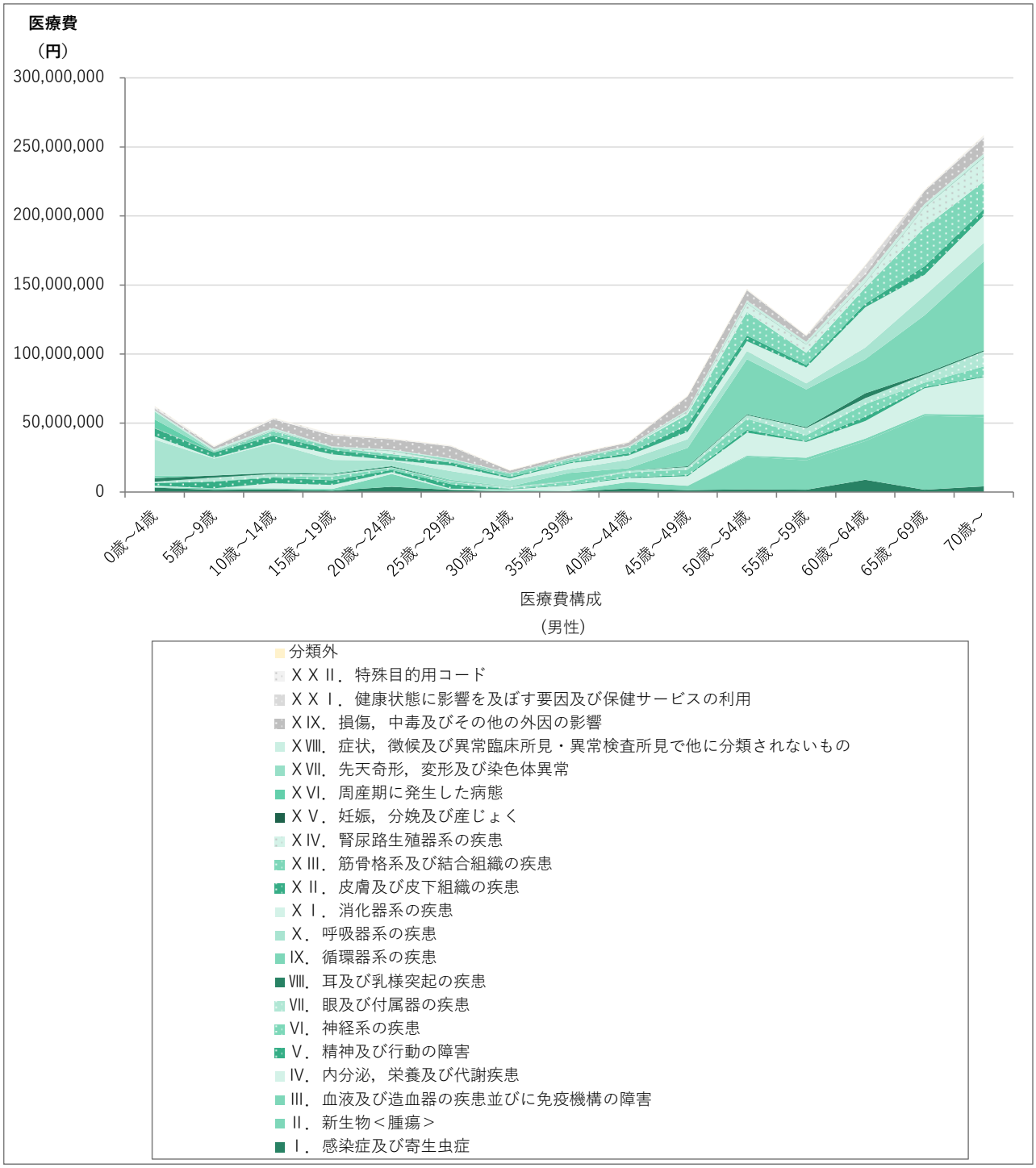
大分類による疾病別医療費上位5疾病を年齢階層別に示す。

年齢階層別 医療費上位5疾病(全体)

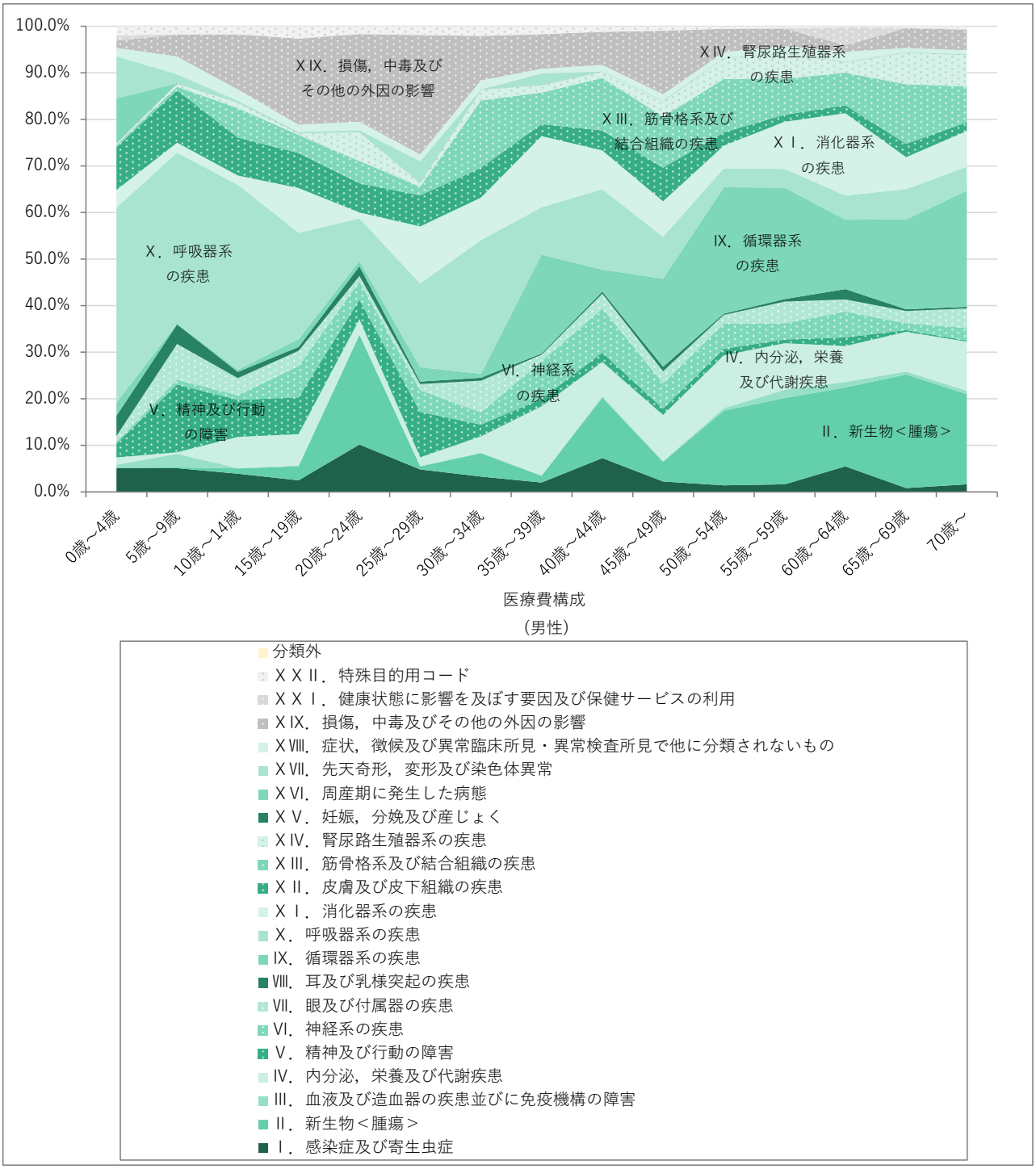
年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X．呼吸器系の疾患	XVI．周産期に発生した病態	XII．皮膚及び皮下組織の疾患	XVII．先天奇形，変形及び染色体異常	I．感染症及び寄生虫症
5歳～9歳	X．呼吸器系の疾患	XII．皮膚及び皮下組織の疾患	V．精神及び行動の障害	VII．眼及び付属器の疾患	VIII．耳及び乳様突起の疾患
10歳～14歳	X．呼吸器系の疾患	XII．皮膚及び皮下組織の疾患	XIX．損傷，中毒及びその他の外因の影響	V．精神及び行動の障害	VII．眼及び付属器の疾患
15歳～19歳	X．呼吸器系の疾患	XIX．損傷，中毒及びその他の外因の影響	XII．皮膚及び皮下組織の疾患	V．精神及び行動の障害	VI．神経系の疾患
20歳～24歳	II．新生物＜腫瘍＞	XIX．損傷，中毒及びその他の外因の影響	X．呼吸器系の疾患	I．感染症及び寄生虫症	XII．皮膚及び皮下組織の疾患
25歳～29歳	XIX．損傷，中毒及びその他の外因の影響	X．呼吸器系の疾患	V．精神及び行動の障害	XI．消化器系の疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患
30歳～34歳	X．呼吸器系の疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	II．新生物＜腫瘍＞	V．精神及び行動の障害	XI．消化器系の疾患
35歳～39歳	IX．循環器系の疾患	XI．消化器系の疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	X．呼吸器系の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患
40歳～44歳	XIV．腎尿路生殖器系の疾患	II．新生物＜腫瘍＞	X．呼吸器系の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患
45歳～49歳	IX．循環器系の疾患	II．新生物＜腫瘍＞	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	X．呼吸器系の疾患
50歳～54歳	IX．循環器系の疾患	II．新生物＜腫瘍＞	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	VI．神経系の疾患
55歳～59歳	II．新生物＜腫瘍＞	IX．循環器系の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	XI．消化器系の疾患
60歳～64歳	IX．循環器系の疾患	II．新生物＜腫瘍＞	XI．消化器系の疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患
65歳～69歳	II．新生物＜腫瘍＞	IX．循環器系の疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	VI．神経系の疾患
70歳～	II．新生物＜腫瘍＞	IX．循環器系の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	XIV．腎尿路生殖器系の疾患

男性における、疾病別医療費を年齢階層別に示す。

年齢階層別 医療費(男性)



年齢階層別 医療費構成(男性)



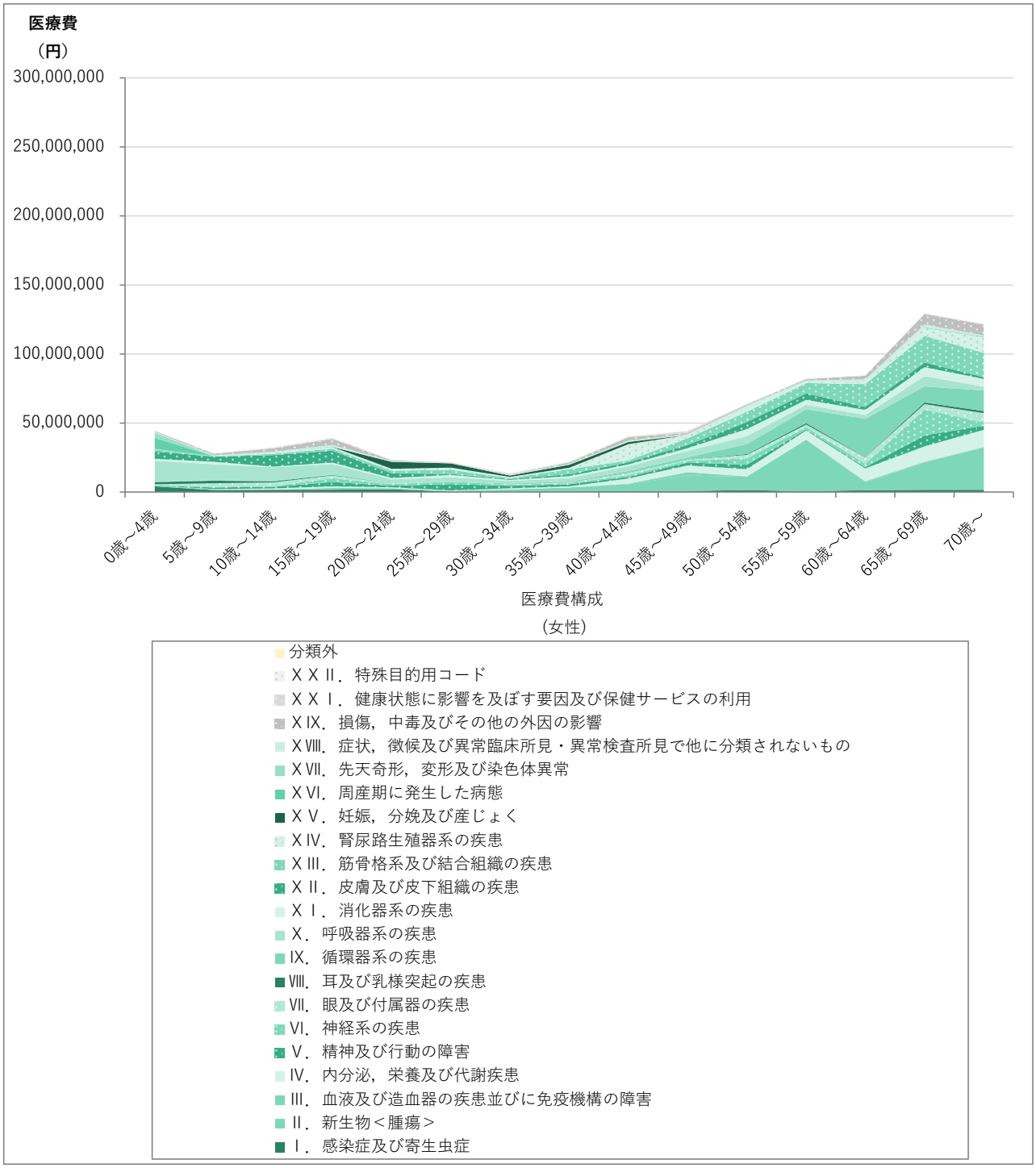
男性における、疾病別医療費上位5疾病を年齢階層別に示す。

年齢階層別 医療費上位5疾病(男性)

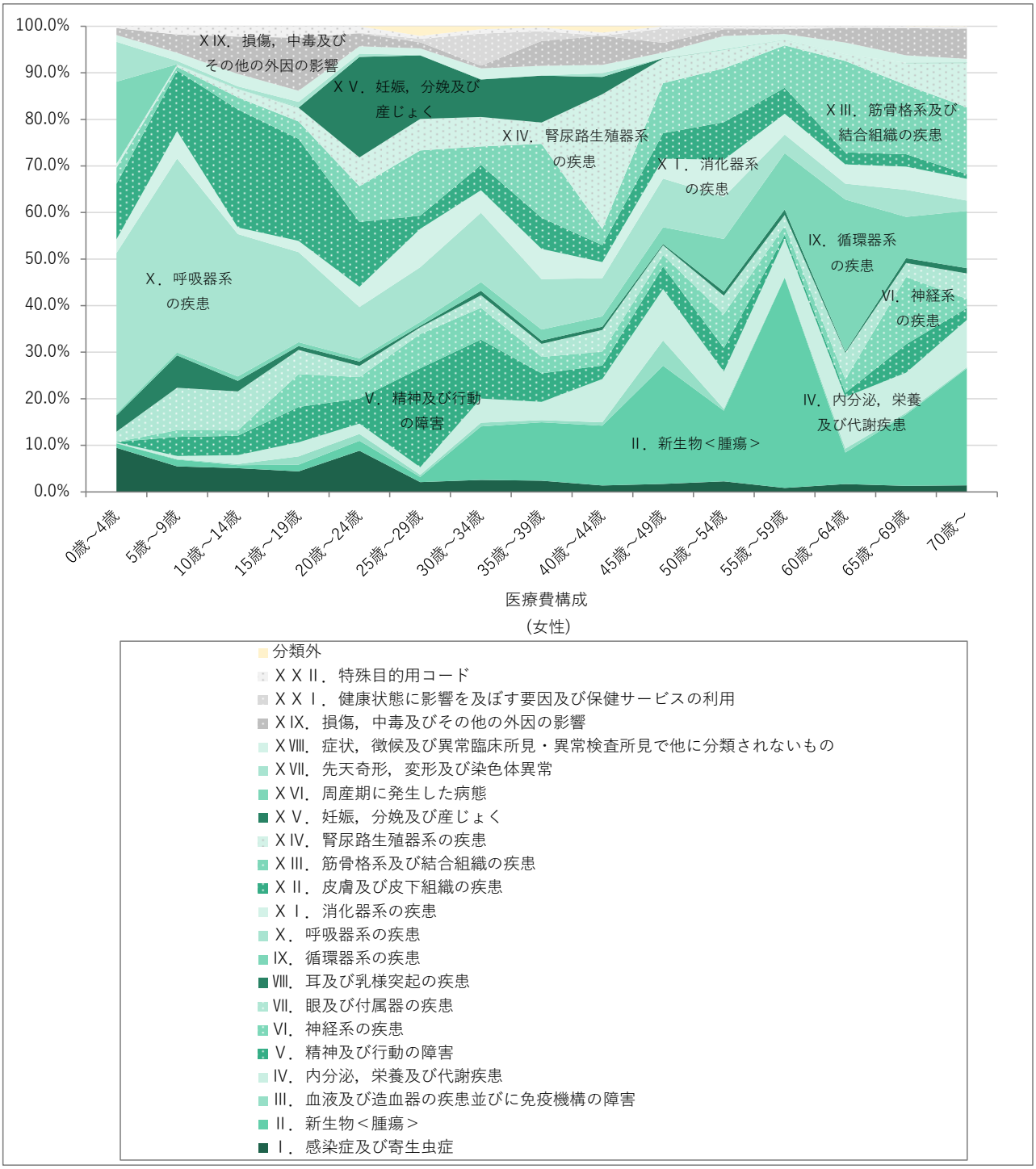
年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X．呼吸器系の疾患	XVI．周産期に発生した病態	XII．皮膚及び皮下組織の疾患	XVII．先天奇形，変形及び染色体異常	I．感染症及び寄生虫症
5歳～9歳	X．呼吸器系の疾患	V．精神及び行動の障害	XII．皮膚及び皮下組織の疾患	VII．眼及び付属器の疾患	I．感染症及び寄生虫症
10歳～14歳	X．呼吸器系の疾患	XIX．損傷，中毒及びその他の外因の影響	XII．皮膚及び皮下組織の疾患	V．精神及び行動の障害	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患
15歳～19歳	X．呼吸器系の疾患	XIX．損傷，中毒及びその他の外因の影響	XI．消化器系の疾患	V．精神及び行動の障害	XII．皮膚及び皮下組織の疾患
20歳～24歳	II．新生物＜腫瘍＞	XIX．損傷，中毒及びその他の外因の影響	I．感染症及び寄生虫症	X．呼吸器系の疾患	XIV．腎尿路生殖器系の疾患
25歳～29歳	XIX．損傷，中毒及びその他の外因の影響	X．呼吸器系の疾患	XI．消化器系の疾患	V．精神及び行動の障害	XII．皮膚及び皮下組織の疾患
30歳～34歳	X．呼吸器系の疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	XIX．損傷，中毒及びその他の外因の影響	XI．消化器系の疾患	VII．眼及び付属器の疾患
35歳～39歳	IX．循環器系の疾患	XI．消化器系の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	X．呼吸器系の疾患	VI．神経系の疾患
40歳～44歳	X．呼吸器系の疾患	II．新生物＜腫瘍＞	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	VI．神経系の疾患	XI．消化器系の疾患
45歳～49歳	IX．循環器系の疾患	XIX．損傷，中毒及びその他の外因の影響	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	X．呼吸器系の疾患
50歳～54歳	IX．循環器系の疾患	II．新生物＜腫瘍＞	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	VI．神経系の疾患
55歳～59歳	IX．循環器系の疾患	II．新生物＜腫瘍＞	XI．消化器系の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患
60歳～64歳	XI．消化器系の疾患	II．新生物＜腫瘍＞	IX．循環器系の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患
65歳～69歳	II．新生物＜腫瘍＞	IX．循環器系の疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	XI．消化器系の疾患
70歳～	IX．循環器系の疾患	II．新生物＜腫瘍＞	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	XI．消化器系の疾患

女性における、疾病別医療費を年齢階層別に示す。

年齢階層別 医療費(女性)



年齢階層別 医療費構成(女性)



女性における、疾病別医療費上位5疾病を年齢階層別に示す。

年齢階層別 医療費上位5疾病(女性)

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X．呼吸器系の疾患	XVI．周産期に発生した病態	XII．皮膚及び皮下組織の疾患	I．感染症及び寄生虫症	XVII．先天奇形，変形及び染色体異常
5歳～9歳	X．呼吸器系の疾患	XII．皮膚及び皮下組織の疾患	VII．眼及び付属器の疾患	VIII．耳及び乳様突起の疾患	XI．消化器系の疾患
10歳～14歳	X．呼吸器系の疾患	XII．皮膚及び皮下組織の疾患	VII．眼及び付属器の疾患	XIX．損傷，中毒及びその他の外因の影響	I．感染症及び寄生虫症
15歳～19歳	XII．皮膚及び皮下組織の疾患	X．呼吸器系の疾患	XIX．損傷，中毒及びその他の外因の影響	V．精神及び行動の障害	VI．神経系の疾患
20歳～24歳	XV．妊娠，分娩及び産じょく	XII．皮膚及び皮下組織の疾患	X．呼吸器系の疾患	I．感染症及び寄生虫症	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患
25歳～29歳	V．精神及び行動の障害	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	XV．妊娠，分娩及び産じょく	X．呼吸器系の疾患	XI．消化器系の疾患
30歳～34歳	X．呼吸器系の疾患	V．精神及び行動の障害	II．新生物＜腫瘍＞	XV．妊娠，分娩及び産じょく	XXI．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用
35歳～39歳	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	II．新生物＜腫瘍＞	X．呼吸器系の疾患	XV．妊娠，分娩及び産じょく	XII．皮膚及び皮下組織の疾患
40歳～44歳	XIV．腎尿路生殖器系の疾患	II．新生物＜腫瘍＞	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	X．呼吸器系の疾患	XIX．損傷，中毒及びその他の外因の影響
45歳～49歳	II．新生物＜腫瘍＞	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	X．呼吸器系の疾患	XII．皮膚及び皮下組織の疾患
50歳～54歳	II．新生物＜腫瘍＞	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	IX．循環器系の疾患	X．呼吸器系の疾患	XII．皮膚及び皮下組織の疾患
55歳～59歳	II．新生物＜腫瘍＞	IX．循環器系の疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	XII．皮膚及び皮下組織の疾患
60歳～64歳	IX．循環器系の疾患	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	II．新生物＜腫瘍＞	VII．眼及び付属器の疾患
65歳～69歳	II．新生物＜腫瘍＞	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	VI．神経系の疾患	IX．循環器系の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患
70歳～	II．新生物＜腫瘍＞	XIII．筋骨格系及び結合組織の疾患	IX．循環器系の疾患	IV．内分泌，栄養及び代謝疾患	XIV．腎尿路生殖器系の疾患

3-2.中分類による疾病別医療費統計

(1)中分類による疾病別医療費統計

中分類による疾病別医療費統計

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

中分類の疾病項目毎に集計するため、調剤レセプトについてはデータ化時点で紐づく医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、集計ができない。そのため、合計は他統計と一致しない。

「う蝕」等、主に歯科で医療費が発生すると考えられる疾病についても、医科で医療費が発生する場合がある。

・患者数…複数疾病をもつ患者がいるため、合計の人数は全疾病の和と一致しない。

・レセプト件数…一件のレセプトに複数の疾病があるため、合計の件数は全疾病の和と一致しない。

■中分類による疾病別医療費統計

疾病分類表における中分類単位で医療費等を集計し、以下に示す。

中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)		医療費(円)	割合(%) (医療費総計に 対して占める割合)	患者数(人)
1	0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	111,987,058	5.3	733
2	0903	その他の心疾患	110,629,449	5.2	1,052
3	0402	糖尿病	93,035,878	4.4	1,768
4	1113	その他の消化器系の疾患	78,432,832	3.7	2,090
5	0211	良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞	67,808,926	3.2	1,034
6	0606	その他の神経系の疾患	67,283,707	3.2	1,261
7	0901	高血圧性疾患	61,948,304	2.9	1,719
8	1011	その他の呼吸器系の疾患	60,660,241	2.9	3,654
9	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	54,810,547	2.6	1,980
10	1901	骨折	53,888,092	2.6	548

中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)		医療費(円)	患者数(人)	割合(%) (患者数全体に対して占める割合)
1	1011	その他の呼吸器系の疾患	60,660,241	3,654	39.8
2	1003	その他の急性上気道感染症	31,838,823	3,502	38.2
3	1800	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	32,771,544	2,981	32.5
4	1006	アレルギー性鼻炎	30,727,603	2,977	32.4
5	2220	その他の特殊目的用コード	15,991,260	2,678	29.2
6	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	18,104,725	2,518	27.4
7	1202	皮膚炎及び湿疹	52,070,732	2,435	26.5
8	1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	43,365,618	2,386	26.0
9	1113	その他の消化器系の疾患	78,432,832	2,090	22.8
9	1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	11,563,763	2,090	22.8

中分類による疾病別統計(患者一人当たりの医療費上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)		医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
1	0209	白血病	14,971,843	14	1,069,417
2	1502	妊娠高血圧症候群	2,463,596	5	492,719
3	0206	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	22,184,398	76	291,900
4	1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	5,211,156	19	274,271
5	0208	悪性リンパ腫	17,323,449	66	262,477
6	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	7,891,023	33	239,122
7	1402	腎不全	50,583,778	214	236,373
8	0205	気管，気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	48,551,121	226	214,828
9	0503	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	17,257,335	83	207,920
10	1602	その他の周産期に発生した病態	8,731,784	46	189,821

中分類による疾病別医療費統計

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。

※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数(件)	患者数(人)
	2,109,634,410	112,102	9,178

疾病分類		医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	割合(%)	順位	患者数(人)	割合(%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症		58,527,530	2.8		11,424	10.2		3,301	36.0		17,730	
0101	腸管感染症	11,270,354	0.5	50	3,771	3.4	27	1,368	14.9	21	8,239	101
0102	結核	738,738	0.0	111	141	0.1	103	70	0.8	95	10,553	96
0103	主として性的伝播様式をとる感染症	2,205,811	0.1	101	519	0.5	84	278	3.0	67	7,935	102
0104	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	7,968,604	0.4	67	2,282	2.0	39	715	7.8	33	11,145	93
0105	ウイルス性肝炎	5,596,099	0.3	75	821	0.7	75	292	3.2	63	19,165	75
0106	その他のウイルス性疾患	9,350,149	0.4	58	1,260	1.1	60	600	6.5	41	15,584	81
0107	真菌症	12,252,135	0.6	46	2,099	1.9	43	678	7.4	36	18,071	78
0108	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	3,065	0.0	123	1	0.0	123	1	0.0	122	3,065	121
0109	その他の感染症及び寄生虫症	9,142,575	0.4	61	1,860	1.7	48	620	6.8	40	14,746	85
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞		322,765,819	15.3		6,930	6.2		2,005	21.8		160,980	
0201	胃の悪性新生物＜腫瘍＞	15,649,072	0.7	39	657	0.6	78	286	3.1	65	54,717	36
0202	結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	5,386,715	0.3	78	721	0.6	76	353	3.8	55	15,260	82
0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	7,891,023	0.4	70	194	0.2	100	33	0.4	105	239,122	6
0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	3,230,625	0.2	91	407	0.4	89	150	1.6	84	21,538	67
0205	気管，気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	48,551,121	2.3	13	607	0.5	79	226	2.5	73	214,828	8
0206	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	22,184,398	1.1	30	352	0.3	91	76	0.8	93	291,900	3
0207	子宮の悪性新生物＜腫瘍＞	7,781,589	0.4	71	227	0.2	96	105	1.1	89	74,110	27
0208	悪性リンパ腫	17,323,449	0.8	34	273	0.2	95	66	0.7	97	262,477	5
0209	白血病	14,971,843	0.7	41	58	0.1	112	14	0.2	116	1,069,417	1
0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	111,987,058	5.3	1	2,534	2.3	35	733	8.0	32	152,779	12
0211	良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞	67,808,926	3.2	5	2,745	2.4	34	1,034	11.3	25	65,579	29
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害		15,864,431	0.8		2,256	2.0		691	7.5		22,959	
0301	貧血	5,440,179	0.3	77	1,474	1.3	56	431	4.7	48	12,622	88
0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	10,424,252	0.5	55	904	0.8	71	325	3.5	56	32,075	49

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数(件)	患者数(人)
	2,109,634,410	112,102	9,178

疾病分類		医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	割合(%)	順位	患者数(人)	割合(%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅳ. 内分泌，栄養及び代謝疾患		168,028,430	8.0		25,520	22.8		3,014	32.8		55,749	
0401	甲状腺障害	13,984,861	0.7	42	3,033	2.7	31	697	7.6	34	20,064	72
0402	糖尿病	93,035,878	4.4	3	11,661	10.4	6	1,768	19.3	14	52,622	38
0403	脂質異常症	36,628,142	1.7	19	14,629	13.0	2	1,397	15.2	19	26,219	58
0404	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	24,379,549	1.2	28	7,709	6.9	14	1,309	14.3	22	18,625	76
Ⅴ. 精神及び行動の障害		62,935,673	3.0		6,251	5.6		692	7.5		90,948	
0501	血管性及び詳細不明の認知症	210,101	0.0	114	25	0.0	116	14	0.2	116	15,007	84
0502	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	1,857,271	0.1	103	210	0.2	97	41	0.4	103	45,299	41
0503	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	17,257,335	0.8	35	1,034	0.9	67	83	0.9	92	207,920	9
0504	気分［感情］障害（躁うつ病を含む）	13,706,427	0.6	43	2,498	2.2	36	237	2.6	70	57,833	32
0505	神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害	5,441,796	0.3	76	3,032	2.7	32	359	3.9	54	15,158	83
0506	知的障害＜精神遅滞＞	208,549	0.0	115	197	0.2	99	38	0.4	104	5,488	114
0507	その他の精神及び行動の障害	24,254,194	1.1	29	1,969	1.8	46	231	2.5	72	104,997	18
Ⅵ. 神経系の疾患		88,521,099	4.2		11,192	10.0		1,357	14.8		65,233	
0601	パーキンソン病	3,620,709	0.2	89	277	0.2	93	22	0.2	109	164,578	11
0602	アルツハイマー病	1,694,330	0.1	106	113	0.1	108	21	0.2	110	80,682	26
0603	てんかん	11,260,228	0.5	51	944	0.8	70	112	1.2	88	100,538	19
0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	4,553,175	0.2	86	154	0.1	102	30	0.3	106	151,773	13
0605	自律神経系の障害	108,950	0.0	117	132	0.1	106	19	0.2	111	5,734	110
0606	その他の神経系の疾患	67,283,707	3.2	6	10,153	9.1	10	1,261	13.7	23	53,357	37
Ⅶ. 眼及び付属器の疾患		73,528,949	3.5		10,037	9.0		3,108	33.9		23,658	
0701	結膜炎	10,444,469	0.5	54	5,312	4.7	23	1,720	18.7	16	6,072	107
0702	白内障	13,554,364	0.6	44	1,697	1.5	51	390	4.2	51	34,755	46
0703	屈折及び調節の障害	9,909,992	0.5	56	5,941	5.3	19	2,035	22.2	11	4,870	118
0704	その他の眼及び付属器の疾患	39,620,124	1.9	18	5,837	5.2	20	1,753	19.1	15	22,601	64
Ⅷ. 耳及び乳様突起の疾患		23,783,695	1.1		5,546	4.9		1,554	16.9		15,305	
0801	外耳炎	2,810,159	0.1	95	2,822	2.5	33	834	9.1	28	3,369	120
0802	その他の外耳疾患	3,092,643	0.1	94	1,720	1.5	50	625	6.8	39	4,948	116
0803	中耳炎	7,930,063	0.4	68	1,096	1.0	65	313	3.4	58	25,336	60

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数(件)	患者数(人)
	2,109,634,410	112,102	9,178

疾病分類		医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	割合(%)	順位	患者数(人)	割合(%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
0804	その他の中耳及び乳様突起の疾患	3,334,978	0.2	90	861	0.8	73	301	3.3	60	11,080	94
0805	メニエール病	1,449,264	0.1	108	485	0.4	86	115	1.3	87	12,602	89
0806	その他の内耳疾患	1,974,885	0.1	102	208	0.2	98	91	1.0	91	21,702	66
0807	その他の耳疾患	3,191,703	0.2	92	848	0.8	74	283	3.1	66	11,278	92
IX.	循環器系の疾患	299,316,335	14.2		24,648	22.0		2,534	27.6		118,120	
0901	高血圧性疾患	61,948,304	2.9	7	20,578	18.4	1	1,719	18.7	17	36,037	45
0902	虚血性心疾患	36,093,918	1.7	20	3,073	2.7	30	434	4.7	47	83,166	25
0903	その他の心疾患	110,629,449	5.2	2	6,200	5.5	17	1,052	11.5	24	105,161	17
0904	くも膜下出血	223,299	0.0	113	53	0.0	113	19	0.2	111	11,753	91
0905	脳内出血	9,214,427	0.4	60	166	0.1	101	63	0.7	98	146,261	14
0906	脳梗塞	21,104,908	1.0	32	1,470	1.3	57	237	2.6	70	89,050	24
0907	脳動脈硬化（症）	31,297	0.0	119	11	0.0	119	1	0.0	122	31,297	50
0908	その他の脳血管疾患	27,464,260	1.3	26	1,040	0.9	66	295	3.2	61	93,099	23
0909	動脈硬化（症）	4,972,125	0.2	84	897	0.8	72	217	2.4	75	22,913	63
0911	低血圧（症）	115,788	0.0	116	93	0.1	110	27	0.3	107	4,288	119
0912	その他の循環器系の疾患	27,518,560	1.3	25	1,432	1.3	58	390	4.2	51	70,560	28
X.	呼吸器系の疾患	229,825,185	10.9		34,711	31.0		6,170	67.2		37,249	
1001	急性鼻咽頭炎［かぜ］＜感冒＞	3,947,831	0.2	88	2,248	2.0	40	760	8.3	30	5,195	115
1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	11,563,763	0.5	48	5,671	5.1	22	2,090	22.8	9	5,533	113
1003	その他の急性上気道感染症	31,838,823	1.5	22	13,374	11.9	5	3,502	38.2	2	9,092	98
1004	肺炎	16,060,814	0.8	37	1,290	1.2	59	550	6.0	42	29,201	55
1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	18,104,725	0.9	33	8,198	7.3	13	2,518	27.4	6	7,190	104
1006	アレルギー性鼻炎	30,727,603	1.5	23	13,689	12.2	3	2,977	32.4	4	10,322	97
1007	慢性副鼻腔炎	11,360,681	0.5	49	2,042	1.8	44	479	5.2	44	23,717	62
1008	急性又は慢性と明示されない気管支炎	2,240,545	0.1	99	1,099	1.0	63	458	5.0	45	4,892	117
1009	慢性閉塞性肺疾患	13,066,244	0.6	45	1,692	1.5	52	318	3.5	57	41,089	42
1010	喘息	30,253,915	1.4	24	7,617	6.8	15	1,387	15.1	20	21,812	65
1011	その他の呼吸器系の疾患	60,660,241	2.9	8	9,993	8.9	11	3,654	39.8	1	16,601	79
XI.	消化器系の疾患	146,399,286	6.9		21,667	19.3		3,600	39.2		40,666	
1101	う蝕	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数(件)	患者数(人)
	2,109,634,410	112,102	9,178

疾病分類		医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	割合(%)	順位	患者数(人)	割合(%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
1102	歯肉炎及び歯周疾患	5,898	0.0	122	6	0.0	121	4	0.0	119	1,475	124
1103	その他の歯及び歯の支持組織の障害	84,282	0.0	118	24	0.0	118	15	0.2	115	5,619	112
1104	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	4,288,413	0.2	87	985	0.9	68	206	2.2	77	20,818	70
1105	胃炎及び十二指腸炎	15,182,375	0.7	40	8,366	7.5	12	1,927	21.0	13	7,879	103
1106	痔核	2,218,673	0.1	100	390	0.3	90	104	1.1	90	21,333	69
1107	アルコール性肝疾患	1,470,460	0.1	107	337	0.3	92	49	0.5	99	30,009	51
1108	慢性肝炎（アルコール性のものを除く）	2,258,963	0.1	98	1,142	1.0	62	161	1.8	83	14,031	86
1109	肝硬変（アルコール性のものを除く）	2,436,191	0.1	97	537	0.5	83	124	1.4	86	19,647	74
1110	その他の肝疾患	25,324,173	1.2	27	2,366	2.1	37	747	8.1	31	33,901	48
1111	胆石症及び胆のう炎	9,652,490	0.5	57	555	0.5	82	173	1.9	79	55,795	35
1112	膵疾患	5,044,536	0.2	82	495	0.4	85	172	1.9	80	29,329	53
1113	その他の消化器系の疾患	78,432,832	3.7	4	13,507	12.0	4	2,090	22.8	9	37,528	44
XII.	皮膚及び皮下組織の疾患	102,340,140	4.9		17,820	15.9		3,559	38.8		28,755	
1201	皮膚及び皮下組織の感染症	6,903,790	0.3	73	1,944	1.7	47	767	8.4	29	9,001	99
1202	皮膚炎及び湿疹	52,070,732	2.5	11	11,502	10.3	7	2,435	26.5	7	21,384	68
1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	43,365,618	2.1	15	10,803	9.6	9	2,386	26.0	8	18,175	77
XIII.	筋骨格系及び結合組織の疾患	196,593,833	9.3		19,858	17.7		3,208	35.0		61,282	
1301	炎症性多発性関節障害	42,877,869	2.0	16	3,949	3.5	26	666	7.3	37	64,381	30
1302	関節症	40,208,106	1.9	17	4,648	4.1	24	688	7.5	35	58,442	31
1303	脊椎障害（脊椎症を含む）	21,227,601	1.0	31	3,678	3.3	28	626	6.8	38	33,910	47
1304	椎間板障害	9,032,847	0.4	62	1,652	1.5	53	366	4.0	53	24,680	61
1305	頚腕症候群	3,166,101	0.2	93	2,108	1.9	42	444	4.8	46	7,131	105
1306	腰痛症及び坐骨神経痛	8,658,346	0.4	66	4,507	4.0	25	981	10.7	26	8,826	100
1307	その他の脊柱障害	5,147,198	0.2	81	719	0.6	77	176	1.9	78	29,245	54
1308	肩の傷害＜損傷＞	6,250,273	0.3	74	2,188	2.0	41	392	4.3	50	15,945	80
1309	骨の密度及び構造の障害	16,504,337	0.8	36	2,306	2.1	38	291	3.2	64	56,716	33
1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	43,521,155	2.1	14	6,264	5.6	16	1,479	16.1	18	29,426	52
XIV.	腎尿路生殖器系の疾患	100,752,977	4.8		8,515	7.6		1,796	19.6		56,099	
1401	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	8,903,676	0.4	63	981	0.9	69	305	3.3	59	29,192	56

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数(件)	患者数(人)
	2,109,634,410	112,102	9,178

疾病分類		医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	割合(%)	順位	患者数(人)	割合(%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
1402	腎不全	50,583,778	2.4	12	1,626	1.5	55	214	2.3	76	236,373	7
1403	尿路結石症	7,896,811	0.4	69	601	0.5	80	171	1.9	81	46,180	40
1404	その他の腎尿路系の疾患	10,798,097	0.5	53	3,396	3.0	29	887	9.7	27	12,174	90
1405	前立腺肥大（症）	4,824,715	0.2	85	1,652	1.5	53	239	2.6	69	20,187	71
1406	その他の男性生殖器の疾患	1,846,759	0.1	104	421	0.4	88	133	1.4	85	13,885	87
1407	月経障害及び閉経周辺期障害	5,029,791	0.2	83	1,185	1.1	61	251	2.7	68	20,039	73
1408	乳房及びその他の女性生殖器の疾患	10,869,350	0.5	52	1,098	1.0	64	429	4.7	49	25,336	59
XV.	妊娠，分娩及び産じょく	12,961,584	0.6		311	0.3		79	0.9		164,071	
1501	流産	1,706,501	0.1	105	31	0.0	115	18	0.2	114	94,806	22
1502	妊娠高血圧症候群	2,463,596	0.1	96	25	0.0	116	5	0.1	118	492,719	2
1503	単胎自然分娩	2,150	0.0	124	1	0.0	123	1	0.0	122	2,150	122
1504	その他の妊娠，分娩及び産じょく	8,789,337	0.4	64	277	0.2	93	69	0.8	96	127,382	15
XVI.	周産期に発生した病態	13,942,940	0.7		126	0.1		59	0.6		236,321	
1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	5,211,156	0.2	79	41	0.0	114	19	0.2	111	274,271	4
1602	その他の周産期に発生した病態	8,731,784	0.4	65	92	0.1	111	46	0.5	100	189,821	10
XVII.	先天奇形，変形及び染色体異常	14,486,635	0.7		689	0.6		198	2.2		73,165	
1701	心臓の先天奇形	5,199,865	0.2	80	141	0.1	103	43	0.5	102	120,927	16
1702	その他の先天奇形，変形及び染色体異常	9,286,770	0.4	59	570	0.5	81	165	1.8	82	56,283	34
XVIII.	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	32,771,544	1.6		11,006	9.8		2,981	32.5		10,993	
1800	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	32,771,544	1.6	21	11,006	9.8	8	2,981	32.5	3	10,993	95
XIX.	損傷，中毒及びその他の外因の影響	117,211,661	5.6		7,548	6.7		2,390	26.0		49,043	
1901	骨折	53,888,092	2.6	10	2,014	1.8	45	548	6.0	43	98,336	21
1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	6,987,993	0.3	72	125	0.1	107	71	0.8	94	98,422	20
1903	熱傷及び腐食	284,282	0.0	112	98	0.1	109	46	0.5	100	6,180	106
1904	中毒	1,240,747	0.1	110	483	0.4	87	219	2.4	74	5,666	111
1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	54,810,547	2.6	9	5,723	5.1	21	1,980	21.6	12	27,682	57

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数(件)	患者数(人)
	2,109,634,410	112,102	9,178

疾病分類		医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	割合(%)	順位	患者数(人)	割合(%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
ＸＸＩ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用		11,806,420	0.6		1,766	1.6		301	3.3		39,224	
2101	検査及び診査のための保健サービスの利用者	17,342	0.0	120	4	0.0	122	3	0.0	121	5,781	109
2102	予防接種	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	
2103	正常妊娠及び産じょくの管理並びに家族計画	7,191	0.0	121	7	0.0	120	4	0.0	119	1,798	123
2104	歯の補てつ	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	
2105	特定の処置（歯の補てつを除く）及び保健ケアのための保健サービスの利用者	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	
2106	その他の理由による保健サービスの利用者	11,781,887	0.6	47	1,755	1.6	49	294	3.2	62	40,074	43
ＸＸⅡ．特殊目的用コード		15,991,260	0.8		6,176	5.5		2,678	29.2		5,971	
2210	重症急性呼吸器症候群［SARS］	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	
2220	その他の特殊目的用コード	15,991,260	0.8	38	6,176	5.5	18	2,678	29.2	5	5,971	108
分類外		1,278,984	0.1		138	0.1		26	0.3		49,192	
9999	分類外	1,278,984	0.1	109	138	0.1	105	26	0.3	108	49,192	39

年度分析 中分類による疾病別医療費統計

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和5年4月～令和8年3月診療分(36カ月分)

資格条件等

・資格確認日…各年度、1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

中分類の疾病項目毎に集計するため、調剤レセプトについてはデータ化時点で紐づく医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、集計ができない。そのため、合計は他統計と一致しない。

「う蝕」等、主に歯科で医療費が発生すると考えられる疾病についても、医科で医療費が発生する場合がある。

■年度別 中分類による疾病別医療費統計

令和5年度から令和7年度に発生しているレセプトより、疾病中分類毎に医療費等を算出し年度別に示す。

年度別 中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

年度	順位	疾病分類(中分類)		医療費(円)	割合(%) (医療費総計に対して占める割合)	患者数(人)
令和5年度	1	1113	その他の消化器系の疾患	98,498,425	4.5	2,295
	2	0402	糖尿病	87,286,612	4.0	2,010
	3	0903	その他の心疾患	77,645,045	3.5	1,119
	4	0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	76,060,358	3.5	819
	5	2220	その他の特殊目的用コード	69,724,799	3.2	4,140
	6	0901	高血圧性疾患	66,308,139	3.0	2,000
	7	0606	その他の神経系の疾患	65,450,860	3.0	1,341
	8	1011	その他の呼吸器系の疾患	62,297,007	2.8	4,361
	9	0205	気管，気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	59,997,475	2.7	226
	10	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	49,830,750	2.3	2,105
令和6年度	1	0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	91,275,568	4.4	758
	2	0402	糖尿病	88,284,001	4.2	1,897
	3	0903	その他の心疾患	87,983,908	4.2	1,133
	4	1113	その他の消化器系の疾患	83,897,506	4.0	2,167
	5	0205	気管，気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	66,748,082	3.2	241
	6	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	62,323,494	3.0	2,053
	7	0901	高血圧性疾患	59,938,864	2.9	1,852
	8	0606	その他の神経系の疾患	54,688,312	2.6	1,305
	9	1011	その他の呼吸器系の疾患	53,150,914	2.5	3,620
	10	1202	皮膚炎及び湿疹	52,871,511	2.5	2,596
令和7年度	1	0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	111,987,058	5.3	733
	2	0903	その他の心疾患	110,629,449	5.2	1,052
	3	0402	糖尿病	93,035,878	4.4	1,768
	4	1113	その他の消化器系の疾患	78,432,832	3.7	2,090
	5	0211	良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞	67,808,926	3.2	1,034
	6	0606	その他の神経系の疾患	67,283,707	3.2	1,261
	7	0901	高血圧性疾患	61,948,304	2.9	1,719
	8	1011	その他の呼吸器系の疾患	60,660,241	2.9	3,654
	9	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	54,810,547	2.6	1,980
	10	1901	骨折	53,888,092	2.6	548

年度別 中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

年度	順位	疾病分類(中分類)		医療費(円)	患者数(人)	割合(%) (患者数全体に対して占める割合)
令和5年度	1	1011	その他の呼吸器系の疾患	62,297,007	4,361	43.5
	2	2220	その他の特殊目的用コード	69,724,799	4,140	41.3
	3	1003	その他の急性上気道感染症	37,453,705	3,998	39.9
	4	1800	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	37,564,181	3,247	32.4
	5	1006	アレルギー性鼻炎	28,325,083	2,959	29.5
	6	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	20,395,281	2,655	26.5
	7	1202	皮膚炎及び湿疹	43,894,269	2,593	25.9
	8	1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	14,529,770	2,478	24.7
	9	1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	48,878,497	2,464	24.6
	10	1105	胃炎及び十二指腸炎	28,554,291	2,382	23.8
令和6年度	1	1003	その他の急性上気道感染症	36,230,741	3,872	40.1
	2	1011	その他の呼吸器系の疾患	53,150,914	3,620	37.5
	3	1800	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	37,840,303	3,183	33.0
	4	1006	アレルギー性鼻炎	30,613,411	3,086	32.0
	5	2220	その他の特殊目的用コード	24,970,223	3,065	31.8
	6	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	23,702,292	2,828	29.3
	7	1202	皮膚炎及び湿疹	52,871,511	2,596	26.9
	8	1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	45,209,083	2,436	25.2
	9	1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	13,359,312	2,250	23.3
	10	1105	胃炎及び十二指腸炎	21,998,260	2,217	23.0
令和7年度	1	1011	その他の呼吸器系の疾患	60,660,241	3,654	39.8
	2	1003	その他の急性上気道感染症	31,838,823	3,502	38.2
	3	1800	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	32,771,544	2,981	32.5
	4	1006	アレルギー性鼻炎	30,727,603	2,977	32.4
	5	2220	その他の特殊目的用コード	15,991,260	2,678	29.2
	6	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	18,104,725	2,518	27.4
	7	1202	皮膚炎及び湿疹	52,070,732	2,435	26.5
	8	1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	43,365,618	2,386	26.0
	9	1113	その他の消化器系の疾患	78,432,832	2,090	22.8
	9	1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	11,563,763	2,090	22.8

年度別 中分類による疾病別統計(患者一人当たりの医療費上位10疾病)

年度	順位	疾病分類(中分類)		医療費(円)	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
令和5年度	1	0209	白血病	24,952,859	15	1,663,524
	2	1502	妊娠高血圧症候群	1,878,985	4	469,746
	3	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	16,697,643	39	428,145
	4	0208	悪性リンパ腫	25,332,731	68	372,540
	5	1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	9,059,851	26	348,456
	6	0206	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	21,148,680	79	267,705
	7	0205	気管，気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	59,997,475	226	265,476
	8	1402	腎不全	49,256,325	209	235,676
	9	0601	パーキンソン病	4,416,611	24	184,025
	10	1602	その他の周産期に発生した病態	10,319,301	58	177,919
令和6年度	1	0209	白血病	25,057,173	12	2,088,098
	2	1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	10,434,275	25	417,371
	3	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	15,153,637	41	369,601
	4	1502	妊娠高血圧症候群	989,676	3	329,892
	5	0904	くも膜下出血	8,885,793	28	317,350
	6	0205	気管，気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	66,748,082	241	276,963
	7	0206	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	21,597,969	82	263,390
	8	0208	悪性リンパ腫	14,957,580	62	241,251
	9	1504	その他の妊娠，分娩及び産じょく	19,644,619	94	208,985
	10	1402	腎不全	41,238,086	241	171,112
令和7年度	1	0209	白血病	14,971,843	14	1,069,417
	2	1502	妊娠高血圧症候群	2,463,596	5	492,719
	3	0206	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	22,184,398	76	291,900
	4	1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	5,211,156	19	274,271
	5	0208	悪性リンパ腫	17,323,449	66	262,477
	6	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	7,891,023	33	239,122
	7	1402	腎不全	50,583,778	214	236,373
	8	0205	気管，気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	48,551,121	226	214,828
	9	0503	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	17,257,335	83	207,920
	10	1602	その他の周産期に発生した病態	8,731,784	46	189,821

年度別 中分類による疾病別医療費

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
※各年度毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

医療費総計(円)	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	2,201,799,930	2,097,241,080	2,109,634,410

疾病分類		医療費(円)		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
Ⅰ. 感染症及び寄生虫症		56,340,607	74,950,032	58,527,530
0101	腸管感染症	12,545,069	12,027,276	11,270,354
0102	結核	947,284	940,533	738,738
0103	主として性的伝播様式をとる感染症	2,586,840	2,484,604	2,205,811
0104	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	8,864,651	8,477,196	7,968,604
0105	ウイルス性肝炎	8,858,913	17,999,441	5,596,099
0106	その他のウイルス性疾患	6,911,652	9,269,031	9,350,149
0107	真菌症	7,966,869	7,274,214	12,252,135
0108	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	1,155	15,994	3,065
0109	その他の感染症及び寄生虫症	7,658,175	16,461,745	9,142,575
Ⅱ. 新生物＜腫瘍＞		322,040,328	322,029,425	322,765,819
0201	胃の悪性新生物＜腫瘍＞	13,077,980	12,324,496	15,649,072
0202	結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	24,456,428	17,453,884	5,386,715
0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	16,697,643	15,153,637	7,891,023
0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	23,249,651	11,004,302	3,230,625
0205	気管，気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	59,997,475	66,748,082	48,551,121
0206	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	21,148,680	21,597,969	22,184,398
0207	子宮の悪性新生物＜腫瘍＞	6,791,430	8,745,894	7,781,589
0208	悪性リンパ腫	25,332,731	14,957,580	17,323,449
0209	白血病	24,952,859	25,057,173	14,971,843
0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	76,060,358	91,275,568	111,987,058
0211	良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞	30,275,093	37,710,840	67,808,926
Ⅲ. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害		46,818,504	13,953,179	15,864,431
0301	貧血	5,366,863	5,118,320	5,440,179
0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	41,451,641	8,834,859	10,424,252
Ⅳ. 内分泌，栄養及び代謝疾患		178,427,664	171,758,007	168,028,430
0401	甲状腺障害	12,208,916	12,820,602	13,984,861
0402	糖尿病	87,286,612	88,284,001	93,035,878

医療費総計(円)	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	2,201,799,930	2,097,241,080	2,109,634,410

疾病分類		医療費(円)		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
0403	脂質異常症	45,941,197	42,531,375	36,628,142
0404	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	32,990,939	28,122,030	24,379,549
Ⅴ.	精神及び行動の障害	58,586,900	65,824,322	62,935,673
0501	血管性及び詳細不明の認知症	1,252,864	61,101	210,101
0502	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	2,791,415	4,558,489	1,857,271
0503	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	12,138,203	12,004,585	17,257,335
0504	気分［感情］障害（躁うつ病を含む）	13,923,553	17,013,549	13,706,427
0505	神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害	9,321,267	10,226,789	5,441,796
0506	知的障害＜精神遅滞＞	482,416	269,378	208,549
0507	その他の精神及び行動の障害	18,677,183	21,690,432	24,254,194
Ⅵ.	神経系の疾患	85,851,945	77,963,399	88,521,099
0601	パーキンソン病	4,416,611	4,343,479	3,620,709
0602	アルツハイマー病	627,393	725,372	1,694,330
0603	てんかん	9,350,694	11,290,305	11,260,228
0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	4,053,603	5,960,049	4,553,175
0605	自律神経系の障害	1,952,784	955,881	108,950
0606	その他の神経系の疾患	65,450,860	54,688,312	67,283,707
Ⅶ.	眼及び付属器の疾患	80,786,353	67,867,000	73,528,949
0701	結膜炎	10,781,218	11,780,228	10,444,469
0702	白内障	15,820,077	13,011,118	13,554,364
0703	屈折及び調節の障害	13,296,555	11,904,281	9,909,992
0704	その他の眼及び付属器の疾患	40,888,504	31,171,372	39,620,124
Ⅷ.	耳及び乳様突起の疾患	28,849,436	22,694,428	23,783,695
0801	外耳炎	3,825,065	3,902,214	2,810,159
0802	その他の外耳疾患	5,034,842	4,521,681	3,092,643
0803	中耳炎	4,267,224	5,013,877	7,930,063
0804	その他の中耳及び乳様突起の疾患	2,084,924	4,072,018	3,334,978
0805	メニエール病	1,462,354	1,276,719	1,449,264
0806	その他の内耳疾患	807,284	1,436,520	1,974,885
0807	その他の耳疾患	11,367,744	2,471,399	3,191,703

医療費総計(円)	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	2,201,799,930	2,097,241,080	2,109,634,410

疾病分類		医療費(円)		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
IX. 循環器系の疾患		252,023,534	246,073,695	299,316,335
0901	高血圧性疾患	66,308,139	59,938,864	61,948,304
0902	虚血性心疾患	30,824,908	29,609,490	36,093,918
0903	その他の心疾患	77,645,045	87,983,908	110,629,449
0904	くも膜下出血	4,350,823	8,885,793	223,299
0905	脳内出血	4,593,099	6,623,578	9,214,427
0906	脳梗塞	15,137,624	14,834,998	21,104,908
0907	脳動脈硬化（症）	0	0	31,297
0908	その他の脳血管疾患	20,377,505	12,596,658	27,464,260
0909	動脈硬化（症）	4,257,042	3,202,073	4,972,125
0911	低血圧（症）	294,960	694,136	115,788
0912	その他の循環器系の疾患	28,234,387	21,704,197	27,518,560
X. 呼吸器系の疾患		231,976,623	227,561,975	229,825,185
1001	急性鼻咽頭炎［かぜ］＜感冒＞	5,666,409	4,534,539	3,947,831
1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	14,529,770	13,359,312	11,563,763
1003	その他の急性上気道感染症	37,453,705	36,230,741	31,838,823
1004	肺炎	12,189,165	17,892,543	16,060,814
1005	急性気管支炎及び 急性細気管支炎	20,395,281	23,702,292	18,104,725
1006	アレルギー性鼻炎	28,325,083	30,613,411	30,727,603
1007	慢性副鼻腔炎	5,092,671	5,350,882	11,360,681
1008	急性又は慢性と明示されない 気管支炎	4,261,919	4,288,667	2,240,545
1009	慢性閉塞性肺疾患	9,800,385	7,346,170	13,066,244
1010	喘息	31,965,227	31,092,502	30,253,915
1011	その他の呼吸器系の疾患	62,297,007	53,150,914	60,660,241
XI. 消化器系の疾患		172,146,524	146,813,495	146,399,286
1101	う蝕	4,840	0	0
1102	歯肉炎及び歯周疾患	22,097	23,371	5,898
1103	その他の歯及び歯の支持組織の 障害	85,389	196,396	84,282
1104	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	5,314,216	3,950,666	4,288,413
1105	胃炎及び十二指腸炎	28,554,291	21,998,260	15,182,375
1106	痔核	2,606,656	2,349,453	2,218,673
1107	アルコール性肝疾患	2,361,776	1,032,496	1,470,460

医療費総計(円)	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	2,201,799,930	2,097,241,080	2,109,634,410

疾病分類		医療費(円)		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
1108	慢性肝炎 （アルコール性のものを除く）	3,676,843	3,109,313	2,258,963
1109	肝硬変 （アルコール性のものを除く）	3,082,437	2,379,515	2,436,191
1110	その他の肝疾患	12,457,973	10,582,537	25,324,173
1111	胆石症及び胆のう炎	9,615,229	12,848,979	9,652,490
1112	膵疾患	5,866,352	4,445,003	5,044,536
1113	その他の消化器系の疾患	98,498,425	83,897,506	78,432,832
XII.	皮膚及び皮下組織の疾患	98,133,283	105,430,999	102,340,140
1201	皮膚及び皮下組織の感染症	5,360,518	7,350,405	6,903,790
1202	皮膚炎及び湿疹	43,894,269	52,871,511	52,070,732
1203	その他の皮膚及び 皮下組織の疾患	48,878,497	45,209,083	43,365,618
XIII.	筋骨格系及び結合組織の疾患	221,525,068	218,741,589	196,593,833
1301	炎症性多発性関節障害	47,198,177	43,856,396	42,877,869
1302	関節症	41,644,230	42,230,348	40,208,106
1303	脊椎障害（脊椎症を含む）	37,139,623	23,548,940	21,227,601
1304	椎間板障害	15,567,813	10,306,516	9,032,847
1305	頚腕症候群	3,816,831	3,942,742	3,166,101
1306	腰痛症及び坐骨神経痛	12,761,005	11,316,084	8,658,346
1307	その他の脊柱障害	8,855,881	18,098,346	5,147,198
1308	肩の傷害＜損傷＞	5,947,464	6,508,022	6,250,273
1309	骨の密度及び構造の障害	14,796,354	13,032,873	16,504,337
1310	その他の筋骨格系及び 結合組織の疾患	33,797,690	45,901,322	43,521,155
XIV.	腎尿路生殖器系の疾患	108,382,399	99,189,630	100,752,977
1401	糸球体疾患及び 腎尿細管間質性疾患	8,312,847	8,424,545	8,903,676
1402	腎不全	49,256,325	41,238,086	50,583,778
1403	尿路結石症	8,081,282	10,951,300	7,896,811
1404	その他の腎尿路系の疾患	16,007,826	13,997,592	10,798,097
1405	前立腺肥大（症）	7,364,337	5,047,318	4,824,715
1406	その他の男性生殖器の疾患	2,648,654	1,735,730	1,846,759
1407	月経障害及び閉経周辺期障害	4,161,071	5,143,640	5,029,791
1408	乳房及びその他の女性生殖器の 疾患	12,550,056	12,651,418	10,869,350

医療費総計(円)	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	2,201,799,930	2,097,241,080	2,109,634,410

疾病分類		医療費(円)		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
ＸＶ．妊娠，分娩及び産じょく		15,547,478	20,859,457	12,961,584
1501	流産	266,292	225,162	1,706,501
1502	妊娠高血圧症候群	1,878,985	989,676	2,463,596
1503	単胎自然分娩	0	0	2,150
1504	その他の妊娠，分娩及び産じょく	13,402,201	19,644,619	8,789,337
ＸＶＩ．周産期に発生した病態		19,379,151	14,529,498	13,942,940
1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	9,059,851	10,434,275	5,211,156
1602	その他の周産期に発生した病態	10,319,301	4,095,223	8,731,784
ＸＶＩＩ．先天奇形，変形及び染色体異常		6,982,186	8,790,641	14,486,635
1701	心臓の先天奇形	4,345,167	560,661	5,199,865
1702	その他の先天奇形，変形及び染色体異常	2,637,019	8,229,980	9,286,770
ＸＶＩＩＩ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの		37,564,181	37,840,303	32,771,544
1800	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	37,564,181	37,840,303	32,771,544
ＸＩＸ．損傷，中毒及びその他の外因の影響		99,101,253	123,917,377	117,211,661
1901	骨折	39,294,124	47,010,688	53,888,092
1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	7,593,780	12,571,237	6,987,993
1903	熱傷及び腐食	560,578	504,605	284,282
1904	中毒	1,822,021	1,507,353	1,240,747
1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	49,830,750	62,323,494	54,810,547
ＸＸＩ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用		11,132,396	4,586,471	11,806,420
2101	検査及び診査のための保健サービスの利用者	3,117	9,228	17,342
2102	予防接種	0	0	0
2103	正常妊娠及び産じょくの管理並びに家族計画	760	23,459	7,191
2104	歯の補てつ	0	0	0
2105	特定の処置（歯の補てつを除く）及び保健ケアのための保健サービスの利用者	0	2,569	0
2106	その他の理由による保健サービスの利用者	11,128,520	4,551,215	11,781,887

医療費総計(円)	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	2,201,799,930	2,097,241,080	2,109,634,410

疾病分類		医療費(円)		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
ＸＸⅡ．特殊目的用コード		69,724,799	24,970,223	15,991,260
2210	重症急性呼吸器症候群［SARS］	0	0	0
2220	その他の特殊目的用コード	69,724,799	24,970,223	15,991,260
分類外		479,316	895,934	1,278,984
9999	分類外	479,316	895,934	1,278,984

3-3.生活習慣病に係る医療費等の状況

(1)生活習慣病の医療費と患者数

生活習慣病の医療費と患者数

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

・生活習慣病…厚生労働省「特定健康診査等実施計画作成の手引き(第4版)」には、生活習慣病の明確な定義が記載されていないため、「特定健康診査等実施計画作成の手引き(第2版)」に記載された疾病中分類を生活習慣病の疾病項目としている。
0402 糖尿病、0403 脂質異常症、0901 高血圧性疾患、0902 虚血性心疾患、0904 くも膜下出血、
0905 脳内出血、0906 脳梗塞、0907 脳動脈硬化(症)、0909 動脈硬化(症)、1402 腎不全

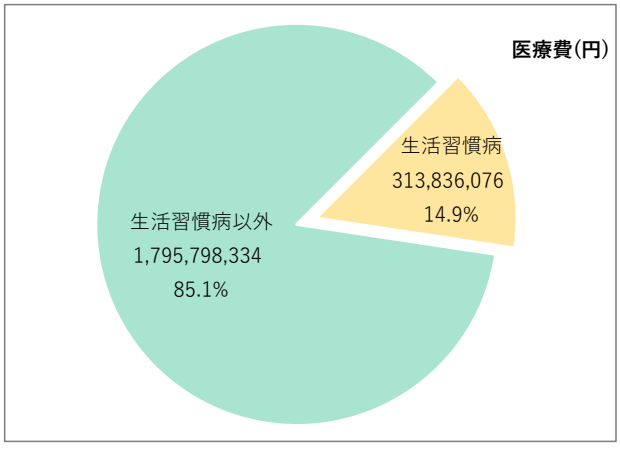
■生活習慣病の医療費と患者数

生活習慣病の基礎疾患(糖尿病、脂質異常症、高血圧性疾患)及び生活習慣病に関係する重症化疾患を生活習慣病とし、疾病分類表における中分類単位で生活習慣病の医療費を集計した。生活習慣病の医療費は3億1,384万円で医療費全体に占める割合は14.9%である。

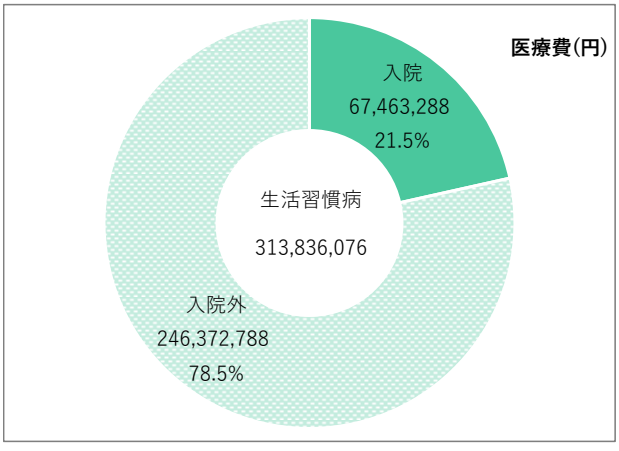
生活習慣病と生活習慣病以外の医療費

	入院(円)	構成比(%)	入院外(円)	構成比(%)	合計(円)	構成比(%)
生活習慣病	67,463,288	8.5	246,372,788	18.8	313,836,076	14.9
生活習慣病以外	729,727,392	91.5	1,066,070,942	81.2	1,795,798,334	85.1
合計	797,190,680		1,312,443,730		2,109,634,410	

医療費全体に占める生活習慣病医療費の割合



生活習慣病医療費に占める入院、入院外医療費の割合

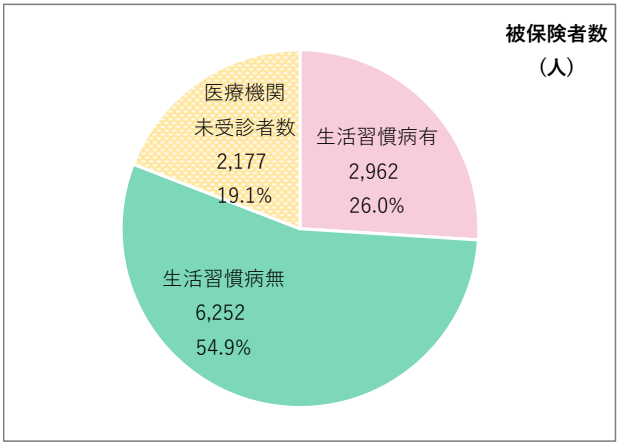


生活習慣病で医療機関を受診している患者数は2,962人で、被保険者全体に占めるその割合は26.0%である。

医療機関受診状況及び生活習慣病罹患状況

		人数(人)	構成比(%)
A	被保険者数	11,391	
B	医療機関受診者数(患者数)	9,214	80.9
C	生活習慣病有	2,962	26.0
B-C	生活習慣病無	6,252	54.9
A-B	医療機関未受診者数	2,177	19.1

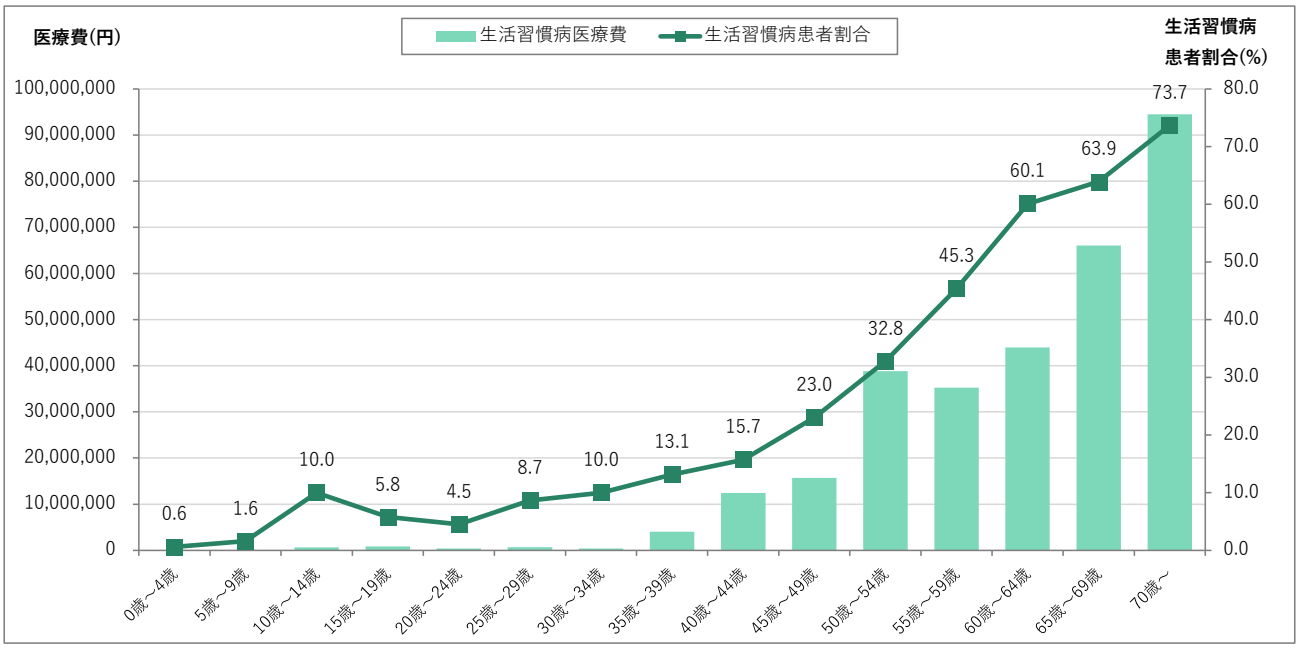
被保険者全体に占める生活習慣病患者の状況



・医療機関受診者数(患者数)のうち、生活習慣病有…分析期間中に生活習慣病に関する診療行為がある患者を対象に集計している。
・医療機関受診者数(患者数)のうち、生活習慣病無…レセプトが発生している患者のうち、分析期間中に生活習慣病に関する診療行為がない患者を対象に集計している。

年齢階層別の生活習慣病医療費と患者割合を以下に示す。年齢階層が上がるにつれて患者数が増え医療費が増大する傾向にある。

年齢階層別 生活習慣病医療費と患者割合



被保険者数は最新の被保険者マスタから人数を集計している。患者数はレセプトが発生している人数を集計している。被保険者マスタは加入、脱退で人数の増減があり、発生レセプトから集計している患者数が被保険者数を上回ることがあるため、患者割合が100%を超える可能性がある。

・生活習慣病患者割合…被保険者数に占める生活習慣病患者数の割合

(2)生活習慣病疾病別医療費等の状況

生活習慣病疾病別医療費等の状況

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

・生活習慣病…厚生労働省「特定健康診査等実施計画作成の手引き(第4版)」には、生活習慣病の明確な定義が記載されていないため、「特定健康診査等実施計画作成の手引き(第2版)」に記載された疾病中分類を生活習慣病の疾病項目としている。
0402 糖尿病、0403 脂質異常症、0901 高血圧性疾患、0902 虚血性心疾患、0904 くも膜下出血、0905 脳内出血、0906 脳梗塞、0907 脳動脈硬化(症)、0909 動脈硬化(症)、1402 腎不全

・患者割合…被保険者数に占める患者数の割合

■生活習慣病疾病別医療費等の状況

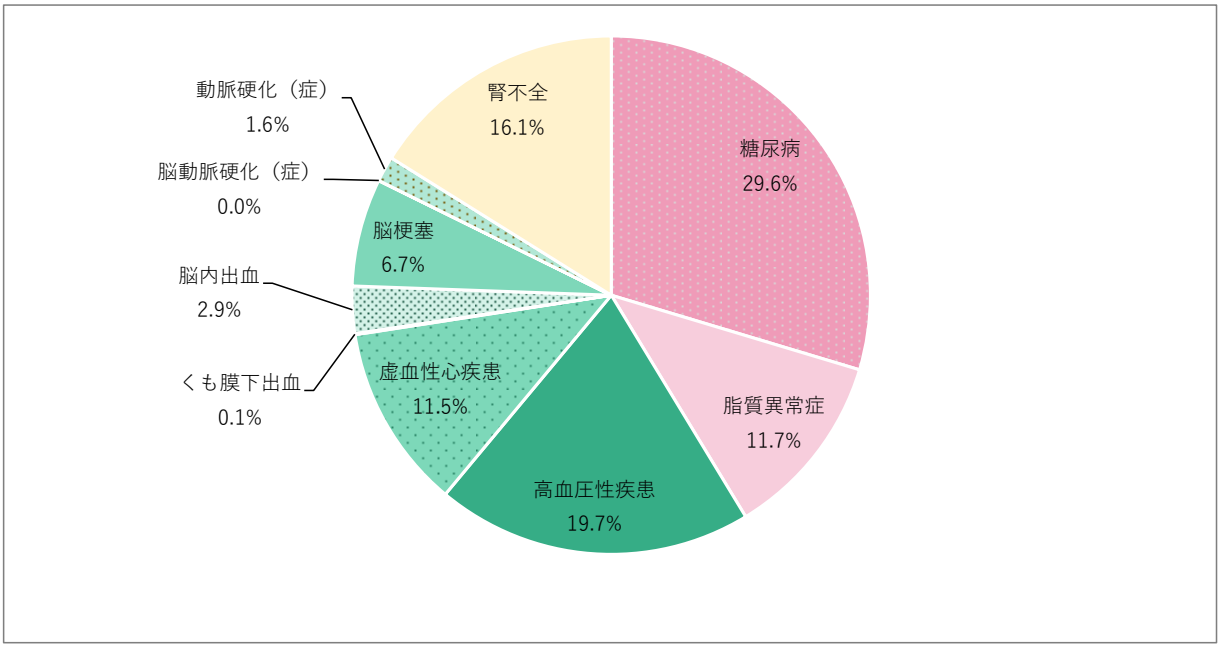
生活習慣病疾病別の医療費、患者数、患者割合、患者一人当たりの医療費は以下のとおりである。

生活習慣病疾病別 医療費統計

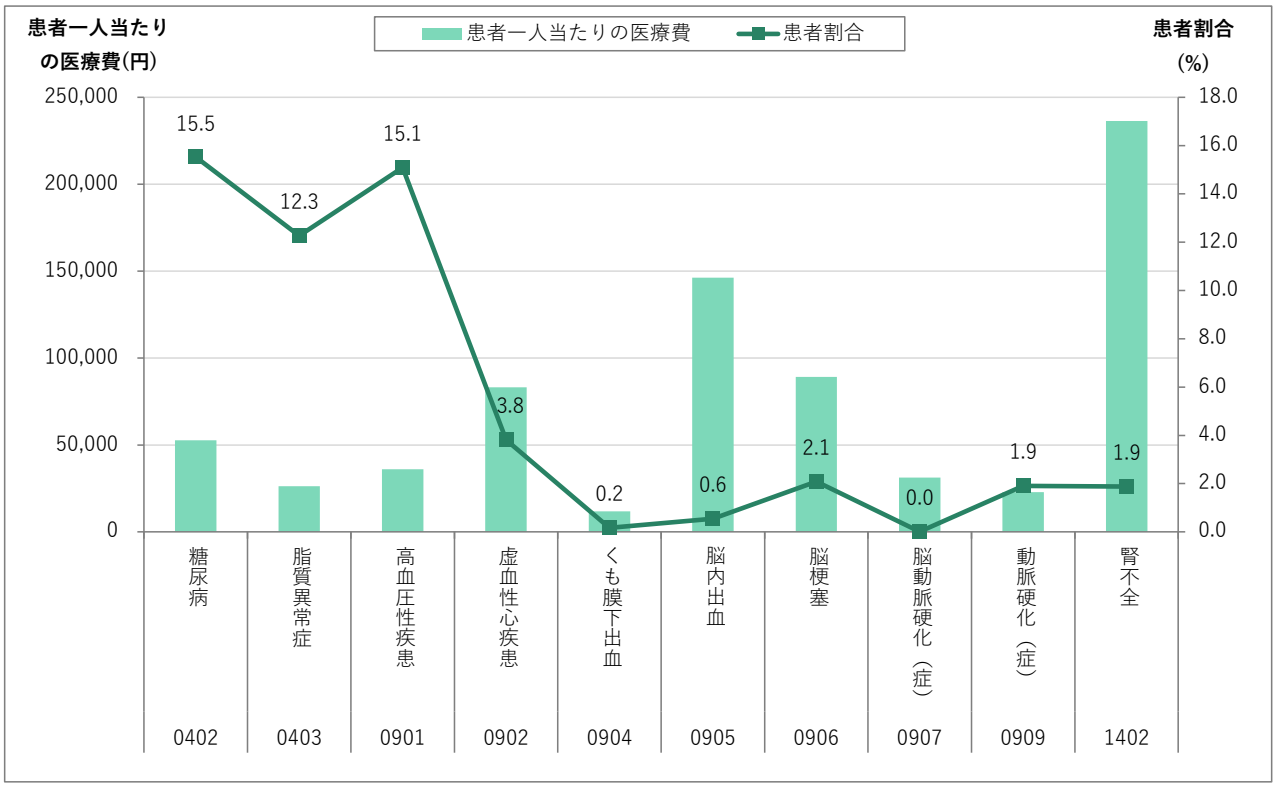
疾病分類(中分類)		医療費(円)	構成比(%)	順位	患者数(人)	患者割合(%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
0402	糖尿病	93,035,878	29.6	1	1,768	15.5	1	52,622	5
0403	脂質異常症	36,628,142	11.7	4	1,397	12.3	3	26,219	8
0901	高血圧性疾患	61,948,304	19.7	2	1,719	15.1	2	36,037	6
0902	虚血性心疾患	36,093,918	11.5	5	434	3.8	4	83,166	4
0904	くも膜下出血	223,299	0.1	9	19	0.2	9	11,753	10
0905	脳内出血	9,214,427	2.9	7	63	0.6	8	146,261	2
0906	脳梗塞	21,104,908	6.7	6	237	2.1	5	89,050	3
0907	脳動脈硬化（症）	31,297	0.0	10	1	0.0	10	31,297	7
0909	動脈硬化（症）	4,972,125	1.6	8	217	1.9	6	22,913	9
1402	腎不全	50,583,778	16.1	3	214	1.9	7	236,373	1
合計		313,836,076			2,962	26.0		105,954	

患者数…複数疾病をもつ患者がいるため、疾病別の患者数の和と患者数合計は必ずしも一致しない。

生活習慣病疾病別 医療費割合



生活習慣病疾病別 患者一人当たりの医療費と患者割合



年度分析 生活習慣病疾病別医療費等の状況

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和5年4月～令和8年3月診療分(36カ月分)

資格条件等

・資格確認日…各年度、1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

・生活習慣病…厚生労働省「特定健康診査等実施計画作成の手引き(第4版)」には、生活習慣病の明確な定義が記載されていないため、「特定健康診査等実施計画作成の手引き(第2版)」に記載された疾病中分類を生活習慣病の疾病項目としている。
0402 糖尿病、0403 脂質異常症、0901 高血圧性疾患、0902 虚血性心疾患、0904 くも膜下出血、
0905 脳内出血、0906 脳梗塞、0907 脳動脈硬化(症)、0909 動脈硬化(症)、1402 腎不全

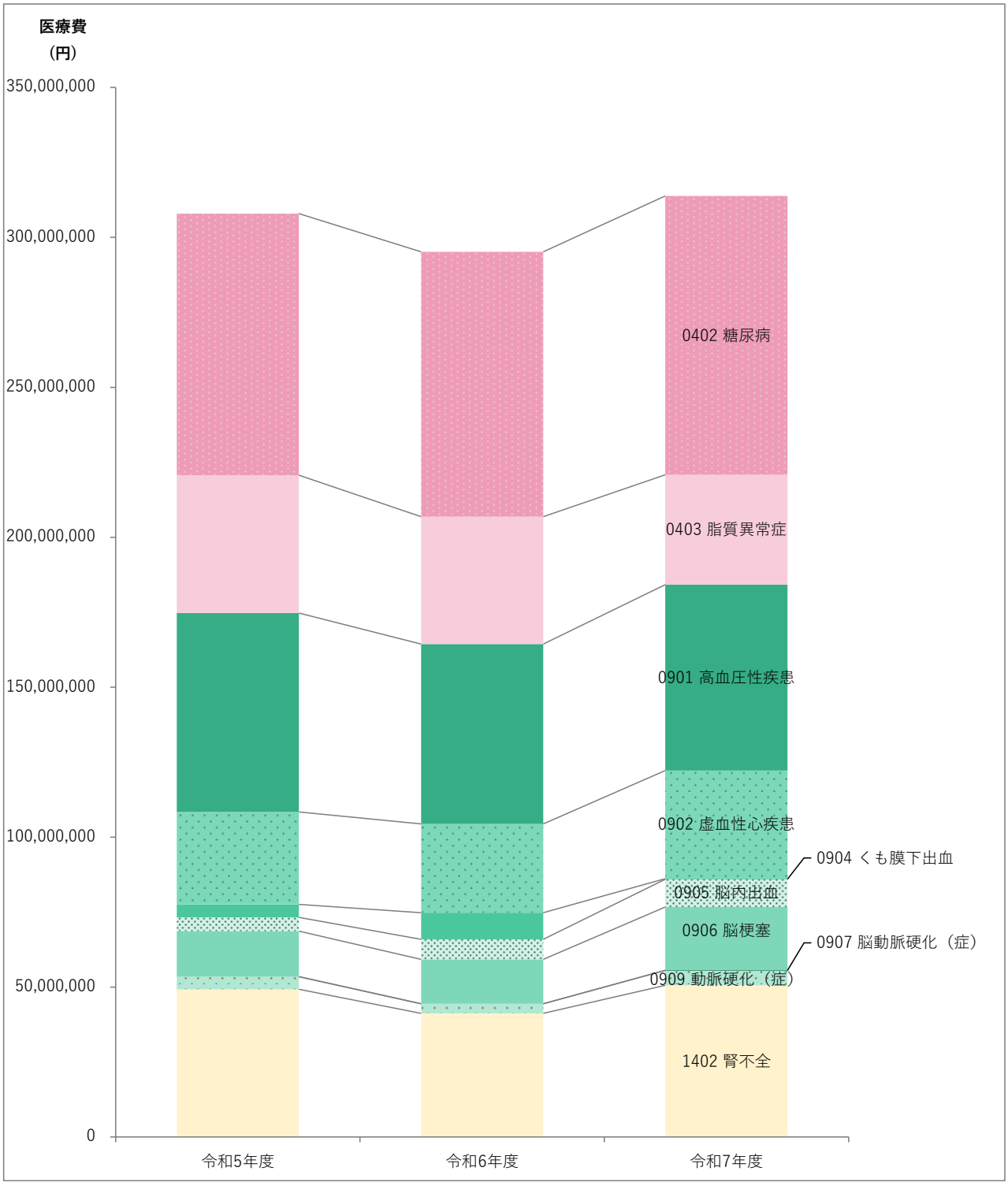
■年度別 生活習慣病医療費

令和5年度から令和7年度における、生活習慣病医療費を年度別に示す。令和7年度を令和5年度と比較すると、糖尿病医療費9,304万円は、令和5年度8,729万円より575万円増加している。また、脂質異常症医療費3,663万円は、令和5年度4,594万円より931万円減少している。高血圧性疾患医療費6,195万円は、令和5年度6,631万円より436万円減少している。

年度別 生活習慣病医療費

疾病分類(中分類)		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
		医療費(円)	構成比(%)	医療費(円)	構成比(%)	医療費(円)	構成比(%)
0402	糖尿病	87,286,612	28.3	88,284,001	29.9	93,035,878	29.6
0403	脂質異常症	45,941,197	14.9	42,531,375	14.4	36,628,142	11.7
0901	高血圧性疾患	66,308,139	21.5	59,938,864	20.3	61,948,304	19.7
0902	虚血性心疾患	30,824,908	10.0	29,609,490	10.0	36,093,918	11.5
0904	くも膜下出血	4,350,823	1.4	8,885,793	3.0	223,299	0.1
0905	脳内出血	4,593,099	1.5	6,623,578	2.2	9,214,427	2.9
0906	脳梗塞	15,137,624	4.9	14,834,998	5.0	21,104,908	6.7
0907	脳動脈硬化（症）	0	0.0	0	0.0	31,297	0.0
0909	動脈硬化（症）	4,257,042	1.4	3,202,073	1.1	4,972,125	1.6
1402	腎不全	49,256,325	16.0	41,238,086	14.0	50,583,778	16.1
	合計	307,955,770		295,148,258		313,836,076	

年度別 生活習慣病医療費

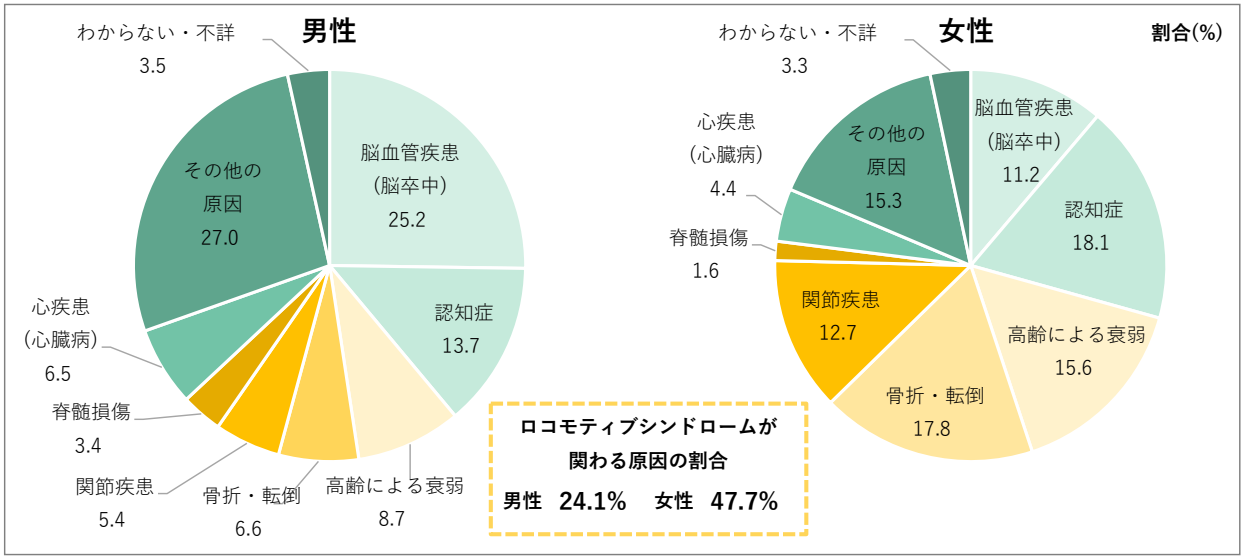


3-4.ロコモティブシンドロームに係る医療費等の状況

ロコモティブシンドロームは日本整形外科学会が平成19年に提唱した概念で、運動器(骨、関節、筋肉など)の障害によって、立つ、歩くといった移動機能の低下をきたした状態を指し、進行すると要介護のリスクが高くなるとされる(「ロコモティブシンドローム診療ガイド2021」)。厚生労働省「2022年国民生活基礎調査」によると、介護が必要となった主な原因としてロコモティブシンドロームが関わるものが多くを占めている。要介護状態への移行を予防し、健康寿命の延伸を目指すためにも、ロコモティブシンドローム対策の必要性は極めて高い。

【参考】介護が必要となった主な原因(全国)

男女別 介護が必要となった主な原因



要介護度別 介護が必要となった主な原因(上位3位)

要介護度	第1位		第2位		第3位	
総数	認知症	16.6	脳血管疾患(脳卒中)	16.1	**骨折・転倒**	**13.9**
要支援者	**関節疾患**	**19.3**	**高齢による衰弱**	**17.4**	**骨折・転倒**	**16.1**
要支援1	**高齢による衰弱**	**19.5**	**関節疾患**	**18.7**	**骨折・転倒**	**12.2**
要支援2	**関節疾患**	**19.8**	**骨折・転倒**	**19.6**	**高齢による衰弱**	**15.5**
要介護者	認知症	23.6	脳血管疾患(脳卒中)	19.0	**骨折・転倒**	**13.0**
要介護1	認知症	26.4	脳血管疾患(脳卒中)	14.5	**骨折・転倒**	**13.1**
要介護2	認知症	23.6	脳血管疾患(脳卒中)	17.5	**骨折・転倒**	**11.0**
要介護3	認知症	25.3	脳血管疾患(脳卒中)	19.6	**骨折・転倒**	**12.8**
要介護4	脳血管疾患(脳卒中)	28.0	**骨折・転倒**	**18.7**	認知症	14.4
要介護5	脳血管疾患(脳卒中)	26.3	認知症	23.1	**骨折・転倒**	**11.3**

出典:厚生労働省「2022年国民生活基礎調査」
「高齢による衰弱」の原因の一つとしてサルコペニア(筋肉量が低下し、筋力または身体能力が低下した状態)があり、運動器障害との関連があることからロコモティブシンドロームが関わる原因に加えている。

(1)ロコモティブシンドロームの原因疾患と患者の実態

ロコモティブシンドロームの原因疾患と患者の実態

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・ロコモティブシンドローム原因疾患…日本整形外科学会、日本運動器科学会「ロコモティブシンドローム診療ガイド2021」(文光堂)等を参照し、株式会社データホライゾンにて選定した以下の疾病
関節リウマチ、変形性膝関節症、変形性股関節症、変形性脊椎症、骨粗鬆症、骨折(大腿骨頚部骨折、橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折、脊椎圧迫骨折、肋骨骨折、脆弱性骨折、骨盤骨折)、サルコペニア(筋肉量が低下し、筋力または身体能力が低下した状態)

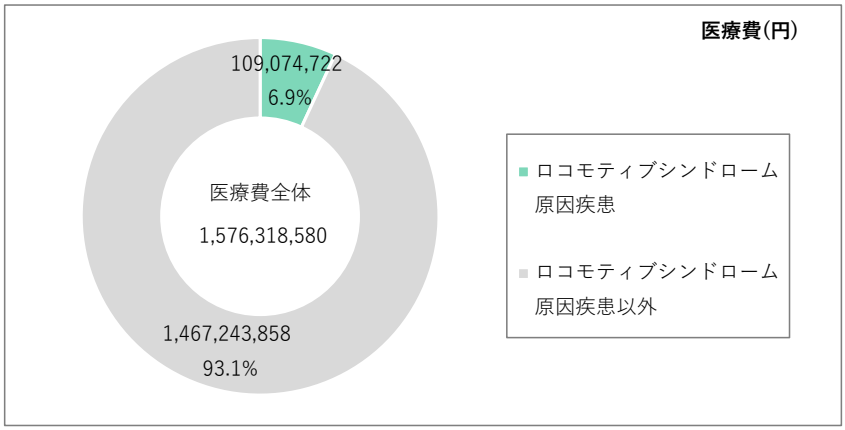
■ロコモティブシンドローム原因疾患の状況

ロコモティブシンドローム原因疾患の患者数及び医療費の状況を以下に示す。40歳以上の被保険者に占めるロコモティブシンドローム原因疾患患者の割合は18.4%で、その医療費は1億907万円と医療費全体の6.9%を占めている。

ロコモティブシンドローム原因疾患の状況

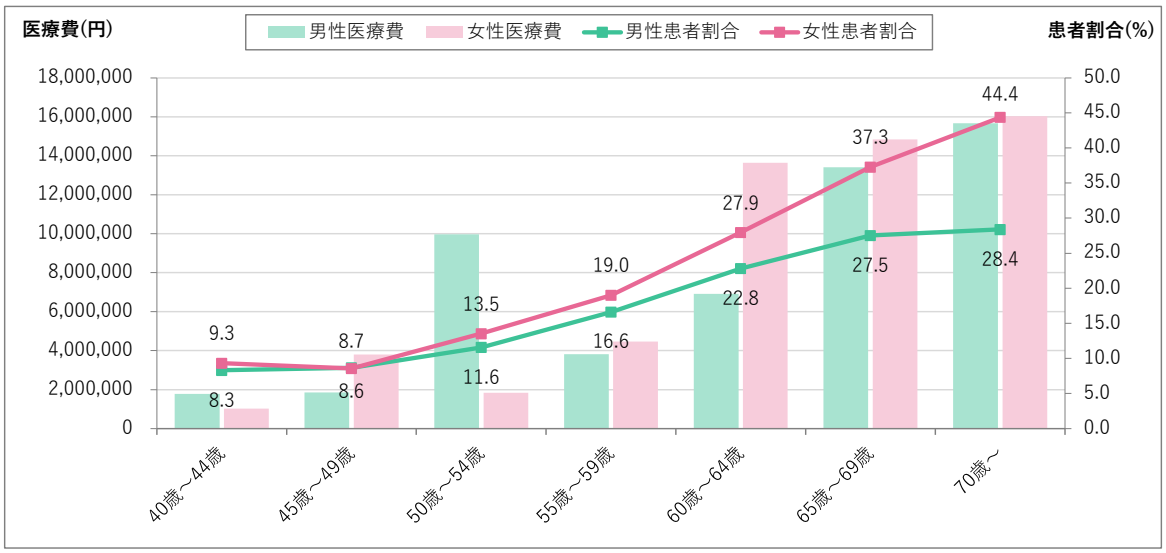
	医療費(円)	医療費全体に占める割合(%)	患者数(人)	被保険者に占める患者割合(%)	患者一人当たりの医療費(円)
ロコモティブシンドローム原因疾患	109,074,722	6.9	1,121	18.4	97,301

医療費全体に占めるロコモティブシンドローム原因疾患の医療費



男女年齢階層別のロコモティブシンドローム原因疾患患者割合と原因疾患医療費を以下に示す。ロコモティブシンドロームは高齢者に多いため、加齢が進むにつれて医療費が増大する傾向にある。

男女年齢階層別 ロコモティブシンドローム原因疾患の医療費と患者割合



被保険者数は最新の被保険者マスタから人数を集計している。患者数はレセプトが発生している人数を集計している。被保険者マスタは加入、脱退で人数の増減があり、発生レセプトから集計している患者数が被保険者数を上回ることがあるため、患者割合が100%を超える可能性がある。

■ロコモティブシンドローム原因疾患別の医療費

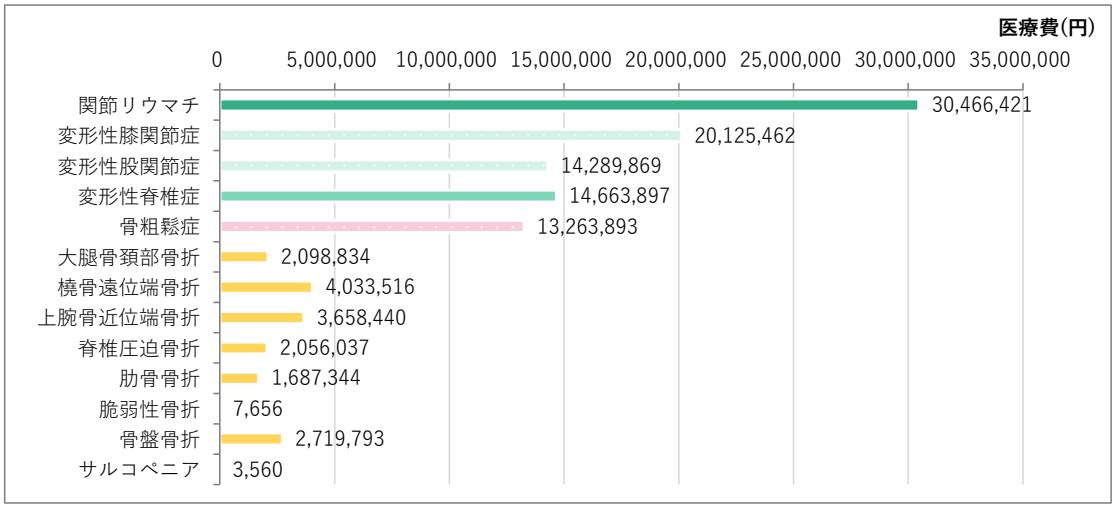
次に、ロコモティブシンドローム原因疾患別の医療費の状況を以下に示す。ロコモティブシンドローム原因疾患には、要支援及び要介護の主な原因である「関節疾患」「骨折・転倒」に関連する疾病が多く含まれる。

ロコモティブシンドローム原因疾患別の医療費の状況

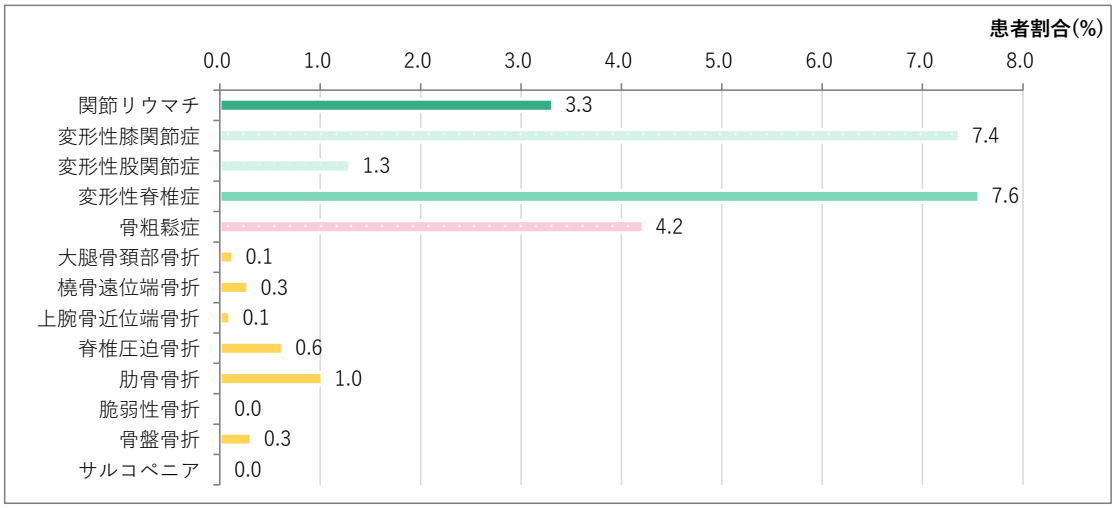
疾患名	医療費(円)	構成比(%)	患者数(人)	患者割合(%)	患者一人当たりの医療費(円)
関節リウマチ	30,466,421	27.9	202	3.3	150,824
変形性膝関節症	20,125,462	18.5	449	7.4	44,823
変形性股関節症	14,289,869	13.1	79	1.3	180,884
変形性脊椎症	14,663,897	13.4	461	7.6	31,809
骨粗鬆症	13,263,893	12.2	257	4.2	51,610
大腿骨頚部骨折	2,098,834	1.9	8	0.1	262,354
橈骨遠位端骨折	4,033,516	3.7	17	0.3	237,266
上腕骨近位端骨折	3,658,440	3.4	6	0.1	609,740
脊椎圧迫骨折	2,056,037	1.9	38	0.6	54,106
肋骨骨折	1,687,344	1.5	62	1.0	27,215
脆弱性骨折	7,656	0.0	1	0.0	7,656
骨盤骨折	2,719,793	2.5	19	0.3	143,147
サルコペニア	3,560	0.0	1	0.0	3,560
ロコモティブシンドローム原因疾患	109,074,722	-	1,121	18.4	97,301

患者数…複数の疾病をもつ患者がいるため、各疾病の患者数の和とロコモティブシンドローム原因疾患の患者数は必ずしも一致しない。

ロコモティブシンドローム原因疾患別の医療費



ロコモティブシンドローム原因疾患別の患者割合



4.薬剤併用禁忌に係る分析

特定の薬剤の併用により、病状の悪化、深刻な副作用、効果の減少等の様々なリスクを引き起こす可能性がある。本分析では、服薬状況を把握し適切な服薬を促すことを目的に、併用禁忌となる薬剤の組み合わせをレセプトデータから分析する。

薬剤併用禁忌に係る分析

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点

■薬剤併用禁忌 医薬品リスト

分析期間内に発生した併用禁忌は416件で、307人が該当する。主な併用禁忌の組み合わせを以下に示す。

薬剤併用禁忌 医薬品リスト

実人数(人)	307
件数合計(件)	416

上位50件を上限として掲載している。

No.	(X)剤型名	(X)医薬品コード	(X)医薬品名	(Y)剤型名	(Y)医薬品コード	(Y)医薬品名	件数
1	内服	622381201	カロナール錠５００　５００ｍｇ	内服	620160501	ＰＬ配合顆粒	55
2	内服	622381201	カロナール錠５００　５００ｍｇ	内服	620161401	ピーエイ配合錠	46
3	内服	620002023	カロナール錠２００　２００ｍｇ	内服	620161401	ピーエイ配合錠	38
4	内服	622553601	テルミサルタン錠８０ｍｇ「ＪＧ」	内服	621932501	ラジレス錠１５０ｍｇ	25
5	内服	620000033	カロナール錠３００　３００ｍｇ	内服	620160501	ＰＬ配合顆粒	15
6	内服	620002023	カロナール錠２００　２００ｍｇ	内服	620160501	ＰＬ配合顆粒	14
7	内服	620000033	カロナール錠３００　３００ｍｇ	内服	620161401	ピーエイ配合錠	13
8	内服	622381201	カロナール錠５００　５００ｍｇ	内服	620160801	トーワチーム配合顆粒	13
9	内服	622381201	カロナール錠５００　５００ｍｇ	内服	620160601	サラザック配合顆粒	12
10	内服	620002023	カロナール錠２００　２００ｍｇ	内服	620160801	トーワチーム配合顆粒	11
11	内服	621498101	カフコデＮ配合錠	内服	620002023	カロナール錠２００　２００ｍｇ	10
12	内服	620002023	カロナール錠２００　２００ｍｇ	内服	620160601	サラザック配合顆粒	8
13	内服	622649001	アセトアミノフェン錠５００ｍｇ「マルイシ」	内服	620161401	ピーエイ配合錠	7
14	内服	622381201	カロナール錠５００　５００ｍｇ	内服	622664001	トアラセット配合錠「ＪＧ」	7
15	外用	620518102	ポスミン外用液０．１％	外用	622279201	レルベア１００エリプタ１４吸入用	7
16	内服	620002023	カロナール錠２００　２００ｍｇ	内服	620160301	ベレックス配合顆粒	6
17	内服	622556801	アセトアミノフェン錠２００ｍｇ「マルイシ」	内服	620160801	トーワチーム配合顆粒	5
18	内服	622649001	アセトアミノフェン錠５００ｍｇ「マルイシ」	内服	620160501	ＰＬ配合顆粒	5
19	内服	621498101	カフコデＮ配合錠	内服	620000033	カロナール錠３００　３００ｍｇ	5
20	内服	620002023	カロナール錠２００　２００ｍｇ	内服	622661701	トアラセット配合錠「杏林」	4
21	外用	620518102	ポスミン外用液０．１％	外用	621720501	ツロブテロールテープ２ｍｇ「久光」	4
22	内服	620000476	アセトアミノフェン〈ハチ〉	内服	620160501	ＰＬ配合顆粒	3
23	内服	620000476	アセトアミノフェン〈ハチ〉	内服	622381201	カロナール錠５００　５００ｍｇ	3
24	内服	622556801	アセトアミノフェン錠２００ｍｇ「マルイシ」	内服	620161401	ピーエイ配合錠	3
25	内服	622649001	アセトアミノフェン錠５００ｍｇ「マルイシ」	内服	620160601	サラザック配合顆粒	3
26	内服	620000033	カロナール錠３００　３００ｍｇ	内服	620160601	サラザック配合顆粒	3
27	内服	620416638	タンニン酸アルブミン「ＶＴＲＳ」原末	内服	620730404	クエン酸第一鉄Ｎａ錠５０ｍｇ「ＮＩＧ」　鉄５０ｍｇ	3
28	外用	620518102	ポスミン外用液０．１％	外用	660463035	メプチン吸入液ユニット０．３ｍＬ　０．０１％	3
29	内服	621558101	ＳＧ配合顆粒	内服	620002023	カロナール錠２００　２００ｍｇ	2
30	内服	621520803	アセトアミノフェン錠２００ｍｇ「ＪＧ」	内服	620160501	ＰＬ配合顆粒	2
31	内服	622556801	アセトアミノフェン錠２００ｍｇ「マルイシ」	内服	620160501	ＰＬ配合顆粒	2
32	内服	622556801	アセトアミノフェン錠２００ｍｇ「マルイシ」	内服	620160301	ベレックス配合顆粒	2
33	内服	622556901	アセトアミノフェン錠３００ｍｇ「マルイシ」	内服	620161401	ピーエイ配合錠	2
34	内服	622979101	アセトアミノフェン錠５００ｍｇ「ケンエー」	内服	620161401	ピーエイ配合錠	2
35	内服	621498101	カフコデＮ配合錠	内服	622381201	カロナール錠５００　５００ｍｇ	2
36	内服	620000032	カロナール細粒５０％	内服	620160501	ＰＬ配合顆粒	2
37	内服	620000033	カロナール錠３００　３００ｍｇ	内服	620160801	トーワチーム配合顆粒	2
38	内服	622381201	カロナール錠５００　５００ｍｇ	内服	621558101	ＳＧ配合顆粒	2
39	内服	622381201	カロナール錠５００　５００ｍｇ	内服	622081101	トラムセット配合錠	2
40	内服	622657101	トアラセット配合錠「トーワ」	内服	622556801	アセトアミノフェン錠２００ｍｇ「マルイシ」	2
41	外用	620518102	ポスミン外用液０．１％	外用	622426401	アノーロエリプタ３０吸入用	2
42	外用	620518102	ポスミン外用液０．１％	外用	621762601	ツロブテロールテープ０．５ｍｇ「ＹＰ」	2
43	外用	620518102	ポスミン外用液０．１％	外用	620004226	ツロブテロールテープ０．５ｍｇ「サワイ」	2
44	外用	620518102	ポスミン外用液０．１％	外用	621720301	ツロブテロールテープ０．５ｍｇ「久光」	2
45	外用	620518102	ポスミン外用液０．１％	外用	621761701	ツロブテロールテープ１ｍｇ「トーワ」	2
46	外用	620518102	ポスミン外用液０．１％	外用	621720401	ツロブテロールテープ１ｍｇ「久光」	2
47	外用	620518102	ポスミン外用液０．１％	外用	622278101	フルティフォーム５０エアゾール１２０吸入用	2
48	外用	620518102	ポスミン外用液０．１％	外用	622277901	フルティフォーム５０エアゾール５６吸入用	2
49	外用	620518102	ポスミン外用液０．１％	外用	660421115	ホクナリンテープ０．５ｍｇ	2
50	外用	620518102	ポスミン外用液０．１％	外用	660421116	ホクナリンテープ１ｍｇ	2

5.特定健康診査結果分析

(1)有所見者割合

有所見者割合

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・対象者数…健診検査値が記録されている人数
・有所見者数…保健指導判定値を超えている人数
・有所見者割合…健診検査値が記録されている人のうち、保健指導判定値を超えている人の割合

■有所見者割合

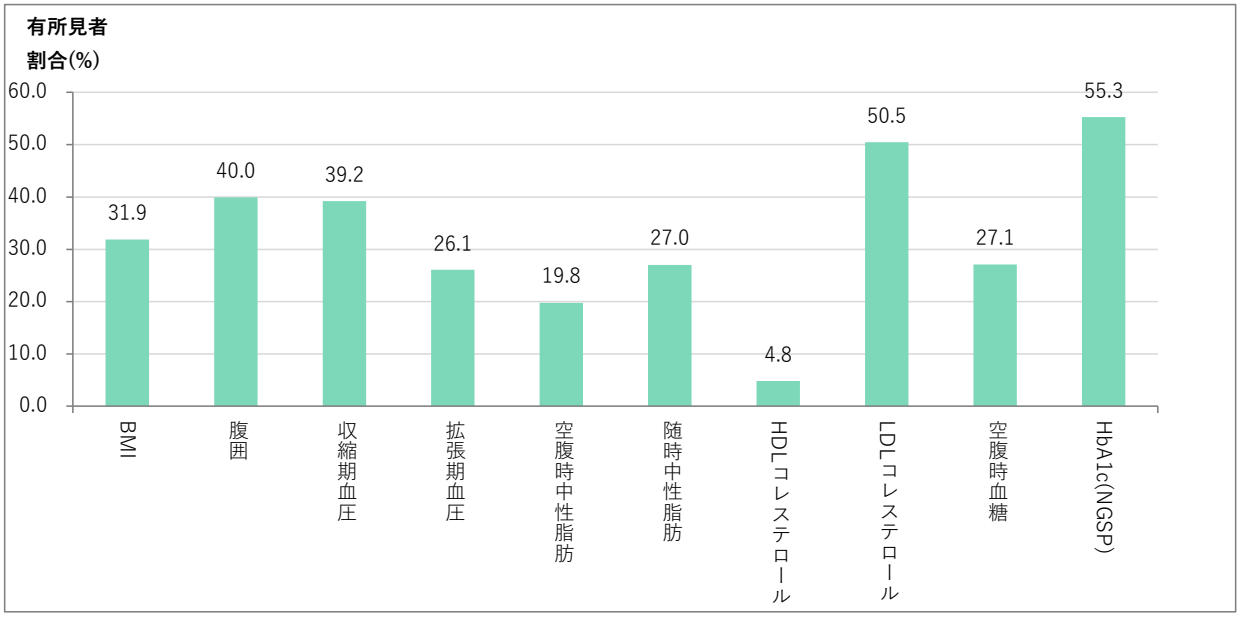
特定健診受診者の有所見者割合は以下のとおりである。

有所見者割合

	BMI	腹囲	収縮期血圧	拡張期血圧	空腹時中性脂肪
対象者数(人)	3,687	3,687	3,687	3,687	2,947
有所見者数(人)	1,175	1,473	1,447	961	583
有所見者割合(%)	31.9	40.0	39.2	26.1	19.8

	随時中性脂肪	HDLコレステロール	LDLコレステロール	空腹時血糖	HbA1c(NGSP)
対象者数(人)	740	3,687	3,687	2,798	3,593
有所見者数(人)	200	177	1,861	759	1,987
有所見者割合(%)	27.0	4.8	50.5	27.1	55.3

有所見者割合



保健指導判定値
BMI:25kg/m²以上、腹囲:男性85cm以上、女性90cm以上、収縮期血圧:130mmHg以上、拡張期血圧:85mmHg以上、
空腹時中性脂肪:150mg/dl以上、随時中性脂肪:175mg/dl以上、
HDLコレステロール:40mg/dl未満、LDLコレステロール:120mg/dl以上、空腹時血糖:100mg/dl以上、HbA1c(NGSP):5.6%以上

年度分析 有所見者割合

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和5年4月～令和8年3月健診分(36カ月分)

資格条件等

・資格確認日…各年度末時点

・年齢範囲…各年度、40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・対象者数…健診検査値が記録されている人数

・有所見者数…保健指導判定値を超えている人数

・有所見者割合…健診検査値が記録されている人のうち、保健指導判定値を超えている人の割合

■年度別 有所見者割合

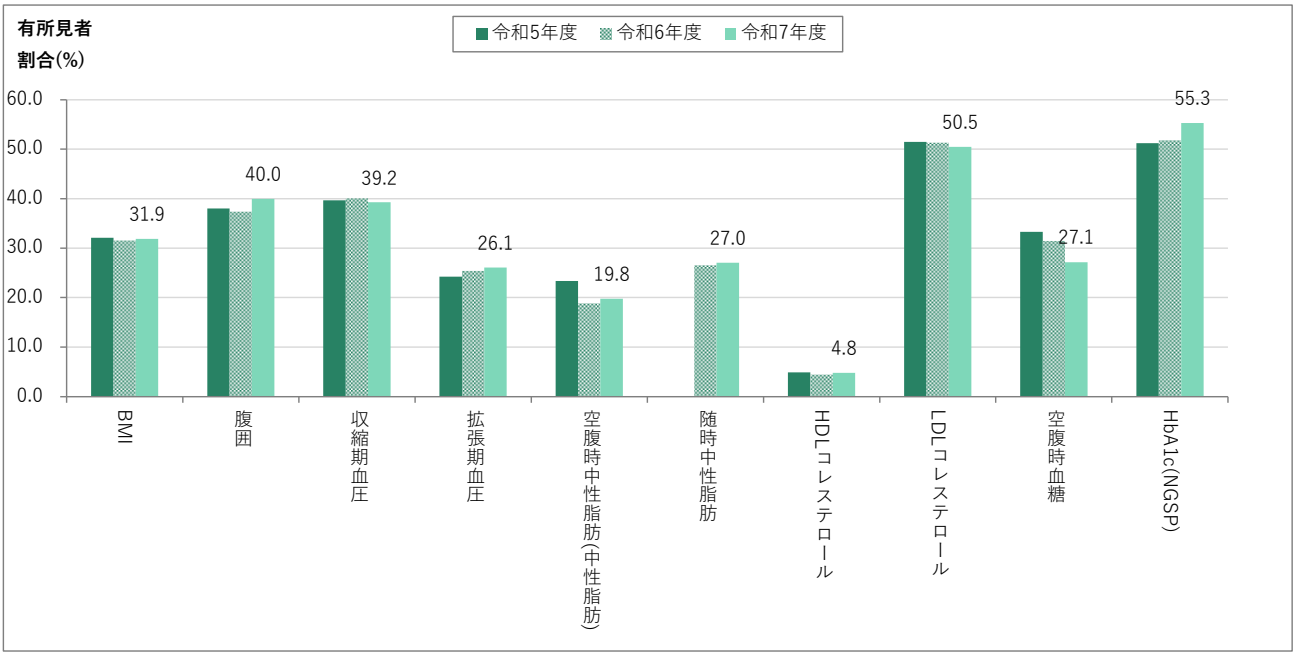
令和5年度から令和7年度における、特定健診受診者の有所見者割合を年度別に示す。

年度別 有所見者割合

		令和5年度	令和6年度	令和7年度
BMI	対象者数(人)	3,961	3,787	3,687
	有所見者数(人)	1,271	1,194	1,175
	有所見者割合(%)	32.1	31.5	31.9
腹囲	対象者数(人)	3,959	3,787	3,687
	有所見者数(人)	1,506	1,415	1,473
	有所見者割合(%)	38.0	37.4	40.0
収縮期血圧	対象者数(人)	3,961	3,787	3,687
	有所見者数(人)	1,571	1,516	1,447
	有所見者割合(%)	39.7	40.0	39.2
拡張期血圧	対象者数(人)	3,961	3,787	3,687
	有所見者数(人)	960	962	961
	有所見者割合(%)	24.2	25.4	26.1
空腹時中性脂肪(中性脂肪)	対象者数(人)	3,961	2,939	2,947
	有所見者数(人)	926	553	583
	有所見者割合(%)	23.4	18.8	19.8
随時中性脂肪	対象者数(人)	0	848	740
	有所見者数(人)	0	225	200
	有所見者割合(%)	0.0	26.5	27.0
HDLコレステロール	対象者数(人)	3,961	3,787	3,687
	有所見者数(人)	195	168	177
	有所見者割合(%)	4.9	4.4	4.8
LDLコレステロール	対象者数(人)	3,960	3,787	3,687
	有所見者数(人)	2,038	1,943	1,861
	有所見者割合(%)	51.5	51.3	50.5
空腹時血糖	対象者数(人)	2,890	2,754	2,798
	有所見者数(人)	962	866	759
	有所見者割合(%)	33.3	31.4	27.1
HbA1c(NGSP)	対象者数(人)	3,793	3,689	3,593
	有所見者数(人)	1,942	1,911	1,987
	有所見者割合(%)	51.2	51.8	55.3

保健指導判定値
BMI:25kg/m^{2}以上、腹囲:男性85cm以上、女性90cm以上、収縮期血圧:130mmHg以上、拡張期血圧:85mmHg以上、
空腹時中性脂肪(中性脂肪):150mg/dl以上、随時中性脂肪:175mg/dl以上、
HDLコレステロール:40mg/dl未満、LDLコレステロール:120mg/dl以上、空腹時血糖:100mg/dl以上、HbA1c(NGSP):5.6%以上

年度別 有所見者割合



保健指導判定値
BMI:25kg/m^{2}以上、腹囲:男性85cm以上、女性90cm以上、収縮期血圧:130mmHg以上、拡張期血圧:85mmHg以上、
空腹時中性脂肪(中性脂肪):150mg/dl以上、随時中性脂肪:175mg/dl以上、
HDLコレステロール:40mg/dl未満、LDLコレステロール:120mg/dl以上、空腹時血糖:100mg/dl以上、HbA1c(NGSP):5.6%以上

(2)質問別回答状況

質問別回答状況

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・質問回答者数…質問に回答した人数
・選択者数…該当の選択肢を選択した人数
・選択者割合…質問回答者のうち、該当の選択肢を選択した人の割合

■質問別回答状況

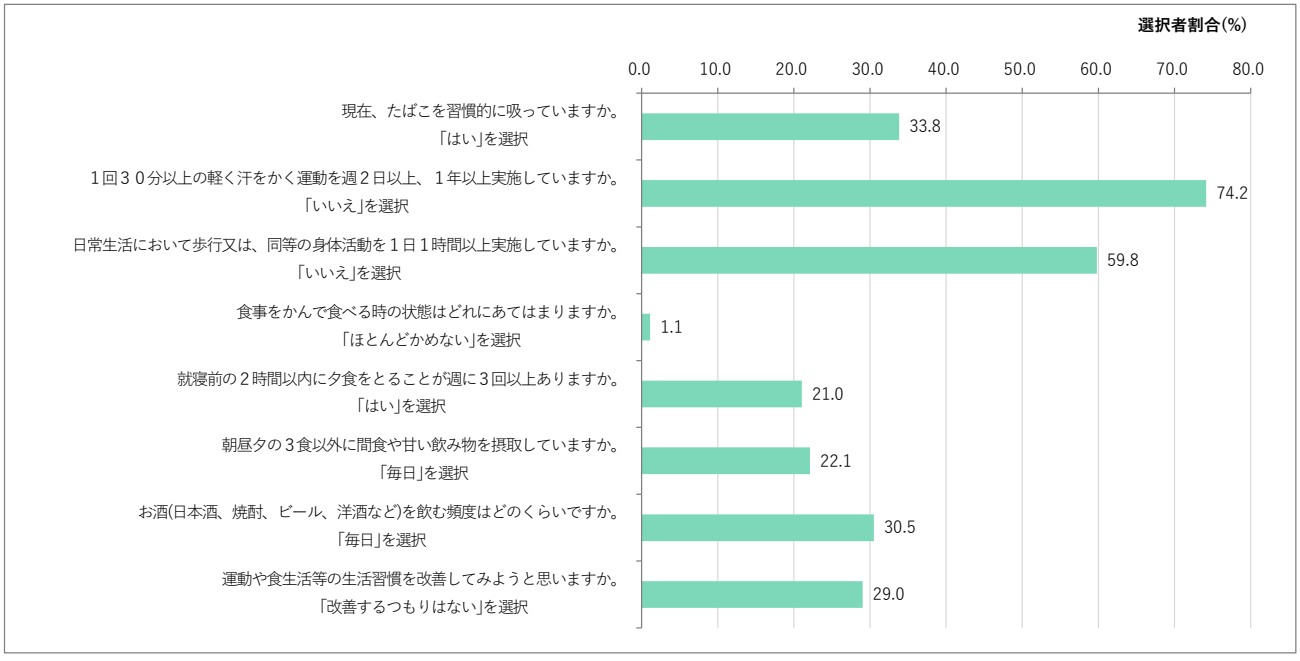
特定健診の喫煙・運動・口腔機能・食習慣・飲酒・生活習慣の改善に関する各質問において、対応の考慮が必要な選択肢を選択した者の割合は以下のとおりである。

対応の考慮が必要な選択肢の選択状況

	喫煙	運動		口腔機能
	現在、たばこを習慣的に吸っていますか。	1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施していますか。	日常生活において歩行又は、同等の身体活動を1日1時間以上実施していますか。	食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか。
質問の選択肢	「はい」	「いいえ」	「いいえ」	「ほとんどかめない」
質問回答者数(人)	3,687	3,668	3,668	3,684
選択者数(人)	1,247	2,720	2,193	41
選択者割合(%)	33.8	74.2	59.8	1.1

	食習慣		飲酒	生活習慣の改善
	就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ありますか。	朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか。	お酒(日本酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度はどのくらいですか。	運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いますか。
質問の選択肢	「はい」	「毎日」	「毎日」	「改善するつもりはない」
質問回答者数(人)	3,663	3,664	3,564	3,664
選択者数(人)	771	810	1,087	1,064
選択者割合(%)	21.0	22.1	30.5	29.0

対応の考慮が必要な選択肢の選択者割合



年度分析 質問別回答状況

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和5年4月～令和8年3月健診分(36カ月分)

資格条件等

・資格確認日…各年度末時点
・年齢範囲…各年度、40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・質問回答者数…質問に回答した人数
・選択者数…該当の選択肢を選択した人数
・選択者割合…質問回答者のうち、該当の選択肢を選択した人の割合

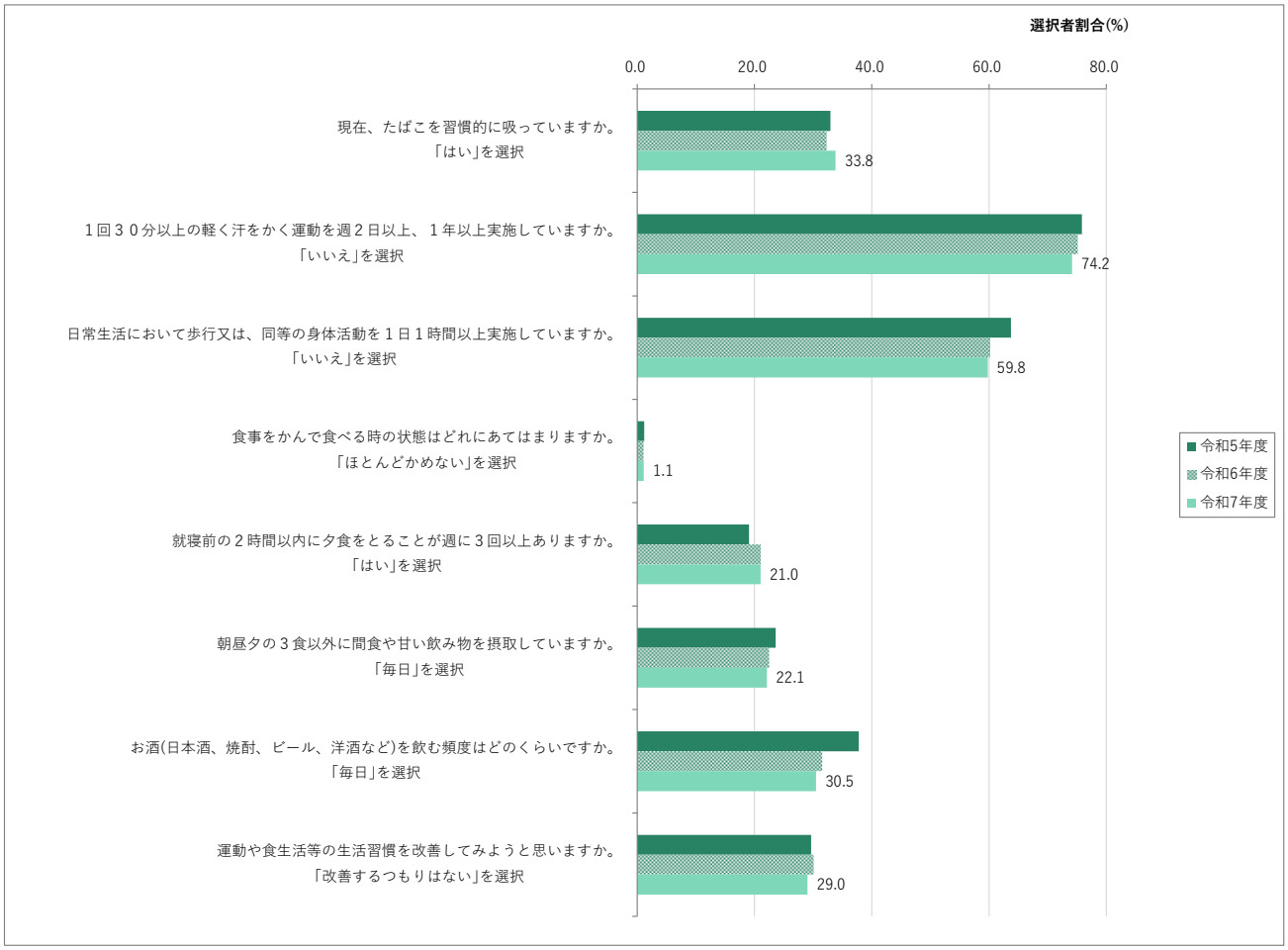
■年度別 質問別回答状況

令和5年度から令和7年度における、特定健診の喫煙・運動・口腔機能・食習慣・飲酒・生活習慣の改善に関する各質問において、対応の考慮が必要な選択肢を選択した者の割合を年度別に示す。

年度別 対応の考慮が必要な選択肢の選択状況

類型名	質問文	質問の選択肢		令和5年度	令和6年度	令和7年度
喫煙	現在、たばこを習慣的に吸っていますか。	「はい」	質問回答者数(人)	3,961	3,787	3,687
			選択者数(人)	1,305	1,223	1,247
			選択者割合(%)	32.9	32.3	33.8
運動	１回３０分以上の軽く汗をかく運動を週２日以上、１年以上実施していますか。	「いいえ」	質問回答者数(人)	3,857	3,698	3,668
			選択者数(人)	2,925	2,778	2,720
			選択者割合(%)	75.8	75.1	74.2
	日常生活において歩行又は、同等の身体活動を１日１時間以上実施していますか。	「いいえ」	質問回答者数(人)	3,857	3,698	3,668
			選択者数(人)	2,458	2,226	2,193
			選択者割合(%)	63.7	60.2	59.8
口腔機能	食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか。	「ほとんどかめない」	質問回答者数(人)	3,937	3,777	3,684
			選択者数(人)	46	41	41
			選択者割合(%)	1.2	1.1	1.1
食習慣	就寝前の２時間以内に夕食をとることが週に３回以上ありますか。	「はい」	質問回答者数(人)	3,850	3,697	3,663
			選択者数(人)	734	779	771
			選択者割合(%)	19.1	21.1	21.0
	朝昼夕の３食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか。	「毎日」	質問回答者数(人)	3,854	3,697	3,664
			選択者数(人)	909	831	810
			選択者割合(%)	23.6	22.5	22.1
飲酒	お酒(日本酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度はどのくらいですか。	「毎日」	質問回答者数(人)	3,938	3,782	3,564
			選択者数(人)	1,488	1,193	1,087
			選択者割合(%)	37.8	31.5	30.5
生活習慣の改善	運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いますか。	「改善するつもりはない」	質問回答者数(人)	3,851	3,692	3,664
			選択者数(人)	1,142	1,111	1,064
			選択者割合(%)	29.7	30.1	29.0

年度別 対応の考慮が必要な選択肢の選択者割合



(3)健康診査データによるCKD重症度分類

健康診査データによるCKD重症度分類

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

参考資料等

・日本腎臓学会「エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2023」(東京医学社)

■健康診査データによるCKD重症度分類

健康診査項目の「尿蛋白」及び「クレアチニン」から算出したeGFR値を用いて、「エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2023」の基準に基づき健診受診者を分類した。末期腎不全・心血管死亡発症リスクによりステージ分けを行い、該当する人数を以下に示す。

健康診査項目からステージに該当する人数(尿蛋白×クレアチニン)

単位:人

				尿蛋白区分						計
				A1	A2	A3			未測定	
				(−)	(±)	(1+)	(2+)	(3+)		
GFR区分(mL/分/1.73m²)	G1	正常または高値	≧ 90	332	10	4	1	0	2	349
	G2	正常または軽度低下	60 ～ 89	1,827	57	24	6	1	9	1,924
	G3a	軽度～中等度低下	45 ～ 59	230	6	9	2	3	0	250
	G3b	中等度～高度低下	30 ～ 44	17	0	2	6	0	0	25
	G4	高度低下	15 ～ 29	3	1	2	0	0	0	6
	G5	高度低下～末期腎不全	< 15	0	0	0	1	0	1	2
	未測定			990	102	30	5	2	2	1,131
計				3,399	176	71	21	6	14	3,687

IV		=29人	0.8%
III		=59人	1.6%
II		=297人	8.1%
I		=2,159人	58.6%
不明		=1,143人	31.0%

参考資料「エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2023」(東京医学社)を用いて、株式会社データホライゾンが作成

CKDの重症度は死亡・末期腎不全・CVD死亡発症のリスクを □ を基準に □ □ □ の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。

(4)健康診査データによる糖尿病診断

健康診査データによる糖尿病診断

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

参考資料等

・日本糖尿病学会「糖尿病診療ガイドライン2024」(南江堂)

■健康診査データによる糖尿病診断

健康診査項目の「空腹時血糖」及び「HbA1c」の値を用いて、以下のとおり日本糖尿病学会の判定区分に基づき色分けした。

健康診査項目からステージに該当する人数(HbA1c×空腹時血糖)

単位:人

			HbA1c(NGSP)(ヘモグロビンA1c) 正常 ～5.5%	5.6%～	6.0%～	糖尿病型 6.5%～	未測定	計
空腹時血糖	正常	～99mg/dl	1,081	731	144	18	65	2,039
	正常高値	100mg/dl～	118	183	90	26	10	427
	空腹時血糖異常	110mg/dl～	24	60	73	59	5	221
	糖尿病型	126mg/dl～	1	5	16	88	1	111
	未測定		382	286	115	93	13	889
計			1,606	1,265	438	284	94	3,687

糖尿病	=88人	2.4%	
糖尿病型	=125人	3.4%	
境界型	=157人	4.3%	
正常型	=2,347人	63.7%	
不明	=970人	26.3%	

6.健康診査データ及びレセプトデータによる対象者群分析

(1)健康診査データ及びレセプトデータによる指導対象者群分析

健康診査データとレセプトデータを組み合わせた分析を行う。40歳以上の被保険者について、健康診査データの有無や異常値の有無、生活習慣病にかかわるレセプトの有無等を判定し、7つのグループに分類する。

健康診査データ及びレセプトデータによる指導対象者群分析

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)
・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

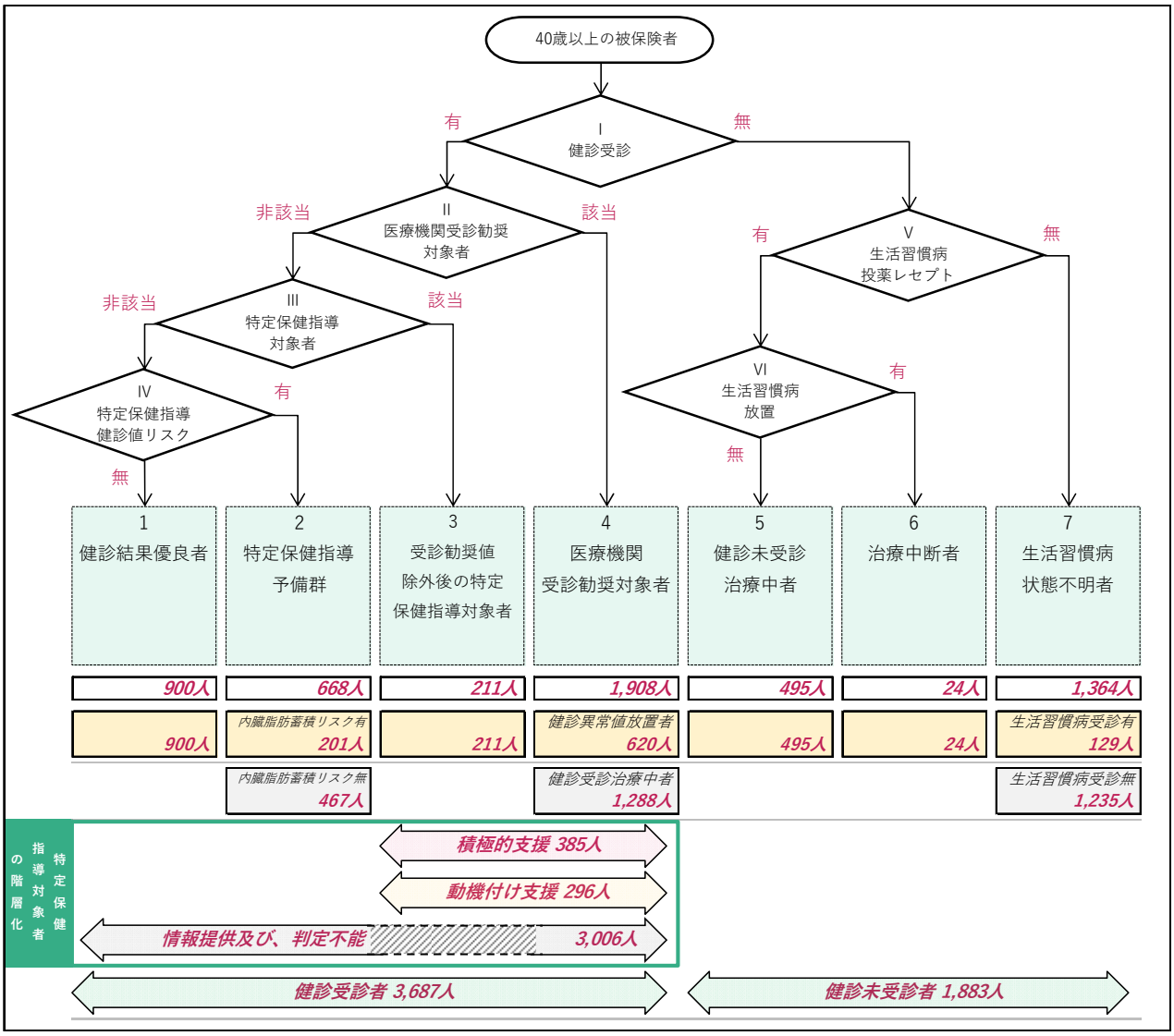
資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

■健康診査データ及びレセプトデータによる指導対象者群分析

左端の「1.健診結果優良者」から「6.治療中断者」まで順に健康状態が悪くなっており、「7.生活習慣病状態不明者」は健康診査データ・レセプトデータから生活習慣病状態が確認できないグループである。

健康診査データ及びレセプトデータによる指導対象者群分析



各フローの詳細については巻末資料「「指導対象者群分析」のグループ分けの見方」を参照

(2)生活習慣病患者の健診受診状況別罹患状況と医療費

生活習慣病患者の健診受診状況別罹患状況と医療費

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)
・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

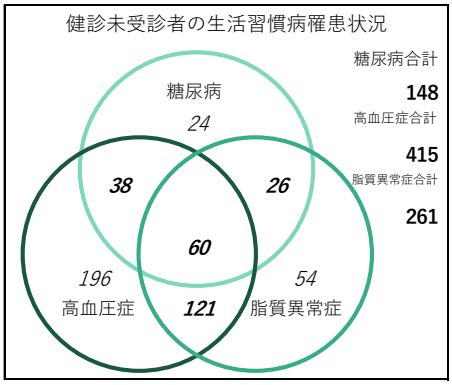
・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・患者数…該当傷病名で投薬のある患者のみ集計する。
・医療費…分析期間内における該当患者の医療費全体。生活習慣病に関する医療費に限らない。

■生活習慣病患者の健診受診状況別罹患状況と医療費

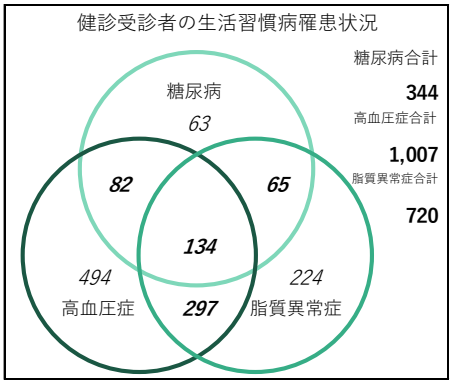
生活習慣病患者のうち健診未受診者の罹患状況と医療費



単位:人

罹患状況（投薬のある患者）		患者数(人)	医療費(円)		医療費合計(円)	一人当たり医療費(円)
			入院	入院外		
3疾病併存患者	**合計**	60	52,397,450	23,675,260	76,072,710	1,267,879
2疾病併存患者	糖尿病・高血圧症	38	77,719,890	28,962,150	106,682,040	2,807,422
	糖尿病・脂質異常症	26	1,676,390	11,413,740	13,090,130	503,467
	高血圧症・脂質異常症	121	32,568,130	48,995,750	81,563,880	674,082
	合計	185	111,964,410	89,371,640	201,336,050	1,088,303
1疾病患者	糖尿病	24	1,160,530	7,676,330	8,836,860	368,203
	高血圧症	196	75,139,640	62,868,150	138,007,790	704,121
	脂質異常症	54	471,690	27,931,460	28,403,150	525,984
	合計	274	76,771,860	98,475,940	175,247,800	639,591

生活習慣病患者のうち健診受診者の罹患状況と医療費



単位:人

罹患状況（投薬のある患者）		患者数(人)	医療費(円)		医療費合計(円)	一人当たり医療費(円)
			入院	入院外		
3疾病併存患者	**合計**	134	21,077,480	63,048,290	84,125,770	627,804
2疾病併存患者	糖尿病・高血圧症	82	15,489,660	29,282,370	44,772,030	546,000
	糖尿病・脂質異常症	65	6,062,030	19,374,600	25,436,630	391,333
	高血圧症・脂質異常症	297	40,296,850	82,837,800	123,134,650	414,595
	合計	444	61,848,540	131,494,770	193,343,310	435,458
1疾病患者	糖尿病	63	1,708,380	19,436,380	21,144,760	335,631
	高血圧症	494	51,855,670	112,067,240	163,922,910	331,828
	脂質異常症	224	11,624,870	43,222,040	54,846,910	244,852
	合計	781	65,188,920	174,725,660	239,914,580	307,189

(3)特定健診の受診者と未受診者の生活習慣病治療状況

特定健診の受診者と未受診者の生活習慣病治療状況

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)
・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・生活習慣病医療費…生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)で投薬のあった患者の生活習慣病医療費
・生活習慣病患者数…生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)で投薬のあった患者数。合計人数は、入院、入院外の区分けなく集計した実人数
・生活習慣病患者一人当たり医療費…生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)で投薬のあった患者一人当たりの生活習慣病医療費
・生活習慣病患者割合…健診受診者、健診未受診者それぞれに占める、生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)で投薬のあった患者の割合

■特定健診の受診者と未受診者の生活習慣病治療状況

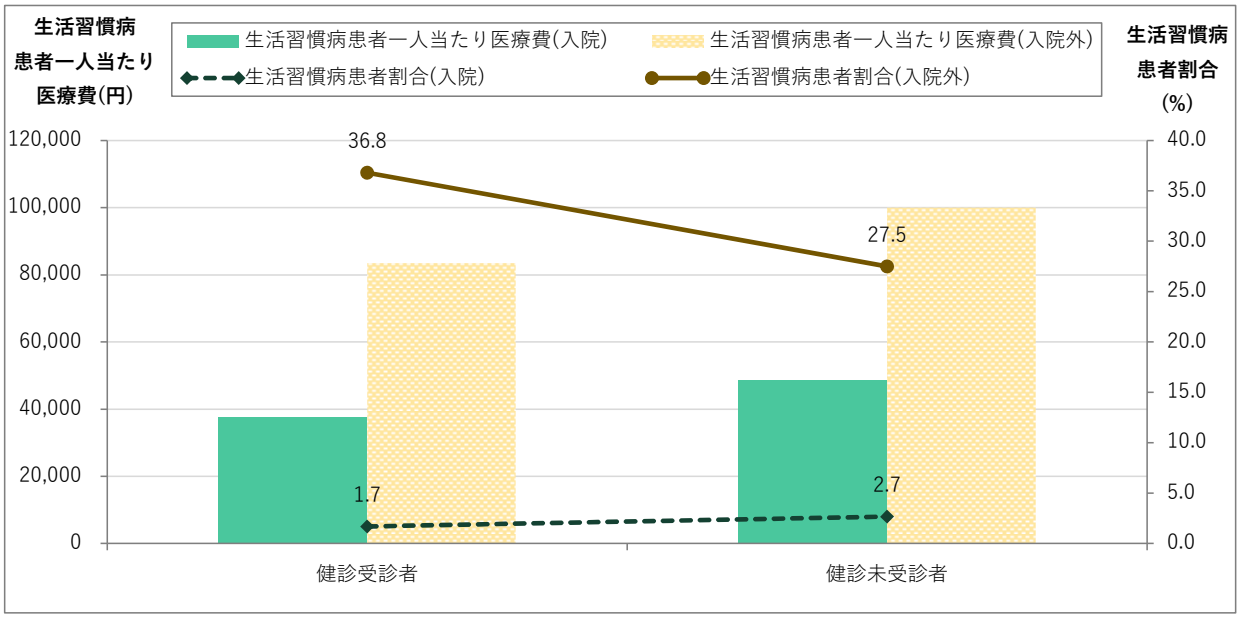
特定健診受診状況別に、生活習慣病の医療機関受診状況を分析した結果を以下に示す。特定健診受診者のうち生活習慣病のレセプトがあるのは特定健診受診者全体の36.9%である。特定健診未受診者のうち生活習慣病のレセプトがあるのは特定健診未受診者全体の27.6%である。

特定健診受診状況別 生活習慣病の医療機関受診状況

	人数(人)	構成比(%)	生活習慣病医療費(円)		
			入院	入院外	合計
健診受診者	3,687	66.2	2,330,074	113,317,703	115,647,777
健診未受診者	1,883	33.8	2,427,550	51,827,719	54,255,269
合計	5,570		4,757,624	165,145,422	169,903,046

	生活習慣病患者数						生活習慣病患者一人当たり医療費(円)		
	入院		入院外		合計		入院	入院外	合計
	患者数(人)	割合(%)	患者数(人)	割合(%)	患者数(人)	割合(%)			
健診受診者	62	1.7	1,357	36.8	1,359	36.9	37,582	83,506	85,098
健診未受診者	50	2.7	518	27.5	519	27.6	48,551	100,054	104,538
合計	112	2.0	1,875	33.7	1,878	33.7	42,479	88,078	90,470

特定健診受診状況別 生活習慣病の医療機関受診状況



(4)特定保健指導対象者・非対象者の生活習慣病医療費比較

特定保健指導対象者・非対象者の生活習慣病医療費比較

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)
・健康診査データ…令和7年4月～令和8年3月健診分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…令和8年3月31日時点
・年齢範囲…40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・対象者…健康診査データで積極的支援及び動機付け支援に該当する者
・非対象者…健康診査データで情報提供に該当する者。健康診査受診における質問表の服薬の項目にて一項目でも「はい」と回答した健診受診者は「服薬有」、服薬の全項目「なし」と回答した健診受診者は「服薬無」で表記
・生活習慣病医療費…生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)で投薬のあった患者の生活習慣病医療費
・生活習慣病患者数…生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)で投薬のあった患者数。合計人数は、入院、入院外の区分けなく集計した実人数
・生活習慣病患者一人当たり医療費…生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)で投薬のあった患者一人当たりの生活習慣病医療費
・生活習慣病患者一人当たり医療費(入院外)…生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)で投薬のあった患者一人当たりの入院外生活習慣病医療費

■特定保健指導対象者・非対象者の生活習慣病医療費比較

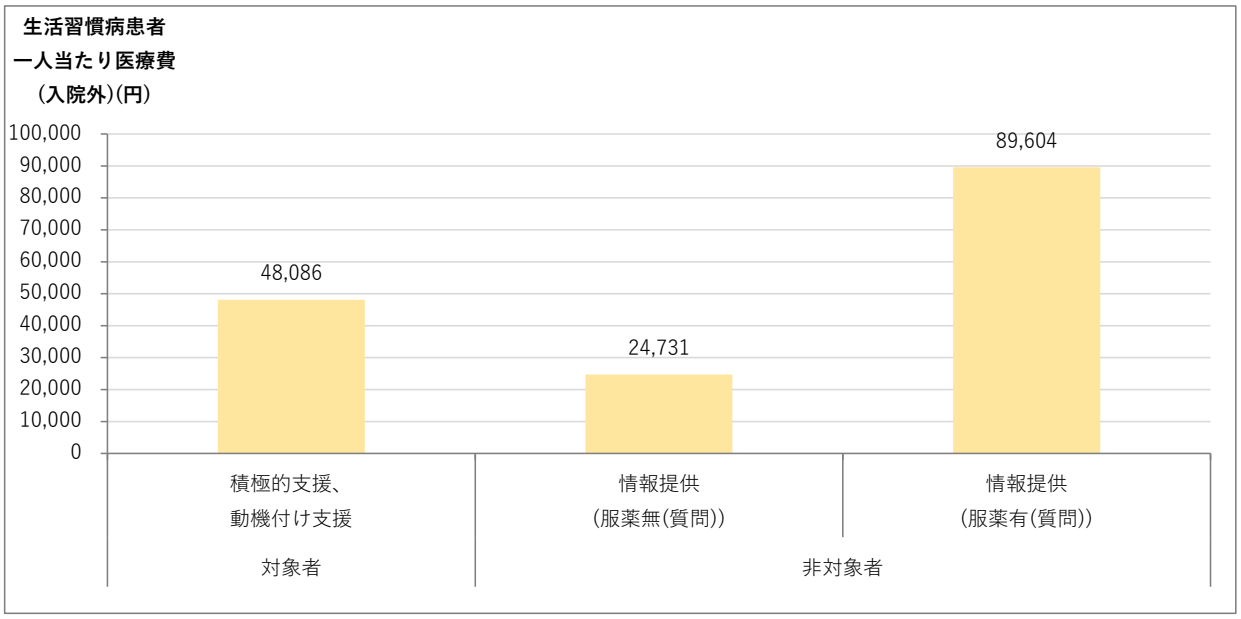
分析期間における積極的支援及び動機付け支援該当者を「対象者」とし、情報提供の該当者を「非対象者」とする。ただし、情報提供の該当者には質問票で服薬有と回答した者が含まれるため、「非対象者」を「非対象者(服薬有)」と「非対象者(服薬無)」に分ける。特定保健指導により「対象者」の生活習慣改善を促し、服薬開始を防ぐことが重要である。

特定保健指導対象者・非対象者別 生活習慣病医療費

		人数(人)	生活習慣病医療費(円)			生活習慣病患者数(人)		
			入院	入院外	合計	入院	入院外	合計
対象者	積極的支援、動機付け支援	681	18,674	3,414,115	3,432,789	3	71	71
非対象者	情報提供(服薬無(質問))	1,786	60,043	2,003,245	2,063,288	6	81	82
	情報提供(服薬有(質問))	1,216	2,251,357	107,793,573	110,044,930	53	1,203	1,204

		生活習慣病患者一人当たり医療費(円)		
		入院	入院外	合計
対象者	積極的支援、動機付け支援	6,225	48,086	48,349
非対象者	情報提供(服薬無(質問))	10,007	24,731	25,162
	情報提供(服薬有(質問))	42,478	89,604	91,399

特定保健指導対象者・非対象者別 生活習慣病患者一人当たり医療費(入院外)



その他(参考資料)

1.大分類要素別集計

大分類要素別集計

分析に用いたデータ

・入院、入院外、調剤のレセプトデータ…令和7年4月～令和8年3月診療分(12カ月分)

資格条件等

・資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。

集計定義等

大分類の疾病項目毎に集計するため、調剤レセプトについてはデータ化時点で紐づく医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、集計ができない。そのため、合計は他統計と一致しない。

・レセプト件数…一件のレセプトに複数の疾病があるため、合計の件数は全疾病の和と一致しない。

・患者数…複数疾病をもつ患者がいるため、合計の人数は全疾病の和と一致しない。

・妊娠,分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

・周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

■大分類要素別集計(入院・入院外)

大分類による疾病別医療費統計(入院のみ)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	16,627,553	2.1	10	133	10	98	10	169,669	16
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	165,124,539	20.7	2	254	5	153	6	1,079,245	1
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	8,328,198	1.0	17	84	15	60	13	138,803	17
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	8,905,693	1.1	16	256	4	165	3	53,974	20
Ⅴ．精神及び行動の障害	27,299,918	3.4	8	102	12	48	15	568,748	4
Ⅵ．神経系の疾患	31,219,034	3.9	7	216	8	125	8	249,752	13
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	13,761,387	1.7	11	53	16	42	16	327,652	11
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	7,219,749	0.9	18	21	21	14	21	515,696	5
Ⅸ．循環器系の疾患	184,561,059	23.2	1	329	2	181	2	1,019,674	2
Ⅹ．呼吸器系の疾患	49,579,603	6.2	6	258	3	161	4	307,948	12
ⅩⅠ．消化器系の疾患	58,405,787	7.3	5	382	1	261	1	223,777	15
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	5,325,199	0.7	20	93	13	59	14	90,258	18
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	71,634,849	9.0	4	248	6	157	5	456,273	8
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	22,294,041	2.8	9	131	11	93	11	239,721	14
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	11,445,881	1.4	13	40	17	31	17	369,222	9
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	13,567,084	1.7	12	32	18	27	18	502,485	6
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	11,253,514	1.4	14	24	20	19	19	592,290	3
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	9,165,381	1.1	15	192	9	120	9	76,378	19
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	73,102,231	9.2	3	227	7	149	7	490,619	7
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	6,455,473	0.8	19	30	19	18	20	358,637	10
ⅩⅫ．特殊目的用コード	1,914,507	0.2	21	87	14	72	12	26,590	21
分類外	0	0.0		0		0		0	
合計	797,190,680			1,198		701		1,137,219	

大分類による疾病別医療費統計(入院外のみ)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	41,899,977	3.2	12	11,291	7	3,279	4	12,778	17
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	157,641,280	12.0	3	6,676	13	1,990	12	79,217	1
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	7,536,233	0.6	17	2,172	17	657	17	11,471	18
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	159,122,737	12.1	2	25,264	2	2,969	7	53,595	2
Ⅴ．精神及び行動の障害	35,635,755	2.7	13	6,149	14	669	16	53,267	3
Ⅵ．神経系の疾患	57,302,065	4.4	10	10,976	8	1,316	15	43,543	7
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	59,767,562	4.6	9	9,984	10	3,107	6	19,236	13
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	16,563,946	1.3	15	5,525	16	1,550	14	10,686	19
Ⅸ．循環器系の疾患	114,755,276	8.7	5	24,319	3	2,512	10	45,683	5
Ⅹ．呼吸器系の疾患	180,245,582	13.7	1	34,453	1	6,150	1	29,308	9
ⅩⅠ．消化器系の疾患	87,993,499	6.7	7	21,285	4	3,556	2	24,745	11
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	97,014,941	7.4	6	17,727	6	3,540	3	27,405	10
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	124,958,984	9.5	4	19,610	5	3,178	5	39,320	8
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	78,458,936	6.0	8	8,384	11	1,768	13	44,377	6
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	1,515,703	0.1	20	271	20	73	20	20,763	12
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	375,856	0.0	22	94	22	48	21	7,830	21
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	3,233,121	0.2	19	665	19	195	19	16,580	16
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	23,606,163	1.8	14	10,814	9	2,941	8	8,027	20
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	44,109,430	3.4	11	7,321	12	2,354	11	18,738	14
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5,350,947	0.4	18	1,736	18	297	18	18,017	15
ⅩⅫ．特殊目的用コード	14,076,753	1.1	16	6,089	15	2,646	9	5,320	22
分類外	1,278,984	0.1	21	138	21	26	22	49,192	4
合計	1,312,443,730			110,904		9,161		143,264	

■大分類要素別集計(男性・女性)

大分類による疾病別医療費統計(男性のみ)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	37,715,156	2.9	12	6,541	7	1,920	4	19,643	17
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	196,328,067	14.9	2	4,010	13	1,138	12	172,520	2
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	9,791,581	0.7	17	1,049	17	346	17	28,299	14
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	110,056,771	8.4	4	16,169	3	1,899	6	57,955	8
Ⅴ．精神及び行動の障害	29,254,640	2.2	13	3,057	15	383	16	76,383	5
Ⅵ．神経系の疾患	48,314,772	3.7	10	6,244	8	813	15	59,428	7
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	40,730,368	3.1	11	4,982	10	1,636	10	24,896	16
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	13,727,020	1.0	15	2,869	16	836	14	16,420	18
Ⅸ．循環器系の疾患	223,329,324	17.0	1	16,953	2	1,693	8	131,913	3
Ⅹ．呼吸器系の疾患	145,343,852	11.0	3	19,583	1	3,707	1	39,208	13
ⅩⅠ．消化器系の疾患	109,325,008	8.3	5	13,032	4	2,215	2	49,357	11
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	49,728,447	3.8	9	8,981	6	1,904	5	26,118	15
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	109,098,159	8.3	6	11,931	5	2,042	3	53,427	10
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	57,050,714	4.3	8	4,661	11	940	13	60,692	6
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	4,937	0.0	22	2	22	2	22	2,469	22
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	6,033,445	0.5	20	69	20	34	20	177,454	1
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	9,049,659	0.7	18	333	19	96	19	94,267	4
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	19,021,216	1.4	14	6,171	9	1,779	7	10,692	19
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	82,901,861	6.3	7	4,610	12	1,548	11	53,554	9
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	8,090,021	0.6	19	979	18	169	18	47,870	12
ⅩⅫ．特殊目的用コード	10,591,719	0.8	16	3,875	14	1,665	9	6,361	21
分類外	105,933	0.0	21	49	21	11	21	9,630	20
合計	1,315,592,670			64,588		5,698		230,887	

大分類による疾病別医療費統計(女性のみ)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	20,812,374	2.6	13	4,883	9	1,381	5	15,071	19
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	126,437,752	15.9	1	2,920	14	867	10	145,834	3
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6,072,850	0.8	18	1,207	17	345	16	17,602	18
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	57,971,659	7.3	5	9,351	2	1,115	8	51,993	10
Ⅴ．精神及び行動の障害	33,681,033	4.2	11	3,194	12	309	17	109,000	4
Ⅵ．神経系の疾患	40,206,327	5.1	8	4,948	8	544	15	73,909	8
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	32,798,581	4.1	12	5,055	7	1,472	3	22,282	17
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	10,056,675	1.3	16	2,677	15	718	14	14,007	20
Ⅸ．循環器系の疾患	75,987,011	9.6	4	7,695	6	841	13	90,353	5
Ⅹ．呼吸器系の疾患	84,481,333	10.6	3	15,128	1	2,463	1	34,300	13
ⅩⅠ．消化器系の疾患	37,074,278	4.7	9	8,635	4	1,385	4	26,768	16
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	52,611,693	6.6	6	8,839	3	1,655	2	31,790	14
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	87,495,674	11.0	2	7,927	5	1,166	7	75,039	7
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	43,702,263	5.5	7	3,854	11	856	11	51,054	11
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	12,956,647	1.6	15	309	20	77	20	168,268	2
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	7,909,495	1.0	17	57	22	25	21	316,380	1
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	5,436,976	0.7	19	356	19	102	19	53,304	9
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	13,750,328	1.7	14	4,835	10	1,202	6	11,440	21
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	34,309,800	4.3	10	2,938	13	842	12	40,748	12
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	3,716,399	0.5	21	787	18	132	18	28,155	15
ⅩⅫ．特殊目的用コード	5,399,541	0.7	20	2,301	16	1,013	9	5,330	22
分類外	1,173,051	0.1	22	89	21	15	22	78,203	6
合計	794,041,740			47,514		3,480		228,173	

■大分類要素別集計(年齢階層)

大分類による疾病別医療費統計(0歳～4歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	7,397,077	6.9	5	1,111	3	279	3	26,513	13
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	489,885	0.5	18	64	13	23	16	21,299	15
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	410,664	0.4	19	17	18	7	17	58,666	7
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	1,023,345	1.0	15	58	14	34	13	30,098	11
Ⅴ．精神及び行動の障害	1,905,508	1.8	9	151	10	25	14	76,220	6
Ⅵ．神経系の疾患	240,945	0.2	20	13	19	6	19	40,158	10
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	1,736,841	1.6	12	473	6	168	6	10,338	19
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	4,284,286	4.0	6	1,106	4	211	4	20,305	16
Ⅸ．循環器系の疾患	1,980,132	1.9	8	41	17	7	17	282,876	1
Ⅹ．呼吸器系の疾患	41,350,554	38.7	1	4,902	1	435	1	95,059	5
ⅩⅠ．消化器系の疾患	3,657,064	3.4	7	326	8	85	9	43,024	9
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	11,013,405	10.3	3	2,531	2	375	2	29,369	12
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	1,832,847	1.7	10	54	15	35	12	52,367	8
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	606,277	0.6	17	42	16	24	15	25,262	14
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	585	0.0	21	1	21	1	21	585	21
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	13,852,917	13.0	2	107	12	52	10	266,402	2
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	9,430,901	8.8	4	135	11	42	11	224,545	4
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,767,412	1.7	11	592	5	183	5	9,658	20
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	1,639,758	1.5	13	331	7	147	7	11,155	18
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	683,427	0.6	16	8	20	3	20	227,809	3
ⅩⅫ．特殊目的用コード	1,410,530	1.3	14	267	9	94	8	15,006	17
分類外	0	0.0		0		0		0	
合計	106,714,360			7,842		484		220,484	

大分類による疾病別医療費統計(5歳～9歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	3,244,992	5.3	6	1,316	3	372	3	8,723	16
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	470,734	0.8	14	55	16	22	14	21,397	8
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	994,663	1.6	11	17	18	8	18	124,333	1
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	289,858	0.5	17	106	13	49	11	5,915	19
Ⅴ．精神及び行動の障害	6,017,989	9.8	3	625	7	70	10	85,971	2
Ⅵ．神経系の疾患	752,133	1.2	13	144	11	22	14	34,188	6
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	5,123,575	8.3	4	892	5	293	4	17,487	10
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	3,385,163	5.5	5	1,107	4	283	5	11,962	13
Ⅸ．循環器系の疾患	239,704	0.4	18	30	17	16	17	14,982	11
Ⅹ．呼吸器系の疾患	24,011,335	39.0	1	4,795	1	570	1	42,125	4
ⅩⅠ．消化器系の疾患	2,373,245	3.9	8	283	10	84	9	28,253	7
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	7,441,859	12.1	2	1,885	2	378	2	19,687	9
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	470,274	0.8	15	73	14	47	12	10,006	14
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	360,417	0.6	16	122	12	41	13	8,791	15
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	39,408	0.1	19	11	19	5	19	7,882	17
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	853,442	1.4	12	62	15	17	16	50,202	3
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,757,486	2.9	9	794	6	248	6	7,087	18
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	2,662,364	4.3	7	486	9	195	8	13,653	12
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	35,806	0.1	20	3	20	1	20	35,806	5
ⅩⅫ．特殊目的用コード	1,076,663	1.7	10	619	8	225	7	4,785	20
分類外	0	0.0		0		0		0	
合計	61,601,110			8,298		607		101,485	

大分類による疾病別医療費統計(10歳～14歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	3,763,758	4.4	8	1,083	4	318	5	11,836	12
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	809,885	0.9	15	113	15	49	14	16,528	9
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	122,685	0.1	18	68	18	29	17	4,231	19
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	4,214,963	4.9	7	332	12	118	11	35,720	3
Ⅴ．精神及び行動の障害	5,637,155	6.5	4	512	9	60	13	93,953	1
Ⅵ．神経系の疾患	929,104	1.1	14	176	13	34	16	27,327	7
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	4,686,050	5.4	5	1,097	3	361	3	12,981	10
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	1,461,527	1.7	12	728	8	218	8	6,704	16
Ⅸ．循環器系の疾患	565,665	0.7	16	103	16	48	15	11,785	13
Ⅹ．呼吸器系の疾患	31,329,584	36.3	1	4,275	1	631	1	49,651	2
ⅩⅠ．消化器系の疾患	1,522,275	1.8	11	457	11	144	10	10,571	14
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	12,659,292	14.7	2	1,943	2	383	2	33,053	4
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	4,256,190	4.9	6	491	10	155	9	27,459	6
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	1,256,486	1.5	13	153	14	63	12	19,944	8
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	4,352	0.0	19	1	20	1	19	4,352	18
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	353,749	0.4	17	80	17	29	17	12,198	11
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2,155,596	2.5	9	827	6	251	7	8,588	15
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	8,958,175	10.4	3	956	5	280	6	31,993	5
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1,941	0.0	20	25	19	1	19	1,941	20
ⅩⅫ．特殊目的用コード	1,677,778	1.9	10	823	7	321	4	5,227	17
分類外	0	0.0		0		0		0	
合計	86,366,210			8,428		697		123,911	

大分類による疾病別医療費統計(15歳～19歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	2,781,693	3.4	10	812	6	258	6	10,782	15
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	1,844,410	2.3	12	166	15	66	13	27,946	8
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	777,202	1.0	16	144	16	48	16	16,192	12
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	4,020,659	4.9	7	267	14	102	11	39,418	5
Ⅴ．精神及び行動の障害	6,338,927	7.8	4	466	10	48	16	132,061	1
Ⅵ．神経系の疾患	5,639,443	6.9	5	435	11	65	15	86,761	2
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	3,403,058	4.2	8	928	4	347	3	9,807	16
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	678,279	0.8	17	343	12	136	10	4,987	20
Ⅸ．循環器系の疾患	1,049,394	1.3	15	129	17	66	13	15,900	13
Ⅹ．呼吸器系の疾患	17,243,274	21.1	1	3,012	1	611	1	28,221	7
ⅩⅠ．消化器系の疾患	5,006,020	6.1	6	609	8	223	8	22,449	10
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	11,840,487	14.5	3	1,729	2	331	4	35,772	6
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	3,125,481	3.8	9	504	9	173	9	18,066	11
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	1,356,956	1.7	14	285	13	101	12	13,435	14
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	49,825	0.1	19	7	19	1	20	49,825	3
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	515,819	0.6	18	51	18	21	18	24,563	9
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,625,735	2.0	13	740	7	237	7	6,860	17
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	12,275,650	15.0	2	829	5	264	5	46,499	4
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	15,649	0.0	20	6	20	3	19	5,216	19
ⅩⅫ．特殊目的用コード	2,065,919	2.5	11	985	3	385	2	5,366	18
分類外	0	0.0		0		0		0	
合計	81,653,880			7,316		752		108,582	

大分類による疾病別医療費統計(20歳～24歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	6,026,747	9.7	4	504	3	202	4	29,835	9
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	9,628,503	15.5	1	164	14	66	12	145,886	2
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	378,174	0.6	18	89	17	40	17	9,454	17
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	1,784,318	2.9	11	201	13	78	11	22,876	11
Ⅴ．精神及び行動の障害	2,898,695	4.7	9	216	12	41	16	70,700	4
Ⅵ．神経系の疾患	2,599,489	4.2	10	305	8	49	13	53,051	5
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	1,035,759	1.7	14	299	9	139	7	7,452	18
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	1,029,596	1.7	15	139	15	48	14	21,450	12
Ⅸ．循環器系の疾患	600,008	1.0	17	119	16	45	15	13,334	15
Ⅹ．呼吸器系の疾患	6,116,765	9.8	3	1,195	1	362	1	16,897	13
ⅩⅠ．消化器系の疾患	1,530,909	2.5	12	450	5	148	6	10,344	16
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	5,698,327	9.2	5	879	2	215	3	26,504	10
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	3,637,080	5.8	8	277	10	82	10	44,355	6
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	3,898,535	6.3	7	367	7	103	9	37,850	7
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	5,058,369	8.1	6	87	18	22	18	229,926	1
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	790	0.0	21	1	21	1	21	790	21
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	301,680	0.5	19	30	19	9	19	33,520	8
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,076,137	1.7	13	407	6	164	5	6,562	19
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	7,957,838	12.8	2	237	11	106	8	75,074	3
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	30,012	0.0	20	4	20	2	20	15,006	14
ⅩⅫ．特殊目的用コード	976,549	1.6	16	458	4	216	2	4,521	20
分類外	0	0.0		0		0		0	
合計	62,264,280			3,587		538		115,733	

大分類による疾病別医療費統計(25歳～29歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	2,092,160	3.7	9	427	3	147	4	14,232	14
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	451,180	0.8	18	90	17	50	13	9,024	16
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	155,672	0.3	21	103	16	33	17	4,717	20
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	979,123	1.8	13	215	13	87	11	11,254	15
Ⅴ．精神及び行動の障害	7,985,587	14.3	3	306	9	37	16	215,827	2
Ⅵ．神経系の疾患	3,197,429	5.7	6	377	6	55	12	58,135	6
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	768,224	1.4	16	247	11	103	7	7,458	17
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	251,354	0.5	19	176	14	49	14	5,130	19
Ⅸ．循環器系の疾患	1,201,895	2.2	12	113	15	44	15	27,316	11
Ⅹ．呼吸器系の疾患	8,686,012	15.6	2	1,183	1	303	1	28,667	10
ⅩⅠ．消化器系の疾患	5,938,037	10.6	4	491	2	152	3	39,066	9
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	2,868,953	5.1	8	404	4	118	6	24,313	12
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	3,734,813	6.7	5	325	8	91	9	41,042	8
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	1,787,831	3.2	10	271	10	90	10	19,865	13
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	3,032,822	5.4	7	85	18	23	18	131,862	4
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	1,570,042	2.8	11	39	19	4	19	392,511	1
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	797,076	1.4	14	388	5	138	5	5,776	18
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	8,932,792	16.0	1	219	12	95	8	94,029	5
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	170,568	0.3	20	29	20	3	20	56,856	7
ⅩⅫ．特殊目的用コード	772,595	1.4	15	372	7	169	2	4,572	21
分類外	453,475	0.8	17	8	21	3	20	151,158	3
合計	55,827,640			2,966		430		129,832	

大分類による疾病別医療費統計(30歳～34歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	872,636	3.0	14	307	4	118	3	7,395	17
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	2,357,588	8.0	3	136	14	47	12	50,161	4
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	139,451	0.5	19	54	17	18	17	7,747	16
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	1,255,165	4.3	10	264	7	70	10	17,931	11
Ⅴ．精神及び行動の障害	2,120,264	7.2	4	226	11	21	16	100,965	2
Ⅵ．神経系の疾患	1,352,412	4.6	9	223	12	36	14	37,567	6
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	1,449,960	4.9	8	251	8	99	8	14,646	14
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	236,877	0.8	18	120	15	42	13	5,640	19
Ⅸ．循環器系の疾患	380,747	1.3	17	93	16	32	15	11,898	15
Ⅹ．呼吸器系の疾患	6,592,919	22.4	1	1,024	1	240	1	27,470	8
ⅩⅠ．消化器系の疾患	2,100,770	7.1	5	423	3	126	2	16,673	12
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	1,756,334	6.0	6	532	2	117	4	15,011	13
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	2,834,613	9.6	2	305	5	102	6	27,790	7
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	1,231,895	4.2	11	233	10	66	11	18,665	10
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	1,096,413	3.7	12	47	18	12	18	91,368	3
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	17,872	0.1	21	7	20	4	19	4,468	20
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	621,248	2.1	15	292	6	101	7	6,151	18
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	1,598,812	5.4	7	171	13	72	9	22,206	9
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	938,610	3.2	13	18	19	3	20	312,870	1
ⅩⅫ．特殊目的用コード	451,995	1.5	16	235	9	113	5	4,000	21
分類外	91,209	0.3	20	6	21	2	21	45,605	5
合計	29,497,790			2,657		347		85,008	

大分類による疾病別医療費統計(35歳～39歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	1,070,629	2.2	13	365	6	139	3	7,702	17
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	3,195,438	6.5	7	222	15	85	12	37,593	9
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	120,333	0.2	20	67	17	35	16	3,438	21
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	4,898,367	9.9	5	513	5	105	9	46,651	7
Ⅴ．精神及び行動の障害	1,805,431	3.7	11	227	14	24	17	75,226	5
Ⅵ．神経系の疾患	2,974,562	6.0	8	346	7	51	14	58,325	6
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	1,007,660	2.0	14	283	11	108	8	9,330	16
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	237,827	0.5	19	123	16	45	15	5,285	19
Ⅸ．循環器系の疾患	6,288,212	12.7	1	279	12	57	13	110,320	3
Ⅹ．呼吸器系の疾患	5,156,860	10.4	4	1,112	1	277	1	18,617	13
ⅩⅠ．消化器系の疾患	5,600,171	11.3	2	623	2	156	2	35,899	10
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	2,183,029	4.4	10	598	3	132	5	16,538	14
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	5,372,980	10.9	3	524	4	137	4	39,219	8
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	1,472,714	3.0	12	336	9	92	11	16,008	15
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	2,238,514	4.5	9	58	18	15	18	149,234	1
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	667,845	1.4	16	30	19	8	19	83,481	4
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	720,529	1.5	15	340	8	127	6	5,673	18
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	3,215,534	6.5	6	308	10	104	10	30,919	11
ⅩⅩⅠ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	463,539	0.9	18	19	20	4	20	115,885	2
ⅩⅩⅡ．特殊目的用コード	640,773	1.3	17	261	13	126	7	5,086	20
分類外	59,613	0.1	21	10	21	3	21	19,871	12
合計	49,390,560			3,565		415		119,013	

大分類による疾病別医療費統計(40歳～44歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	3,186,334	4.1	9	552	9	189	4	16,859	16
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	9,956,047	12.9	2	411	13	142	11	70,113	5
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	404,990	0.5	19	174	16	55	16	7,363	19
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	6,457,235	8.4	4	951	3	147	9	43,927	8
Ⅴ．精神及び行動の障害	1,910,746	2.5	13	484	10	39	17	48,993	7
Ⅵ．神経系の疾患	4,663,164	6.1	7	689	6	78	14	59,784	6
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	3,040,153	3.9	10	475	12	160	7	19,001	13
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	447,368	0.6	18	133	17	56	15	7,989	17
Ⅸ．循環器系の疾患	2,615,107	3.4	12	633	7	97	13	26,960	11
Ⅹ．呼吸器系の疾患	9,616,518	12.5	3	1,463	1	354	1	27,165	10
ⅩⅠ．消化器系の疾患	4,431,778	5.8	8	1,024	2	235	2	18,859	14
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	3,019,165	3.9	11	728	5	176	5	17,154	15
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	5,500,855	7.1	5	823	4	208	3	26,446	12
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	12,310,359	16.0	1	609	8	143	10	86,086	4
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	1,518,711	2.0	14	23	20	3	20	506,237	1
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	330,097	0.4	20	7	21	3	20	110,032	3
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,247,744	1.6	15	476	11	161	6	7,750	18
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	5,095,165	6.6	6	305	15	122	12	41,764	9
ⅩⅩⅠ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	15,797	0.0	21	29	18	4	18	3,949	21
ⅩⅩⅡ．特殊目的用コード	716,911	0.9	16	330	14	152	8	4,717	20
分類外	551,326	0.7	17	27	19	4	18	137,832	2
合計	77,035,570			5,305		590		130,569	

大分類による疾病別医療費統計(45歳～49歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	2,309,290	2.0	14	677	8	223	5	10,356	17
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	14,246,477	12.5	2	511	11	186	10	76,594	2
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2,540,110	2.2	13	211	16	60	16	42,335	9
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	11,827,767	10.3	4	1,817	1	249	4	47,501	6
Ⅴ．精神及び行動の障害	3,061,420	2.7	11	446	13	55	17	55,662	5
Ⅵ．神経系の疾患	4,953,648	4.3	9	801	6	117	14	42,339	8
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	2,712,149	2.4	12	641	10	219	6	12,384	14
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	818,815	0.7	18	194	17	67	15	12,221	15
Ⅸ．循環器系の疾患	14,850,129	13.0	1	1,564	4	198	9	75,001	3
Ⅹ．呼吸器系の疾患	10,909,232	9.5	5	1,668	2	427	1	25,549	12
ⅩⅠ．消化器系の疾患	7,202,566	6.3	8	1,573	3	321	2	22,438	13
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	7,484,316	6.5	7	778	7	210	7	35,640	10
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	12,479,559	10.9	3	1,411	5	279	3	44,730	7
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	4,718,992	4.1	10	507	12	148	13	31,885	11
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	11,390	0.0	21	8	21	1	21	11,390	16
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	16,413	0.0	20	14	19	4	19	4,103	21
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,518,551	1.3	15	671	9	208	8	7,301	19
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	10,453,435	9.1	6	424	14	160	12	65,334	4
ⅩⅩⅠ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1,428,855	1.2	16	77	18	8	18	178,607	1
ⅩⅩⅡ．特殊目的用コード	832,520	0.7	17	337	15	161	11	5,171	20
分類外	17,946	0.0	19	10	20	2	20	8,973	18
合計	114,393,580			6,979		788		145,170	

大分類による疾病別医療費統計(50歳～54歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	3,529,329	1.7	14	748	11	223	9	15,827	15
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	33,264,791	15.8	2	868	10	262	6	126,965	2
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1,068,983	0.5	15	216	17	77	16	13,883	16
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	21,787,255	10.3	4	3,169	1	366	4	59,528	6
Ⅴ．精神及び行動の障害	5,266,220	2.5	12	614	13	70	17	75,232	3
Ⅵ．神経系の疾患	12,593,154	6.0	5	1,470	6	186	12	67,705	4
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	5,298,460	2.5	11	705	12	230	8	23,037	12
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	1,030,001	0.5	16	248	16	81	15	12,716	17
Ⅸ．循環器系の疾患	47,092,273	22.3	1	2,711	2	304	5	154,909	1
Ⅹ．呼吸器系の疾患	11,716,506	5.6	7	2,310	4	501	1	23,386	11
ⅩⅠ．消化器系の疾患	12,288,392	5.8	6	2,288	5	383	3	32,085	10
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	9,378,908	4.4	8	1,314	7	257	7	36,494	9
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	24,232,027	11.5	3	2,550	3	406	2	59,685	5
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	9,146,550	4.3	9	980	8	199	11	45,963	8
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	428	0.0	21	1	20	1	20	428	21
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	124,289	0.1	19	37	19	12	19	10,357	18
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3,585,577	1.7	13	930	9	222	10	16,151	13
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	8,315,649	3.9	10	558	14	175	14	47,518	7
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	239,623	0.1	18	82	18	15	18	15,975	14
ⅩⅫ．特殊目的用コード	998,319	0.5	17	389	15	185	13	5,396	19
分類外	3,136	0.0	20	1	20	1	20	3,136	20
合計	210,959,870			10,500		885		238,373	

大分類による疾病別医療費統計(55歳～59歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	2,521,604	1.3	13	715	10	194	9	12,998	16
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	58,319,054	29.7	1	722	9	207	6	281,735	1
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2,132,709	1.1	14	215	17	55	16	38,777	8
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	18,086,272	9.2	3	3,146	1	329	3	54,973	4
Ⅴ．精神及び行動の障害	1,617,859	0.8	15	483	14	47	17	34,423	10
Ⅵ．神経系の疾患	5,626,926	2.9	10	1,273	6	139	12	40,481	7
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	7,144,892	3.6	7	668	11	185	10	38,621	9
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	1,587,265	0.8	16	239	16	70	15	22,675	14
Ⅸ．循環器系の疾患	37,157,628	18.9	2	3,111	2	305	5	121,828	2
Ⅹ．呼吸器系の疾患	7,902,190	4.0	6	1,480	5	348	1	22,707	13
ⅩⅠ．消化器系の疾患	15,200,604	7.8	5	2,198	3	330	2	46,062	6
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	6,306,691	3.2	9	1,060	7	204	7	30,915	12
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	16,276,840	8.3	4	1,998	4	323	4	50,393	5
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	7,139,930	3.6	8	573	12	128	14	55,781	3
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	83,414	0.0	19	37	19	8	19	10,427	17
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2,778,142	1.4	12	799	8	203	8	13,685	15
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	5,128,005	2.6	11	518	13	158	11	32,456	11
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	204,743	0.1	18	176	18	30	18	6,825	19
ⅩⅫ．特殊目的用コード	860,343	0.4	17	308	15	139	12	6,190	20
分類外	30,239	0.0	20	36	20	4	20	7,560	18
合計	196,105,350			8,634		670		292,695	

大分類による疾病別医療費統計(60歳～64歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	10,369,124	4.2	8	687	12	176	10	58,915	10
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	33,713,178	13.5	2	713	10	204	6	165,261	3
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2,552,403	1.0	17	157	18	45	16	56,720	11
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	22,105,700	8.9	5	3,370	2	316	2	69,955	8
Ⅴ．精神及び行動の障害	3,827,847	1.5	16	417	14	43	17	89,020	7
Ⅵ．神経系の疾患	11,629,967	4.7	6	1,193	6	125	12	93,040	6
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	9,080,420	3.6	9	702	11	177	9	51,302	12
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	3,871,445	1.6	15	200	17	57	15	67,920	9
Ⅸ．循環器系の疾患	52,111,014	20.9	1	3,514	1	306	4	170,297	2
Ⅹ．呼吸器系の疾患	11,465,716	4.6	7	1,792	5	308	3	37,226	15
ⅩⅠ．消化器系の疾患	32,592,863	13.1	3	2,673	3	317	1	102,817	4
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	4,932,437	2.0	14	952	7	182	8	27,101	17
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	28,104,983	11.3	4	2,370	4	296	5	94,949	5
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	4,954,513	2.0	13	797	8	129	11	38,407	14
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	58,359	0.0	19	80	19	11	19	5,305	19
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	5,679,352	2.3	11	794	9	186	7	30,534	16
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	5,012,516	2.0	12	464	13	123	13	40,752	13
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	6,399,424	2.6	10	214	16	30	18	213,314	1
ⅩⅫ．特殊目的用コード	589,850	0.2	18	240	15	117	14	5,041	20
分類外	31,109	0.0	20	15	20	3	20	10,370	18
合計	249,082,220			8,594		541		460,411	

大分類による疾病別医療費統計(65歳～69歳)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	3,450,535	1.0	14	904	12	208	10	16,589	16
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	73,310,834	21.0	1	1,161	10	261	6	280,884	1
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1,826,279	0.5	16	276	17	75	16	24,350	14
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	29,766,087	8.5	4	4,697	2	412	2	72,248	8
Ⅴ．精神及び行動の障害	8,762,763	2.5	12	571	14	55	18	159,323	2
Ⅵ．神経系の疾患	21,913,427	6.3	5	1,668	6	182	12	120,403	4
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	9,605,387	2.8	11	915	11	219	9	43,860	11
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	2,169,644	0.6	15	324	16	85	15	25,525	13
Ⅸ．循環器系の疾患	53,733,428	15.4	2	5,199	1	420	1	127,937	3
Ⅹ．呼吸器系の疾患	21,809,034	6.3	6	2,130	5	363	5	60,080	9
ⅩⅠ．消化器系の疾患	21,448,338	6.2	7	3,688	3	404	3	53,090	10
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	9,716,716	2.8	10	1,191	9	225	8	43,185	12
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	47,321,163	13.6	3	3,560	4	396	4	119,498	5
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	21,048,079	6.0	8	1,248	8	184	11	114,392	6
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	22,371	0.0	19	30	19	9	19	2,486	19
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	4,184,823	1.2	13	1,263	7	245	7	17,081	15
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	16,794,177	4.8	9	823	13	172	13	97,641	7
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	316,473	0.1	18	385	15	75	16	4,220	18
ⅩⅫ．特殊目的用コード	1,138,515	0.3	17	274	18	136	14	8,371	17
分類外	1,637	0.0	20	1	20	1	20	1,637	20
合計	348,339,710			12,066		641		543,432	

大分類による疾病別医療費統計(70歳～)

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数(件)	順位	患者数(人)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	5,911,622	1.6	12	1,216	12	255	11	23,183	13
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞	80,707,815	21.2	1	1,534	9	335	6	240,919	1
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2,240,113	0.6	16	448	16	106	16	21,133	15
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	39,532,316	10.4	3	6,414	2	552	2	71,617	6
Ⅴ．精神及び行動の障害	3,779,262	1.0	13	507	15	57	18	66,303	7
Ⅵ．神経系の疾患	9,455,296	2.5	10	2,079	6	212	13	44,600	10
Ⅶ．眼及び付属器の疾患	17,436,361	4.6	8	1,461	10	300	8	58,121	8
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	2,294,248	0.6	15	366	17	106	16	21,644	14
Ⅸ．循環器系の疾患	79,450,999	20.9	2	7,009	1	589	1	134,891	2
Ⅹ．呼吸器系の疾患	15,918,686	4.2	9	2,370	5	440	5	36,179	11
ⅩⅠ．消化器系の疾患	25,506,254	6.7	6	4,561	4	492	3	51,842	9
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	6,040,221	1.6	11	1,296	11	256	10	23,595	12
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	37,414,128	9.8	4	4,593	3	478	4	78,272	5
ⅩⅣ．腎尿路生殖器系の疾患	29,463,443	7.7	5	1,992	7	285	9	103,381	3
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産じょく	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0.0		0		0		0	
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	140,342	0.0	19	50	19	17	19	8,255	19
ⅩⅧ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3,256,136	0.9	14	1,693	8	307	7	10,606	18
ⅩⅨ．損傷，中毒及びその他の外因の影響	19,171,791	5.0	7	919	13	217	12	88,349	4
ⅩⅪ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	861,953	0.2	18	691	14	119	15	7,243	20
ⅩⅫ．特殊目的用コード	1,782,000	0.5	17	278	18	139	14	12,820	17
分類外	39,294	0.0	20	24	20	3	20	13,098	16
合計	380,402,280			15,365		793		479,700	

2.年度別 特定健康診査結果分析

(1)年度別・男女別 有所見者割合

令和5年度から令和7年度の特定健診受診者における有所見者割合を年度別に示す。

年度別・男女別 有所見者割合

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和5年4月～令和8年3月健診分(36カ月分)

資格条件等

・資格確認日…各年度末時点
・年齢範囲…各年度、40歳以上を分析対象とする。

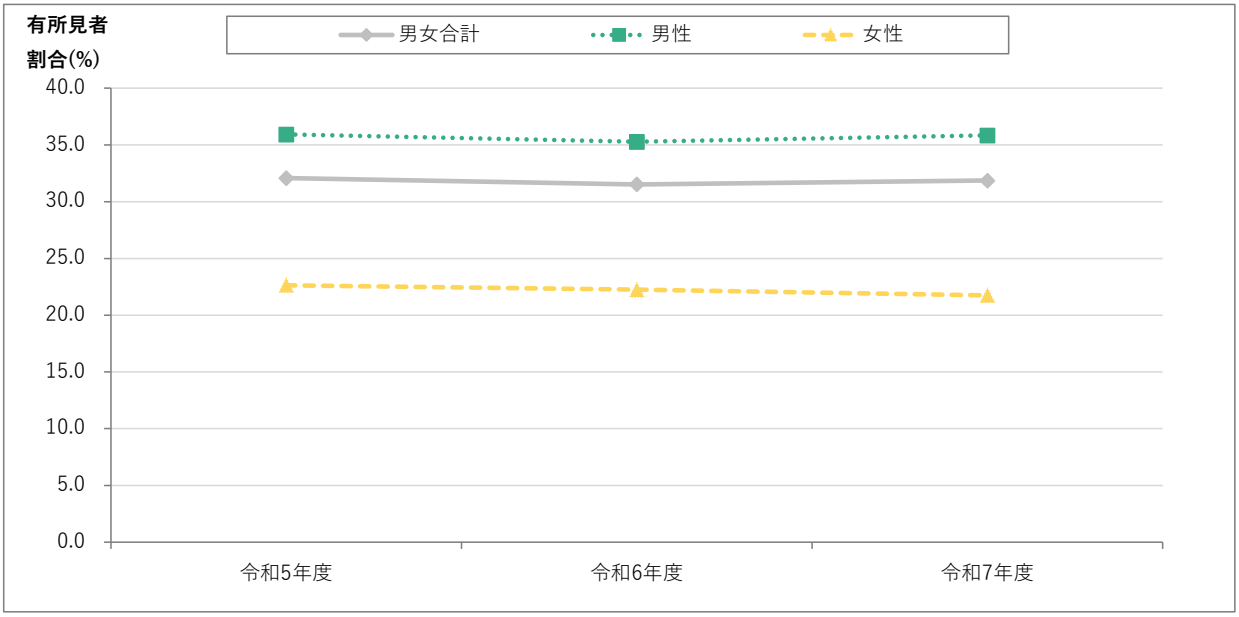
集計定義等

・対象者数…健診検査値が記録されている人数
・有所見者数…保健指導判定値を超えている人数
・有所見者割合…健診検査値が記録されている人のうち、保健指導判定値を超えている人の割合

■BMI

年度別 有所見者割合(BMI)

保健指導判定値(BMI:25kg/m^2)以上の場合に有所見と判定する。

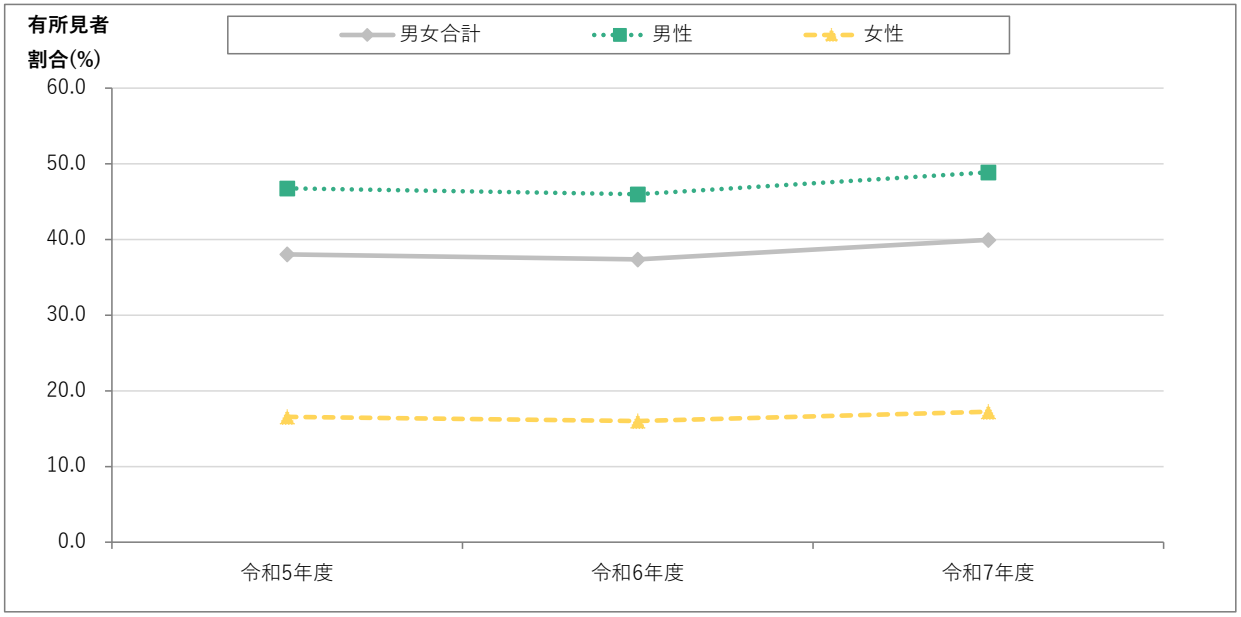


		令和5年度	令和6年度	令和7年度
男女合計	対象者数(人)	3,961	3,787	3,687
	有所見者数(人)	1,271	1,194	1,175
	有所見者割合(%)	32.1	31.5	31.9
男性	対象者数(人)	2,817	2,699	2,648
	有所見者数(人)	1,012	952	949
	有所見者割合(%)	35.9	35.3	35.8
女性	対象者数(人)	1,144	1,088	1,039
	有所見者数(人)	259	242	226
	有所見者割合(%)	22.6	22.2	21.8

■腹囲

年度別 有所見者割合(腹囲)

保健指導判定値(腹囲:男性85cm、女性90cm)以上の場合に有所見と判定する。

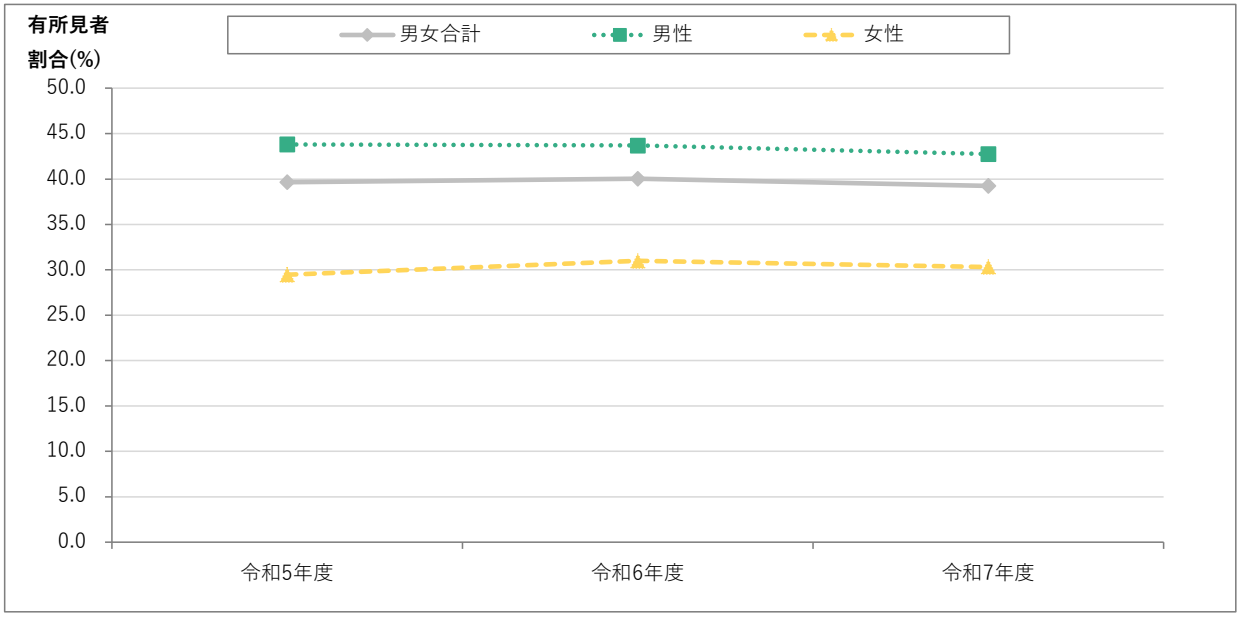


		令和5年度	令和6年度	令和7年度
男女合計	対象者数(人)	3,959	3,787	3,687
	有所見者数(人)	1,506	1,415	1,473
	有所見者割合(%)	38.0	37.4	40.0
男性	対象者数(人)	2,817	2,699	2,648
	有所見者数(人)	1,317	1,241	1,294
	有所見者割合(%)	46.8	46.0	48.9
女性	対象者数(人)	1,142	1,088	1,039
	有所見者数(人)	189	174	179
	有所見者割合(%)	16.5	16.0	17.2

■収縮期血圧

年度別 有所見者割合(収縮期血圧)

保健指導判定値(収縮期血圧:130mmHg)以上の場合に有所見と判定する。

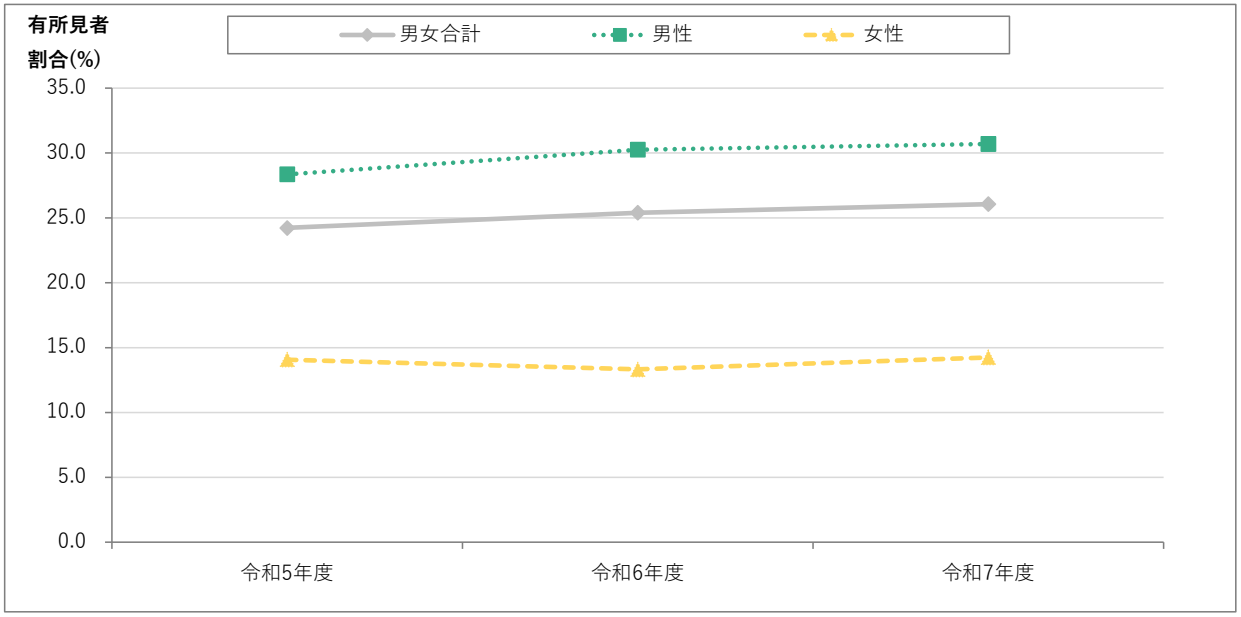


		令和5年度	令和6年度	令和7年度
男女合計	対象者数(人)	3,961	3,787	3,687
	有所見者数(人)	1,571	1,516	1,447
	有所見者割合(%)	39.7	40.0	39.2
男性	対象者数(人)	2,817	2,699	2,648
	有所見者数(人)	1,234	1,179	1,132
	有所見者割合(%)	43.8	43.7	42.7
女性	対象者数(人)	1,144	1,088	1,039
	有所見者数(人)	337	337	315
	有所見者割合(%)	29.5	31.0	30.3

■拡張期血圧

年度別 有所見者割合(拡張期血圧)

保健指導判定値(拡張期血圧:85mmHg)以上の場合に有所見と判定する。

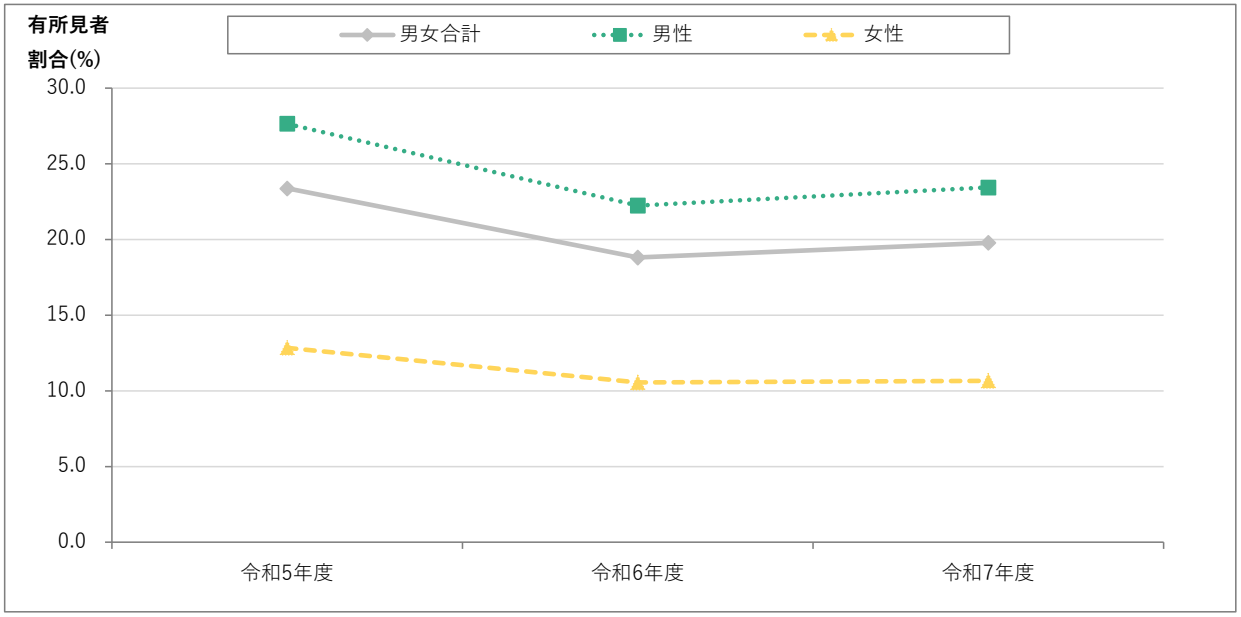


		令和5年度	令和6年度	令和7年度
男女合計	対象者数(人)	3,961	3,787	3,687
	有所見者数(人)	960	962	961
	有所見者割合(%)	24.2	25.4	26.1
男性	対象者数(人)	2,817	2,699	2,648
	有所見者数(人)	799	817	813
	有所見者割合(%)	28.4	30.3	30.7
女性	対象者数(人)	1,144	1,088	1,039
	有所見者数(人)	161	145	148
	有所見者割合(%)	14.1	13.3	14.2

■空腹時中性脂肪(中性脂肪)

年度別 有所見者割合(空腹時中性脂肪(中性脂肪))

保健指導判定値(空腹時中性脂肪(中性脂肪):150mg/dl)以上の場合に有所見と判定する。

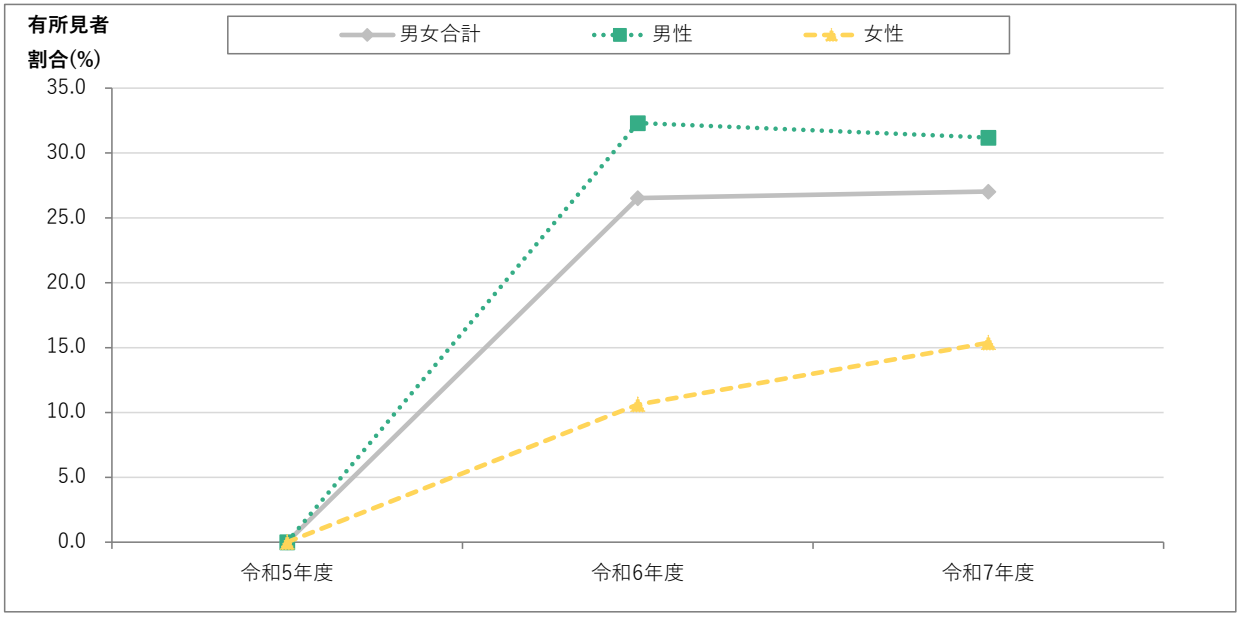


		令和5年度	令和6年度	令和7年度
男女合計	対象者数(人)	3,961	2,939	2,947
	有所見者数(人)	926	553	583
	有所見者割合(%)	23.4	18.8	19.8
男性	対象者数(人)	2,817	2,077	2,103
	有所見者数(人)	779	462	493
	有所見者割合(%)	27.7	22.2	23.4
女性	対象者数(人)	1,144	862	844
	有所見者数(人)	147	91	90
	有所見者割合(%)	12.8	10.6	10.7

■随時中性脂肪

年度別 有所見者割合(随時中性脂肪)　※令和6年度以降

保健指導判定値(随時中性脂肪:175mg/dl)以上の場合に有所見と判定する。

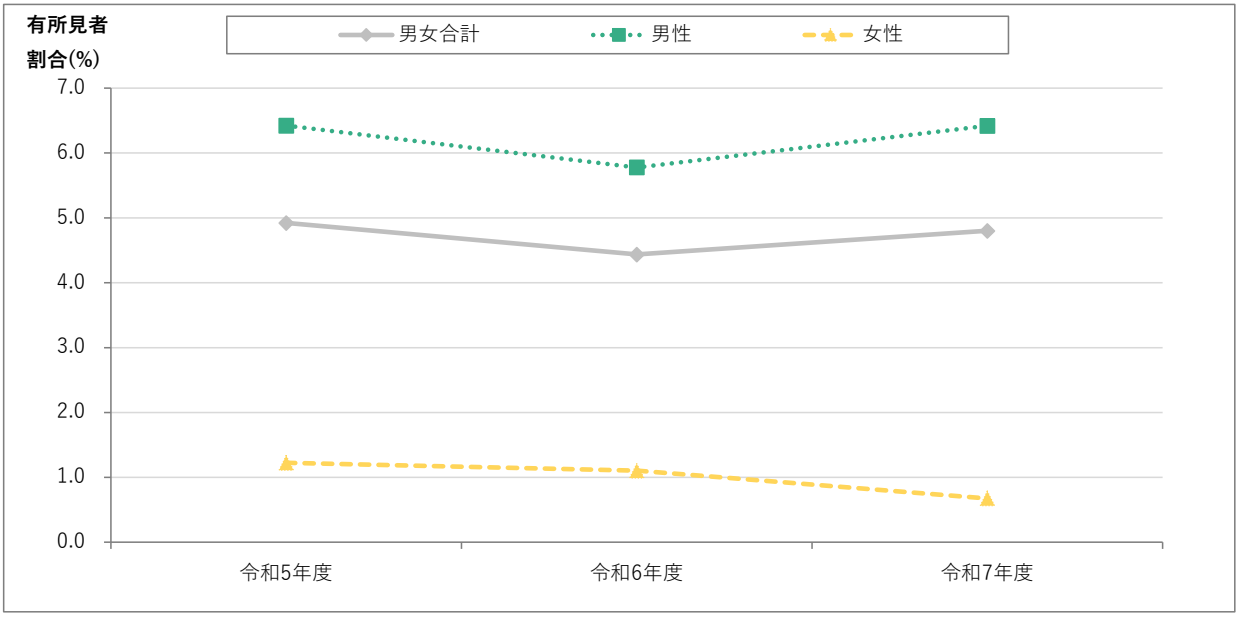


		令和5年度	令和6年度	令和7年度
男女合計	対象者数(人)	0	848	740
	有所見者数(人)	0	225	200
	有所見者割合(%)	0.0	26.5	27.0
男性	対象者数(人)	0	622	545
	有所見者数(人)	0	201	170
	有所見者割合(%)	0.0	32.3	31.2
女性	対象者数(人)	0	226	195
	有所見者数(人)	0	24	30
	有所見者割合(%)	0.0	10.6	15.4

■HDLコレステロール

年度別 有所見者割合(HDLコレステロール)

保健指導判定値(HDLコレステロール:40mg/dl)未満の場合に有所見と判定する。

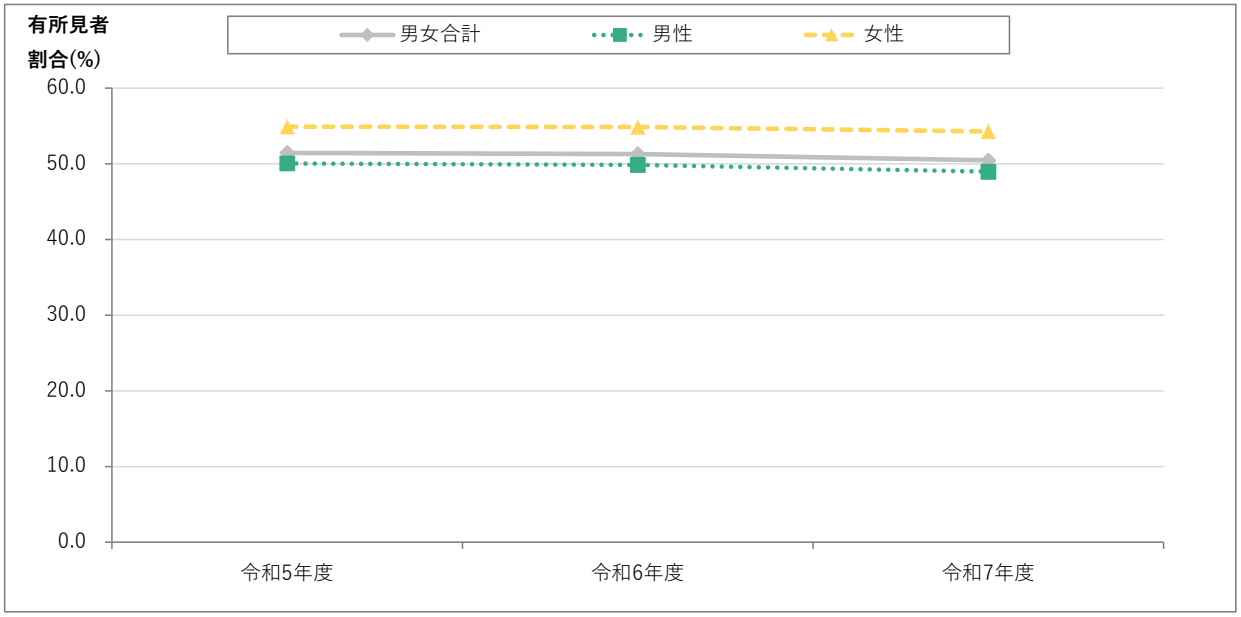


		令和5年度	令和6年度	令和7年度
男女合計	対象者数(人)	3,961	3,787	3,687
	有所見者数(人)	195	168	177
	有所見者割合(%)	4.9	4.4	4.8
男性	対象者数(人)	2,817	2,699	2,648
	有所見者数(人)	181	156	170
	有所見者割合(%)	6.4	5.8	6.4
女性	対象者数(人)	1,144	1,088	1,039
	有所見者数(人)	14	12	7
	有所見者割合(%)	1.2	1.1	0.7

■LDLコレステロール

年度別 有所見者割合(LDLコレステロール)

保健指導判定値(LDLコレステロール:120mg/dl)以上の場合に有所見と判定する。

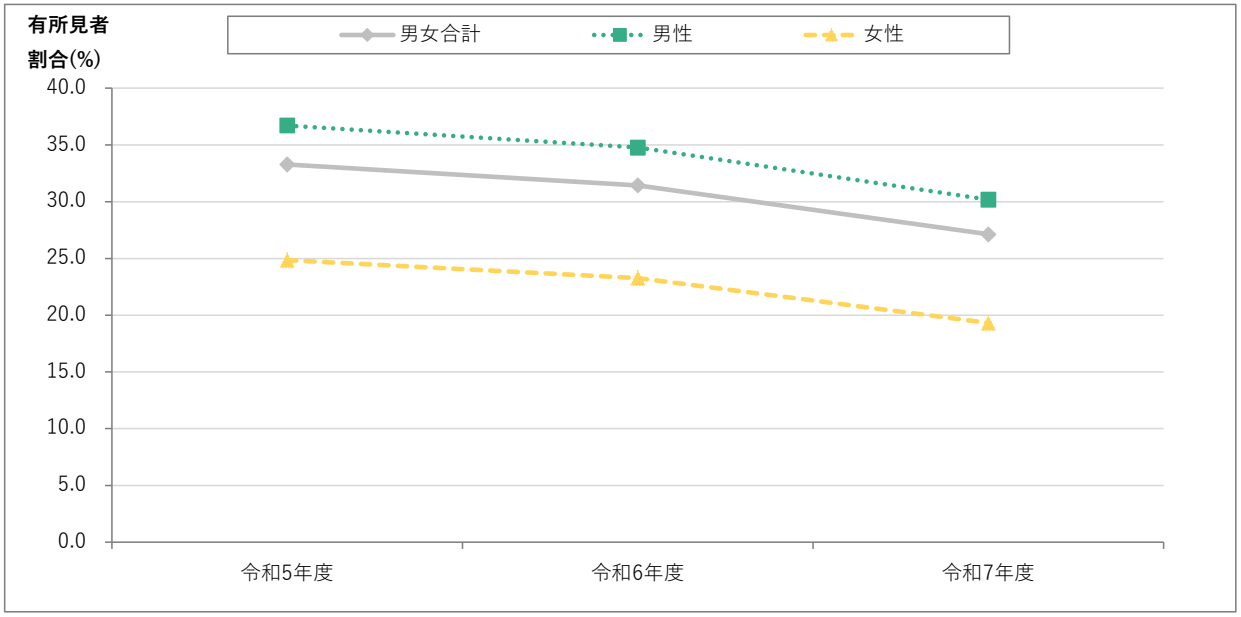


		令和5年度	令和6年度	令和7年度
男女合計	対象者数(人)	3,960	3,787	3,687
	有所見者数(人)	2,038	1,943	1,861
	有所見者割合(%)	51.5	51.3	50.5
男性	対象者数(人)	2,816	2,699	2,648
	有所見者数(人)	1,410	1,346	1,297
	有所見者割合(%)	50.1	49.9	49.0
女性	対象者数(人)	1,144	1,088	1,039
	有所見者数(人)	628	597	564
	有所見者割合(%)	54.9	54.9	54.3

■空腹時血糖

年度別 有所見者割合(空腹時血糖)

保健指導判定値(空腹時血糖:100mg/dl)以上の場合に有所見と判定する。

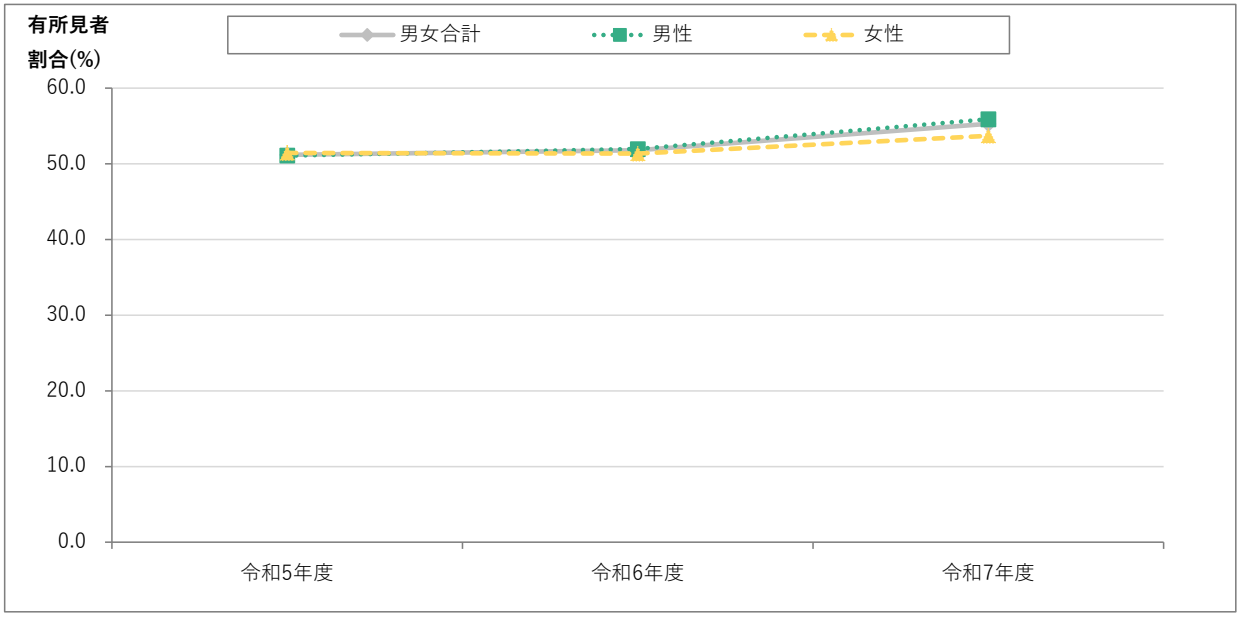


		令和5年度	令和6年度	令和7年度
男女合計	対象者数(人)	2,890	2,754	2,798
	有所見者数(人)	962	866	759
	有所見者割合(%)	33.3	31.4	27.1
男性	対象者数(人)	2,053	1,955	2,011
	有所見者数(人)	754	680	607
	有所見者割合(%)	36.7	34.8	30.2
女性	対象者数(人)	837	799	787
	有所見者数(人)	208	186	152
	有所見者割合(%)	24.9	23.3	19.3

■HbA1c(NGSP)

年度別 有所見者割合(HbA1c(NGSP))

保健指導判定値(HbA1c(NGSP):5.6%)以上の場合に有所見と判定する。



		令和5年度	令和6年度	令和7年度
男女合計	対象者数(人)	3,793	3,689	3,593
	有所見者数(人)	1,942	1,911	1,987
	有所見者割合(%)	51.2	51.8	55.3
男性	対象者数(人)	2,720	2,659	2,608
	有所見者数(人)	1,390	1,382	1,458
	有所見者割合(%)	51.1	52.0	55.9
女性	対象者数(人)	1,073	1,030	985
	有所見者数(人)	552	529	529
	有所見者割合(%)	51.4	51.4	53.7

(2)年度別・男女別 質問別回答状況

令和5年度から令和7年度の特定健診の質問票における喫煙・運動・口腔機能・食習慣・飲酒・生活習慣の改善に関する集計結果を年度別に示す。

年度別・男女別 質問別回答状況

分析に用いたデータ

・健康診査データ…令和5年4月～令和8年3月健診分(36カ月分)

資格条件等

・資格確認日…各年度末時点

・年齢範囲…各年度、40歳以上を分析対象とする。

集計定義等

・質問回答者数…質問に回答した人数

・選択者数…該当の選択肢を選択した人数

・選択者割合…質問回答者のうち、該当の選択肢を選択した人の割合

■喫煙

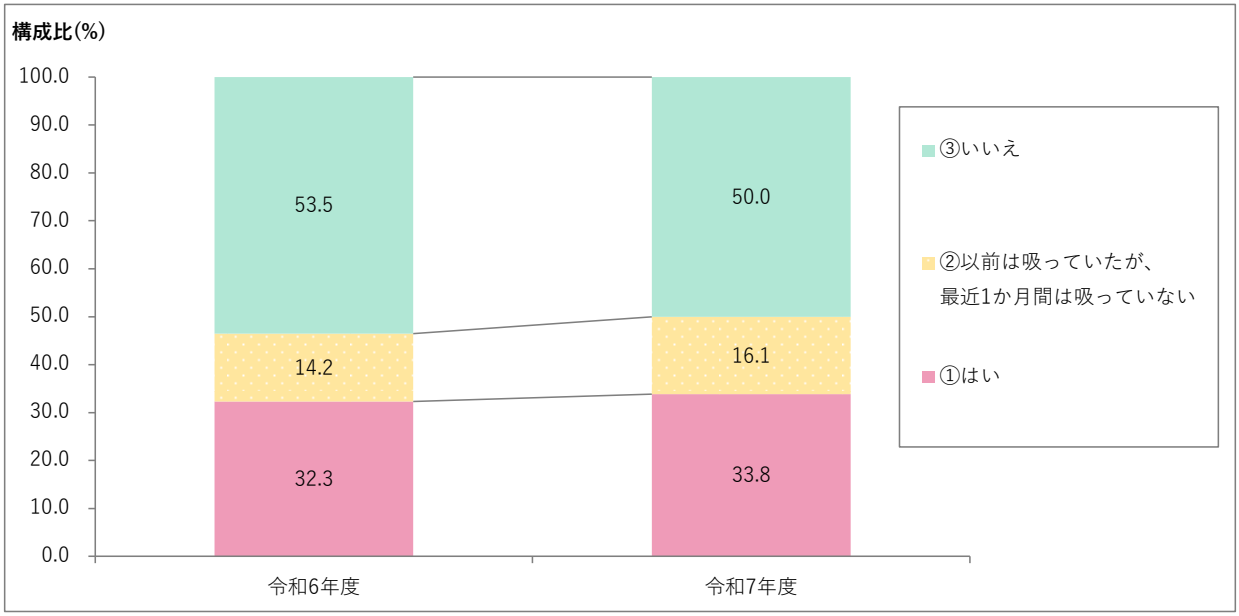
年度別「喫煙あり」の回答状況　※令和5年度以前

「現在、たばこを習慣的に吸っていますか。」の質問に対し、「はい」を選択した人数(割合)を集計

		令和5年度
男女合計	質問回答者数(人)	3,961
	選択者数(人)	1,305
	選択者割合(%)	32.9
男性	質問回答者数(人)	2,817
	選択者数(人)	1,182
	選択者割合(%)	42.0
女性	質問回答者数(人)	1,144
	選択者数(人)	123
	選択者割合(%)	10.8

年度別 喫煙習慣に関する回答状況(男女合計)　※令和6年度以降

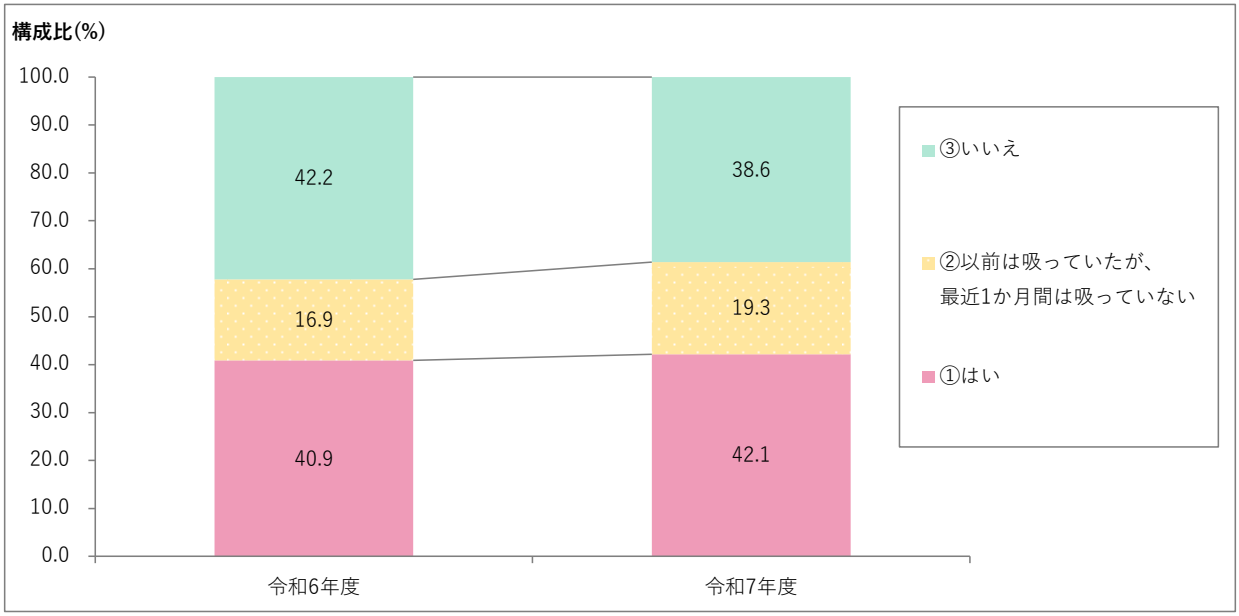
「現在、たばこを習慣的に吸っていますか。」の質問に対する回答を集計



年度	質問回答者数(人)	①はい		②以前は吸っていたが、最近1か月間は吸っていない		③いいえ	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和6年度	3,787	1,223	32.3	538	14.2	2,026	53.5
令和7年度	3,687	1,247	33.8	595	16.1	1,845	50.0

年度別 喫煙習慣に関する回答状況(男性)　※令和6年度以降

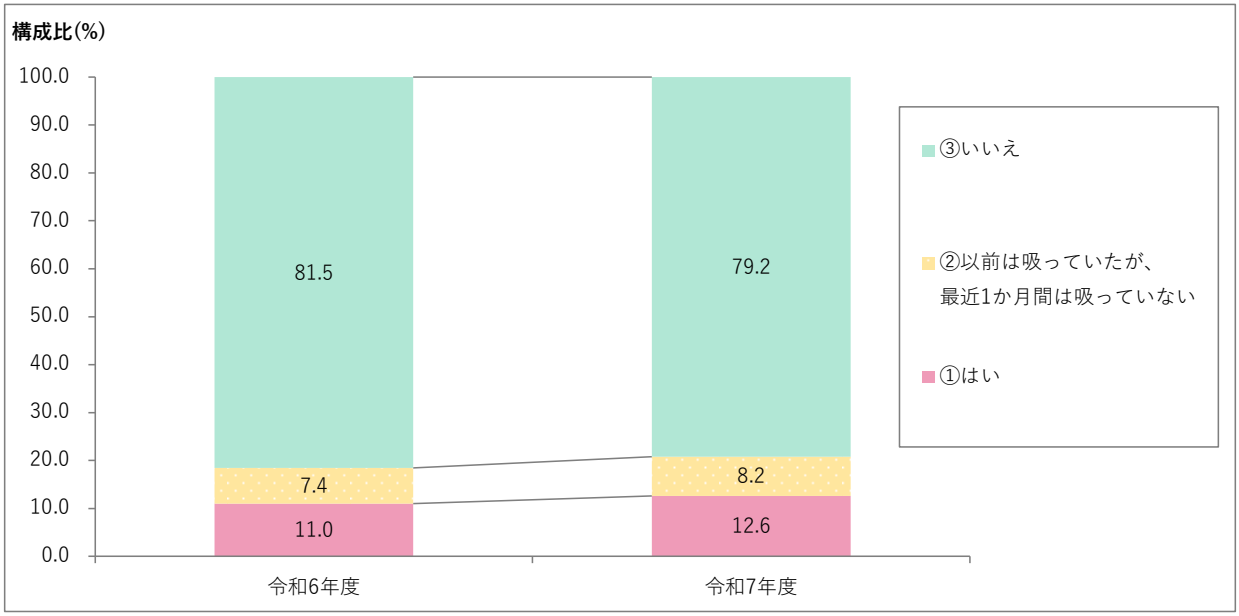
「現在、たばこを習慣的に吸っていますか。」の質問に対する回答を集計



年度	質問回答者数(人)	①はい		②以前は吸っていたが、最近1か月間は吸っていない		③いいえ	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和6年度	2,699	1,103	40.9	457	16.9	1,139	42.2
令和7年度	2,648	1,116	42.1	510	19.3	1,022	38.6

年度別 喫煙習慣に関する回答状況(女性)　※令和6年度以降

「現在、たばこを習慣的に吸っていますか。」の質問に対する回答を集計

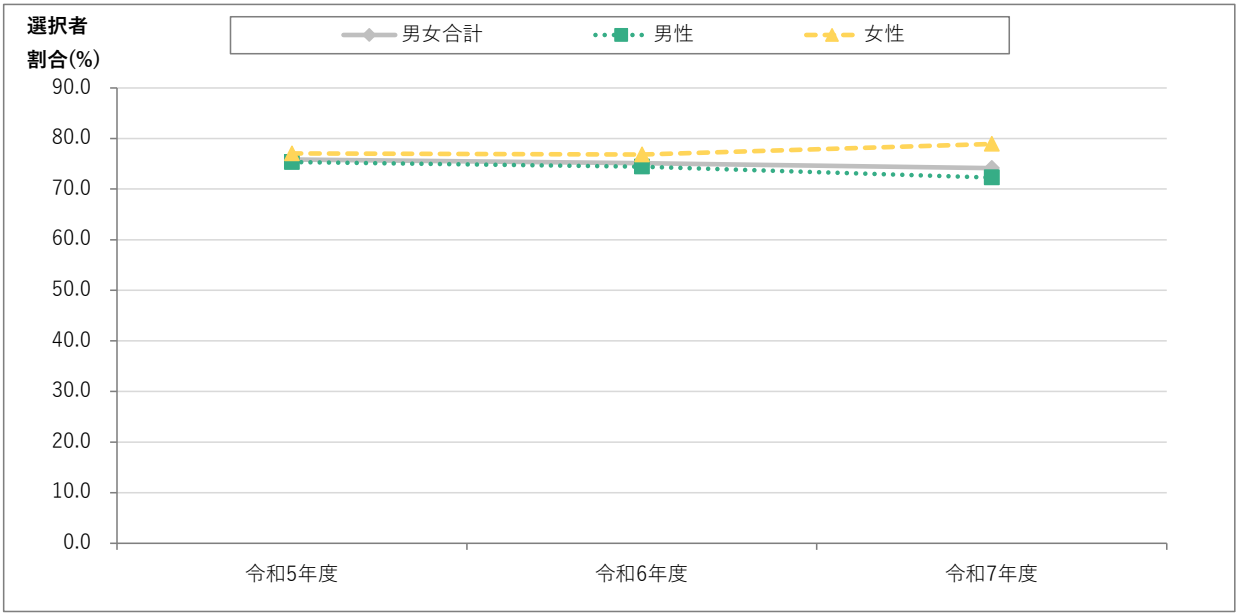


年度	質問回答者数(人)	①はい		②以前は吸っていたが、最近1か月間は吸っていない		③いいえ	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和6年度	1,088	120	11.0	81	7.4	887	81.5
令和7年度	1,039	131	12.6	85	8.2	823	79.2

■運動

年度別「1回30分以上の運動習慣なし」の回答状況

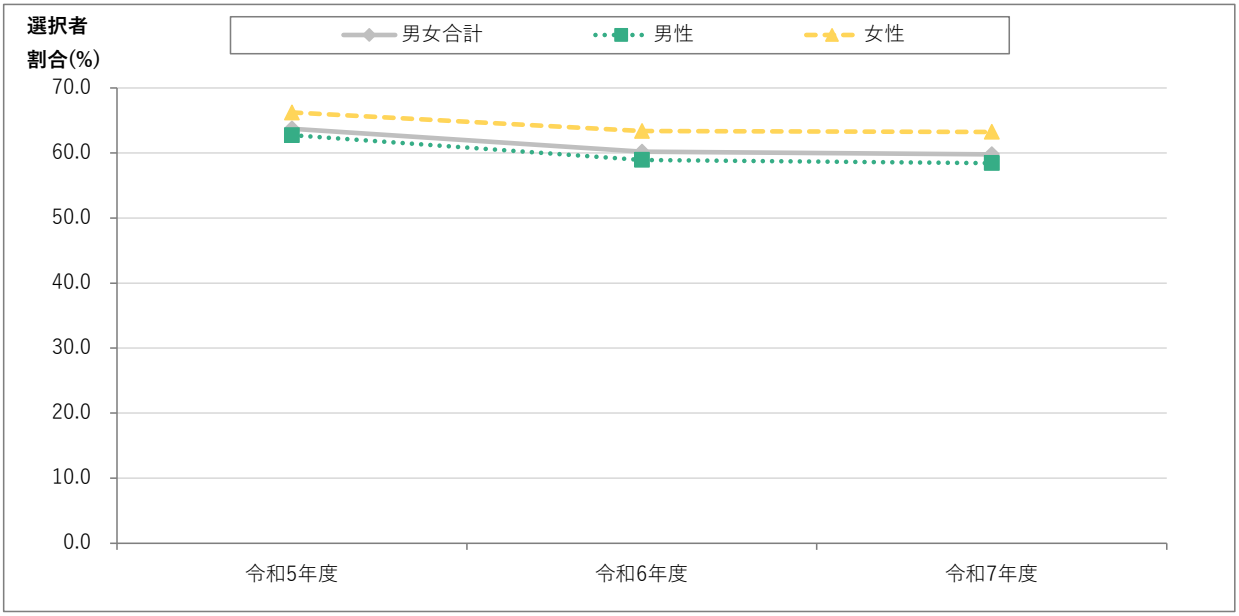
「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施していますか。」の質問に対し、「いいえ」を選択した人数(割合)を集計



		令和5年度	令和6年度	令和7年度
男女合計	質問回答者数(人)	3,857	3,698	3,668
	選択者数(人)	2,925	2,778	2,720
	選択者割合(%)	75.8	75.1	74.2
男性	質問回答者数(人)	2,750	2,645	2,634
	選択者数(人)	2,072	1,969	1,904
	選択者割合(%)	75.3	74.4	72.3
女性	質問回答者数(人)	1,107	1,053	1,034
	選択者数(人)	853	809	816
	選択者割合(%)	77.1	76.8	78.9

年度別「1日1時間以上の身体活動なし」の回答状況

「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施していますか。」の質問に対し、「いいえ」を選択した人数(割合)を集計

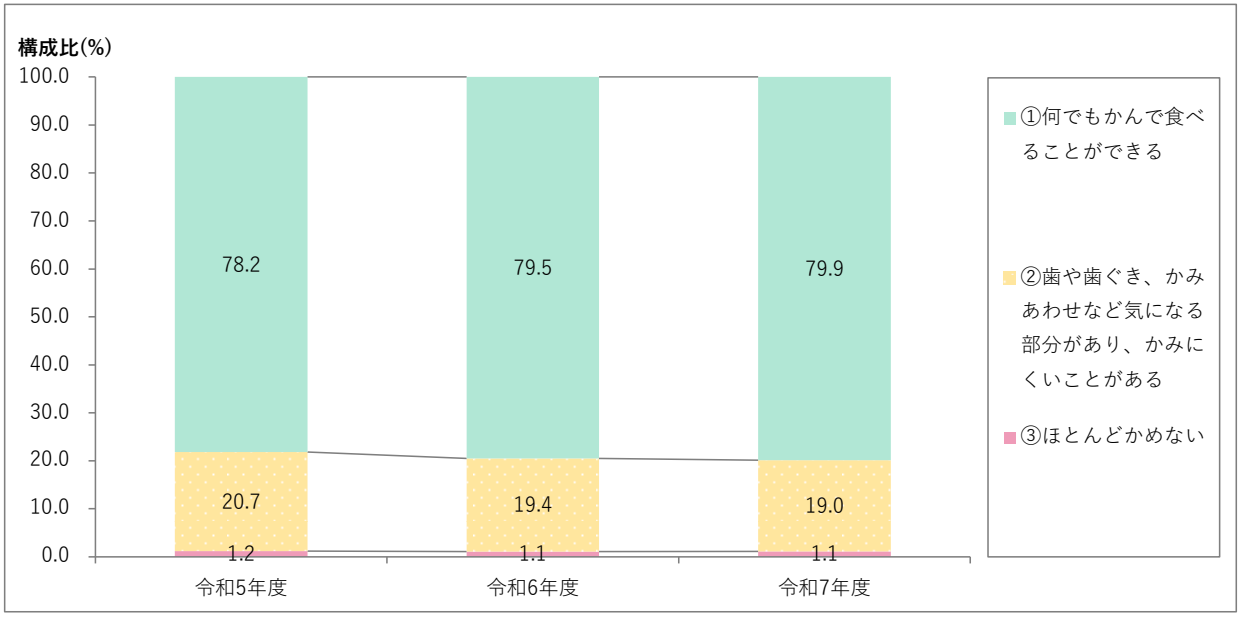


		令和5年度	令和6年度	令和7年度
男女合計	質問回答者数(人)	3,857	3,698	3,668
	選択者数(人)	2,458	2,226	2,193
	選択者割合(%)	63.7	60.2	59.8
男性	質問回答者数(人)	2,750	2,644	2,634
	選択者数(人)	1,725	1,558	1,539
	選択者割合(%)	62.7	58.9	58.4
女性	質問回答者数(人)	1,107	1,054	1,034
	選択者数(人)	733	668	654
	選択者割合(%)	66.2	63.4	63.2

■口腔機能

年度別 口腔機能に関する回答状況(男女合計)

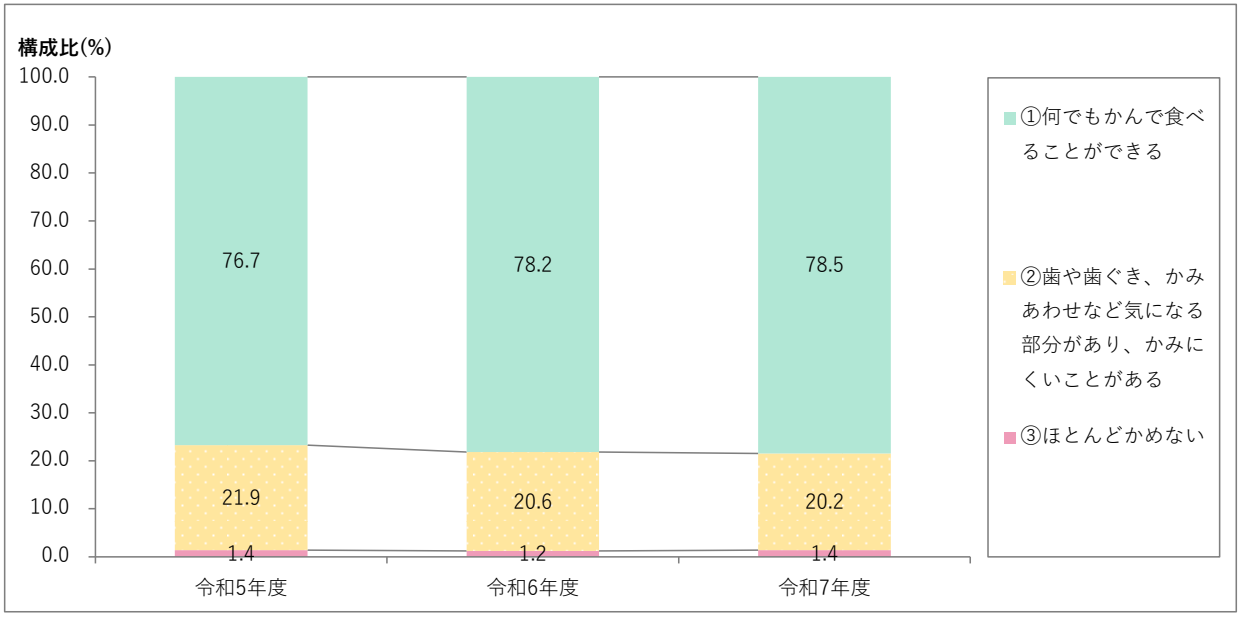
「食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか。」の質問に対する回答を集計



年度	質問回答者数(人)	①何でもかんで食べることができる		②歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある		③ほとんどかめない	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	3,937	3,077	78.2	814	20.7	46	1.2
令和6年度	3,777	3,003	79.5	733	19.4	41	1.1
令和7年度	3,684	2,942	79.9	701	19.0	41	1.1

年度別 口腔機能に関する回答状況(男性)

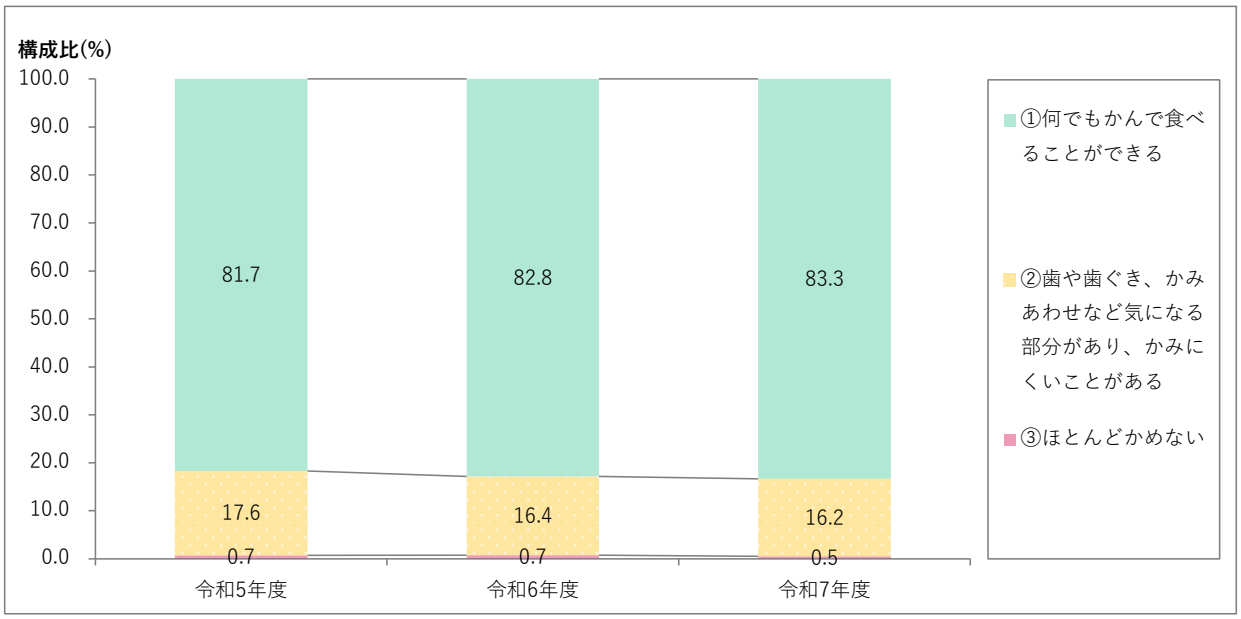
「食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか。」の質問に対する回答を集計



年度	質問回答者数(人)	①何でもかんで食べることができる		②歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある		③ほとんどかめない	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	2,800	2,148	76.7	614	21.9	38	1.4
令和6年度	2,693	2,105	78.2	555	20.6	33	1.2
令和7年度	2,645	2,076	78.5	533	20.2	36	1.4

年度別 口腔機能に関する回答状況(女性)

「食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか。」の質問に対する回答を集計

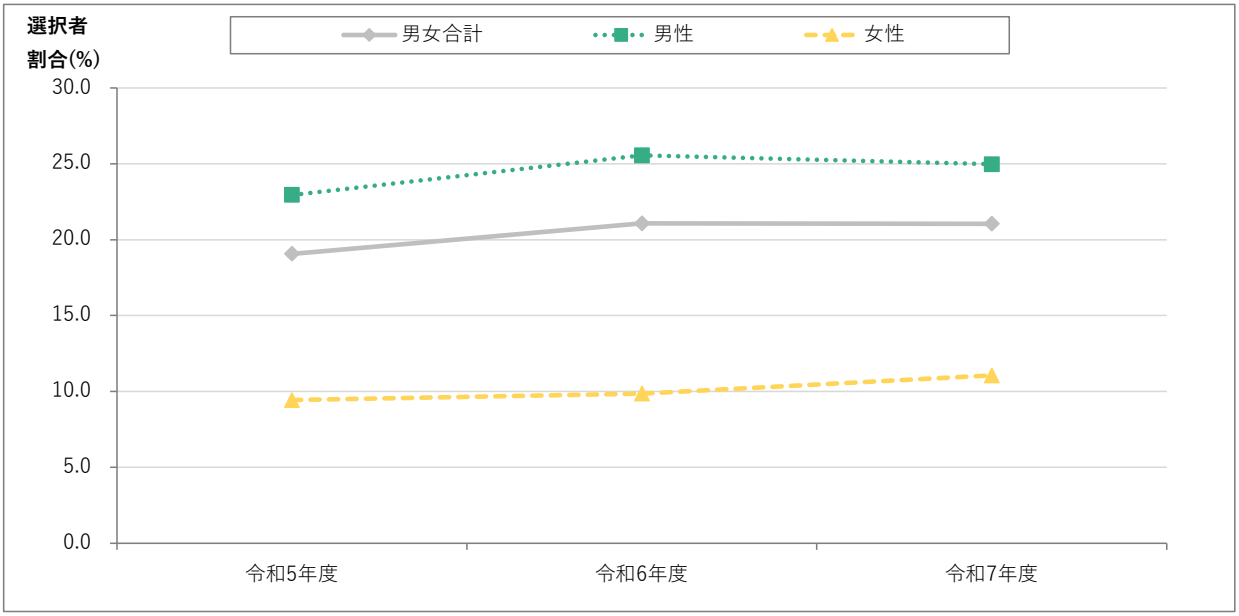


年度	質問回答者数(人)	①何でもかんで食べることができる		②歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある		③ほとんどかめない	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	1,137	929	81.7	200	17.6	8	0.7
令和6年度	1,084	898	82.8	178	16.4	8	0.7
令和7年度	1,039	866	83.3	168	16.2	5	0.5

■食習慣

年度別「週3回以上就寝前に夕食」の回答状況

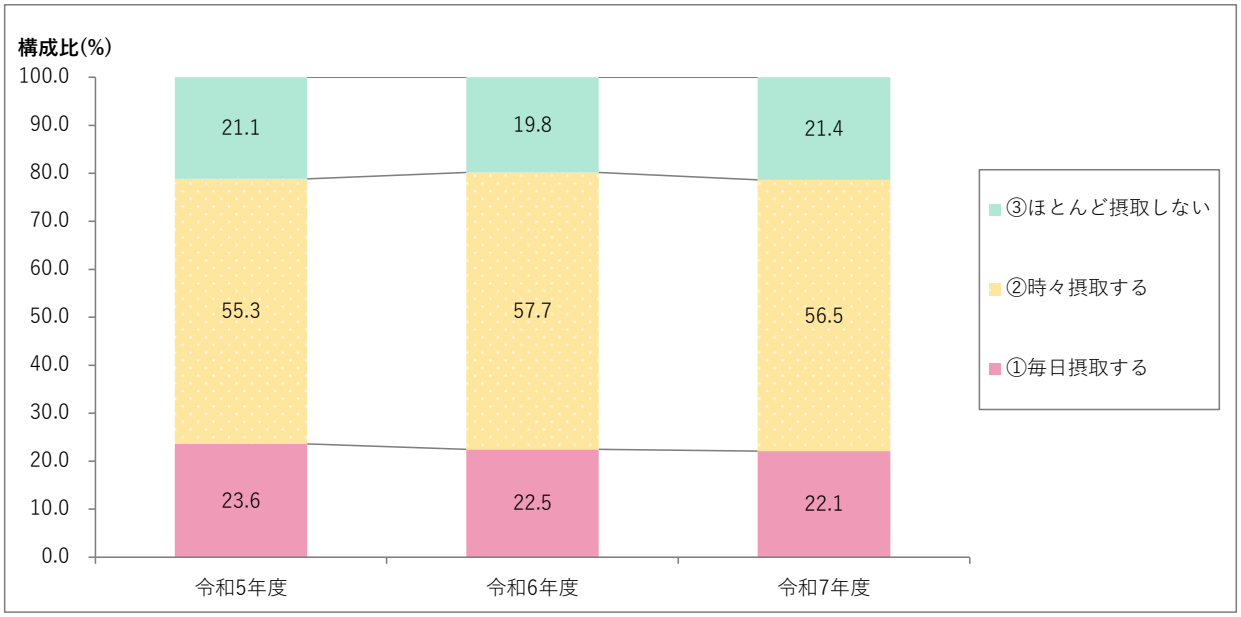
「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ありますか。」の質問に対し、「はい」を選択した人数(割合)を集計



		令和5年度	令和6年度	令和7年度
男女合計	質問回答者数(人)	3,850	3,697	3,663
	選択者数(人)	734	779	771
	選択者割合(%)	19.1	21.1	21.0
男性	質問回答者数(人)	2,746	2,642	2,631
	選択者数(人)	630	675	657
	選択者割合(%)	22.9	25.5	25.0
女性	質問回答者数(人)	1,104	1,055	1,032
	選択者数(人)	104	104	114
	選択者割合(%)	9.4	9.9	11.0

年度別 間食に関する回答状況(男女合計)

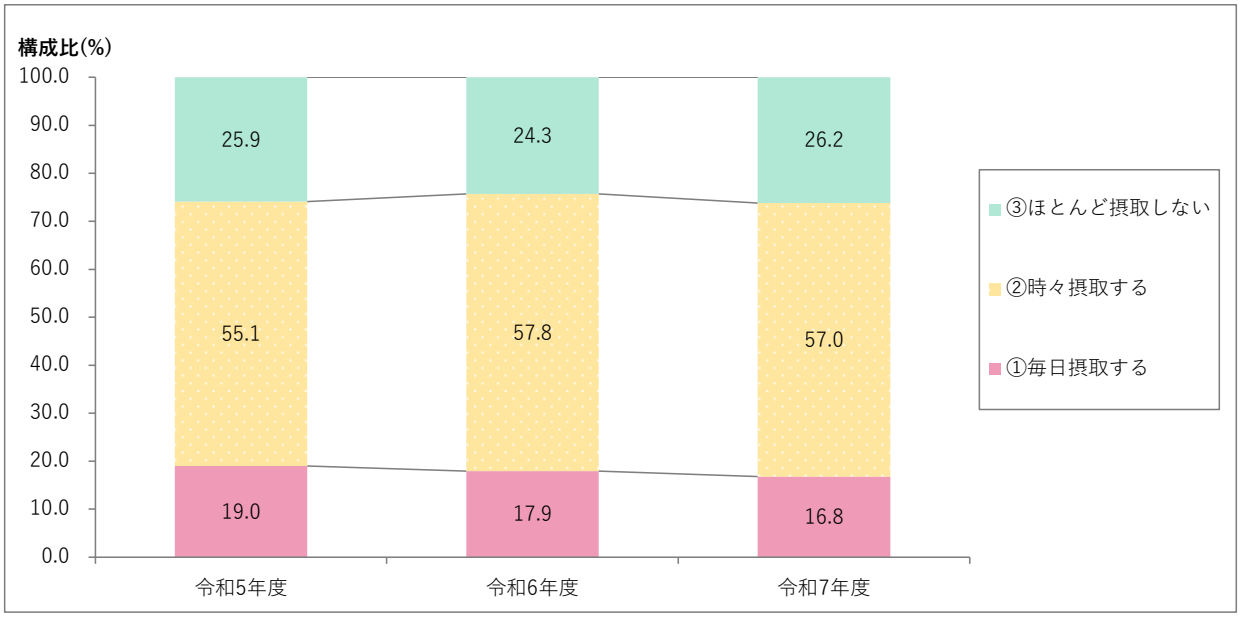
「朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか。」の質問に対する回答を集計



年度	質問回答者数(人)	①毎日摂取する		②時々摂取する		③ほとんど摂取しない	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	3,854	909	23.6	2,130	55.3	815	21.1
令和6年度	3,697	831	22.5	2,134	57.7	732	19.8
令和7年度	3,664	810	22.1	2,071	56.5	783	21.4

年度別 間食に関する回答状況(男性)

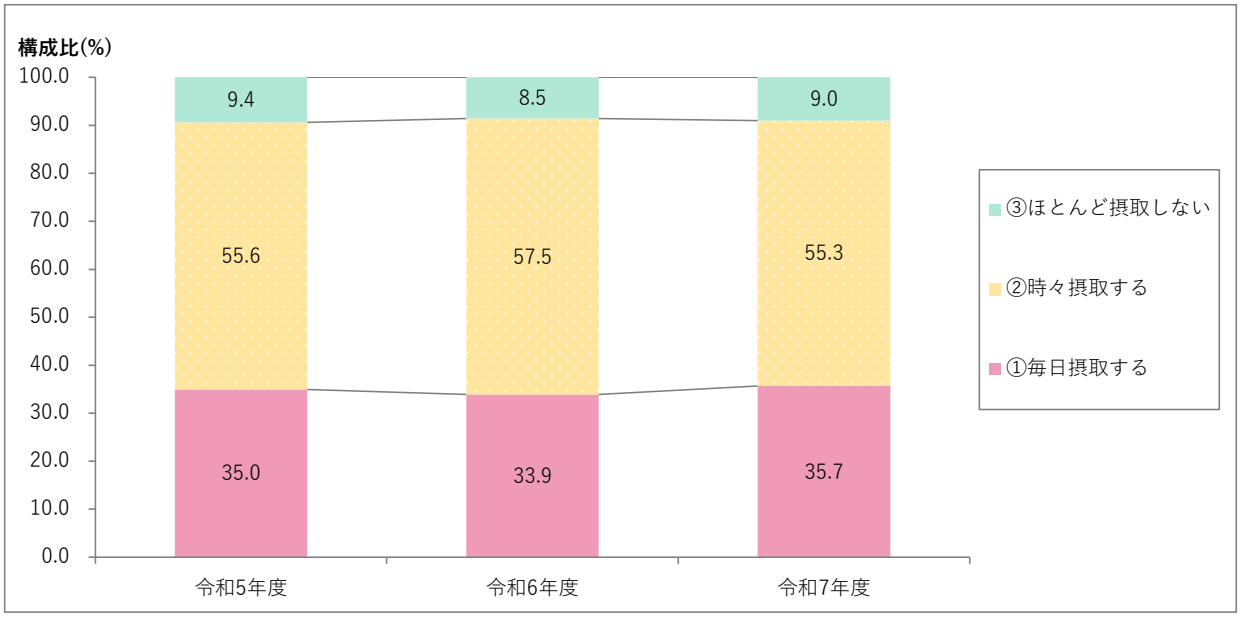
「朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか。」の質問に対する回答を集計



年度	質問回答者数(人)	①毎日摂取する		②時々摂取する		③ほとんど摂取しない	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	2,747	522	19.0	1,514	55.1	711	25.9
令和6年度	2,644	474	17.9	1,528	57.8	642	24.3
令和7年度	2,632	442	16.8	1,500	57.0	690	26.2

年度別 間食に関する回答状況(女性)

「朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか。」の質問に対する回答を集計

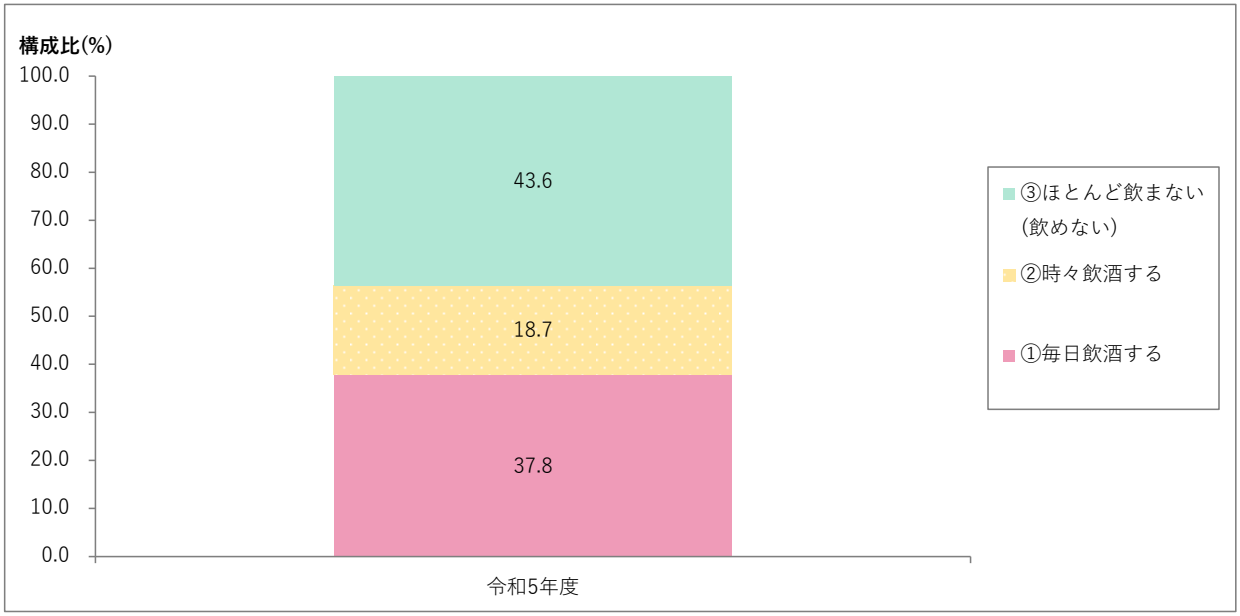


年度	質問回答者数(人)	①毎日摂取する		②時々摂取する		③ほとんど摂取しない	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	1,107	387	35.0	616	55.6	104	9.4
令和6年度	1,053	357	33.9	606	57.5	90	8.5
令和7年度	1,032	368	35.7	571	55.3	93	9.0

■飲酒

年度別 飲酒頻度に関する回答状況(男女合計)　※令和5年度以前

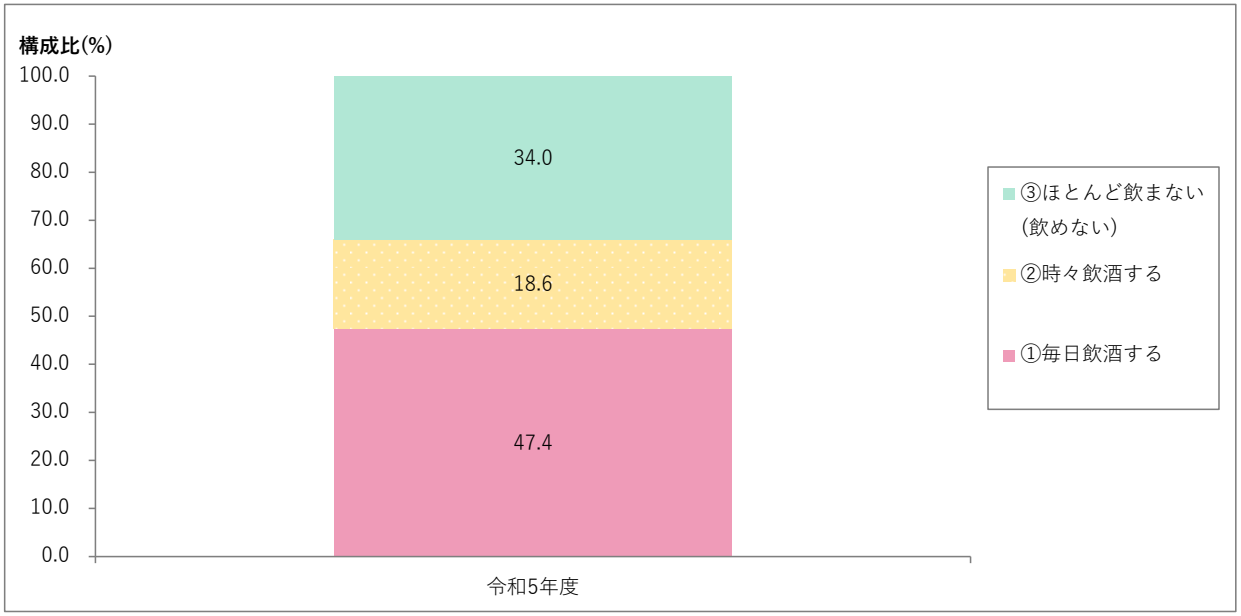
「お酒(日本酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度はどのくらいですか。」の質問に対する回答を集計



年度	質問回答者数(人)	①毎日飲酒する		②時々飲酒する		③ほとんど飲まない(飲めない)	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	3,938	1,488	37.8	735	18.7	1,715	43.6

年度別 飲酒頻度に関する回答状況(男性)　※令和5年度以前

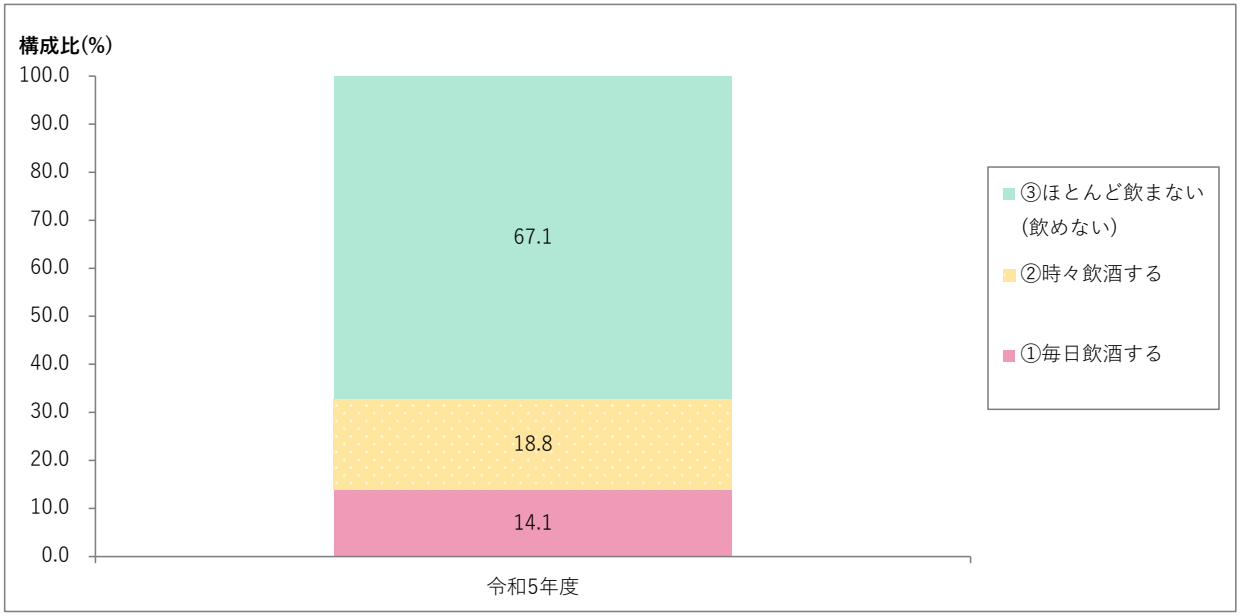
「お酒(日本酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度はどのくらいですか。」の質問に対する回答を集計



年度	質問回答者数(人)	①毎日飲酒する		②時々飲酒する		③ほとんど飲まない(飲めない)	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	2,800	1,328	47.4	521	18.6	951	34.0

年度別 飲酒頻度に関する回答状況(女性)　※令和5年度以前

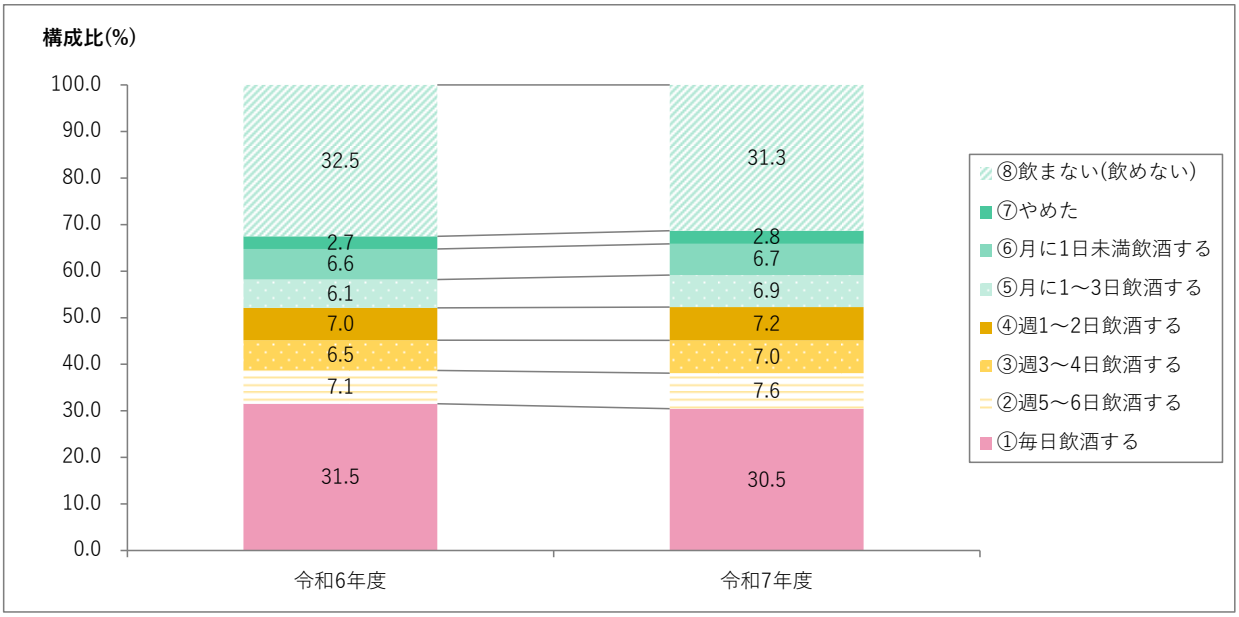
「お酒(日本酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度はどのくらいですか。」の質問に対する回答を集計



年度	質問回答者数(人)	①毎日飲酒する		②時々飲酒する		③ほとんど飲まない(飲めない)	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	1,138	160	14.1	214	18.8	764	67.1

年度別 飲酒頻度に関する回答状況(男女合計)　※令和6年度以降

「お酒(日本酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度はどのくらいですか。」の質問に対する回答を集計

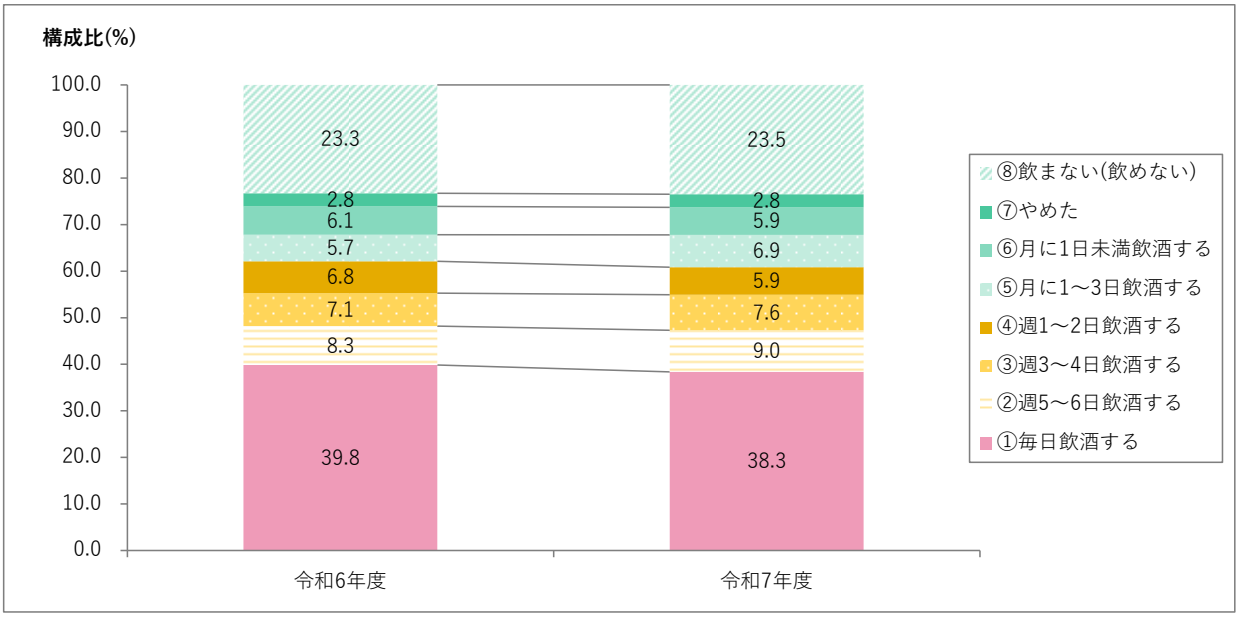


年度	質問回答者数(人)	①毎日飲酒する		②週5～6日飲酒する		③週3～4日飲酒する		④週1～2日飲酒する	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和6年度	3,782	1,193	31.5	270	7.1	245	6.5	263	7.0
令和7年度	3,564	1,087	30.5	271	7.6	250	7.0	255	7.2

年度	質問回答者数(人)	⑤月に1～3日飲酒する		⑥月に1日未満飲酒する		⑦やめた		⑧飲まない(飲めない)	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和6年度	3,782	230	6.1	249	6.6	102	2.7	1,230	32.5
令和7年度	3,564	246	6.9	239	6.7	99	2.8	1,117	31.3

年度別 飲酒頻度に関する回答状況(男性)　※令和6年度以降

「お酒(日本酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度はどのくらいですか。」の質問に対する回答を集計

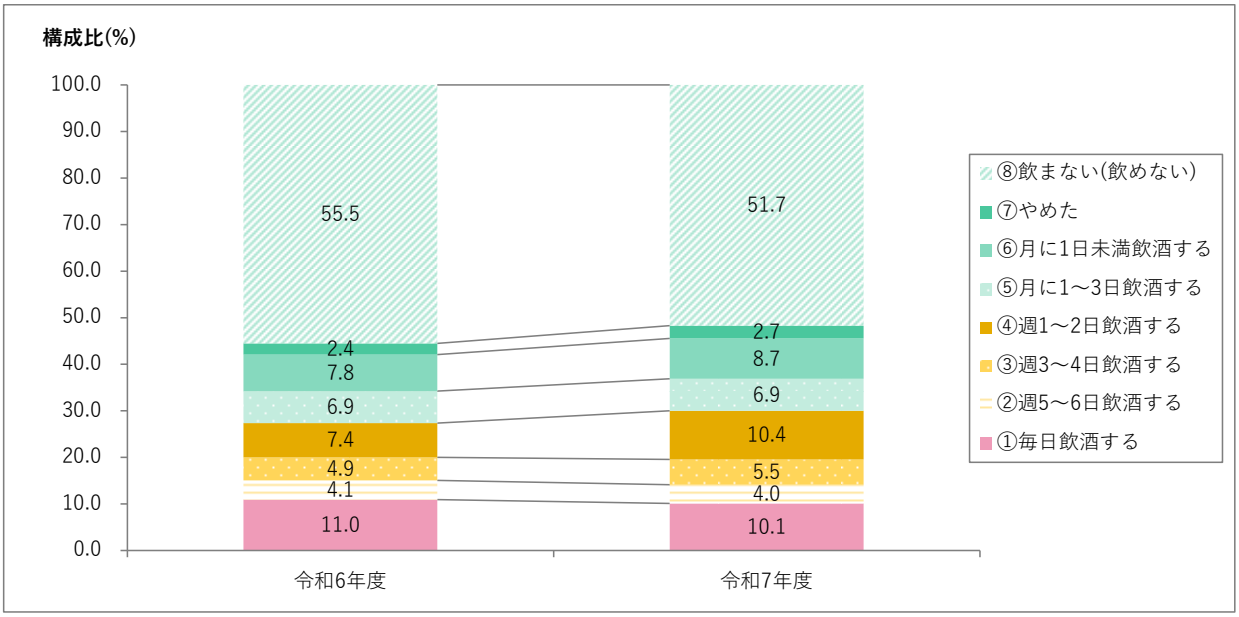


年度	質問回答者数(人)	①毎日飲酒する		②週5～6日飲酒する		③週3～4日飲酒する		④週1～2日飲酒する	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和6年度	2,696	1,074	39.8	225	8.3	192	7.1	183	6.8
令和7年度	2,574	987	38.3	231	9.0	196	7.6	152	5.9

年度	質問回答者数(人)	⑤月に1～3日飲酒する		⑥月に1日未満飲酒する		⑦やめた		⑧飲まない(飲めない)	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和6年度	2,696	155	5.7	164	6.1	76	2.8	627	23.3
令和7年度	2,574	178	6.9	153	5.9	72	2.8	605	23.5

年度別 飲酒頻度に関する回答状況(女性)　※令和6年度以降

「お酒(日本酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度はどのくらいですか。」の質問に対する回答を集計



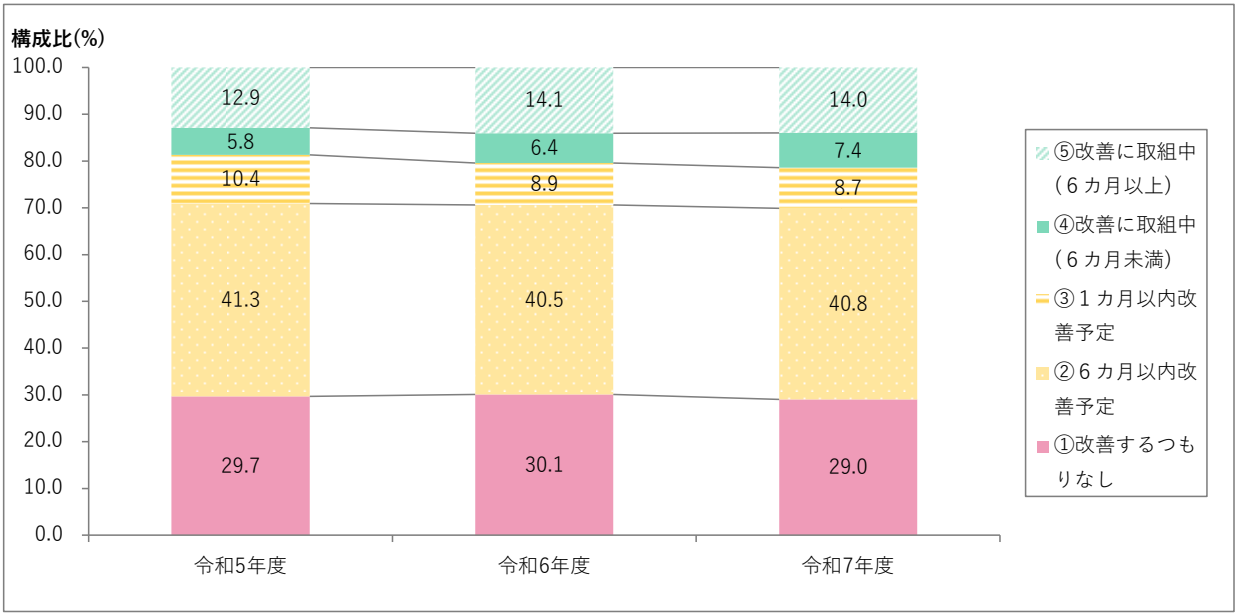
年度	質問回答者数(人)	①毎日飲酒する		②週5～6日飲酒する		③週3～4日飲酒する		④週1～2日飲酒する	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和6年度	1,086	119	11.0	45	4.1	53	4.9	80	7.4
令和7年度	990	100	10.1	40	4.0	54	5.5	103	10.4

年度	質問回答者数(人)	⑤月に1～3日飲酒する		⑥月に1日未満飲酒する		⑦やめた		⑧飲まない(飲めない)	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和6年度	1,086	75	6.9	85	7.8	26	2.4	603	55.5
令和7年度	990	68	6.9	86	8.7	27	2.7	512	51.7

■生活習慣の改善

年度別 生活習慣の改善の意思に関する回答状況(男女合計)

「運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いますか。」の質問に対する回答を集計

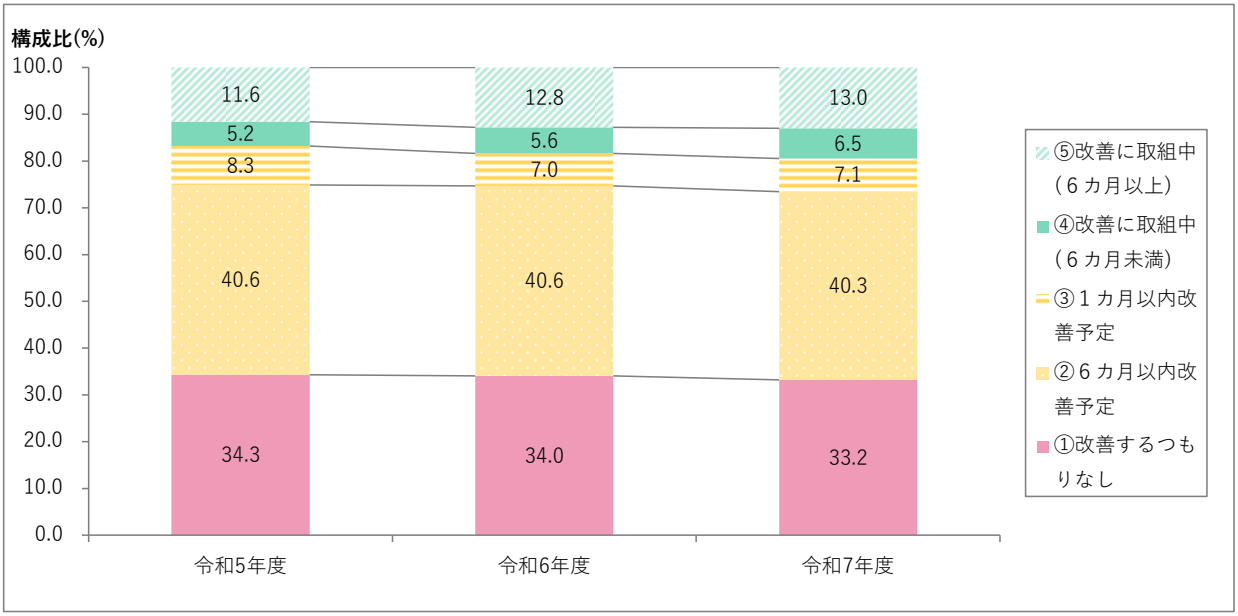


年度	質問回答者数(人)	①改善するつもりなし		②6カ月以内改善予定		③1カ月以内改善予定	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	3,851	1,142	29.7	1,590	41.3	399	10.4
令和6年度	3,692	1,111	30.1	1,497	40.5	330	8.9
令和7年度	3,664	1,064	29.0	1,496	40.8	319	8.7

年度	質問回答者数(人)	④改善に取組中(6カ月未満)		⑤改善に取組中(6カ月以上)	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	3,851	223	5.8	497	12.9
令和6年度	3,692	235	6.4	519	14.1
令和7年度	3,664	272	7.4	513	14.0

年度別 生活習慣の改善の意思に関する回答状況(男性)

「運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いますか。」の質問に対する回答を集計

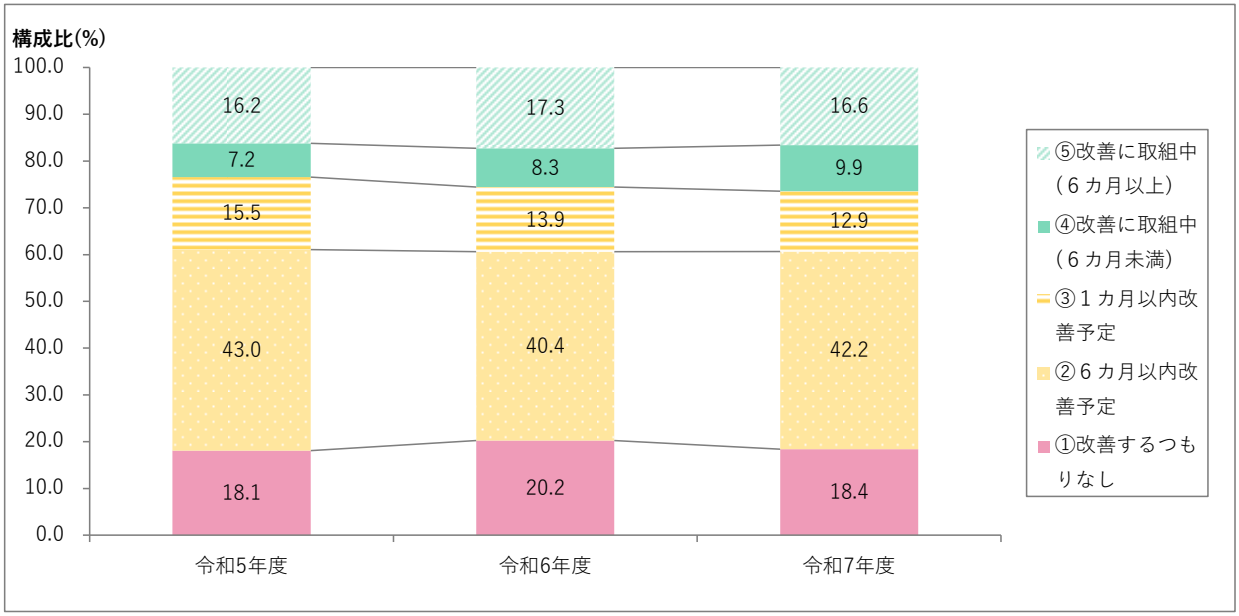


年度	質問回答者数(人)	①改善するつもりなし		②6カ月以内改善予定		③1カ月以内改善予定	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	2,746	942	34.3	1,115	40.6	228	8.3
令和6年度	2,639	898	34.0	1,072	40.6	184	7.0
令和7年度	2,632	874	33.2	1,060	40.3	186	7.1

年度	質問回答者数(人)	④改善に取組中(6カ月未満)		⑤改善に取組中(6カ月以上)	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	2,746	143	5.2	318	11.6
令和6年度	2,639	148	5.6	337	12.8
令和7年度	2,632	170	6.5	342	13.0

年度別 生活習慣の改善の意思に関する回答状況(女性)

「運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いますか。」の質問に対する回答を集計



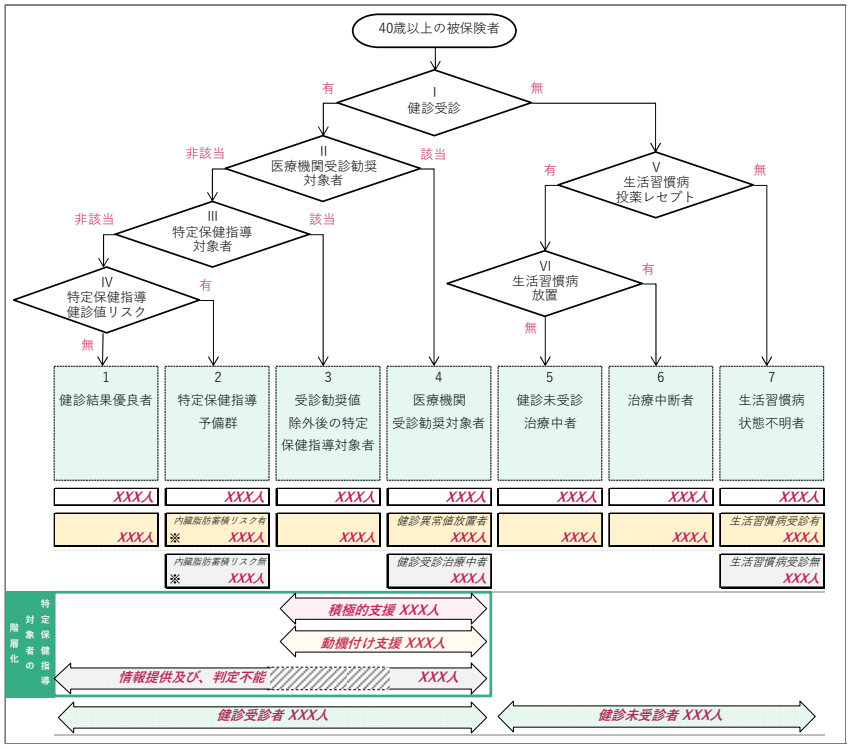
年度	質問回答者数(人)	①改善するつもりなし		②6カ月以内改善予定		③1カ月以内改善予定	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	1,105	200	18.1	475	43.0	171	15.5
令和6年度	1,053	213	20.2	425	40.4	146	13.9
令和7年度	1,032	190	18.4	436	42.2	133	12.9

年度	質問回答者数(人)	④改善に取組中(6カ月未満)		⑤改善に取組中(6カ月以上)	
		選択者数(人)	構成比(%)	選択者数(人)	構成比(%)
令和5年度	1,105	80	7.2	179	16.2
令和6年度	1,053	87	8.3	182	17.3
令和7年度	1,032	102	9.9	171	16.6

巻末資料

1.「指導対象者群分析」のグループ分けの見方

健康診査データ及びレセプトデータによる指導対象者群分析



【フロー説明】

Ⅰ健診受診　…健診受診の有無を判定

Ⅱ医療機関受診勧奨対象者　…健診値(血糖、血圧、脂質)のいずれかが、厚生労働省が定めた受診勧奨判定値を超えて受診勧奨対象者に該当するか判定

Ⅲ特定保健指導対象者　…厚生労働省が定めた「標準的な健診・保健指導プログラム」に沿って、特定保健指導対象者に該当するか判定

Ⅳ特定保健指導健診値リスク…厚生労働省が定めた保健指導判定値により、健診値(血糖、血圧、脂質)のリスクの有無を判定。判定に喫煙は含めない。

Ⅴ生活習慣病投薬レセプト　…生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)に関する、投薬の有無を判定

Ⅵ生活習慣病放置　…生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)を治療している患者で、一定期間の受診状況により生活習慣病放置の有無を判定

【グループ別説明】

健診受診あり

1.健診結果優良者　…保健指導判定値(血糖、血圧、脂質)に該当しない者

2.特定保健指導予備群　…保健指導判定値(血糖、血圧、脂質)に該当しているが、その他の条件(服薬有り等)により保健指導対象者でない者

内臓脂肪蓄積リスク有　…「2.特定保健指導予備群」のうち、服薬が有るため特定保健指導対象者にならなかった者

内臓脂肪蓄積リスク無　…「2.特定保健指導予備群」のうち、内臓脂肪蓄積リスク(腹囲・BMI)がないため特定保健指導対象者にならなかった者

3.受診勧奨値除外後の特定保健指導対象者…受診勧奨判定値(血糖、血圧、脂質)に該当していない特定保健指導対象者

4.医療機関受診勧奨対象者　…受診勧奨判定値(血糖、血圧、脂質)に該当する者

健診異常値放置者　…「4.医療機関受診勧奨対象者」のうち、健診受診後に生活習慣病に関する医療機関受診がない者

健診受診治療中者　…「4.医療機関受診勧奨対象者」のうち、健診受診後に生活習慣病に関する医療機関受診がある者。または健診受診後生活習慣病に関する医療機関受診はないが、健診受診後間もないため医療機関受診の意志がない「健診異常値放置者」と判断できない者

健診受診なし

5.健診未受診治療中者　…生活習慣病治療中の者

6.治療中断者　…過去に生活習慣病の治療をしていたが、生活習慣病に関する医療機関受診が一定期間ない者

7.生活習慣病状態不明者…生活習慣病の投薬治療をしていない者

生活習慣病受診有　…「7.生活習慣病状態不明者」のうち、生活習慣病に関する医療機関受診がある者

生活習慣病受診無　…「7.生活習慣病状態不明者」のうち、生活習慣病に関する医療機関受診がない者

2.疾病分類表(2013年版)

コード	疾病分類	主な疾病		
Ⅰ．感染症及び寄生虫症				
0101	腸管感染症	下痢症	急性胃腸炎	急性腸炎
0102	結核	肺結核	結核	潜在性結核感染症
0103	主として性的伝播様式をとる感染症	梅毒	クラミジア頚管炎	クラミジア子宮頚管炎
0104	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	尋常性疣贅	帯状疱疹	単純ヘルペス
0105	ウイルス性肝炎	Ｂ型肝炎	Ｃ型肝炎	Ｂ型慢性肝炎
0106	その他のウイルス性疾患	流行性角結膜炎	アデノウイルス感染症	サイトメガロウイルス感染症
0107	真菌症	足白癬	爪白癬	白癬
0108	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	陳旧性肺結核	肺結核後遺症	小児麻痺後遺症
0109	その他の感染症及び寄生虫症	ヘリコバクター・ピロリ感染症	溶連菌感染症	敗血症
Ⅱ．新生物＜腫瘍＞				
0201	胃の悪性新生物＜腫瘍＞	胃癌	早期胃癌	胃体部癌
0202	結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	大腸癌	Ｓ状結腸癌	上行結腸癌
0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	直腸癌	直腸カルチノイド	直腸Ｓ状部癌
0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	肝癌	肝細胞癌	肝内胆管癌
0205	気管，気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	肺癌	上葉肺癌	下葉肺癌
0206	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	乳癌	乳房上外側部乳癌	乳房上内側部乳癌
0207	子宮の悪性新生物＜腫瘍＞	子宮頚癌	子宮体癌	子宮内膜癌
0208	悪性リンパ腫	悪性リンパ腫	非ホジキンリンパ腫	びまん性大細胞型Ｂ細胞性リンパ腫
0209	白血病	成人Ｔ細胞白血病リンパ腫	慢性骨髄性白血病	急性骨髄性白血病
0210	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	前立腺癌	膵癌	膀胱癌
0211	良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞	子宮筋腫	卵巣腫瘍	甲状腺腫瘍
Ⅲ．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害				
0301	貧血	鉄欠乏性貧血	貧血	巨赤芽球性貧血
0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	血液凝固異常	播種性血管内凝固	出血傾向
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患				
0401	甲状腺障害	甲状腺機能低下症	甲状腺機能亢進症	慢性甲状腺炎
0402	糖尿病	糖尿病	２型糖尿病	糖尿病網膜症
0403	脂質異常症	高コレステロール血症	脂質異常症	高脂血症
0404	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	高尿酸血症	脱水症	卵巣機能不全
Ⅴ．精神及び行動の障害				
0501	血管性及び詳細不明の認知症	認知症	血管性認知症	老年期認知症
0502	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	アルコール依存症	ニコチン依存症	急性アルコール中毒
0503	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	統合失調症	統合失調症様状態	統合失調感情障害
0504	気分［感情］障害（躁うつ病を含む）	うつ病	うつ状態	双極性感情障害
0505	神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害	不安神経症	神経症	心身症
0506	知的障害＜精神遅滞＞	知的障害	軽度知的障害	中等度知的障害
0507	その他の精神及び行動の障害	注意欠陥多動障害	器質性精神障害	自閉症スペクトラム障害

コード	疾病分類	主な疾病		
Ⅵ．神経系の疾患				
0601	パーキンソン病	パーキンソン症候群	パーキンソン病	パーキンソン病Ｙａｈｒ３
0602	アルツハイマー病	アルツハイマー型認知症	アルツハイマー型老年認知症	アルツハイマー病
0603	てんかん	てんかん	症候性てんかん	精神運動発作
0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	脳性麻痺	片麻痺	痙性麻痺
0605	自律神経系の障害	自律神経失調症	神経調節性失神	多系統萎縮症
0606	その他の神経系の疾患	不眠症	末梢神経障害	神経障害性疼痛
Ⅶ．眼及び付属器の疾患				
0701	結膜炎	アレルギー性結膜炎	結膜炎	急性結膜炎
0702	白内障	白内障	加齢性白内障	核性白内障
0703	屈折及び調節の障害	近視性乱視	遠視性乱視	近視
0704	その他の眼及び付属器の疾患	ドライアイ	緑内障	眼精疲労
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患				
0801	外耳炎	外耳炎	外耳湿疹	急性外耳炎
0802	その他の外耳疾患	耳垢栓塞	複雑耳垢	耳瘻孔
0803	中耳炎	滲出性中耳炎	急性中耳炎	慢性中耳炎
0804	その他の中耳及び乳様突起の疾患	耳管狭窄症	鼓膜炎	耳管機能低下
0805	メニエール病	メニエール病	内リンパ水腫	内耳性めまい
0806	その他の内耳疾患	末梢性めまい症	耳性めまい	良性発作性頭位めまい症
0807	その他の耳疾患	感音難聴	耳鳴症	難聴
Ⅸ．循環器系の疾患				
0901	高血圧性疾患	高血圧症	本態性高血圧症	高血圧性心疾患
0902	虚血性心疾患	狭心症	虚血性心疾患	急性心筋梗塞
0903	その他の心疾患	心不全	不整脈	心房細動
0904	くも膜下出血	くも膜下出血	くも膜下出血後遺症	中大脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血
0905	脳内出血	脳出血	脳出血後遺症	被殻出血
0906	脳梗塞	脳梗塞	脳梗塞後遺症	多発性脳梗塞
0907	脳動脈硬化（症）	脳動脈硬化症	動脈硬化性脳症	
0908	その他の脳血管疾患	内頚動脈狭窄症	頚動脈硬化症	脳動脈瘤
0909	動脈硬化（症）	閉塞性動脈硬化症	動脈硬化症	動脈硬化性網膜症
0911	低血圧（症）	起立性低血圧症	低血圧症	起立性調節障害
0912	その他の循環器系の疾患	深部静脈血栓症	下肢静脈血栓症	末梢循環障害
Ⅹ．呼吸器系の疾患				
1001	急性鼻咽頭炎［かぜ］＜感冒＞	感冒	急性鼻咽頭炎	急性鼻炎
1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	咽頭炎	急性咽頭炎	扁桃炎
1003	その他の急性上気道感染症	急性上気道炎	急性咽頭喉頭炎	急性副鼻腔炎
1004	肺炎	肺炎	急性肺炎	細菌性肺炎
1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	急性気管支炎	ウイルス性気管支炎	急性気管気管支炎

コード	疾病分類	主な疾病		
1006	アレルギー性鼻炎	アレルギー性鼻炎	花粉症	アレルギー性鼻結膜炎
1007	慢性副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎	副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎急性増悪
1008	急性又は慢性と明示されない気管支炎	気管支炎	カタル性気管支炎	気管気管支炎
1009	慢性閉塞性肺疾患	慢性気管支炎	肺気腫	慢性閉塞性肺疾患
1010	喘息	気管支喘息	喘息性気管支炎	気管支喘息発作
1011	その他の呼吸器系の疾患	インフルエンザ	間質性肺炎	慢性咽喉頭炎
Ｘ Ⅰ．消化器系の疾患				
1101	う蝕	う蝕	う蝕第２度	
1102	歯肉炎及び歯周疾患	歯肉炎	歯周炎	歯冠周囲炎
1103	その他の歯及び歯の支持組織の障害	顎関節症	歯痛	顎関節炎
1104	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	胃潰瘍	十二指腸潰瘍	胃びらん
1105	胃炎及び十二指腸炎	慢性胃炎	胃炎	萎縮性胃炎
1106	痔核	痔核	内痔核	嵌頓痔核
1107	アルコール性肝疾患	アルコール性肝障害	アルコール性肝硬変	アルコール性肝炎
1108	慢性肝炎（アルコール性のものを除く）	慢性肝炎	活動性慢性肝炎	慢性肝炎増悪
1109	肝硬変（アルコール性のものを除く）	肝硬変症	原発性胆汁性肝硬変	原発性胆汁性胆管炎
1110	その他の肝疾患	脂肪肝	肝機能障害	肝のう胞
1111	胆石症及び胆のう炎	胆のう結石症	胆のう炎	胆石性胆のう炎
1112	膵疾患	急性膵炎	慢性膵炎	膵のう胞
1113	その他の消化器系の疾患	便秘症	逆流性食道炎	大腸ポリープ
Ｘ Ⅱ．皮膚及び皮下組織の疾患				
1201	皮膚及び皮下組織の感染症	皮膚感染症	蜂窩織炎	膿痂疹性湿疹
1202	皮膚炎及び湿疹	湿疹	接触皮膚炎	アトピー性皮膚炎
1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮脂欠乏性湿疹	皮脂欠乏症	じんま疹
Ｘ Ⅲ．筋骨格系及び結合組織の疾患				
1301	炎症性多発性関節障害	関節リウマチ	痛風	関節炎
1302	関節症	変形性膝関節症	変形性股関節症	変形性関節症
1303	脊椎障害（脊椎症を含む）	腰部脊柱管狭窄症	変形性腰椎症	頚椎症
1304	椎間板障害	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板症	頚椎椎間板ヘルニア
1305	頚腕症候群	頚肩腕症候群	頚肩腕障害	
1306	腰痛症及び坐骨神経痛	腰痛症	坐骨神経痛	殿部痛
1307	その他の脊柱障害	腰椎すべり症	背部痛	頚部痛
1308	肩の傷害＜損傷＞	肩関節周囲炎	肩関節腱板炎	肩石灰性腱炎
1309	骨の密度及び構造の障害	骨粗鬆症	閉経後骨粗鬆症	脊椎骨粗鬆症
1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	筋肉痛	肩こり	関節痛
Ｘ Ⅳ．腎尿路生殖器系の疾患				
1401	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	水腎症	腎盂腎炎	慢性糸球体腎炎
1402	腎不全	慢性腎不全	慢性腎臓病	腎性貧血

コード	疾病分類	主な疾病		
1403	尿路結石症	腎結石症	尿管結石症	尿路結石症
1404	その他の腎尿路系の疾患	尿路感染症	膀胱炎	過活動膀胱
1405	前立腺肥大（症）	前立腺肥大症	前立腺症	
1406	その他の男性生殖器の疾患	慢性前立腺炎	前立腺炎	亀頭包皮炎
1407	月経障害及び閉経周辺期障害	更年期症候群	月経困難症	萎縮性膣炎
1408	乳房及びその他の女性生殖器の疾患	子宮膣部びらん	乳腺症	細菌性膣炎
ＸＶ．妊娠，分娩及び産じょく				
1501	流産	異所性妊娠	稽留流産	胞状奇胎
1502	妊娠高血圧症候群	妊娠高血圧症候群	重症妊娠高血圧症候群	妊娠高血圧症
1503	単胎自然分娩	単胎自然分娩	自然頭位分娩	自然分娩
1504	その他の妊娠，分娩及び産じょく	切迫流産	切迫早産	子宮内感染症
ＸＶＩ．周産期に発生した病態				
1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	低出生体重児	早産児	極低出生体重児
1602	その他の周産期に発生した病態	新生児黄疸	新生児低血糖	新生児呼吸障害
ＸＶⅡ．先天奇形，変形及び染色体異常				
1701	心臓の先天奇形	心房中隔欠損症	心室中隔欠損症	先天性心疾患
1702	その他の先天奇形，変形及び染色体異常	足底角化症	毛孔性苔癬	尋常性魚鱗癬
ＸＶⅢ．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの				
1800	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	頭痛	めまい症	嘔吐症
ＸＩＸ．損傷，中毒及びその他の外因の影響				
1901	骨折	腰椎圧迫骨折	肋骨骨折	橈骨遠位端骨折
1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	脳挫傷	外傷性頭蓋内出血	外傷性脳出血
1903	熱傷及び腐食	熱傷	第２度熱傷	前腕第２度熱傷
1904	中毒	虫刺性皮膚炎	刺虫症	蜂刺症
1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	打撲傷	結膜異物	挫創
ＸＸⅠ．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用				
2101	検査及び診査のための保健サービスの利用者	早期胃癌ＥＳＤ後	早期胃癌術後	早期胃癌ＥＭＲ後
2102	予防接種	予防接種		
2103	正常妊娠及び産じょくの管理並びに家族計画	妊娠	高齢妊娠	正常妊娠
2104	歯の補てつ			
2105	特定の処置（歯の補てつを除く）及び保健ケアのための保健サービスの利用者	腎移植ドナー	胃瘻開口部に対する手当て	気管切開口に対する手当て
2106	その他の理由による保健サービスの利用者	眼内レンズ挿入眼	冠動脈ステント植え込み状態	人工股関節置換術後
ＸＸⅡ．特殊目的用コード				
2210	重症急性呼吸器症候群［SARS］	重症急性呼吸器症候群		
2220	その他の特殊目的用コード	ＣＯＶＩＤ－１９	ＣＯＶＩＤ－１９肺炎	ＣＯＶＩＤ－１９後遺症
分類外				
9999	分類外	ICD-10及び疾病分類に該当のない疾病		